

**2005年度**

# **英語学科シラバス**

**獨協大学**



学科専門科目	言語コミュニケーション	言語情報処理 I a	2	4	16	20	20	20	20					
		言語情報処理 I b	2											
		言語情報処理 II a	2											
		言語情報処理 II b	2											
		統語論 a	2											
		統語論 b	2											
		意味論 a	2											
		意味論 b	2											
		音声・音韻論 a	2											
		音声・音韻論 b	2											
		英語史 a	2											
		英語史 b	2											
		英語学特殊講義 a	2											
		英語学特殊講義 b	2											
		英語学文献研究 a	2											
		英語学文献研究 b	2											
		文学コミュニケーション	英語圏の小説 a	2						20				
	英語圏の小説 b		2											
	英語圏の詩 a		2											
	英語圏の詩 b		2											
	英語圏の演劇 a		2											
	英語圏の演劇 b		2											
	英語圏の社会と思想 a		2											
	英語圏の社会と思想 b		2											
	英語圏の歴史 a		2											
	英語圏の歴史 b		2											
	英語圏のエリア・スタディーズ a		2											
	英語圏のエリア・スタディーズ b		2											
	英語圏の文学・文化特殊講義 a		2											
	英語圏の文学・文化特殊講義 b		2											
	英語圏の文学・文化文献研究 a	2												
	英語圏の文学・文化文献研究 b	2												
	異文化コミュニケーション	異文化間コミュニケーション論 a	2	4	2	8	4							
		異文化間コミュニケーション論 b	2		2									
		マス・コミュニケーション論 a	2											
		マス・コミュニケーション論 b	2											
		スピーチ・コミュニケーション論 a	2											
		スピーチ・コミュニケーション論 b	2											
		コミュニケーション論特殊講義 a	2											
		コミュニケーション論特殊講義 b	2											
		コミュニケーション論文献研究 a	2											
		コミュニケーション論文献研究 b	2											
	国際コミュニケーション	国際社会論 a	2	4	2	4	8							
国際社会論 b		2	2											
国際関係史 a		2												
国際関係史 b		2												
国際開発協力論 a		2												
国際開発協力論 b		2												
国際関係論特殊講義 a		2												
国際関係論特殊講義 b		2												
国際関係論文献研究 a		2												
国際関係論文献研究 b		2												
特別セミナー	2													
卒業論文	4													
外国語学部共通科目(別表 I-5)														
目(別表 IV)	全学総合科目 外国語科目	カテゴリー I	4	4	4	4	4	4	4					
		カテゴリー II	8		8		8							
		カテゴリー III	4		4		4							
		カテゴリー IV	4		4		4							
		カテゴリー V	4		4		4							
英語以外の外国語科目 *	8	8	8											
古典語科目														
演習 a	2	4		4		4		4						
演習 b	2	4		4		4		4						
卒業に必要な単位数			44	64	20	44	60	24	52	24	52	24		
			128			128			128			128		

備考

- (1) 卒業に必要な選択科目のうち16単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。
- (2) \* 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のうちいずれか一カ国語とし、1学年に4単位、2学年に4単位を履修するものとする。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。  
 \* 2005年度入学生は英語史 a, b の科目は履修登録できません。

学則別表(2002年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語情報コース			文学文化コース			国際コミュニケーションコース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	2		4			4			4	
		フランス語Ⅰ	2									
		スペイン語Ⅰ	2									
		ドイツ語Ⅱ	2		4			4			4	
		フランス語Ⅱ	2									
	スペイン語Ⅱ	2										
	英語	Speech Communication	2		2			2			2	
		Advanced Speech Communication	2									
		英語ライティング・ストラテジーズ	2		2			2			2	
		英語パブリックライティング	2									
		英語リーディング・ストラテジーズ	2	2			2			2		
		Reading Comprehension	2									
		Honors English1	2		2			2			2	
		Honors English2	2									
		英語専門基礎入門	2		2			2			2	
英語学概論		4	4			4			4			
英米文学概論	4	4			4			4				
国際コミュニケーション概論	4	4			4			4				
英語音声学	*2	2			2			2				
スピーチ・クリニック	*2											
ペーシック・カレッジ・グラマー	*2											
学科共通科目	英語	英語専門講義	4	12			12			12		
		英作文	4									
		英語エッセイライティング	4		4			4			4	
		英日翻訳	4									
		日英翻訳	4									
		カレッジ・グラマー	4									
		Communicative English I	4									
		Communicative English II	4									
		Discussion	4									
		Public Speaking I	4		4			4			4	
	Public Speaking II	4										
	Debate I	4										
	Debate II	4										
	通訳Ⅰ	4										
	通訳Ⅱ	4										
英語ビジネス・コミュニケーションⅠ	4											
英語ビジネス・コミュニケーションⅡ	4											
メディア英語Ⅰ	4											
メディア英語Ⅱ	4											
シネマ英語	4											
第2外国語	ドイツ語Ⅲ	2			20				24		24	
	フランス語Ⅲ	2										
	スペイン語Ⅲ	2										
	ドイツ語Ⅳ	2										
	フランス語Ⅳ	2										
	スペイン語Ⅳ	2										
	ドイツ語会話Ⅰ	2										
	フランス語会話Ⅰ	2										
	スペイン語会話Ⅰ	2										
	ドイツ語会話Ⅱ	2										
フランス語会話Ⅱ	2											
スペイン語会話Ⅱ	2											
言語情報	言語情報処理Ⅰa	*2										
	言語情報処理Ⅰb	*2		4								
	言語情報処理Ⅱa	*2										
	言語情報処理Ⅱb	*2										
	統語論a	*2										
	統語論b	*2										
	意味論a	*2										
	意味論b	*2										
	音声・音韻論a	*2			16							
	音声・音韻論b	*2										
	英語史a	*2										
	英語史b	*2										
	英語学特殊講義a	*2										
	英語学特殊講義b	*2										
	英語学文献研究a	*2										
英語学文献研究b	*2											
文学文化	英米文学史a	*2					2					
	英米文学史b	*2					2					
	英米の小説a	*2										
	英米の小説b	*2										
	英米の詩a	*2										
	英米の詩b	*2										
	英米の演劇a	*2										
	英米の演劇b	*2										
	英語圏文学特殊講義a	*2						16				
	英語圏文学特殊講義b	*2										
	英米文学文献研究a	*2										
	英米文学文献研究b	*2										
	英米の社会と思想a	*2										
	英米の社会と思想b	*2										
	英米の政治と経済a	*2										
英米の政治と経済b	*2											
英米の歴史a	*2											
英米の歴史b	*2											
英米事情a	*2											
英米事情b	*2											
英語圏文化特殊講義a	*2											
英語圏文化特殊講義b	*2											
英米文化文献研究a	*2											
英米文化文献研究b	*2											
国際コミュニケーション	国際政治論a	*2								2		
	国際政治論b	*2								2		
	国際関係史a	*2										
	国際関係史b	*2										
	国際開発協力論a	*2										
	国際開発協力論b	*2										
	国際関係論特殊講義a	*2										
	国際関係論特殊講義b	*2										
	国際関係論文献研究a	*2										
	国際関係論文献研究b	*2										
	異文化間コミュニケーション論a	*2								2	12	
	異文化間コミュニケーション論b	*2								2		
	マス・コミュニケーション論a	*2										
	マス・コミュニケーション論b	*2										
	スピーチ・コミュニケーション論a	*2			4							
スピーチ・コミュニケーション論b	*2											
コミュニケーション論特殊講義a	*2											
コミュニケーション論特殊講義b	*2											
コミュニケーション論文献研究a	*2											
コミュニケーション論文献研究b	*2											
特別セミナー	*2											
卒業論文	4											
外国語学部共通科目(別表I-5)	4	28				28				28		
演習	4	8				8				8		
卒業に必要な単位数		64	48	20	68	40	24	72	36	24		
					132			132				

備考  
 (1) \*は、半期完結科目を現す。  
 (2) 第2外国語部門からは1言語を選択する。  
 (3) 言語情報コースの言語情報処理については、IかIIのいずれかから4単位を修得する。IとIIを組み合わせて履修することはできない。  
 (4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。

○ 本表は、2002年度入学者から適用する。



学則別表(1998年~2001年度入学者用)

科目群	部門	科目	単位	言語情報コース			文学文化コース			国際コミュニケーションコース		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	第2外国語	ドイツ語Ⅰ	2									
		フランス語Ⅰ	2		4			4			4	
		スペイン語Ⅰ	2									
		ドイツ語Ⅱ	2									
		フランス語Ⅱ	2		4			4			4	
	スペイン語Ⅱ	2										
	英語	英語Ⅰ	2		4			4			4	
		英語Ⅱ	2		2			2			2	
		英語Ⅲ	2		2			2			2	
		英語Ⅳ	2		2			2			2	
英語学概論		4		4			4			4		
英米文学概論		4		4			4			4		
国際コミュニケーション概論		4		4			4			4		
英語音声学	*2		2			2			2			
スピーチ・クリニック	*2											
学科共通科目	英語	専門講義	4	12			12			12		
		英作文	4									
		エッセイ・ライティング	4									
		翻訳Ⅰ	4		4			4			4	
		翻訳Ⅱ	4									
		英文法	4									
		ConversationⅠ	4									
		ConversationⅡ	4									
		Discussion	4									
		スピーチ	4		4			4			4	
ディベート	4											
通訳Ⅰ	4											
通訳Ⅱ	4											
ビジネス英語Ⅰ	4											
ビジネス英語Ⅱ	4											
時事英語Ⅰ	4											
時事英語Ⅱ	4											
第2外国語	ドイツ語Ⅲ	2										
	フランス語Ⅲ	2										
	スペイン語Ⅲ	2										
	ドイツ語Ⅳ	2										
	フランス語Ⅳ	2										
	スペイン語Ⅳ	2										
	ドイツ語会話Ⅰ	2										
	フランス語会話Ⅰ	2										
	スペイン語会話Ⅰ	2										
	ドイツ語会話Ⅱ	2										
フランス語会話Ⅱ	2											
スペイン語会話Ⅱ	2											
言語情報	言語情報処理Ⅰa	*2										
	言語情報処理Ⅰb	*2										
	言語情報処理Ⅱa	*2		4								
	言語情報処理Ⅱb	*2										
	統語論a	*2		2								
	統語論b	*2		2								
	意味論a	*2										
	意味論b	*2										
	音声・音韻論a	*2										
	音声・音韻論b	*2										
	英語史a	*2			12							
	英語史b	*2										
	英語学特殊講義a	*2										
	英語学特殊講義b	*2										
	英語学文献研究a	*2										
	英語学文献研究b	*2										
	文学文化	英米文学史a	*2					2				
		英米文学史b	*2					2				
		英米の小説a	*2									
		英米の小説b	*2									
英米の詩a		*2										
英米の詩b		*2										
英米の演劇a		*2										
英米の演劇b		*2										
英語圏文学特殊講義a		*2										
英語圏文学特殊講義b		*2										
英米文学文献研究a	*2						16					
英米文学文献研究b	*2											
英米の社会と思想a	*2											
英米の社会と思想b	*2											
英米の政治と経済a	*2											
英米の政治と経済b	*2											
英米の歴史a	*2											
英米の歴史b	*2											
英米事情a	*2											
英米事情b	*2											
英語圏文化特殊講義a	*2											
英語圏文化特殊講義b	*2											
英米文化文献研究a	*2											
英米文化文献研究b	*2											
国際コミュニケーション	国際政治論a	*2								2		
	国際政治論b	*2								2		
	国際関係論a	*2										
	国際関係論b	*2										
	国際開発協力論a	*2										
	国際開発協力論b	*2										
	国際関係論特殊講義a	*2										
	国際関係論特殊講義b	*2										
	国際関係論文献研究a	*2										
	国際関係論文献研究b	*2										
異文化間コミュニケーション論a	*2									2		
異文化間コミュニケーション論b	*2									2		
マス・コミュニケーション論a	*2											
マス・コミュニケーション論b	*2											
スピーチ・コミュニケーション論a	*2			4								
スピーチ・コミュニケーション論b	*2											
コミュニケーション論特殊講義a	*2											
コミュニケーション論特殊講義b	*2											
コミュニケーション論文献研究a	*2											
コミュニケーション論文献研究b	*2											
特別セミナー	*2											
卒業論文	4											
外国語学部共通科目(別表1-5)	28		28			28			28			
演習	4		8			8			8			
卒業に必要な単位数			76	36	20	76	32	24	80	28	24	
				132			132			132		

備考  
 (1) \*は、半期完結科目を現す。  
 (2) 第2外国語部門からは一言語を選択する。  
 (3) 言語情報コースの言語情報処理については、IかIIのいずれかから4単位を修得する。IとIIを組み合わせることはできない。  
 (4) 卒業に必要な選択科目のうち20単位までは、他学部または他学科および教職課程授業科目の単位をもって代用できる。ただし、他学部科目の単位は、8単位以内(教職課程授業科目の4単位を含む)とする。  
 なお、教職課程授業科目の単位の代用について別に定める。

○ 本表は、1998年度入学者から適用する。

学則別表 (2003年度以降入学者)

科目群	科目	単位
外国語学部共通科目	総合講座	2
	情報科学概論a	2
	情報科学概論b	2
	情報科学各論	2
	経済原論a	2
	経済原論b	2
	社会心理学a	2
	社会心理学b	2

○ 本表は、2003年度入学者から適用する。

## 【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

本シラバスは、2003年度以降入学生用の「英語学科」授業科目及び「外国語学部共通科目」と、2002年度入学生用の「英語学科」授業科目、2001年度以前入学生用の「英語学科」授業科目のシラバスです。各自の入学年度に従い、以下の点に注意し目次を確認してください。

\* 入学年度により履修開始の表現が異なります。

2003年度以降入学生用目次：履修開始 **学期**

2002年度入学生用目次：履修開始 **学年**

2001年度以前入学生用目次

\* 履修不可学科の表記

外：外国語学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科	済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科	営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		
言：言語文化学科		
言(*1)：言語文化学科、スペイン語履修者		
言(*2)：言語文化学科、中国語履修者		
全：英語学科以外		

①適用年度 (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要  <b>【 春学期 】</b>	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	
①適用年度 (カリキュラム)	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要  <b>【 秋学期 】</b>	⑤ 授業計画 第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	

\* 上段は、春学期科目です。

①②入学年度により科目が異なります。

③ 担当教員氏名

④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。

⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。

⑦ 春学期完結科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期完結科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

\* 下段は、秋学期科目です。

各項目については、春学期と同一です。

[注意]

1. 定員

科目の中には定員制のものがあります。

それぞれ適用年度の「授業時間割表」を参照してください。

# 英語学科授業科目 (2003年度以降入学生用)

## 目次

### 学科基礎科目

◆ a, bは必ずセットで履修してください

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春秋	SPEECH COMMUNICATION a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	1
	春秋	ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	2
	春秋	英語ライティング・ストラテジーズ a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	3
	春秋	英語パラグラフ・ライティング a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	4
	春秋	英語リーディング・ストラテジーズ a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	5
	春秋	READING COMPREHENSION a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	6
	春秋	HONORS ENGLISH 1 a,b	各担当教員			1/1	1/2	全	7
	春秋	HONORS ENGLISH 2 a,b	N. H. ジョスト	水2	6-306	1/1	3/4	全	8
	春	HONORS ENGLISH 2 a	T. ヒル	水2	1-303	1	3	全	9
	秋	HONORS ENGLISH 2 b	T. ヒル	水2	1-208	1	4	全	9
	春秋	HONORS ENGLISH 2 a,b	T. マーフィー	水2	5-301	1/1	3/4	全	10
	春秋	英語専門講読入門 a,b	E. カーニ	水2	6-202	1/1	3/4	全	11
	春秋	英語専門講読入門 a,b	青柳 真紀子	水2	4-314	1/1	3/4	全	12
	春秋	英語専門講読入門 a,b	浅岡 千利世	水2	5-207	1/1	3/4	全	13
	春秋	英語専門講読入門 a,b	上野 直子	水2	3-115	1/1	3/4	全	14
	春秋	英語専門講読入門 a,b	大西 雅行	水2	6-405	1/1	3/4	全	15
	春秋	英語専門講読入門 a,b	川崎 潔	水2	6-206	1/1	3/4	全	16
	春秋	英語専門講読入門 a,b	北澤 滋久	水2	4-315	1/1	3/4	全	17
	春秋	英語専門講読入門 a,b	工藤 和宏	水2	6-204	1/1	3/4	全	18
	春秋	英語専門講読入門 a,b	児嶋 一男	水2	1-309	1/1	3/4	全	19
	春秋	英語専門講読入門 a,b	佐藤 唯行	水2	2-210	1/1	3/4	全	20
	春秋	英語専門講読入門 a,b	島田 啓一	水2	2-203	1/1	3/4	全	21
	春秋	英語専門講読入門 a,b	原 成吉	水2	4-301	1/1	3/4	全	22
	春秋	英語専門講読入門 a,b	福井 嘉彦	水2	4-305	1/1	3/4	全	23
09083	春秋	英語専門講読入門 a,b (再履修)	遠藤 朋之	金2	6-205	1/1	3/4	全	24
08523	春秋	英語専門講読入門 a,b (再履修)	福井 嘉彦	木3	4-305	1/1	3/4	全	25
01414	春秋	英語学概論 a,b	清水 由理子	金2	2-401	2/2	1/2		26
09798	春秋	英語学概論 a,b	鈴木 英一	金2	4-301	2/2	1/2		27
00906	春秋	英語学概論 a,b	府川 謹也	火2	2-201	2/2	1/2		28
00895	春秋	英語学概論 a,b	安井 美代子	火2	1-301	2/2	1/2		29
01285	春	英語圏の文学・文化概論 a	上野 直子	火2	6-201	2	1		30
	秋	英語圏の文学・文化概論 b	北澤 滋久	火2	1-306	2	2		30
01308	春	英語圏の文学・文化概論 a	北澤 滋久	火2	1-306	2	1		31
	秋	英語圏の文学・文化概論 b	上野 直子	火2	6-201	2	2		31
01477	春	英語圏の文学・文化概論 a	島田 啓一	金2	2-402	2	1		32
	秋	英語圏の文学・文化概論 b	藤田 永祐	金2	3-206	2	2		32
01462	春	英語圏の文学・文化概論 a	藤田 永祐	金2	3-206	2	1		33
	秋	英語圏の文学・文化概論 b	島田 啓一	金2	2-402	2	2		33
00882	春	文化コミュニケーション概論 a	柿田 秀樹	月4	6-201	2	1		34
	秋	文化コミュニケーション概論 b	鍋倉 健悦	月4	5-407	2	2		34
00885	春	文化コミュニケーション概論 a	鍋倉 健悦	月4	5-407	2	1		35
	秋	文化コミュニケーション概論 b	柿田 秀樹	月4	6-201	2	2		35
08771	春	文化コミュニケーション概論 a	工藤 和宏	月4	4-403	2	1		36
	秋	文化コミュニケーション概論 b	板場 良久	月4	2-404	2	2		36
08756	春	文化コミュニケーション概論 a	板場 良久	月4	2-404	2	1		37
	秋	文化コミュニケーション概論 b	工藤 和宏	月4	4-403	2	2		37
08219	春	国際コミュニケーション概論 a	金子 芳樹	水2	4-403	2	1	言	38
	秋	国際コミュニケーション概論 b	永野 隆行	水2	3-404	2	2	言	38
08221	春	国際コミュニケーション概論 a	永野 隆行	水2	3-404	2	1	言	39
	秋	国際コミュニケーション概論 b	金子 芳樹	水2	4-403	2	2	言	39

09806	春	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
09808	秋	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
00938	春	英語音声学	大西 雅行	火1	2-301	2	1		43
00939	秋	英語音声学	大西 雅行	金1	2-401	2	1		43
	春	スピーチ・クリニック	青柳 真紀子	火1	5-301	2	1	全	44
	秋	スピーチ・クリニック	青柳 真紀子	火1	5-301	2	1	全	44
	春	スピーチ・クリニック	大西 雅行	金1	5-301	2	1	全	45
	秋	スピーチ・クリニック	大西 雅行	火1	5-309	2	1	全	45
01468	春	スピーチ・クリニック(3学期生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	3		46
01474	秋	スピーチ・クリニック(3学期生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	3		46
	春	ベーシック・カレッジ・グラマー	青柳 真紀子	火3	1-114	2	1	全	47
	秋	ベーシック・カレッジ・グラマー	青柳 真紀子	火3	1-114	2	1	全	47
	春	ベーシック・カレッジ・グラマー	川崎 潔	木4	2-204	2	1	全	48
	秋	ベーシック・カレッジ・グラマー	川崎 潔	木4	2-204	2	1	全	48
	春	ベーシック・カレッジ・グラマー	高橋 雄一郎	木4	3-307	2	1	全	49
	秋	ベーシック・カレッジ・グラマー	白鳥 正孝	木4	3-307	2	1	全	49

## 学科共通科目

◆a, bは必ずセットで履修してください

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

\*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

### 英語専門講読a,b

★各部門の英語専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bを修得していること

[定員32名]

### 「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a,b(The Art of Teaching)	J. J. ダゲン	水2	2-202	2/2	3/4		50
	春秋	英語専門講読 a,b(Second Language Acquisition)	T. ヒル	水1	4-308	2/2	3/4		51
	春秋	英語専門講読 a,b(Exploring Learning)	T. マーフィー	水1	5-301	2/2	3/4		52
	春秋	英語専門講読 a,b(音声学入門)	青柳 真紀子	火2	3-116	2/2	3/4		53
	春秋	英語専門講読 a,b(Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	火4	5-402	2/2	3/4		54
	春秋	英語専門講読 a,b(英語音を学ぶ)	大西 雅行	水1	4-314	2/2	3/4		55
	春秋	英語専門講読 a,b(『ヨブ記』をRevised Versinで読む)	川崎 潔	土1	3-202	2/2	3/4		56
	春秋	英語専門講読 a,b(英語の文の統語的特徴と階層構造)	鈴木 英一	金3	4-314	2/2	3/4		57
	春秋	英語専門講読 a,b(Language Learning)	鈴木 眞奈美	月2	1-203	2/2	3/4		58
	春秋	英語専門講読 a,b(ニュースやスピーチのスク립トを読む)	鍋倉 健悦	水2	2-310	2/2	3/4		59
	春秋	英語専門講読 a,b(語彙意味論入門)	福田 有美	木4	3-209	2/2	3/4		60
	春秋	英語専門講読 a,b(統語論(生成文法))	柚木 一彦	金3	3-118	2/2	3/4		61
	春秋	英語専門講読 a,b(Linguistic knowledge and second language acquisition)	米山 聖子	火2	5-101	2/2	3/4		62

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
	春秋	英語専門講読 a,b(ENGLISH&AMERICAN SHORT STORIES)	E. カーニィ	水1	2-209	2/2	3/4		63

春秋	英語専門講読 a,b(James Joyce)	M. フッド	水3	4-313	2/2	3/4	64
春秋	英語専門講読 a,b(Literature - A 20th Century English Novel)	W. J. ベンフィールド	水1	3-208	2/2	3/4	65
春秋	英語専門講読 a,b(アメリカ詩 - エミリー・ディキンソン)	石塚 あおい	火4	1-304	2/2	3/4	66
春秋	英語専門講読 a,b(トランス・アトランティック入門)	上野 直子	木3	6-206	2/2	3/4	67
春秋	英語専門講読 a,b(Ezra Poundの初期から中期を読む)	遠藤 朋之	木4	1-209	2/2	3/4	68
春秋	英語専門講読 a,b(W.P. KinsellaのIndian Storiesを読む)	大木 理恵子	火3	国2-2	2/2	3/4	69
春秋	英語専門講読 a,b(文学コミュニケーション)	北澤 滋久	木3	3-207	2/2	3/4	70
春秋	英語専門講読 a,b(オーストラリアの詩)	国見 晃子	火4	1-108	2/2	3/4	71
春秋	英語専門講読 a,b(英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	6-203	2/2	3/4	72
春秋	英語専門講読 a,b(英語圏の歴史)	佐藤 唯行	木1	4-306	2/2	3/4	73
春秋	英語専門講読 a,b("The Catcher in the Rye"を読む)	島田 啓一	金3	3-310	2/2	3/4	74
秋	英語専門講読 a(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3	2-303	2	3/4	75
秋	英語専門講読 b(イギリス児童文学)	白鳥 正孝	水1	2-303	2	3/4	75
春秋	英語専門講読 a,b(日系アメリカ女性作家)	高田 宣子	火4	2-208	2/2	3/4	76
春	英語専門講読 a(ツーリズム研究)	高橋 雄一郎	水1	4-311	2	3/4	77
春	英語専門講読 b(ツーリズム研究)	高橋 雄一郎	水2	4-311	2	3/4	77
春秋	英語専門講読 a,b(アメリカ詩)	原 成吉	木3	6-305	2/2	3/4	78
春秋	英語専門講読 a,b(英米文化)	福井 嘉彦	月3	3-304	2/2	3/4	79
春秋	英語専門講読 a,b(イギリスの小説)	藤田 永祐	木2	2-310	2/2	3/4	80
春秋	英語専門講読 a,b(シェイクスピア)	前沢 浩子	月3	3-118	2/2	3/4	81
春秋	英語専門講読 a,b(アフリカン・ディアスポラたちの旅を追体験する)	三吉 美加	水3	6-405	2/2	3/4	82
春秋	英語専門講読 a,b(現代スコットランド文学)	山田 修	月4	3-208	2/2	3/4	83

### 「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
春秋	英語専門講読 a,b(Readings on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	3-210	2/2	3/4	84		
春秋	英語専門講読 a,b(Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	3-303	2/2	3/4	85		
春秋	英語専門講読 a,b(Language and Culture)	N. H. ジョスト	月1	6-304	2/2	3/4	86		
春秋	英語専門講読 a,b(異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	1-209	2/2	3/4	87		
春秋	英語専門講読 a,b(新しいコミュニケーション論)	板場 良久	水2	1-204	2/2	3/4	88		
春秋	英語専門講読 a,b(アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月3	6-203	2/2	3/4	89		
春秋	英語専門講読 a,b(映画批評)	柿田 秀樹	月3	6-204	2/2	3/4	90		
春秋	英語専門講読 a,b(異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	6-202	2/2	3/4	91		
春秋	英語専門講読 a,b(異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティ)	工藤 和宏	金3	3-304	2/2	3/4	92		
春秋	英語専門講読 a,b(異文化の理解とは何か)	瀬戸 千尋	火3	2-302	2/2	3/4	93		

### 「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
春秋	英語専門講読 a,b(Miraculous achievements of East Asian economies)	Park Yong-Il	火3	6-307	2/2	3/4	94		
春秋	英語専門講読 a,b(Economic cooperation in East Asia)	Park Yong-Il	木3	2-202	2/2	3/4	95		
春秋	英語専門講読 a,b(Economic reform in Japan)	Park Yong-Il	木4	2-208	2/2	3/4	96		
春秋	英語専門講読 a,b(米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	1-209	2/2	3/4	97		
春秋	英語専門講読 a,b(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	水1	3-309	2/2	3/4	98		
春秋	英語専門講読 a,b(各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	木2	4-306	2/2	3/4	99		
春秋	英語専門講読 a,b(アジア太平洋地域の安全保障)	竹田 いさみ	火1	4-313	2/2	3/4	100		
春秋	英語専門講読 a,b(現代国際関係)	永野 隆行	火4	4-311	2/2	3/4	101		

## 英作文 a,b

[既修条件]英語ライティング・ストラテジーズ a,bまたはレベルCを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08227	春秋	英作文 a,b	遠藤 朋之	木3	3-110	2/2	3/4		102
08229	春秋	英作文 a,b	金谷 優子	水2	5-409	2/2	3/4		103
08225	春秋	英作文 a,b	金子 節也	月3	4-312	2/2	3/4		104
08234	春秋	英作文 a,b	川崎 潔	木3	2-204	2/2	3/4		105
08238	春秋	英作文 a,b	国見 晃子	火2	5-210	2/2	3/4		106
08242	春秋	英作文 a,b	瀬戸 千尋	木2	3-109	2/2	3/4		107
08250	春秋	英作文 a,b	中村 粲	火3	3-209	2/2	3/4		108
08252	春秋	英作文 a,b	永野 隆行	火5	6-303	2/2	3/4		109
08244	春秋	英作文 a,b	藤田 永祐	金3	3-309	2/2	3/4		110
08254	春秋	英作文 a,b	米山 聖子	火1	5-101	2/2	3/4		111

## 英語エッセイ・ライティング a,b

[既修条件]英語パラグラフ・ライティング a,b、英作文 a,bまたはレベルBを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08256	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	D. L. ブランケン	金2	1-304	2/2	3/4		112
08260	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	E. J. ナオウミ	木2	6-405	2/2	3/4		113
08258	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	E. カーニィ	火1	6-303	2/2	3/4		114
08262	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	L. K. ハーキンス	月2	3-114	2/2	3/4		115
08737	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	M. フッド	月1	6-305	2/2	3/4		116
08266	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	M. フッド	水4	6-307	2/2	3/4		116
08268	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	P. マッケビリー	火3	4-310	2/2	3/4		117
08272	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	R. ジョーンズ	水2	3-207	2/2	3/4		118
08270	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	R. ダラム	木1	6-305	2/2	3/4		119
08264	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	S. J. クリステイ	水1	1-209	2/2	3/4		120
08780	春秋	英語エッセイ・ライティング a,b	鈴木 真奈美	月3	2-202	2/2	3/4		121

## 翻訳 a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること  
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08274	春秋	翻訳 a,b	遠藤 朋之	木2	3-308	2/2	3/4		122
08276	春秋	翻訳 a,b	金谷 優子	水3	4-406	2/2	3/4		123
08280	春秋	翻訳 a,b	高田 宣子	火2	6-308	2/2	3/4		124
08278	春秋	翻訳 a,b	藤田 永祐	木4	1-203	2/2	3/4		125

## カレッジ・グラマー a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること  
[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜日	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
09052	春秋	カレッジ・グラマー a,b	河原 宏之	木2	6-204	2/2	3/4		126
08286	春秋	カレッジ・グラマー a,b	府川 謹也	水1	3-207	2/2	3/4		127
09827	春秋	カレッジ・グラマー a,b	毛利 秀高	木3	1-114	2/2	3/4		128
08288	春秋	カレッジ・グラマー a,b	山田 修	月3	3-208	2/2	3/4		129

## COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b

[既修条件]SPEECH COMMUNICATION a,bまたはレベルCを修得していること

[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08292	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	D. ブラドリー	火2	3-304	2/2	3/4		130
08296	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	E. J. ナオウミ	火1	6-204	2/2	3/4		131
08298	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	J. J. ダゲン	水1	5-105	2/2	3/4		132
08300	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	K. ミーハン	金2	4-306	2/2	3/4		133
08314	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	M. ウーラートン	木4	3-309	2/2	3/4		134
08322	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	M. デル ベツキオ	水3	6-204	2/2	3/4		135
08302	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	M. デル ベツキオ	水4	6-206	2/2	3/4		135
08294	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	P. M. ホーネス	月1	3-304	2/2	3/4		136
08304	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	P. アップス	水1	6-203	2/2	3/4		137
08320	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	P. アップス	水2	6-308	2/2	3/4		137
08310	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	P. マッケビリー	火2	2-308	2/2	3/4		138
08330	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	R. J. パロウズ	木2	6-207	2/2	3/4		139
08316	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	R. M. ペイン	月1	3-307	2/2	3/4		140
08815	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	R. M. ペイン	金2	3-305	2/2	3/4		140
08306	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	R. ダラム	木2	6-305	2/2	3/4		141
08308	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	R. ダラム	木3	5-402	2/2	3/4		141
08318	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	S. J. クリステイ	水2	6-302	2/2	3/4		142
08290	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH I a,b	T. マーフィー	火4	5-301	2/2	3/4		143

## COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08326	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	C. B. 池口	火4	3-115	2/2	3/4		144
08328	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	D. L. ブランケン	水2	1-115	2/2	3/4		145
08803	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	D. マッキャン	金2	4-314	2/2	3/4		146
08336	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	M. デル ベツキオ	水1	2-208	2/2	3/4		147
08352	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	M. デル ベツキオ	木2	1-115	2/2	3/4		147
08346	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	M. フッド	水2	3-116	2/2	3/4		148
08332	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	N. ハミルトン	月2	1-208	2/2	3/4		149
08338	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	N. ハミルトン	火2	1-208	2/2	3/4		149
08340	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	P. アップス	火2	6-408	2/2	3/4		150
08342	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	P. マッケビリー	火1	4-309	2/2	3/4		151
08344	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	R. J. パロウズ	火1	6-403	2/2	3/4		152
08348	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	R. J. パロウズ	火2	国2-2	2/2	3/4		153
08354	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	R. J. パロウズ	木3	6-403	2/2	3/4		154
08324	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	R. ジョーンズ	月1	4-301	2/2	3/4		155
08350	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	R. ジョーンズ	水3	1-114	2/2	3/4		156
08334	春秋	COMMUNICATIVE ENGLISH II a,b	T. J. フォトス	水1	2-309	2/2	3/4		157

## DISCUSSION a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08358	春秋	DISCUSSION a,b	D. L. ブランケン	水3	4-309	2/2	3/4		158
08356	春秋	DISCUSSION a,b	N. H. ジョスト	火3	3-116	2/2	3/4		159
08360	春秋	DISCUSSION a,b	W. J. ベンフィールド	木1	3-117	2/2	3/4		160



PUBLIC SPEAKING I a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
01388	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	A. R. ファルヴォ	金1	6-303	2/2	1/2		161
01337	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	E. カーニイ	月3	1-108	2/2	1/2		162
00703	春秋	PUBLIC SPEAKING I a,b	板場 良久	火3	6-205	2/2	1/2		163

PUBLIC SPEAKING II a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
07281	春秋	PUBLIC SPEAKING II a,b	N. H. ジョスト	火5	6-304	2/2	3/4		164

DEBATE I a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
00876	春秋	DEBATE I a,b	P. M. ホーネス	木2	3-115	2/2	1/2		165
01134	春秋	DEBATE I a,b	柿田 秀樹	水2	5-105	2/2	1/2		166

DEBATE II a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08808	春秋	DEBATE II a,b	N. H. ジョスト	火4	5-409	2/2	3/4		167

通訳 I a,b

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION a,b、COMMUNICATIVE ENGLISH I a,bまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
00734	春秋	通訳 I a,b	原口 友子	月2	5-404	2/2	1/2		168
00773	春秋	通訳 I a,b	原口 友子	月4	5-309	2/2	1/2		168

通訳 II a,b

[既修条件]通訳 I a,bまたはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08362	春秋	通訳 II a,b	原口 友子	月3	5-309	2/2	3/4		169

英語ビジネス・コミュニケーション I a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH I a,bまたはレベルCを修得していること

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08364	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	海老沢 達郎	火3	6-305	2/2	3/4		170
08366	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	海老沢 達郎	金3	6-205	2/2	3/4		170
08368	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	杉山 晴信	水2	3-306	2/2	3/4		171
08370	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	杉山 晴信	木3	3-303	2/2	3/4		172
08372	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	信 達郎	月1	2-302	2/2	3/4		173
08374	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション I a,b	信 達郎	月2	2-302	2/2	3/4		173

### 英語ビジネス・コミュニケーション II a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08376	春秋	英語ビジネス・コミュニケーション II a,b	杉山 晴信	金3	6-403	2/2	3/4		174

### メディア英語 I a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルCを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08386	春秋	メディア英語 I a,b	N. H. ジョスト	水1	6-306	2/2	3/4		175
08384	春秋	メディア英語 I a,b	W. J. ベンフィールド	水2	3-208	2/2	3/4		176
08378	春秋	メディア英語 I a,b	海老沢 達郎	火2	6-307	2/2	3/4		177
09087	春秋	メディア英語 I a,b	遠藤 朋之	金3	国2-1	2/2	3/4		178
08388	春秋	メディア英語 I a,b	岡田 誠一	月4	5-409	2/2	3/4		179
08390	春秋	メディア英語 I a,b	岡田 誠一	木4	4-309	2/2	3/4		179
08382	春秋	メディア英語 I a,b	金子 節也	月4	6-203	2/2	3/4		180

### メディア英語 II a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08394	春秋	メディア英語 II a,b	A. R. ファルウォ	金2	6-202	2/2	3/4		181
10617	春秋	メディア英語 II a,b	M.ウーラートン	木3	2-304	2/2	3/4		182
08392	春秋	メディア英語 II a,b	川島 浩美	水2	3-305	2/2	3/4		183

### シネマ英語 a,b

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズ a,bおよびREADING COMPREHENSION a,bまたはHONORS ENGLISH 1 a,bまたはレベルBを修得していること

[定員35名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08398	春秋	シネマ英語 a,b	岡田 誠一	月2	6-203	2/2	3/4		184
08400	春秋	シネマ英語 a,b	岡田 誠一	木3	6-204	2/2	3/4		185

## 学科専門科目

◆ a, bセットで履修する必要はありません

### 「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
01123	春	言語情報処理 I a (定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	3		192
01124	秋	言語情報処理 I b (定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	4		192
01509	春	言語情報処理 I a (定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	3		193
01510	秋	言語情報処理 I b (定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	4		193
01541	春	言語情報処理 II a (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	3		194
01542	秋	言語情報処理 II b (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	4		194
01347	春	統語論a	安井 美代子	月2	2-403	2	3		195
01348	秋	統語論b	安井 美代子	月2	2-403	2	4		195
00790	春	意味論a	府川 謹也	金3	2-309	2	3		196
00791	秋	意味論b	府川 謹也	金3	2-309	2	4		196
00799	春	音声・音韻論a	大西 雅行	火2	1-203	2	3		197
00800	秋	音声・音韻論b	大西 雅行	火2	1-203	2	4		197

09829	春	英語史a	毛利 秀高	木4	1-302	2	3	198
09830	秋	英語史b	毛利 秀高	木4	1-302	2	4	198
01149	春	英語学特殊講義a	府川 謹也	水2	1-203	2	5	199
01150	秋	英語学特殊講義b	府川 謹也	水2	1-203	2	6	199
08784	春	英語学文献研究a(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	5	200
08785	秋	英語学文献研究b(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	6	200

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
10274	春	英語圏の小説 a(定員100名)	藤田 永祐	水2	6-101	2	3		201
09060	秋	英語圏の小説 b(定員100名)	北澤 滋久	火3	4-307	2	4		201
08205	春	英語圏の詩 a(定員100名)	原 成吉	火2	2-401	2	3		202
08206	秋	英語圏の詩 b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2-401	2	4		202
08207	春	英語圏の演劇 a(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	3		203
08208	秋	英語圏の演劇 b(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	4		203
08209	春	英語圏の社会と思想 a(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	3		204
08210	秋	英語圏の社会と思想 b(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	4		204
08211	春	英語圏の歴史 a	佐藤 唯行	木2	6-201	2	3		205
08212	秋	英語圏の歴史 b	佐藤 唯行	木2	6-201	2	4		205
08213	春	英語圏のエリア・スタディーズ a(定員200名)	上野 直子	水3	3-402	2	3		206
08214	秋	英語圏のエリア・スタディーズ b(定員200名)	上野 直子	水3	1-402	2	4		206
10248	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	高橋 雄一郎	木3	3-203	2	5		207
10657	春	英語圏の文学・文化特殊講義 a	上野 直子	木4	3-308	2	5		208
10658	秋	英語圏の文学・文化特殊講義 b	上野 直子	木4	3-308	2	6		208
10283	春	英語圏の文学・文化文献研究 a(定員25名)	北澤 滋久	火3	2-202	2	5		209
10243	秋	英語圏の文学・文化文献研究 b(定員25名)	原 成吉	火2	2-303	2	6		209

### 「異文化コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
01434	春	異文化間コミュニケーション論a	石井 敏	水1	3-402	2	3		210
01435	秋	異文化間コミュニケーション論b	石井 敏	水1	3-402	2	4		210
01238	春	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	3		211
01239	秋	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	4		211
01393	春	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	3-404	2	3		212
01394	秋	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	3-404	2	4		212
01108	春	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2-401	2	3		213
01169	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2-401	2	4		213
00977	春	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	5-407	2	3		214
00978	秋	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	5-407	2	4		214
01360	春	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水1	6-305	2	5		215
01361	秋	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水1	6-305	2	6		215
10494	秋	コミュニケーション論特殊講義b	K. K. キャンベル	水3	3-204	2	6		216
00975	春	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	5		217
01511	秋	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	6		217
10495	秋	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	K. K. キャンベル	月3	3-205	2	6		218

### 「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学期	履修 不可	ページ
08217	春	国際社会論 a(a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	3		219
08218	秋	国際社会論 b(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	4		219
08215	春	国際社会論 a(a,bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	3		220
08216	秋	国際社会論 b(a,bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	4		220
00743	春	国際関係史a	永野 隆行	月2	3-402	2	3	法	221
00732	秋	国際関係史b	永野 隆行	月2	3-402	2	4	法	221
00945	春	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	5-128	2	3		222
00917	秋	国際開発協力論b	金子 芳樹	火2	3-404	2	4		222

01501	春	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2-404	2	5	223
10496	秋	国際関係論特殊講義b	K. K. キャンベル	月4	3-202	2	6	224
10614	秋	国際関係論特殊講義b	小川 忠	土2	5-409	2	6	225
01502	秋	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	5-128	2	6	226
01556	春	国際関係論文献研究a (定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	5	227
01557	秋	国際関係論文献研究b (定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	6	227
00935	春	国際関係論文献研究a (定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	5	228
00961	秋	国際関係論文献研究b (定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	6	228
10531	秋	国際関係論文献研究b (定員25名)	永野 隆行	木2	4-406	2	6	229
10505	春	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	5	230
10506	秋	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	6	230
10493	秋	特別セミナー	K. K. キャンベル	水4	6-106	2	6	231
10222	春	特別セミナー(CAEL) (定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	2	232
10223	秋	特別セミナー(CAEL) (定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	3	232

# 英語学科授業科目 (2002年度入学生用)

## 目次

### 学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	SPEECH COMMUNICATION	各担当教員			2	1	全	1
	通年	ADVANCED SPEECH COMMUNICATION	各担当教員			2	1	全	2
	通年	英語ライティング・ストラテジーズ	各担当教員			2	1	全	3
	通年	英語パラグラフ・ライティング	各担当教員			2	1	全	4
	通年	英語リーディング・ストラテジーズ	各担当教員			2	1	全	5
	通年	READING COMPREHENSION	各担当教員			2	1	全	6
	通年	HONORS ENGLISH 1	各担当教員			2	1	全	7
09082	通年	英語専門講読入門(再履修)	遠藤 朋之	金2	6-205	2	2	全	24
08455	通年	英語専門講読入門(再履修)	福井 嘉彦	木3	4-305	2	2	全	25
01413	通年	英語学概論	清水 由理子	金2	2-401	4	1		26
09797	通年	英語学概論	鈴木 英一	金2	4-301	4	1		27
00905	通年	英語学概論	府川 謹也	火2	2-201	4	1		28
00894	通年	英語学概論	安井 美代子	火2	1-301	4	1		29
10255	通年	英米文学概論	上野 直子/北澤 滋久	火2	6-201/1-306	4	1		30
10282	通年	英米文学概論	北澤 滋久/上野 直子	火2	1-306/6-201	4	1		31
10800	通年	英米文学概論	島田 啓一/藤田 永祐	金2	2-402/3-206	4	1		32
01461	通年	英米文学概論	藤田 永祐/島田 啓一	金2	3-206/2-402	4	1		33
10651	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行/柿田 秀樹	春水2/秋月4	3-404/6-201	4	1	言	40
10650	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹/永野 隆行	春月4/秋水2	6-201/3-404	4	1	言	41
09806	春学期	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
09808	秋学期	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
00938	春学期	英語音声学	大西 雅行	火1	2-301	2	1		43
00939	秋学期	英語音声学	大西 雅行	金1	2-401	2	1		43
01468	春学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	2		46
01474	秋学期	スピーチ・クリニック(2年生以上用)(定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	2		46

### 学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

\*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

#### 英語専門講読

★各部門の英語専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSION またはHONORS ENGLISH 1を修得していること

[定員32名]

#### 「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	英語専門講読 (The Art of Teaching)	J. J. ダゲン	水2	2-202	4	2		50

通年	英語専門講読 (Second Language Acquisition)	T. ヒル	水1	4-308	4	2	51
通年	英語専門講読 (Exploring Learning)	T. マーフィー	水1	5-301	4	2	52
通年	英語専門講読 (音声学入門)	青柳 真紀子	火2	3-116	4	2	53
通年	英語専門講読 (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	火4	5-402	4	2	54
通年	英語専門講読 (英語音を学ぶ)	大西 雅行	水1	4-314	4	2	55
通年	英語専門講読 (『ヨブ記』をRevised Versinで読む)	川崎 潔	土1	3-202	4	2	56
通年	英語専門講読 (英語の文の統語的特徴と階層構造)	鈴木 英一	金3	4-314	4	2	57
通年	英語専門講読 (Language Learning)	鈴木 真奈美	月2	1-203	4	2	58
通年	英語専門講読 (ニュースやスピーチの SCRIPT を読む)	鍋倉 健悦	水2	2-310	4	2	59
通年	英語専門講読 (語彙意味論入門)	福田 有美	木4		4	2	60
通年	英語専門講読 (統語論(生成文法))	柚木 一彦	金3	3-118	4	2	61
通年	英語専門講読 (Linguistic knowledge and second language acquisition)	米山 聖子	火2	5-101	4	2	62

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年		英語専門講読 (ENGLISH&AMERICAN SHORT STORIES)	E. カーニィ	水1	2-209	4	2		63
通年		英語専門講読	M. フッド	水3	4-313	4	2		64
通年		英語専門講読 (Literature—A 20th Century English Novel)	W. J. ベンフィールド	水1	3-208	4	2		65
通年		英語専門講読 (アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)	石塚 あおい	火4	1-304	4	2		66
通年		英語専門講読 (トランス・アトランティック入門)	上野 直子	木3	6-206	4	2		67
通年		英語専門講読 (Ezra Poundの初期から中期を読む)	遠藤 朋之	木4	1-209	4	2		68
通年		英語専門講読 (W.P. KinsellaのIndian Storiesを読む)	大木 理恵子	火3	国2-2	4	2		69
通年		英語専門講読 (文学コミュニケーション)	北澤 滋久	木3	3-207	4	2		70
通年		英語専門講読 (オーストラリアの詩)	国見 晃子	火4	1-108	4	2		71
通年		英語専門講読 (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	6-203	4	2		72
通年		英語専門講読 (英語圏の歴史)	佐藤 唯行	木1	4-306	4	2		73
通年		英語専門講読 ("The Catcher in the Rye"を読む)	島田 啓一	金3	3-310	4	2		74
秋学期		英語専門講読 (イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3/水1	2-303	4	2		75
通年		英語専門講読 (日系アメリカ女性作家の声)	高田 宣子	火4	2-208	4	2		76
春学期		英語専門講読 (ツーリズム研究)	高橋 雄一郎	水1/水2	4-311	4	2		77
通年		英語専門講読 (アメリカ詩)	原 成吉	木3	6-305	4	2		78
通年		英語専門講読 (英米文化)	福井 嘉彦	月3	3-304	4	2		79
通年		英語専門講読 (イギリスの小説)	藤田 永祐	木2	2-310	4	2		80
通年		英語専門講読 (シェイクスピア)	前沢 浩子	月3	3-118	4	2		81
通年		英語専門講読 (アフリカン・ディアスポラたちの旅を追体験する)	三吉 美加	水3	6-405	4	2		82
通年		英語専門講読 (現代スコットランド文学)	山田 修	月4	3-208	4	2		83

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年		英語専門講読 (Readings on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	3-210	4	2		84
通年		英語専門講読 (Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	3-303	4	2		85
通年		英語専門講読 (Language and Culture)	N. H. ジョスト	月1	6-304	4	2		86
通年		英語専門講読 (異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	1-209	4	2		87
通年		英語専門講読 (新しいコミュニケーション論)	板場 良久	水2	1-204	4	2		88
通年		英語専門講読 (アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月3	6-203	4	2		89
通年		英語専門講読 (映画批評)	柿田 秀樹	月3	6-204	4	2		90
通年		英語専門講読 (異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	6-202	4	2		91
通年		英語専門講読 (異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティ)	工藤 和宏	金3	3-304	4	2		92
通年		英語専門講読 (異文化の理解とは何か)	瀬戸 千尋	火3	2-302	4	2		93

## 「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	英語専門講読 (Miraculous achievements of East Asian economies)	Park Yong-Il	火3	6-307	4	2		94
	通年	英語専門講読 (Economic cooperation in East Asia)	Park Yong-Il	木3	2-202	4	2		95
	通年	英語専門講読 (Economic reform in Japan)	Park Yong-Il	木4	2-208	4	2		96
	通年	英語専門講読 (米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	1-209	4	2		97
	通年	英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	水1	3-309	4	2		98
	通年	英語専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	木2	4-306	4	2		99
	通年	英語専門講読 (アジア太平洋地域の安全保障)	竹田 いさみ	火1	4-313	4	2		100
	通年	英語専門講読 (現代国際関係)	永野 隆行	火4	4-311	4	2		101

## 英作文

[既修条件]英語ライティング・ストラテジーズ またはレベルCを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01249	通年	英作文	遠藤 朋之	木3	3-110	4	2		102
01142	通年	英作文	金谷 優子	水2	5-409	4	2		103
00821	通年	英作文	金子 節也	月3	4-312	4	2		104
01152	通年	英作文	川崎 潔	木3	2-204	4	2		105
01504	通年	英作文	国見 晃子	火2	5-210	4	2		106
01304	通年	英作文	瀬戸 千尋	木2	3-109	4	2		107
01138	通年	英作文	中村 粂	火3	3-209	4	2		108
01536	通年	英作文	永野 隆行	火5	6-303	4	2		109
01425	通年	英作文	藤田 永祐	金3	3-309	4	2		110
01480	通年	英作文	米山 聖子	火1	5-101	4	2		111

## 英語エッセイ・ライティング

[既修条件]英語パラグラフ・ライティング、英作文またはレベルBを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00721	通年	英語エッセイ・ライティング	D. L. ブランケン	金2	1-304	4	2		112
01144	通年	英語エッセイ・ライティング	E. J. ナオウミ	木2	6-405	4	2		113
01508	通年	英語エッセイ・ライティング	E. カーニィ	火1	6-303	4	2		114
00720	通年	英語エッセイ・ライティング	L. K. ハーキンス	月2	3-114	4	2		115
08736	通年	英語エッセイ・ライティング	M. フッド	月1	6-305	4	2		116
01089	通年	英語エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	6-307	4	2		116
01160	通年	英語エッセイ・ライティング	P. マッケビリー	火3	4-310	4	2		117
01074	通年	英語エッセイ・ライティング	R. ジョーンズ	水2	3-207	4	2		118
00788	通年	英語エッセイ・ライティング	R. ダラム	木1	6-305	4	2		119
01075	通年	英語エッセイ・ライティング	S. J. クリステイ	水1	1-209	4	2		120
08779	通年	英語エッセイ・ライティング	鈴木 真奈美	月3	2-202	4	2		121

## 英日翻訳

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること  
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01188	通年	英日翻訳	遠藤 朋之	木2	3-308	4	2		122
01111	通年	英日翻訳	金谷 優子	水3	4-406	4	2		123
01514	通年	英日翻訳	高田 宣子	火2	6-308	4	2		124
10277	通年	英日翻訳	藤田 永祐	木4	1-203	4	2		125

## カレッジ・グラマー

[既修条件]英語リーディング・ストラテジースおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09050	通年	カレッジ・グラマー	河原 宏之	木2	6-204	4	2		126
00950	通年	カレッジ・グラマー	府川 謹也	水1	3-207	4	2		127
09826	通年	カレッジ・グラマー	毛利 秀高	木3	1-114	4	2		128
00797	通年	カレッジ・グラマー	山田 修	月3	3-208	4	2		129

## COMMUNICATIVE ENGLISH I

[既修条件]SPEECH COMMUNICATIONまたはレベルCを修得していること

[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01044	通年	CommunicativeEngl. I	D. ブラドリー	火2	3-304	4	2		130
01140	通年	CommunicativeEngl. I	E. J. ナオウミ	火1	6-204	4	2		131
01505	通年	CommunicativeEngl. I	J. J. ダゲン	水1	5-105	4	2		132
01331	通年	CommunicativeEngl. I	K. ミーハン	金2	4-306	4	2		133
00853	通年	CommunicativeEngl. I	M. ウーラートン	木4	3-309	4	2		134
01148	通年	CommunicativeEngl. I	M. デル ベツキオ	水3	6-204	4	2		135
01022	通年	CommunicativeEngl. I	M. デル ベツキオ	水4	6-206	4	2		135
00718	通年	CommunicativeEngl. I	P. M. ホーネス	月1	3-304	4	2		136
01082	通年	CommunicativeEngl. I	P. アップス	水1	6-203	4	2		137
00722	通年	CommunicativeEngl. I	P. アップス	水2	6-308	4	2		137
00702	通年	CommunicativeEngl. I	P. マッケビリー	火2	2-308	4	2		138
01254	通年	CommunicativeEngl. I	R. J. バロウズ	木2	6-207	4	2		139
08814	通年	CommunicativeEngl. I	R. M. ペイン	金2	3-305	4	2		140
00719	通年	CommunicativeEngl. I	R. M. ペイン	月1	3-307	4	2		140
00729	通年	CommunicativeEngl. I	R. ダラム	木2	6-305	4	2		141
00820	通年	CommunicativeEngl. I	R. ダラム	木3	5-402	4	2		141
01097	通年	CommunicativeEngl. I	S. J. クリスティ	水2	6-302	4	2		142
00957	通年	CommunicativeEngl. I	T. マーフィー	火4	5-301	4	2		143

## COMMUNICATIVE ENGLISH II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH IまたはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00992	通年	CommunicativeEngl. II	C. B. 池口	火4	3-115	4	2		144
00928	通年	CommunicativeEngl. II	D. L. ブランケン	水2	1-115	4	2		145
08801	通年	CommunicativeEngl. II	D. マツキャン	金2	4-314	4	2		146
01091	通年	CommunicativeEngl. II	M. デル ベツキオ	水1	2-208	4	2		147
01145	通年	CommunicativeEngl. II	M. デル ベツキオ	木2	1-115	4	2		147
01453	通年	CommunicativeEngl. II	M. フッド	水2	3-116	4	2		148
00787	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	火2	1-208	4	2		149
00737	通年	CommunicativeEngl. II	N. ハミルトン	月2	1-208	4	2		149
06406	通年	CommunicativeEngl. II	P. アップス	火2	6-408	4	2		150
01219	通年	CommunicativeEngl. II	P. マッケビリー	火1	4-309	4	2		151
06307	通年	CommunicativeEngl. II	R. J. バロウズ	火1	6-403	4	2		152
01458	通年	CommunicativeEngl. II	R. J. バロウズ	火2	国2-2	4	2		153
01332	通年	CommunicativeEngl. II	R. J. バロウズ	木3	6-403	4	2		154
01093	通年	CommunicativeEngl. II	R. ジョーンズ	月1	4-301	4	2		155
01465	通年	CommunicativeEngl. II	R. ジョーンズ	水3	1-114	4	2		156
00742	通年	CommunicativeEngl. II	T. J. フォトス	水1	2-309	4	2		157



## DISCUSSION

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00789	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水3	4-309	4	2		158
01096	通年	Discussion	N. H. ジョスト	火3	3-116	4	2		159
00837	通年	Discussion	W. J. ベンフィールド	木1	3-117	4	2		160

## PUBLIC SPEAKING I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08410	通年	PublicSpeaking I	A. R. ファルウォ	金1	6-303	4	1		161
01339	通年	PublicSpeaking I	E. カーニィ	月3	1-108	4	1		162
00705	通年	PublicSpeaking I	板場 良久	火3	6-205	4	1		163

## PUBLIC SPEAKING II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08411	通年	PublicSpeaking II	N. H. ジョスト	火5	6-304	4	2		164

## DEBATE I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00851	通年	Debate I	P. M. ホーネス	木2	3-115	4	1		165
01072	通年	Debate I	柿田 秀樹	水2	5-105	4	1		166

## DEBATE II

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
08807	通年	Debate II	N. H. ジョスト	火4	5-409	4	2		167

## 通訳 I

[既修条件]ADVANCED SPEECH COMMUNICATION、COMMUNICATIVE ENGLISH I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00733	通年	通訳 I	原口 友子	月2	5-404	4	1		168
08783	通年	通訳 I	原口 友子	月4	5-309	4	1		168

## 通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始学年	履修不可	ページ
00796	通年	通訳 II	原口 友子	月3	5-309	4	2		169

## 英語ビジネス・コミュニケーション I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01025	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	海老沢 達郎	火3	6-305	4	2		170
01459	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	海老沢 達郎	金3	6-205	4	2		170
01433	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	水2	3-306	4	2		171
01299	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	杉山 晴信	木3	3-303	4	2		172
00739	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月1	2-302	4	2		173
10675	通年	英語ビジネス・コミュニケーション I	信 達郎	月2	2-302	4	2		173

## 英語ビジネス・コミュニケーション II

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01356	通年	英語ビジネス・コミュニケーション II	杉山 晴信	金3	6-403	4	2		174

## メディア英語 I

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSION またはHONORS ENGLISH 1またはレベルCを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06312	通年	メディア英語 I	N. H. ジョスト	水1	6-306	4	2		175
01147	通年	メディア英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	3-208	4	2		176
01533	通年	メディア英語 I	海老沢 達郎	火2	6-307	4	2		177
09085	通年	メディア英語 I	遠藤 朋之	金3	国2-1	4	2		178
01298	通年	メディア英語 I	岡田 誠一	月4	5-409	4	2		179
01355	通年	メディア英語 I	岡田 誠一	木4	4-309	4	2		179
00815	通年	メディア英語 I	金子 節也	月4	6-203	4	2		180

## メディア英語 II

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01260	通年	メディア英語 II	A. R. ファルウォ	金2	6-202	4	2		181
10615	通年	メディア英語 II	M.ウーラートン	木3	2-304	4	2		182
00973	通年	メディア英語 II	川島 浩美	水2	3-305	4	2		183

## シネマ英語

[既修条件]英語リーディング・ストラテジーズおよびREADING COMPREHENSIONまたはHONORS ENGLISH 1またはレベルBを修得していること

[定員35名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00738	通年	シネマ英語	岡田 誠一	月2	6-203	4	2		184
00861	通年	シネマ英語	岡田 誠一	木3	6-204	4	2		185

## 第二外国語

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08877	通年	ドイツ語Ⅲ	田島 加奈子	木2	1-210	2	3	独・仏・書	186
08986	通年	フランス語Ⅲ	伊藤 幸次	木4	3-110	2	3	独・仏・書	187
01276	通年	スペイン語Ⅲ	喜多 延鷹	木4	4-302	2	3	全	188
08984	通年	フランス語会話Ⅰ	Ch. ベリセロ	火1	3-117	2	3	独・仏・書	189
08985	通年	フランス語会話Ⅰ	F. ルーセル	金2	6-207	2	3	独・仏・書	190
01500	通年	スペイン語会話Ⅰ〔総合〕	J. フェレーラス	金5	6-207	2	3	全	191

## 学科専門科目

### 「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01123	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	2		192
01124	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	2		192
01509	春学期	言語情報処理Ⅰa(定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	2		193
01510	秋学期	言語情報処理Ⅰb(定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	2		193
01541	春学期	言語情報処理Ⅱa(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	2		194
01542	秋学期	言語情報処理Ⅱb(定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	2		194
01347	春学期	統語論a	安井 美代子	月2	2-403	2	2		195
01348	秋学期	統語論b	安井 美代子	月2	2-403	2	2		195
00790	春学期	意味論a	府川 謹也	金3	2-309	2	2		196
00791	秋学期	意味論b	府川 謹也	金3	2-309	2	2		196
00799	春学期	音声・音韻論a	大西 雅行	火2	1-203	2	2		197
00800	秋学期	音声・音韻論b	大西 雅行	火2	1-203	2	2		197
09829	春学期	英語史a	毛利 秀高	木4	1-302	2	2		198
09830	秋学期	英語史b	毛利 秀高	木4	1-302	2	2		198
01149	春学期	英語学特殊講義a	府川 謹也	水2	1-203	2	3		199
01150	秋学期	英語学特殊講義b	府川 謹也	水2	1-203	2	3		199
08784	春学期	英語学文献研究a(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	3		200
08785	秋学期	英語学文献研究b(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	3		200

### 「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春学期	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	水2	6-101	2	2		201
09059	秋学期	英米の小説b(定員100名)	北澤 滋久	火3	4-307	2	2		201
01151	春学期	英米の詩a(定員100名)	原 成吉	火2	2-401	2	2		202
01156	秋学期	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2-401	2	2		202
00843	春学期	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	2		203
00844	秋学期	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	2		203
01004	春学期	英語圏文学特殊講義a	高橋 雄一郎	木3	3-203	2	3		207
01165	春学期	英米文学文献研究a(定員25名)	北澤 滋久	火3	2-202	2	3		209
01166	秋学期	英米文学文献研究b(定員25名)	原 成吉	火2	2-303	2	3		209
00740	春学期	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	2		204
00741	秋学期	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	2		204
01295	春学期	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	6-201	2	2		205
01296	秋学期	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	6-201	2	2		205
01211	春学期	英米事情a(定員200名)	上野 直子	水3	3-402	2	2		206
01212	秋学期	英米事情b(定員200名)	上野 直子	水3	1-402	2	2		206
01006	春学期	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	木4	3-308	2	3		208
01007	秋学期	英語圏文化特殊講義b	上野 直子	木4	3-308	2	3		208

## 「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単 位 数	開 始 学 年	履 修 不 可	ペ ー ジ
00817	春学期	国際政治論a(a.bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	2		219
00819	秋学期	国際政治論b(a.bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	2		219
00818	春学期	国際政治論a(a.bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	2		220
00816	秋学期	国際政治論b(a.bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	2		220
00743	春学期	国際関係史a	永野 隆行	月2	3-402	2	2	法	221
00732	秋学期	国際関係史b	永野 隆行	月2	3-402	2	2	法	221
00945	春学期	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	5-128	2	2		222
00917	秋学期	国際開発協力論b	金子 芳樹	火2	3-404	2	2		222
01501	春学期	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2-404	2	3		223
10496	秋学期	国際関係論特殊講義b	K. K. キャンベル	月4	3-202	2	3		224
10614	秋学期	国際関係論特殊講義b	小川 忠	土2	5-409	2	3		225
01502	秋学期	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	5-128	2	3		226
01556	春学期	国際関係論文献研究a (定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	3		227
01557	秋学期	国際関係論文献研究b (定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	3		227
00935	春学期	国際関係論文献研究a (定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	3		228
00961	秋学期	国際関係論文献研究b (定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	3		228
10531	秋学期	国際関係論文献研究b (定員25名)	永野 隆行	木2	4-406	2	3		229
01434	春学期	異文化間コミュニケーション論a	石井 敏	水1	3-402	2	2		210
01435	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	石井 敏	水1	3-402	2	2		210
01238	春学期	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	2		211
01239	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	2		211
01393	春学期	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	3-404	2	2		212
01394	秋学期	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	3-404	2	2		212
01108	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2-401	2	2		213
01169	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2-401	2	2		213
00977	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	5-407	2	2		214
00978	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	5-407	2	2		214
01360	春学期	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水1	6-305	2	3		215
01361	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水1	6-305	2	3		215
10494	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	K. K. キャンベル	水3	3-204	2	3		216
00975	春学期	コミュニケーション論文献研究a (定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	3		217
01511	秋学期	コミュニケーション論文献研究b (定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	3		217
10495	秋学期	コミュニケーション論文献研究b (定員25名)	K. K. キャンベル	月3	3-205	2	3		218
10505	春学期	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	3		230
10506	秋学期	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	3		230
10493	秋学期	特別セミナー	K. K. キャンベル	水4	6-106	2	3		231
10222	春学期	特別セミナー(GAEL) (定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	2		232
10223	秋学期	特別セミナー(GAEL) (定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	2		232

# 英語学科授業科目 (2001年度以前入学生用)

## 目次

### 学科基礎科目

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	英語 I [ReadingSt.]	各担当教員			2	1	全	5
	通年	英語 I [ReadingCom.]	各担当教員			2	1	全	6
	通年	英語 III [SpeechCom.]	各担当教員			2	1	全	1
	通年	英語 III [AdvancedSpeechCom.]	各担当教員			2	1	全	2
	通年	英語 IV [WritingSt.]	各担当教員			2	1	全	3
	通年	英語 IV [パラグラフ・ライティング]	各担当教員			2	1	全	4
09079	通年	英語 II [講読]	遠藤 朋之	金2	6-205	2	2	全	24
00967	通年	英語 II [講読]	福井 嘉彦	木3	4-305	2	2	全	25
01413	通年	英語学概論	清水 由理子	金2	2-401	4	1		26
09797	通年	英語学概論	鈴木 英一	金2	4-301	4	1		27
00905	通年	英語学概論	府川 謹也	火2	2-201	4	1		28
00894	通年	英語学概論	安井 美代子	火2	1-301	4	1		29
10255	通年	英米文学概論	上野 直子/北澤 滋久	火2	6-201/1-306	4	1		30
10282	通年	英米文学概論	北澤 滋久/上野 直子	火2	1-306/6-201	4	1		31
10800	通年	英米文学概論	島田 啓一/藤田 永祐	金2	2-402/3-206	4	1		32
01461	通年	英米文学概論	藤田 永祐/島田 啓一	金2	3-206/2-402	4	1		33
10651	通年	国際コミュニケーション概論	永野 隆行/柿田 秀樹	春水2/秋月4	3-404/6-201	4	1	言	40
10650	通年	国際コミュニケーション概論	柿田 秀樹/永野 隆行	春月4/秋水2	6-201/3-404	4	1	言	41
09806	春学期	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
09808	秋学期	英語音声学	青柳 真紀子	金1	1-301	2	1		42
00938	春学期	英語音声学	大西 雅行	火1	2-301	2	1		43
00939	秋学期	英語音声学	大西 雅行	金1	2-401	2	1		43
01468	春学期	スピーチ・クリニック (2年生以上用) (定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	2		46
01474	秋学期	スピーチ・クリニック (2年生以上用) (定員20名)	清水 由理子	金1	5-316	2	2		46

### 学科共通科目

レベルはTOEIC®・TOEFL®のスコアによって次の3つのレベルにきめられています。

レベルA・・・TOEIC®700点以上・TOEFL®520点以上を取得している者

レベルB・・・TOEIC®600点以上・TOEFL®480点以上を取得している者

レベルC・・・TOEIC®500点以上・TOEFL®440点以上を取得している者

\*レベルが[既修条件]となっている科目を履修する場合は、TOEICまたはTOEFLのスコアを証明する書類のコピーを教務課外国語学部担当係まで提出してください。

#### 専門講読

★各部門の専門講読は登録のコースと関係なくすべての部門から履修することができます

[既修条件]英語 I [Reading Strategies]および英語 I [Reading Comprehension]を修得していること

[定員32名]

「言語コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	専門講読 (The Art of Teaching)	J. J. ダゲン	水2	2-202	4	2		50
	通年	専門講読 (Second Language Acquisition)	T. ヒル	水1	4-308	4	2		51

通年	専門講読 (Exploring Learning)	T. マーフィー	水1	5-301	4	2	52
通年	専門講読 (音声学入門)	青柳 真紀子	火2	3-116	4	2	53
通年	専門講読 (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	火4	5-402	4	2	54
通年	専門講読 (英語音を学ぶ)	大西 雅行	水1	4-314	4	2	55
通年	専門講読 (『ヨブ記』をRevised Versinで読む)	川崎 潔	土1	3-202	4	2	56
通年	専門講読 (英語の文の統語的特徴と階層構造)	鈴木 英一	金3	4-314	4	2	57
通年	専門講読 (Language Learning)	鈴木 真奈美	月2	1-203	4	2	58
通年	専門講読 (ニュースやスピーチのスキプトを読む)	鍋倉 健悦	水2	2-310	4	2	59
通年	専門講読 (語彙意味論入門)	福田 有美	木4		4	2	60
通年	専門講読 (統語論(生成文法))	柚木 一彦	金3	3-118	4	2	61
通年	専門講読 (Linguistic knowledge and second language acquisition)	米山 聖子	火2	5-101	4	2	62

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単 位 数	開 始 学 年	履 修 不 可	ペ ー ジ
通年	専門講読 (ENGLISH&AMERICAN SHORT STORIES)	E. カーニィ	水1	2-209	4	2	63		
通年	専門講読	M. フッド	水3	4-313	4	2	64		
通年	専門講読 (Literature—A 20th Century English Novel)	W. J. ベンフィールド	水1	3-208	4	2	65		
通年	専門講読 (アメリカ詩—エミリー・ディキンソン)	石塚 あおい	火4	1-304	4	2	66		
通年	専門講読 (トランス・アトランティック入門)	上野 直子	木3	6-206	4	2	67		
通年	専門講読 (Ezra Poundの初期から中期を読む)	遠藤 朋之	木4	1-209	4	2	68		
通年	専門講読 (W.P. KinsellaのIndian Storiesを読む)	大木 理恵子	火3	国2-2	4	2	69		
通年	専門講読 (文学コミュニケーション)	北澤 滋久	木3	3-207	4	2	70		
通年	専門講読 (オーストラリアの詩)	国見 晃子	火4	1-108	4	2	71		
通年	専門講読 (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	火2	6-203	4	2	72		
通年	専門講読 (英語圏の歴史)	佐藤 唯行	木1	4-306	4	2	73		
通年	専門講読 ("The Catcher in the Rye"を読む)	島田 啓一	金3	3-310	4	2	74		
秋学期	専門講読 (イギリス児童文学)	白鳥 正孝	月3/水1	2-303	4	2	75		
通年	専門講読 (日系アメリカ女性作家の声)	高田 宣子	火4	2-208	4	2	76		
春学期	専門講読 (ツーリズム研究)	高橋 雄一郎	水1/水2	4-311	4	2	77		
通年	専門講読 (アメリカ詩)	原 成吉	木3	6-305	4	2	78		
通年	専門講読 (英米文化)	福井 嘉彦	月3	3-304	4	2	79		
通年	専門講読 (イギリスの小説)	藤田 永祐	木2	2-310	4	2	80		
通年	専門講読 (シェイクスピア)	前沢 浩子	月3	3-118	4	2	81		
通年	専門講読 (アフリカン・ディアスポラたちの旅を追体験する)	三吉 美加	水3	6-405	4	2	82		
通年	専門講読 (現代スコットランド文学)	山田 修	月4	3-208	4	2	83		

### 「文学コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単 位 数	開 始 学 年	履 修 不 可	ペ ー ジ
通年	専門講読 (Readings on Intercultural Communication)	C. B. 池口	火2	3-210	4	2	84		
通年	専門講読 (Canadian Culture and Society)	K. ミーハン	月1	3-303	4	2	85		
通年	専門講読 (Language and Culture)	N. H. ジョスト	月1	6-304	4	2	86		
通年	専門講読 (異文化間コミュニケーション論)	石井 敏	金1	1-209	4	2	87		
通年	専門講読 (新しいコミュニケーション論)	板場 良久	水2	1-204	4	2	88		
通年	専門講読 (アメリカ黒人の歴史)	岡田 誠一	月3	6-203	4	2	89		
通年	専門講読 (映画批評)	柿田 秀樹	月3	6-204	4	2	90		
通年	専門講読 (異文化コミュニケーション)	川島 浩美	水3	6-202	4	2	91		
通年	専門講読 (異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティ)	工藤 和宏	金3	3-304	4	2	92		
通年	専門講読 (異文化の理解とは何か)	瀬戸 千尋	火3	2-302	4	2	93		

「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
通年		専門講読 (Miraculous achievements of East Asian economies)	Park Yong-Il	火3	6-307	4	2		94
通年		専門講読 (Economic cooperation in East Asia)	Park Yong-Il	木3	2-202	4	2		95
通年		専門講読 (Economic reform in Japan)	Park Yong-Il	木4	2-208	4	2		96
通年		専門講読 (米国の東アジア政策)	阿部 純一	土2	1-209	4	2		97
通年		専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	水1	3-309	4	2		98
通年		専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	杉山 晴信	木2	4-306	4	2		99
通年		専門講読 (アジア太平洋地域の安全保障)	竹田 いさみ	火1	4-313	4	2		100
通年		専門講読 (現代国際関係)	永野 隆行	火4	4-311	4	2		101

英作文

[既修条件]英語IV[Writing Strategies]またはレベルCを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01250	通年	英作文	遠藤 朋之	木3	3-110	4	2		102
01191	通年	英作文	金谷 優子	水2	5-409	4	2		103
00832	通年	英作文	金子 節也	月3	4-312	4	2		104
01184	通年	英作文	川崎 潔	木3	2-204	4	2		105
01517	通年	英作文	国見 晃子	火2	5-210	4	2		106
01316	通年	英作文	瀬戸 千尋	木2	3-109	4	2		107
01176	通年	英作文	中村 粲	火3	3-209	4	2		108
01544	通年	英作文	永野 隆行	火5	6-303	4	2		109
01441	通年	英作文	藤田 永祐	金3	3-309	4	2		110
01488	通年	英作文	米山 聖子	火1	5-101	4	2		111

エッセイ・ライティング

[既修条件]英語IV[Paragraph Writing]または英作文またはレベルBを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00749	通年	エッセイ・ライティング	D. L. ブランケン	金2	1-304	4	2		112
01180	通年	エッセイ・ライティング	E. J. ナオウミ	木2	6-405	4	2		113
01519	通年	エッセイ・ライティング	E. カーニィ	火1	6-303	4	2		114
00748	通年	エッセイ・ライティング	L. K. ハーキンス	月2	3-114	4	2		115
08735	通年	エッセイ・ライティング	M. フッド	月1	6-305	4	2		116
01116	通年	エッセイ・ライティング	M. フッド	水4	6-307	4	2		116
01186	通年	エッセイ・ライティング	P. マッケビリー	火3	4-310	4	2		117
01114	通年	エッセイ・ライティング	R. ジョーンズ	水2	3-207	4	2		118
00824	通年	エッセイ・ライティング	R. ダラム	木1	6-305	4	2		119
01076	通年	エッセイ・ライティング	S. J. クリスティ	水1	1-209	4	2		120
08778	通年	エッセイ・ライティング	鈴木 真奈美	月3	2-202	4	2		121

翻訳 I

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01189	通年	翻訳 I	遠藤 朋之	木2	3-308	4	2		122
01127	通年	翻訳 I	金谷 優子	水3	4-406	4	2		123
01521	通年	翻訳 I	藤田 永祐	木4	1-203	4	2		125

翻訳 II

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01524	通年	翻訳 II	高田 宣子	火2	6-308	4	3		124

英文法  
[定員32名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00970	通年	英文法	河原 宏之	木2	6-204	4	2		126
09051	通年	英文法	府川 謹也	水1	3-207	4	2		127
09825	通年	英文法	毛利 秀高	木3	1-114	4	2		128
00834	通年	英文法	山田 修	月3	3-208	4	2		129

CONVERSATION I

[既修条件]英語Ⅲ[Speech Communication]またはレベルCを修得していること  
[定員28名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01059	通年	Conversation I	D. ブラドリー	火2	3-304	4	2		130
01177	通年	Conversation I	E. J. ナオウミ	火1	6-204	4	2		131
01525	通年	Conversation I	J. J. ダゲン	水1	5-105	4	2		132
01369	通年	Conversation I	K. ミーハン	金2	4-306	4	2		133
00870	通年	Conversation I	M. ウーラートン	木4	3-309	4	2		134
01183	通年	Conversation I	M. デル ベツキオ	水3	6-204	4	2		135
01023	通年	Conversation I	M. デル ベツキオ	水4	6-206	4	2		135
00746	通年	Conversation I	P. M. ホーネス	月1	3-304	4	2		136
01115	通年	Conversation I	P. アップス	水1	6-203	4	2		137
00750	通年	Conversation I	P. アップス	水2	6-308	4	2		137
00708	通年	Conversation I	P. マッケビリー	火2	2-308	4	2		138
01261	通年	Conversation I	R. J. パロウズ	木2	6-207	4	2		139
08813	通年	Conversation I	R. M. ペイン	金2	3-305	4	2		140
00747	通年	Conversation I	R. M. ペイン	月1	3-307	4	2		140
00752	通年	Conversation I	R. ダラム	木2	6-305	4	2		141
00830	通年	Conversation I	R. ダラム	木3	5-402	4	2		141
01098	通年	Conversation I	S. J. クリスティ	水2	6-302	4	2		142
00966	通年	Conversation I	T. マーフィー	火4	5-301	4	2		143

CONVERSATION II

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること  
[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01040	通年	Conversation II	C. B. 池口	火4	3-115	4	2		144
00930	通年	Conversation II	D. L. ブランケン	水2	1-115	4	2		145
08800	通年	Conversation II	D. マッキャン	金2	4-314	4	2		146
01117	通年	Conversation II	M. デル ベツキオ	水1	2-208	4	2		147
01181	通年	Conversation II	M. デル ベツキオ	木2	1-115	4	2		147
01482	通年	Conversation II	M. フッド	水2	3-116	4	2		148
00823	通年	Conversation II	N. ハミルトン	火2	1-208	4	2		149
00755	通年	Conversation II	N. ハミルトン	月2	1-208	4	2		149
00963	通年	Conversation II	P. アップス	火2	6-408	4	2		150
01220	通年	Conversation II	P. マッケビリー	火1	4-309	4	2		151
06308	通年	Conversation II	R. J. パロウズ	火1	6-403	4	2		152
01483	通年	Conversation II	R. J. パロウズ	火2	国2-2	4	2		153
01370	通年	Conversation II	R. J. パロウズ	木3	6-403	4	2		154
01094	通年	Conversation II	R. ジョーンズ	月1	4-301	4	2		155
01485	通年	Conversation II	R. ジョーンズ	水3	1-114	4	2		156
00757	通年	Conversation II	T. J. フォトス	水1	2-309	4	2		157



## DISCUSSION

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員20名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07223	通年	Discussion	D. L. ブランケン	水3	4-309	4	2		158
01118	通年	Discussion	N. H. ジョスト	火3	3-116	4	2		159
00825	通年	Discussion	W. J. ペンフィールド	木1	3-117	4	2		160

## スピーチ

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08414	通年	スピーチ	A. R. ファルウォ	金1	6-303	4	2		161
08412	通年	スピーチ	E. カーニィ	月3	1-108	4	2		162
08413	通年	スピーチ	N. H. ジョスト	火5	6-304	4	2		164
00709	通年	スピーチ	板場 良久	火3	6-205	4	2		163

## ディベート

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08806	通年	ディベート	N. H. ジョスト	火4	5-409	4	2		167
00869	通年	ディベート	P. M. ホーネス	木2	3-115	4	2		165
01112	通年	ディベート	柿田 秀樹	水2	5-105	4	2		166

## 通訳 I

[既修条件]英語Ⅲ[Advanced Speech Communication]またはConversation I またはレベルBを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00753	通年	通訳 I	原口 友子	月2	5-404	4	2		168
08782	通年	通訳 I	原口 友子	月4	5-309	4	2		168

## 通訳 II

[既修条件]通訳 I またはレベルAを修得していること

[定員25名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00826	通年	通訳 II	原口 友子	月3	5-309	4	3		169

## ビジネス英語 I

[定員50名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01038	通年	ビジネス英語 I	海老沢 達郎	火3	6-305	4	2		170
01484	通年	ビジネス英語 I	海老沢 達郎	金3	6-205	4	2		170
01442	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	水2	3-306	4	2		171
01315	通年	ビジネス英語 I	杉山 晴信	木3	3-303	4	2		172
00756	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月1	2-302	4	2		173
10676	通年	ビジネス英語 I	信 達郎	月2	2-302	4	2		173

ビジネス英語 II  
[定員45名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01380	通年	ビジネス英語 II	杉山 晴信	金3	6-403	4	3		174

時事英語 I  
[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06313	通年	時事英語 I	N. H. ジョスト	水1	6-306	4	2		175
01182	通年	時事英語 I	W. J. ベンフィールド	水2	3-208	4	2		176
01543	通年	時事英語 I	海老沢 達郎	火2	6-307	4	2		177
09086	通年	時事英語 I	遠藤 朋之	金3	国2-1	4	2		178
01314	通年	時事英語 I	岡田 誠一	月4	5-409	4	2		179
01379	通年	時事英語 I	岡田 誠一	木4	4-309	4	2		179
00829	通年	時事英語 I	金子 節也	月4	6-203	4	2		180

時事英語 II  
[定員40名]

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01267	通年	時事英語 II	A. R. ファルヴォ	金2	6-202	4	3		181
10616	通年	時事英語 II	M.ウーラートン	木3	2-304	4	3		182
00974	通年	時事英語 II	川島 浩美	水2	3-305	4	3		183

第二外国語

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08877	通年	ドイツ語ⅢB[文章表現法]	田島 加奈子	木2	1-210	2	3	独・仏・書	186
08986	通年	フランス語Ⅲ	伊藤 幸次	木4	3-110	2	3	独・仏・書	187
01276	通年	スペイン語Ⅲ	喜多 延鷹	木4	4-302	2	3	全	188
08984	通年	フランス語会話 I	Ch. ペリセロ	火1	3-117	2	3	独・仏・書	189
08985	通年	フランス語会話 I	F. ルーセル	金2	6-207	2	3	独・仏・書	190
01500	通年	スペイン語会話 I [総合]	J. フェレーラス	金5	6-207	2	3	全	191

学科専門科目

「言語情報」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
01509	春学期	言語情報処理 I a (定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	2		192
01510	秋学期	言語情報処理 I b (定員55名)	長崎 等	月1	5-207	2	2		192
01123	春学期	言語情報処理 I a (定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	2		193
01124	秋学期	言語情報処理 I b (定員55名)	吉成 雄一郎	金2	5-201	2	2		193
01541	春学期	言語情報処理 II a (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	2		194
01542	秋学期	言語情報処理 II b (定員40名)	吉成 雄一郎	金1	5-201	2	2		194
01347	春学期	統語論a	安井 美代子	月2	2-403	2	2		195
01348	秋学期	統語論b	安井 美代子	月2	2-403	2	2		195
00790	春学期	意味論a	府川 謹也	金3	2-309	2	2		196
00791	秋学期	意味論b	府川 謹也	金3	2-309	2	2		196
00799	春学期	音声・音韻論a	大西 雅行	火2	1-203	2	2		197
00800	秋学期	音声・音韻論b	大西 雅行	火2	1-203	2	2		197
09829	春学期	英語史a	毛利 秀高	木4	1-302	2	2		198
09830	秋学期	英語史b	毛利 秀高	木4	1-302	2	2		198

01149	春学期	英語学特殊講義a	府川 謹也	水2	1-203	2	3	199
01150	秋学期	英語学特殊講義b	府川 謹也	水2	1-203	2	3	199
08784	春学期	英語学文献研究a(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	3	200
08785	秋学期	英語学文献研究b(定員25名)	府川 謹也	火1	4-308	2	3	200

## 「文学文化」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08822	春学期	英米の小説a(定員100名)	藤田 永祐	水2	6-101	2	2		201
09059	秋学期	英米の小説b(定員100名)	北澤 滋久	火3	4-307	2	2		201
01151	春学期	英米の詩a(定員100名)	原 成吉	火2	2-401	2	2		202
01156	秋学期	英米の詩b(定員100名)	白鳥 正孝	月4	2-401	2	2		202
00843	春学期	英米の演劇a(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	2		203
00844	秋学期	英米の演劇b(定員100名)	児嶋 一男	月3	1-302	2	2		203
01004	春学期	英語圏文学特殊講義a	高橋 雄一郎	木3	3-203	2	3		207
01165	春学期	英米文学文献研究a(定員25名)	北澤 滋久	火3	2-202	2	3		209
01166	秋学期	英米文学文献研究b(定員25名)	原 成吉	火2	2-303	2	3		209
00740	春学期	英米の社会と思想a(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	2		204
00741	秋学期	英米の社会と思想b(定員100名)	福井 嘉彦	月2	1-206	2	2		204
01295	春学期	英米の歴史a	佐藤 唯行	木2	6-201	2	2		205
01296	秋学期	英米の歴史b	佐藤 唯行	木2	6-201	2	2		205
01211	春学期	英米事情a(定員200名)	上野 直子	水3	3-402	2	2		206
01212	秋学期	英米事情b(定員200名)	上野 直子	水3	1-402	2	2		206
01006	春学期	英語圏文化特殊講義a	上野 直子	木4	3-308	2	3		208
01007	秋学期	英語圏文化特殊講義b	上野 直子	木4	3-308	2	3		208

## 「国際コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講期	科目名	担当教員	曜時	教室	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
00817	春学期	国際政治論a(a.bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	2		219
00819	秋学期	国際政治論b(a.bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	2		219
00818	春学期	国際政治論a(a.bは担当者を変えて履修すること)	竹田 いさみ	月3	5-128	2	2		220
00816	秋学期	国際政治論b(a.bは担当者を変えて履修すること)	金子 芳樹	月3	5-403	2	2		220
00743	春学期	国際関係史a	永野 隆行	月2	3-402	2	2	法	221
00732	秋学期	国際関係史b	永野 隆行	月2	3-402	2	2	法	221
00945	春学期	国際開発協力論a	竹田 いさみ	火3	5-128	2	2		222
00917	秋学期	国際開発協力論b	金子 芳樹	火2	3-404	2	2		222
01501	春学期	国際関係論特殊講義a	金子 芳樹	火2	2-404	2	3		223
10496	秋学期	国際関係論特殊講義b	K. K. キャンベル	月4	3-202	2	3		224
10614	秋学期	国際関係論特殊講義b	小川 忠	土2	5-409	2	3		225
01502	秋学期	国際関係論特殊講義b	竹田 いさみ	火3	5-128	2	3		226
01556	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	3		227
01557	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	阿部 純一	土3	6-202	2	3		227
00935	春学期	国際関係論文献研究a(定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	3		228
00961	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	竹田 いさみ	火2	4-313	2	3		228
10531	秋学期	国際関係論文献研究b(定員25名)	永野 隆行	木2	4-406	2	3		229
01434	春学期	異文化間コミュニケーション論a	石井 敏	水1	3-402	2	2		210
01435	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	石井 敏	水1	3-402	2	2		210
01238	春学期	異文化間コミュニケーション論a	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	2		211
01239	秋学期	異文化間コミュニケーション論b	鍋倉 健悦	月5	5-407	2	2		211
01393	春学期	マス・コミュニケーション論a	佐々木 輝美	木3	3-404	2	2		212
01394	秋学期	マス・コミュニケーション論b	佐々木 輝美	木3	3-404	2	2		212
01108	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	板場 良久	月2	2-401	2	2		213
01169	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	板場 良久	月2	2-401	2	2		213
00977	春学期	スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	火3	5-407	2	2		214
00978	秋学期	スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	火3	5-407	2	2		214
01360	春学期	コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	水1	6-305	2	3		215
01361	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	水1	6-305	2	3		215
10494	秋学期	コミュニケーション論特殊講義b	K. K. キャンベル	水3	3-204	2	3		216

00975	春学期	コミュニケーション論文献研究a(定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	3	217
01511	秋学期	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	石井 敏	水2	2-302	2	3	217
10495	秋学期	コミュニケーション論文献研究b(定員25名)	K. K. キャンベル	月3	3-205	2	3	218
10505	春学期	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	3	230
10506	秋学期	特別セミナー	Park Yong-II	火4	6-403	2	3	230
10493	秋学期	特別セミナー	K. K. キャンベル	水4	6-106	2	3	231
10222	春学期	特別セミナー(CAEL)(定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	2	232
10223	秋学期	特別セミナー(CAEL)(定員50名)	安井 美代子	水2	5-201	2	2	232

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Speech Communication a Speech Communication	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Speech Communication b Speech Communication	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication. Students should (1) get experience in making and delivering a short speech in English, (2) become familiar with how to describe visual materials or to use visual aids to explain events, phenomena or concepts, and (3) learn to be responsive listeners, commentators, and/or questioners in the audience, rather than passive auditors.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Advanced Speech Communication a Advanced Speech Communication	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Advanced Speech Communication b Advanced Speech Communication	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a course for speech communication, defined here as formal and informal speaking in situations such as face-to-face interaction, small group communication, public speaking, and debate.</p> <p>Given today's societal needs and students' interests, the Department would like every class to incorporate some activities to improve students' presentation skills and suggests that the course be designed accordingly. More specifically, the instructor is expected to provide a portion of each lesson to activities to improve the students' basic presentation (expository and persuasive) skills for communication.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		Student performances should be graded based on clarity and enthusiasm to communicate.	

03年度以降 02年度	英語ライティング・ストラテジーズ a 英語ライティング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的な単語や文法を用い、文章構成の基本を学びながら身近でやさしいトピックについて具体的に目的を持った短い文章が書けるようになることを目標とする。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法項目等を復習する</li> <li>2. 日常使われる手紙の基本形式を学び、実際に短い手紙を書いてみる（お祝の手紙、入学／就職希望の手紙、英文履歴書等）</li> <li>3. パラグラフの基本について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) パラグラフとはなにか</li> <li>(2) トピック・センテンスについて</li> <li>(3) トピック・センテンスをサポートする、他</li> </ol> </li> <li>4. 以上の作文技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用し作文力の向上を図る。場合によっては上記の作文技術と文法・作文用の教材を交えながら年間を通じて学んでいくこともあり得る。</li> </ol>			
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

03年度以降 02年度	英語ライティング・ストラテジーズ b 英語ライティング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
英語ライティング・ストラテジーズ a の延長。			
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

03年度以降 02年度	英語パラグラフ・ライティング a 英語パラグラフ・ライティング	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文パラグラフにおけるいくつかのパターンを理解する。</li> <li>2. 論理的な流れのあるパラグラフを書くことができる。</li> <li>3. 日本語の作文と英語の作文の違いを理解する。</li> </ol> <p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. パラグラフとは何か</li> <li>2. トピックとトピック・センテンスについて</li> <li>3. トピック・センテンスのサポートの仕方</li> <li>4. 表現の言い換えと盗用について</li> <li>5. 要約の仕方、他</li> <li>6. 以上の技術を学習した後、各教員が指定した教材を使用しライティング力の向上を図る。</li> </ol>			
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	

03年度以降 02年度	英語パラグラフ・ライティング b 英語パラグラフ・ライティング	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
英語パラグラフ・ライティング a の延長。			
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員が指示する。		平常点、試験、レポート等による。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語リーディング・ストラテジーズ a 英語リーディング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>最初の数週間は読解力の基礎となるパラグラフ・リーディングの技術や <i>skimming, scanning</i> といった読むためのストラテジーズを習得し、文章がどのように組み立てられているかを考えながら読むことを学ぶ。その後は各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。</p> <p>読解力向上に不可欠である語彙力の強化に関しては統一オンライン教材(アルクネットアカデミーの <i>Powerwords</i>)を用いて授業外で各自が自己学習を行う。春学期はレベル4の <i>Units 1～25</i> を学習すること。自己学習の成果を確認するために授業時に小テストを行う。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語リーディング・ストラテジーズ b 英語リーディング・ストラテジーズ	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語彙力を増やしながら英語の読解力を養うことを目的とする。</p> <p>各教員が選定した現代英語のテキストを用い読解力を養う。テキストの背後にある歴史・政治・文化の背景を認識しながら深く読むことを学ぶ。</p> <p>読解力向上に不可欠である語彙力の強化に関しては統一オンライン教材(アルクネットアカデミーの <i>Powerwords</i>)を用いて授業外で各自が自己学習を行う。秋学期はレベル4の <i>Units 26～50</i> を学習すること。自己学習の成果を確認するために授業時に小テストを行う。</p>		<p>授業予定は各担当教員から説明がなされる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>統一オンライン教材以外に関しては各担当教員が指示する。</p>		<p>各担当教員が開講時に説明する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Reading Comprehension a Reading Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students learn to think in English</li> <li>2. To enlarge students' vocabulary</li> <li>3. To give students insights into Western culture and literature</li> <li>4. To help prepare students for study in an English-speaking country.</li> <li>5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences.</li> </ol> <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		This decision is left to the discretion of the individual instructor.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Reading Comprehension b Reading Comprehension	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The Department has set the following macro-level objectives for this reading course to be taught by native-speaker instructors:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students learn to think in English</li> <li>2. To enlarge students' vocabulary</li> <li>3. To give students insights into Western culture and literature</li> <li>4. To help prepare students for study in an English-speaking country.</li> <li>5. To help students learn new ideas, and have new learning experiences.</li> </ol> <p>Instructors are free to select their own texts (inside and outside readers) and to use them as they think fit. However, in addition to the set texts, the Department would like the students in this class to be taught basic reading skills. The teaching of the skills may be done at the beginning of each class throughout the year or, alternatively, it may be done for a month or so at the beginning of the course.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
This decision is left to the discretion of the individual instructor.		This decision is left to the discretion of the individual instructor.	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	Honors English 1 a Honors English 1	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end of the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Outside reading material provided by the instructor		Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes and mid-term and final exams.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	Honors English 1 b Honors English 1	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this Honors English course is to help students who already have a solid command of English develop a deeper understanding of specific content areas, and to be able to demonstrate that understanding through oral presentations and classroom discussions. Students will be required formal as well as informal presentations according to a schedule set at the beginning of the course and to complete all outside reading assignments. By the end of the course, students will have developed a greater understanding of the content areas focused on, and will have further developed in their ability to look at issues more critically and to discuss them with greater authority.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Outside reading material provided by the instructor		Grades will be based on attendance, classroom presentations, quizzes and mid-term and final exams.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an advanced English communication class. It aims to help students improve their speaking, listening, reading, writing and critical thinking skills. The material chosen for this class will look at some of the controversial issues that face us today. Students in this class will have to the opportunity to discuss and debate the issues covered in the reading and listening material. Additionally, students we give individual and group presentations. The group presentations will be in the form of posters session, which will be similar to those given at professional conferences. Students will have warm-up discussion with their partners at the start of each class. Students are required to have a vocabulary notebook for this class.</p>		<p>Week 1: Introduction;</p> <p>Week 2: 1st Language vs Foreign Language</p> <p>Week 3: Traditional or trendy lifestyle</p> <p>Week 4: Love or arranged marriage</p> <p>Week 5: Continuation and catch-up</p> <p>Week 6: Discipline or abuse</p> <p>Week 7: Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Right to life or right to choose</p> <p>Week 11: Review exercises</p> <p>Week 12: Final class open</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text will be decided at a later date		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In both the first semester and second semester, this class with join Mr. Murphey's class for a movie and video project. Students will work together and video tape their discussions on a decided outside movie.</p> <p>Continuation of the first semester.</p>		<p>Week 1: Overview of 2<sup>nd</sup> semester</p> <p>Week 2: Right to die or duty to live?</p> <p>Week 3: Continuation</p> <p>Week 4: Life imprisonment or death penalty?</p> <p>Week 5: Continuation</p> <p>Week 6: Judges and Jury</p> <p>Week 7: Video Project w/ Mr. Murhpey's class</p> <p>Week 8: Follow-up on Video Project</p> <p>Week 9: Poster Sessions</p> <p>Week 10: Human Organs or animal organs</p> <p>Week 11: Surrogate mothers natural mothers</p> <p>Week 12: Final class open</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text will be decided at a later date		Grades will be based on class participation, attendance and evaluations	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop the ability to think critically about and logically debate various issues in contemporary society. As well as building the vocabulary needed to discuss the issues, students will do their own research, form their own opinions, make poster presentations and engage in both discussion and debate.</p> <p>Students will also be required to write a number of short papers on issues of national and international importance.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Should cellular phone use be banned in public places?</li> <li>3. Debate 1: Cellular phones</li> <li>4. Should smoking be prohibited on university campuses?</li> <li>5. Debate 2: Smoking</li> <li>6. Should Japan introduce daylight saving time?</li> <li>7. Debate 3: Daylight saving time</li> <li>8. Should working women quit their jobs after childbirth?</li> <li>9. Debate 4: Working women</li> <li>10. Should all elementary schools introduce English into their curriculum?</li> <li>11. Debate 5: Elementary school English</li> <li>12. Debate 6: Topic chosen by students</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Taking Sides Stephen Hesse et.al. Kinseido		Evaluation will be based on attendance, class participation, oral presentations and a number of short papers	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students develop the ability to think critically about and logically debate various issues in contemporary society. As well as building the vocabulary needed to discuss the issues, students will do their own research, form their own opinions, make poster presentations and engage in both discussion and debate.</p> <p>Students will also be required to write a number of short papers on issues of national and international importance.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Should English be eliminated from university entrance exams?</li> <li>3. Debate 1: University entrance exams</li> <li>4. Should criminal law be applied to juvenile murderers?</li> <li>5. Debate 2: Juveniles and the criminal law</li> <li>6. Were the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki necessary?</li> <li>7. Debate 3: Nuclear weapons</li> <li>8. Should commercial whaling be resumed?</li> <li>9. Debate 4: Commercial whaling</li> <li>10. Should U.S. bases be removed from Japan?</li> <li>11. Debate 5: U.S. bases in Japan</li> <li>12. Debate 6: Topic chosen by students</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Taking Sides Stephen Hesse et.al. Kinseido		Evaluation will be based on attendance, class participation, oral presentations and a number of short papers	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Honors English 2 a Honors English 2	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>YOU are the main material for this class.</b> Starting the second week <b>you are recorded</b> having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video- recordings of yourself and can write a paper comparing your first conversations with your later ones to show how you improved We will have a variety of interesting topics. You can also choose some of the topics and you will give weekly feedback to the teacher on the class.</p> <p>You can learn a variety of communication strategies to enhance your conversation skills and to improve your ways of learning. Especially, we will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives. For more information see <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm</a></p> <p>A Dokkyo E-mail MAILING LIST will be used for this class to mail newsletters and reading material. Students are expected to check their email accounts regularly. Note: keitai accounts cannot be used.</p>		<p><b>Weeks</b> Introduction - Weekly study schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Video 1 Five things I like to do</li> <li>2. Video 2 Friends &amp; Family</li> <li>3. Video 3 Learning New Words</li> <li>4. Video 4 Extensive Reading</li> <li>5. Video 5 Mistake stories</li> <li>6. Video 6 MOVIE Discussion</li> <li>7. Video 7 Topics to be determined</li> <li>8. Video 8 Topics to be determined</li> <li>9. Video 9 Topics to be determined</li> <li>10. Video 10 Topics to be determined</li> <li>11. Video 11 My Progress This Semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is tentative and approximate. Students will read about a chapter or two in the text each week. Somewhere in the middle of the semester we will have a joint class with Jost-sensei's Honors class to discuss a movie.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>Text: <i>Language Hungry!</i> 1998</b> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p>Students are evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Honors English 2 b Honors English 2	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>SAME AS ABOVE ... plus</b> Please note:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. This class has an "English Mostly" policy — students are expected to try to use mostly English, as much as possible, and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK. They show you are trying. Your present level is not important, but your WILLINGNESS to speak in English is. You can learn a lot when you speak a lot!</li> <li>2. The reading load for this class is 5 to 10 pages a week, but it's all relatively easy. <u>Comment from a student last year</u> "Videoring our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did all of it and I learned a lot!"</li> </ol>		<p><b>September (Fall Semester) Weeks</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Video 1 Summer vacation</li> <li>2. Video 2 Jobs</li> <li>3. Video 3 Extensive Reading</li> <li>4. Video 4 Being Someone Else</li> <li>5. Video 5 Topics to be determined</li> <li>6. Video 6 MOVIE Discussion Rapa Nui</li> <li>7. Video 7 Topics to be determined</li> <li>8. Open Variation</li> <li>9. Video 8 Class Reunion</li> <li>10. Video 9 Random Acts of Kindness</li> <li>11. Video 10 Language Hungry Review</li> <li>12. Video 11 My Progress This semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week. Somewhere in the middle of the semester we will have a joint class with Jost-sensei's Honors class to discuss a movie that everyone has seen.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE		SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>AIMS:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- To be able to say what we really mean</li> <li>- Improvements in self expression</li> <li>- Study and practice for good communication</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Texts and practices</li> <li>3. Text 1. Study and practice</li> <li>4. Discussing / expressing</li> <li>5. Text 2. Absorb – relate</li> <li>6. Making the “picture” clear</li> <li>7. Text 3. Challenge</li> <li>8. Quizzes</li> <li>9. Describing what you’ve read</li> <li>10. Reading in your “own” area</li> <li>11. Text 4. “Enjoyment”</li> <li>12. Revisions</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various prints and other materials		Quizzes and report	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<p>As above</p> <p>Spring and autumn texts will vary accordingly.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 1年次の必修科目「英語音声学」で学んだことを今度は英語で読んでみる。これによって、英語の音声や音声学についての基礎知識を復習・補足強化し、重要語句や概念を英語でも理解できるようにする。</p> <p>英語の実例や日本語との比較も交えながら講義・解説し、また適宜、発音・聴取の練習も取り入れながら、英語学習・教育において実践できるようにする。</p> <p>使用するテキストは比較的やさしい入門書ではあるが、専門的な内容についてある程度まとまった分量を読み進めることにより、分析的な読解をする訓練をする。</p> <p><b>講義概要</b> 各学生は毎回の指定範囲を読んでくることが前提となる。授業においては担当発表者がハンドアウト(配布資料)やパワーポイントを使用して内容を発表する。これについて質疑応答・議論および担当者による補足・解説を行う。</p> <p><b>メッセージ</b> リーディング課題は法外な量ではないので、最初は苦しい人があるかもしれないが、少しずつ慣れていくはずである。読んでいるかどうか少しずつチェックをする予定なので、一緒に頑張らしましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Ch-1 Consonants (i)</li> <li>3. Ch-2 Consonants (ii)</li> <li>4. Ch-3 Vowel (i)</li> <li>5. Ch-4 Vowels (ii)</li> <li>6. Review Exercises</li> <li>7. Pitch, Duration, Loudness</li> <li>8, 9. Ch-5 The Phonemic Principle</li> <li>10. Ch-6 English Phonemes, Consonants</li> <li>11. Ch-6 English Phonemes, Vowels</li> <li>12. Major Classes</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>English Phonetics and Phonology: An Introduction</i>, Philip Carr, Blackwell その他 プリント配布</p>		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 2. Ch-7 Syllable Structure</li> <li>3, 4. Ch-8 Word Stress</li> <li>5, 6. Ch-9 Rhythm</li> <li>7, 8. Ch-10 Connected Speech and Intonation</li> <li>9. Review Exercises</li> <li>10. Ch-11 Variation in English Accents</li> <li>11. Speech Signal</li> <li>12. Supplemental Reading</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>English Phonetics and Phonology: An Introduction</i>, Philip Carr, Blackwell その他 プリント配布</p>		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will introduce the range of issues relating to language, particularly the social and political dimensions of language use.</p> <p>Students are encouraged to reflect on their own use of, or feelings about, language, and collect data from other sources around them, such as newspapers or television.</p> <p>They will be able to do these tasks alone or some need group discussion.</p> <p>ALL the coursework including lectures, pair work and group work will be CONDUCTED IN ENGLISH.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course</li> <li>2. Language and thought</li> <li>3. Language and the media 1</li> <li>4. Language and the media 2</li> <li>5. Language and the media 3</li> <li>6. Language and advertising 1</li> <li>7. Language and advertising 2</li> <li>8. Language and advertising 3</li> <li>9. Political language 1</li> <li>10. Political language 2</li> <li>11. Political language 3</li> <li>12. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用 プリント等		Weekly journals, in-class work(attendance, participation, informal presentations), end-of-term paper	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will introduce the range of issues relating to language, particularly the social and political dimensions of language use.</p> <p>Students are encouraged to reflect on their own use of, or feelings about, language, and collect data from other sources around them, such as newspapers or television.</p> <p>They will be able to do these tasks alone or some need group discussion.</p> <p>ALL the coursework including lectures, pair work and group work will be CONDUCTED IN ENGLISH.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to Course</li> <li>2. Politically correct language 1</li> <li>3. Politically correct language 2</li> <li>4. Language in the USA 1</li> <li>5. Language in the USA 2</li> <li>6. Group presentation 1</li> <li>7. Group presentation 2</li> <li>8. Group presentation 3</li> <li>9. Group presentation 4</li> <li>10. Group presentation 5</li> <li>11. Group presentation 6</li> <li>12. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システム使用 プリント等		Group summary, in-class work (attendance, participation, worksheets), group presentations	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) 現実のひとつではないこと、同じものを見ても、感じ方はそのものを見る人の立場によって異なること、そして、その差異には歴史や政治が関わっている場合があることを、文学テキストの精読を通して実感してほしい。</p> <p>(講義紹介) Jamaica Kincaid (ジャマイカ・キンケイド) は、1949年、カリブの小さな島 Antigua に生まれました。16才で単身アメリカ合衆国にわたり、やがて文章を書くようになります。現代の英語圏作家を代表するひとりともいわれる彼女ですが、自分が創作をはじめたのは、「絶望の淵からはいあがるためだった」と、あるインタビューで語っています。</p> <p>年若い Kincaid を捕らえていた絶望とは何だったのでしょうか。それには、イギリス植民地時代のアンティグアに生まれたアフロカリビアンの子であったことが深く関わっています。</p> <p>おそらく、受講生の大半とはまったく異なる歴史を負った Kincaid ですが、彼女のような存在は世界には少なくはないのです。幾重にも周縁化された立場からみると、世界はどのようにみえるのでしょうか。そしてそこから見え</p>		<p>(授業の進め方) グループによる発表と、その後のクラスでのディスカッションを中心に進めます。発表のなかの基礎的事項の確認とそれをめぐるやりとりは主に英語で行います。詳細は開講時にモデルを示します。一回に 10~15 頁ほどを読む予定ですが、実際にやってみて、適切な分量を見定めていきたいと思えます。よって、読解力がアップするにつれ、一回に読む量は徐々に増やしていくつもりです。</p> <p>(使用テキストの紹介) (1) <i>Lucy</i>(1991) 主人公の Lucy は、カリブの島から北米の大都会にたった一人でやってきた 19 歳の女の子。見るもの聞くもの、回りの人々、あらゆるものが故郷とは異なる環境での新しい生活は、小さな闘いの連続だ。</p> <p>物語は Lucy が 20 歳になるまでのほぼ一年間の日常を描いている。確実に大人へと成長してゆく一年の間に、彼女は決して幸福ではなかった島での少女時代と家族との関係を振り返る。振り返り乗り越えることで、新しい自分を手にいれようと努めるのである。そしてその過程で、自分という個人に作用している大きな歴史の力とも向き合うことになるのだった。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jamaica Kincaid, <i>Lucy</i> , (New York: Farrar Straus & Giroux, 1991/2002) ISBN: 0374527350。授業開始までに Amazon.co.jp など各自購入しておくこと。		出席・発表、小テスト・レポートを総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上からの続き) てくるものは、安寧に暮らす日本の私たちにどんな気づきを迫ってくるのでしょうか。</p>		<p>(2) <i>A Small Place</i>(1990) こちらはノン・フィクション。A small place とは、生まれ故郷の小さな美しい島、Antigua のこと。故郷への愛は、テキストのそこそこに滲んでいるが、この本は望郷の思いを綴ったものでも、美しき島へのオマージュでもない。キンケイドは故郷をむしばむあらゆるものに、鋭い批判の視線を投げかける。常夏の島へおしかける豊かな国の観光客、その島をかつて支配したイギリス、そして独立後の故郷の政治腐敗と民衆の無力。彼女の舌鋒は、支配者たる白人へも、身内ともいえる奴隷の子孫たちにも向けられる。圧倒的なリズム感をもつ、罵倒の言葉をさまざまな相手に容赦なく浴びせたあとに、キンケイドはやがて静かに問いかけるのだ。読者に、そして自分自身にむかって。故郷の島を離れ豊かな国の住人となった私はいったい何者なのだろうか。植民地時代が終わっても、なお続く支配と被支配の構造をどのように考えればよいのだろうか。そしてこの文章を読んでいる「あなた」は何者なのか。この構造のどこに「あなた」はいるのだろうか。</p> <p>(1)のテキストが終わってから(2)に移ります。(1)のテキストは秋学期のはじめまでかかる予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jamaica Kincaid, <i>A Small Place</i> (New York: Farrar Straus & Giroux, 1990/2000) ISBN: 0374527075。授業開始時までに Amazon.co.jp など各自購入しておくこと。		春学期と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声のコミュニケーションでの役割と、音の生成について、英語を例に学習する。なお、客観性を高めるために、音の物理的考察も少し加える。</p> <p>概要：講読なので英文を学生が読み、訳を付け、加えて、担当者が語句、内容の説明をする。90分授業内にできるだけ多くの学生に当てたいので、必ず予習をすること。 出席は重視する。</p>		<p>1. The Role of Sound in Communication 2. Articulatory Phonetics: How Speech Sounds are Produced</p> <p>毎時間、プリントの3, 4ページを読む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末のテストの点と平常点の総合	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声はどのようにして生成されるのか。英語を例に発音器官の機能、構音過程を習得し、なお、客観性を高めるために、音の物理的考察も少し加える。</p> <p>概要：講読なので英文を学生が読み、訳を付け、加えて、担当者が語句、内容の説明をする。90分授業内にできるだけ多くの学生に当てたいので、必ず予習をすること。 出席は重視する。</p>		<p>春学期のプリントの残りページを読み終え、以下の章へ進む。 Acoustic Phonetics: Sound Between Mouth and Ear</p> <p>毎時間、プリントの3, 4ページを読む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末のテストの点と平常点の総合	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英国ルネサンス期の劇作家にして詩人であった W. Shakespeare (1564~1616) の四大悲劇の一つ Macbeth (1605-6) を精読したい。入門なので、語彙・文法・詩形にも留意し、劇詩的表現を味読しつつゆっくりと読み進めたい。また武勇を尚ぶ名将 Macbeth が野心にかられ、Duncan 王を殺害して王位に即くが、更に殺人を重ねて絶望の中に死んでいくのは何故であるかということをも考えたい。</p>		1~12 Act I	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： Macbeth by W. Shakespeare 中島文雄 解説注釈 参考文献： 「シェイクスピア案内」日本シェイクスピア協会編、研究社刊 「シェイクスピアの面白さ」中野好夫著 新潮社 「シェイクスピア研究」斎藤 勇著 研究社</p>		期末テストと平常点によって評価する。	

03年度以降 02年度	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1~7 Act II. i~iv 8~12 Act III, IV, V, のさわりの部分</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Harvard 大学を舞台に青年男女の恋愛の顛末を描いて、アメリカのみならず、世界的なベスト・セラーとなり、映画においても傑作を生んだ、Erich Segal の <i>Love Story</i> を精読する。この作品は、古来より存在する恋愛小説の典型の現代版であるが、その文体の斬新さのみならず、例えば、</p> <p>① 人種問題 ② 宗教問題 ③ 親子の関係 ④ 学生生活</p> <p>等々の、現代のアメリカが抱えるさまざまな問題が内包されているので、これら文化面のことについても適宜解説を交え、討論もいたしながら、単に英文を表面的に上撫するのではない授業にしてゆきたいと思っている。</p>		<p>随時指名した学生と担当者の質疑応答により、英文を逐一吟しながら読み進め、その内容を把握してゆく。その間に、左の項にあげたことなどの諸問題も扱ってゆく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Erich Segal, <i>Love Story</i> , Avon Books. (DUOに発注済)		平常の勉学態度と、随時の小テストの累積で評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>継続して、同じ小説の後半を読み進めてゆく。春学期の項参照。</p>		<p>春学期の項参照。 なお、予定通りに進行して読み終われば、最後の週には映画のビデオ版を上映することも考えている。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の項参照。		春学期の項参照。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化適応過程、カルチャーショックの原因と対処法、文化と対人コミュニケーションの関係など、主に個人レベルの異文化接触について学習します。秋学期では、海外・帰国子女、移民、少数民族などの経験が提起する文化・社会・国家（間）レベルの異文化接触と適応の問題について考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、自由発表をしていただきます。</p> <p>授業中の討論は主として日本語で行いますが、レポートとグループ発表の使用言語は英語とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 異文化シミュレーション I</li> <li>3. 異文化適応度の測定</li> <li>4. 異文化適応理論 I</li> <li>5. 異文化適応理論 II</li> <li>6. カルチャーショックの原因と対処法 (Levine &amp; Adelman, 1993)</li> <li>7. 文化とコミュニケーション</li> <li>8. クリティカル・インシデント (危機事例) I (Cushner &amp; Brislin, 1995)</li> <li>9. クリティカル・インシデント (危機事例) II (Bolton, 1986)</li> <li>10. 異文化シミュレーション II</li> <li>11. <i>Who moved my cheese?</i> (Johnson, 1998)</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Johnson, S. (1998). <i>Who moved my cheese?</i> London: Vermilion. その他、プリントを使用。		レポート (50%)、グループ発表 (40%)、授業への貢献 (10%) *** 4 回以上の欠席は不可***	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>多種多様な環境や他者との関わりの中で経験される戸惑いや葛藤を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化適応過程、カルチャーショックの原因と対処法、文化と対人コミュニケーションの関係など、主に個人レベルの異文化接触について学習します。秋学期では、海外・帰国子女、移民、少数民族などの経験が提起する文化・社会・国家（間）レベルの異文化接触と適応の問題について考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、自由発表をしていただきます。</p> <p>授業中の討論は主として日本語で行いますが、レポートとグループ発表の使用言語は英語とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ライフヒストリー (生活誌) が語るもの</li> <li>3. 日本よ、さらば (Sato, 2001)</li> <li>4. アメリカ人になること (Imahori, 2000)</li> <li>5. 帰国子女であること (Kidder, 1992)</li> <li>6. 海外養子について (Armstrong &amp; Slaytor, 2001)</li> <li>7. 在日コリアンであること (Fukuoka, 2004)</li> <li>8. アイヌとしての誇りと葛藤 (Siddle &amp; Kitahara, 1995)</li> <li>9. グループ自由発表の準備</li> <li>10. グループ自由発表</li> <li>11. グループ自由発表</li> <li>12. グループ自由発表、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。		レポート (50%)、グループ発表 (40%)、授業への貢献 (10%) *** 4 回以上の欠席は不可***	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで60%、観劇レポート(500字)2編で40%。 学期末の定期試験はありません。 レポート(必修)に関する詳細は初回授業で説明します。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで60%、観劇レポート(500字)2編で40%。 学期末の定期試験はありません。 レポート(必修)に関する詳細は初回授業で説明します。</p>	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目的といたします。</p> <p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。また、そこに書かれた文章は平易な内容です。植民地時代から今日に至るイギリス社会とユダヤとの関係が、叙述の中心となります。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高価なため、コピーを配布します。 N. Leathers, Japanese in America</p>		<p>春・秋学期に筆記試験をします。平常点 30%程考慮します。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分にカウントします。</p>	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ			
テキスト、参考文献		評価方法	
H. Grinstein, Short History of Jews of United States.		春学期と同じ	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの小説(短編)を読みます。訳読と質問表による討論を通じて、英語の読解力と作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>最初は訳読を中心に授業を進め、後半は事前に配布した作品の内容に関する質問表の答え合わせをしながら、討論形式で授業を進める予定です。</p> <p>また TOEIC の得点アップを目指して、副教材を使用した授業内小テストを毎回実施する予定です。</p> <p>毎回必ず予習をして授業に臨むことが義務づけられます。万が一予習をしてくれなかった場合は、出欠をとるときに、その旨申告してもらいます(「はい」のかわりに「パス」と返事)。但し、「パス」は3回まで、その後は、1回につき1点減点します。欠席は2点減点、30分以内の遅刻、早退は1点減点です。減点0(無遅刻・無欠席・ノーパス)の場合は、学期末に15点の「ボーナス点」を与えます。「パス」の申告漏れは15点減点としますので、発覚すればほぼ致命的と思われると思います。</p>		<p>第1週 授業の説明など。必ず出席することを希望。欠席すると「ボーナス点」(左記参照)の資格が消えます。</p> <p>第2週以降 前週指示した範囲を読み、訳読や討論をします。以下、同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントや e-text/book などを用いる予定		定期試験(100点満点)±平常点(上記参照)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ		春学期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classic Rock の中から代表的な 2 4 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの 5 0 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<p>Paul Simon, Bruce Springsteen, Joni Michell, Billy Joel, Suzanne Vega, Janis Ian, Janis Joplin, Eagles, James Taylor, The Doors, Carole King, Don McLean の作品を取りあげる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める (ただし 4 回以上欠席の場合は評価対象外)。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Classic Rock の中から代表的な 2 4 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの 5 0 年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。</p> <p>2 人 1 組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティブにアメリカ文化論を考える。</p>		<p>秋学期は Bob Dylan の作品を取りあげる。</p> <p>評価方法 プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める (ただし 4 回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<a href="http://bobdylan.com/songs/">http://bobdylan.com/songs/</a> より ダウンロード		プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める (ただし 4 回以上欠席の場合は評価対象外)。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a 英語専門講読入門	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日英文化の違いについて述べた文章を読む。		テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Britain Known and Unknown Test Your English No.5		出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b 英語専門講読入門	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a (再履修) 英語Ⅱ (再履修)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
比較的わかりやすい音楽の歌詞に始まり、文学作品までを、レポーター制で読み進めていく。“metaphor”や“simile,” “allusion” などといった文学の基本の比喩を学ぶ。レポーターは、翻訳をしていくことが要求される。専門購読で文学作品を読むことを前提とした授業である。		1) ガイダンス 2) Bob Marley, “I Shot the Sheriff” 3) Bob Marley, “Get Up, Stand Up,” “No Woman, No Cry” 4) Bob Marley, “Talkin’ Blues,” “Who the Cap Fit” 5) Bob Marley, “Kaya,” “Wake up and Live” 6) Bob Marley, “Coming in from the Cold,” “Redemption Songs” 7) Bob Marley, “Chant Down Babylon,” “Buffalo Soldier” 8) Bob Marley, “Zimbabwe,” “Forever Loving Jah” 9) Sandra Cisneros, “The House on Mango Street” 10) Sandra Cisneros, “Hairs,” “Boys & Girls” 11) Sandra Cisneros, “My Name,” “Cathy, Queen of Cats” 12) Sandra Cisneros, “Our Good Day”	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント、および、Sandra Cisneros <i>The House on Mango Street</i> (Vintage)		レポートによる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b (再履修) 英語Ⅱ (再履修)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に引き続き、シスネロスの作品を読む。授業数と授業計画の回数が合っていないのは、シスネロス以外の作品も授業で取り扱いたいため。何を扱うかは、学生と相談して決める。		1) “Laughter” 2) “Gil’s Furniture Bought & Sold” 3) “Meme Ortiz” 4) “Louie, His Cousin & His Other Cousin” 5) “Marin,” “Those Who Don’t” 6) “There Was an Old Woman She Had So Many” 7) “Children She Didn’t Know What to Do” 8) “Alicia Who Sees Mice”	
テキスト、参考文献		評価方法	
		レポートによる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読入門 a (再履修) 英語Ⅱ (再履修)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これ以上、再度の履修がないように、基本的英文読解力を養う。 また、問題集のテキストも同時に併用する。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<p>テキストの文章の難易度と学生の予習準備に応じて進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>England;The Heart of Tradition Test Your English No.5</p>		<p>出席の少ない者は不合格とする。授業時での発表と小テストの結果を評価の基本として、必要があれば定期試験で更なる評価をなす。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読入門 b (再履修) 英語Ⅱ (再履修)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に準ずる。</p>		<p>春学期に準ずる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期に同じ。</p>		<p>春学期に準ずる。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語学概論 a 英語学概論	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語という言語がどのような視点から研究されてきたか、また、現在されているかを学ぶことによって、英語学の面白さを知って欲しい。</p> <p>「ことば」は、それを使う人とその人を取り巻く社会・文化・思想とは切り離せないものである。ことば自体の仕組みと併せて、ことばという窓を通して見えてくる人間(ことばの使い手)の世界を覗いてみることにする。</p> <p><b>[講義概要]</b> 日本語の場合と同じように、英語も時代とともに変化している。英語では、何がどのように変化し、その原因は何であったかを時代背景を考えながら学ぶ。</p> <p>その後、現在使われている英語(現代英語)について、音・語・文・意味の面から探り、人はどのようにその仕組みを意思伝達に活用しているか考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学とは何を研究する分野か 人間のことばの特徴</li> <li>2. 英語の歴史 ① Old English</li> <li>3. 英語の歴史 ② Old English</li> <li>4. 英語の歴史 ③ Middle English</li> <li>5. 英語の歴史 ④ Middle English</li> <li>6. 英語の歴史 ⑤ Modern English</li> <li>7. 英語の歴史 ⑥ Modern English</li> <li>8. 英語の歴史 ⑦ American English</li> <li>9. 英語の音構造 ① 音声学</li> <li>10. 英語の音構造 ② 音声学</li> <li>11. 英語の音構造 ② 音韻論</li> <li>12. 英語の音構造 ③ 音韻論</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
稲木昭子他 『新 えいご・エイゴ・英語学』 松柏社		Take-Home Quizおよび期末試験により評価をだす。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語学概論 b 英語学概論	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>[講義目的]</b> 「英語学概論 a」と同じ。</p> <p><b>[講義概要]</b> 現代英語の語・文・意味の構造を中心に扱う。テーマについては右の欄の「授業計画」を参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction 春学期の試験についての解説</li> <li>2. 英語の語構造 ① 形態論</li> <li>3. 英語の語構造 ② 形態論</li> <li>4. 英語の文構造 ① 統語論</li> <li>5. 英語の文構造 ② 統語論</li> <li>6. 英語の文構造 ③ 統語論</li> <li>7. 英語の意味構造 ① 意味論</li> <li>8. 英語の意味構造 ② 意味論</li> <li>9. 英語の意味構造 ③ 語用論</li> <li>10. 英語の意味構造 ④ 語用論</li> <li>11. 英語学とその関連分野 ①</li> <li>12. 英語学とその関連分野 ②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
稲木昭子他 『新 えいご・エイゴ・英語学』 松柏社		Take-Home Quizおよび期末試験により評価をだす。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語学概論 a 英語学概論	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的・講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 言語は音と意味とを関連づける記号体系であり、音と意味の関連づけに重要な役割を果たすのが統語構造である。 生成文法理論に基づく英語の研究から得られた成果を踏まえ、英語の統語構造について、語順や句構造といった一般的な特徴から、主語・述語などの文の主要な要素、等位構造・従位構造、受動文、否定文などの具体的な構造や構文に関する特徴まで様々な特徴を講義する。</p> <p><b>講義概要:</b> 統語構造を説明する統語論が言語理論・文法理論においていかなる位置づけをもつかを見るために、まず、統語論以外の音声学・音韻論・意味論・語用論を簡単に概観する。 文の統語構造は、語の線状的配列、語と句の種類(範疇)、語句の階層構造の三要素によって説明される。更に、文の統語構造の説明には、抽象的構造と具体的構造と両構造を関連づける仕組みが必要になることを説明する。 文の具体的な特徴として、主語と述語、述語を構成する要素、助動詞要素、副詞要素の意味的・統語的特徴を説明する。さらに、述語に含まれる目的語や補語、直接目的語・間接目的語およびこれらの要素と類似した要素を詳しく見る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声学・音韻論・統語論・意味論・語用論</li> <li>2. 語順と句構造の重要性</li> <li>3. 循環的特性と言語使用の創造的側面</li> <li>4. 具体的構造・抽象的構造と変形的特性</li> <li>5. 文の特徴～主語の種類と特徴</li> <li>6. 文の特徴～述語動詞と述語の構造</li> <li>7. 助動詞要素の種類と統語的特徴と代用助動詞 do</li> <li>8. 副詞の特徴～3種類の副詞とその分類基準</li> <li>9. 述語要素の特徴～目的語と補語の特徴と区別</li> <li>10. 直接目的語と間接目的語と疑似目的語</li> <li>11. 補語と叙述形容詞と単純形副詞</li> <li>12. 補語としての副詞要素と補語の再定義</li> </ol>	
<b>テキスト・参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社。参考文献: 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法—英語統語論のしくみ』研究社。斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)『英文法への誘い』開拓社。</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語学概論 b 英語学概論	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的・講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b>(春学期と同じ) 生成文法理論に基づく英語の研究から得られた成果を踏まえ、英語の統語構造について、語順や句構造といった一般的な特徴から、主語・述語などの文の主要な要素、等位構造・従位構造、受動文、否定文などの具体的な構造や構文に関する特徴まで様々な特徴を講義する。</p> <p><b>講義概要:</b>(春学期の続き) より複雑な文の構造として等位構造と従位構造を取り上げ、等位接続された重文と従位接続された複文の特徴と相違点や等位接続詞と従位接続詞の区別を説明する。 さらに、等位接続文に関しては節接続と句接続との区別、従位節に関しては定形節と非定形節との区別を明らかにする。非定形節には不定詞節と動詞のing節があり、不定詞節とing節には名詞的・形容詞的・副詞的・動詞的用法の四つの用法があることを説明する。また、不定詞を含む重要な構文である「不定詞付き対格構文」の種類と特徴を述べる。 具体的な構文として受動文と否定文を取り上げる。受動文については、受動文の特徴と受動可能性(能動文と受動文の対応の可能性)を説明し、否定文に関しては、否定要素が文中で生ずる位置と否定する領域・範囲を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接続構造～接続構造の種類と多重文</li> <li>2. 等位構造と従位構造</li> <li>3. 等位接続詞と従位接続詞の特徴と区別</li> <li>4. 等位構造の特徴～節接続と句接続、重文内の省略</li> <li>5. 従位節の特徴～従位接続詞と前置詞、従位節内の省略</li> <li>6. 従位節の種類～定形節と非定形節の区別</li> <li>7. 不定詞と動詞 ing 形の四つの用法と二種類の動名詞</li> <li>8. 「不定詞付き対格(目的語)構文」の種類と特徴</li> <li>9. 受動文～一般的特徴と能動文との対応</li> <li>10. 受動可能性と意味的・統語的・語彙的・語用論的制約</li> <li>11. 否定文の一般的特徴～否定要素の種類と特徴</li> <li>12. 否定要素の位置と否定の領域～全文否定と局所否定</li> </ol>	
<b>テキスト・参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社。参考文献: 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法—英語統語論のしくみ』研究社。斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)『英文法への誘い』開拓社。</p>		<p>出席状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語学概論 a 英語学概論	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深めることであるが、その過程において、ふだん無意識のうちに使っていることばの研究の楽しさを味わうことである。具体的には、英語を母語とする話者の無意識下にある言語直感を掘り出し、英語の隠れていた規則性を発見し、ひいては言語そのものの研究が意外と(問題の多いことばであるが)科学的かつ人間的で、それだから楽しいということを実感してもらうことである。</p> <p>英語学科の学生は、ただ英語の実用的運用能力に秀でているだけでなく、知的好奇心の対象としての英語について、その本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証(あかし)であることを理解してほしい。</p>		<p>テキストに沿って次の順に講義していく。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語学とは何か</li> <li>2. 言語とは何か</li> <li>3. 英語のフォニックス</li> <li>4. 音声学・音韻論</li> <li>5. 形態論</li> <li>6. 統語論</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
安藤貞雄・澤田治美編『英語学入門』開拓社プリント(随時配布)		試験と課題による	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語学概論 b 英語学概論	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ(ただし、秋学期から受講する場合は、テキスト第6章まで読んでおくことが求められる。)</p>		<p>春学期同様、テキストに沿って次の順に講義していく。(およそ各トピックにつき3回の講義を充てる。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 意味論</li> <li>2. 語用論</li> <li>3. 情報構造</li> <li>4. 日英語の比較</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
安藤貞雄・澤田治美編『英語学入門』開拓社プリント(随時配布)		試験と課題による	



03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語学概論 a 英語学概論	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが言語を使う時、何が不可欠だろうか。話すための口、聞くための耳、読むための目が重要と思えるが、これらは外界と私たちを結ぶ入出力装置である。言語を生み出しているのはこれらの装置でなく脳である。事故、病気などで脳が壊れれば、口や耳が正常であっても言語を使用できなくなる。また、人類はほぼ共通の脳を持っているため、言語を生み出す能力も母国語に関わらず共通である。</p> <p>この授業では、主に英語の歴史的変化、英語で使われる音の特徴・規則性（音声・音韻論）、語の成り立ち（形態論）などを学ぶ。それぞれの仕組みの巧みさ、それを自由に操ることができる私たちの脳のすばらしさを感じてほしい。また、日本語のデータも加え、英語との共通性も議論する。</p> <p>テキストは言語学の全体像について平易な英語で書かれたものである。授業はテキストの順番にChapter 5まで扱うが、Chapter 9を学期前半に加える。毎回の授業の後半は、講義内容に関わるデータの具体的な分析を行ない提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Chapter 1: Why study English linguistics</li> <li>3. Chapter 2: How English has changed over the centuries</li> <li>4. Cont.</li> <li>5. Chapter 9: The sounds of English: Phonetics and Phonology</li> <li>6. Cont.</li> <li>7. Chapter 3: How words are made: Morphology</li> <li>8. Cont.</li> <li>9. Chapter 4: How words mean: Semantics II</li> <li>10. Chapter 5: How English Phrases Are Formed: Syntax I</li> <li>11. Cont.</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>First Steps in English Linguistics</i> (影山 太郎, 日比谷 潤子, Brent De Chene くろしお出版) およびプリント		出席および定期試験による。定期試験の内容は授業毎のデータ分析に沿ったものとする。	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語学概論 b 英語学概論	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが言語を使う時、何が不可欠だろうか。話すための口、聞くための耳、読むための目が重要と思えるが、これらは外界と私たちを結ぶ入出力装置である。言語を生み出しているのはこれらの装置でなく脳である。事故、病気などで脳が壊れれば、口や耳が正常であっても言語を使用できなくなる。また、人類はほぼ共通の脳を持っているため、言語を生み出す能力も母国語に関わらず共通である。</p> <p>この授業では、主に英語で使われる文の成り立ち（統語論）や、言語習得、方言差などについて学ぶ。日本語のデータも加え、英語との共通性も議論する。</p> <p>テキストは言語学の全体像について平易な英語で書かれたものである。Chapter 9を除き、Chapter 6以降をテキストの順番に進む。毎回の授業の後半は、講義内容に関わるデータの具体的な分析を行ない提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Comments on Final Exam</li> <li>2. Chapter 6: How English Phrases Are Formed: Syntax II</li> <li>3. Cont.</li> <li>4. Cont.</li> <li>5. Chapter 7: How sentences means: Semantics II</li> <li>6. Cont.</li> <li>7. Chapter 8: How to communicate with other people: Pragmatics</li> <li>8. Chapter 10: Regional varieties of English: Sociolinguistics I</li> <li>9. Chapter 11: Regional varieties of English: Sociolinguistics II</li> <li>10. Chapter 12: How English is acquired: Psycholinguistics</li> <li>11. Cont.</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>First Steps in English Linguistics</i> (影山 太郎, 日比谷 潤子, Brent De Chene くろしお出版) およびプリント		出席および定期試験による。定期試験の内容は授業毎のデータ分析に沿ったものとする。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ合衆国とよばれる国の文化と社会がいかに くりあげられてきたのかを考える。いわゆる教科書的な歴史をなぞるのではなく、アメリカが現在の姿へといたる道筋を、ネイティブ・アメリカン、女性、黒人、移民、セクシュアル・マイノリティーなど、さまざまな周縁の視点から批判的に考察してゆく。</p> <p>文学テキストを多用するが、歴史書、政治パンフレット、医学書、雑誌、広告、映像なども扱う。文学の複雑な魅力を味わってもらおうと同時に、文学テキストと政治パンフレットとを社会のダイナミックな権力関係のなかに併置して分析するようなものの見方にも触れてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書かれたものとしての歴史・現実とフィクション</li> <li>2. Boldly go where no man has ever gone—『スター・トレック』アメリカ大衆文化のユートピアとフロンティアの矛盾</li> <li>3. Columbus Day or Native American Day?</li> <li>4. ピューリタンの夢の内と外</li> <li>5. 自由のレトリック</li> <li>6. 資本主義と奴隷制</li> <li>7. 共和国・正義とその澱</li> <li>8. 共和国とジェンダー・ポリシー</li> <li>9. メルティングポットとよそ者たち</li> <li>10~11. 響きあうもうひとつの声 (公民権運動・フェミニズム運動・ゲイ解放運動を中心に)</li> <li>12. Catch-up &amp; Wrap-up—どんなアメリカが書かれようとしているのだろうか。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
板橋好枝・高田賢一郎『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房、1989)を大学売店で購入してください。		授業への参加(コメントペーパー)、数回の提出物、および学期末のレポートを総合的に評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アイルランドを含めた、イギリスの文学を中心に、時代の流れに則しながら、社会・文化全般も視野に入れて、概略講義するつもりである。</p> <p>とはいえ、膨大な分野を短時間で扱うわけであるから、下記の冊子をサブテキストとして、各自で購読願いたい。講義は講義として独自の観点から、この冊子にこだわらず自由に語るのであるが、ここからも多少試験に出題することを承知しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：イギリス、アイルランドという国</li> <li>2. チョーサーまでの時代と言語</li> <li>3. シェイクスピアの時代</li> <li>4. ミルトン、デフォウ、スウィフトの時代</li> <li>5. ブレイク、バイロンの時代</li> <li>6. シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』</li> <li>7. エミリー・ブロンテの『嵐が丘』</li> <li>8. ペイター、ワイルドの世紀末</li> <li>9. ジェームズ、コンラッドの、モダニズムへの役割</li> <li>10. ジョイスの革新</li> <li>11. ロレンスの仕事</li> <li>12. まとめ：質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Writers of English Literature, Macmillan.		期末試験の点数においてのみ評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論	担当者	北澤 滋久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アイルランドを含めた、イギリスの文学を中心に、時代の流れに則しながら、社会・文化全般も視野に入れて、概略講義するつもりである。</p> <p>とはいえ、膨大な分野を短時間で扱うわけであるから、下記の冊子をサブテキストとして、各自で購読願いたい。講義は講義として独自の観点から、この冊子にこだわらず自由に語るのであるが、ここからも多少試験に出題することを承知しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：イギリス、アイルランドという国</li> <li>2. チョーサーまでの時代と言語</li> <li>3. シェイクスピアの時代</li> <li>4. ミルトン、デフォウ、スウィフトの時代</li> <li>5. ブレイク、バイロンの時代</li> <li>6. シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』</li> <li>7. エミリー・ブロンテの『嵐が丘』</li> <li>8. ペイター、ワイルドの世紀末</li> <li>9. ジェイムズ、コンラッドの、モダニズムへの役割</li> <li>10. ジョイスの革新</li> <li>11. ロレンスの仕事</li> <li>12. まとめ：質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<i>The Writers of English Literature</i> , Macmillan.		期末試験の点数においてのみ評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ合衆国とよばれる国の文化と社会がいかにつくりあげられてきたのかを考える。いわゆる教科書的な歴史をなぞるのではなく、アメリカが現在の姿へいたる道筋を、ネイティブ・アメリカン、女性、黒人、移民、セクシュアル・マイノリティーなど、さまざまな周縁の視点から批判的に考察してゆく。</p> <p>文学テキストを多用するが、歴史書、政治パンフレット、医学書、雑誌、広告、映像なども扱う。文学の複雑な魅力を味わってもらおうと同時に、文学テキストと政治パンフレットとを社会のダイナミックな権力関係のなかに併置して分析するようなもの見方にも触れてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書かれたものとしての歴史・現実とフィクション</li> <li>2. Boldly go where no man has ever gone—『スター・トレック』アメリカ大衆文化のユートピアとフロンティアの矛盾</li> <li>3. Columbus Day or Native American Day?</li> <li>4. ピューリタンの夢の内と外</li> <li>5. 自由のレトリック</li> <li>6. 資本主義と奴隷制</li> <li>7. 共和国・正義とその澱</li> <li>8. 共和国とジェンダー・ポリシー</li> <li>9. メルティングポットとよそ者たち</li> <li>10~11. 響きあうもうひとつの声 (公民権運動・フェミニズム運動・ゲイ解放運動を中心に)</li> <li>12. Catch-up &amp; Wrap-up—どんなアメリカが書かれようとしているのだろうか。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板橋好枝・高田賢一郎『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房、1989)を大学売店で購入してください。		授業への参加(コメントペーパー)、数回の提出物、および学期末のレポートを総合的に評価します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm</a> を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概説(授業の説明を含む): 必ず出席すること。</li> <li>2 Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景</li> <li>3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers</li> <li>4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years")</li> <li>5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち</li> <li>6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County</li> <li>7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County</li> <li>8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで</li> <li>9 Realism(2): "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (Adventures of Huckleberry Finn)</li> <li>10 American Renaissance(1): Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc.</li> <li>11 American Renaissance(2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.</li> <li>12 創世期のアメリカ文学: Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房, 1989)		2回の中間試験(各50点、計100点)と定期試験(100点)、不定期に課す課題20点	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イギリスの十九世紀から二十世紀にかけての、いずれも時代を代表する小説家、ジェーン・オースティン、チャールズ・ディケンズ、ウィリアム・メイクピース・サッカレー、E.M.フォースター、この四人の代表的な作品を解説・鑑賞していきます。そしてまた、作品から浮かび上がると同時に、作品の背景にある歴史の動き、時代時代の精神風土や文化を解説していきます。</p> <p>平行して、十八世紀、十九世紀の文学、文化を概観したプリントを配布し、解説を加えながら、その大きな流れを把握できるようにします。</p> <p>要望としては、講義で扱う作家の作品を(四人の中の、どの作家のどの作品でもよい)あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば関心と理解が深まることはうけあいです。</p>		<p>最初の授業は全体的な解説をします。</p> <p>四人の作家の代表作品を順を追って取り上げ、それを中心の軸として講義を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは配布するプリント。参考文献は授業中に適宜に紹介します。		主として、数回予定している小テストとレポート。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化概論 a 英米文学概論	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イギリスの十九世紀から二十世紀にかけての、いずれも時代を代表する小説家、ジェーン・オースティン、チャールズ・ディケンズ、ウィリアム・メイクピース・サッカレー、E.M.フォースター、この四人の代表的な作品を解説・鑑賞していきます。そしてまた、作品から浮かび上がると同時に、作品の背景にある歴史の動き、時代時代の精神風土や文化を解説していきます。</p> <p>平行して、十八世紀、十九世紀の文学、文化を概観したプリントを配布し、解説を加えながら、その大きな流れを把握できるようにします。</p> <p>要望としては、講義で扱う作家の作品を(四人の中の、どの作家のどの作品でもよい)あらかじめ読んでおいて欲しいことです。そうすれば関心と理解が深まることはうけあいです。</p>		<p>最初の授業は全体的な解説をします。</p> <p>四人の作家の代表作品を順を追って取り上げ、それを中心の軸として講義を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは配布するプリント。参考文献は授業中に適宜に紹介します。</p>		<p>主として、数回予定している小テストとレポート。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の文学・文化概論 b 英米文学概論	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる(小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう)ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらい、文学を通じてアメリカの文化を考える。米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム(文化多元主義)に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。このスペースに本当のシラバスを記載することは不可能なので、島田ゼミ HP 内の <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm</a> を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概説(授業の説明を含む): 必ず出席すること。</li> <li>2 Multiculturalism(1): 概説。Multiculturalism の背景</li> <li>3 Multiculturalism(2): African American Writers と Jewish Writers</li> <li>4 Multiculturalism(3): Jewish Writers ("The First Seven Years")</li> <li>5 [中間試験 1] Modernism(1): Post Modernism と Modernism の作家たち</li> <li>6 Modernism (2): William Faulkner と Yoknapatawpha County</li> <li>7 Modernism (3): William Faulkner と Yoknapatawpha County</li> <li>8 [中間試験 2] Realism(1): Mark Twain から Theodore Dreiser まで</li> <li>9 Realism(2): "gender/class/race"? Mark Twain の場合 (Adventures of Huckleberry Finn)</li> <li>10 American Renaissance(1): Emerson, Thoreau, E. A. Poe, Walt Whitman, etc.</li> <li>11 American Renaissance(2): Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc.</li> <li>12 創世期のアメリカ文学: Benjamin Franklin, C Brown, W Irving, James Fenimore Cooper, etc.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』(ミネルヴァ書房, 1989)</p>		<p>2回の中間試験(各50点、計100点)と定期試験(100点)、不定期に課す課題20点</p>	

03年度以降(春)	文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象(represent)された言語は政治的であり、表象の代理・代用(re-present)可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。</p> <p><b>講義概要</b> 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Orientation</li> <li>2 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>3 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>4 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>5 Advertisement and Public Culture</li> <li>6 Advertisement and Public Culture</li> <li>7 Advertisement and Public Culture</li> <li>8 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>9 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>12 Wrap Up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

03年度以降(春)	文化コミュニケーション概論 b	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コミュニケーションの重要性に気付いてもらうことが当講義の目的である。ただコミュニケーション論は、本来、非常に広い領域にわたっているので、この授業ではそれぞれ基礎的なことを学んでいきたい。授業の進め方は、前半をコミュニケーション活動そのものに重点を置き、後半からは文化とコミュニケーションのかかわりに焦点を合わせていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとコミュニケーション論</li> <li>2. コミュニケーションの原義</li> <li>3. 人間コミュニケーション</li> <li>4. 個人内コミュニケーションから対人コミュニケーション</li> <li>5. 仮想コミュニケーションから集団コミュニケーション</li> <li>6. マスコミュニケーションから異文化間コミュニケーション</li> <li>7. 異文化体験とは</li> <li>8. 異文化間コミュニケーションの背景</li> <li>9. 非言語コミュニケーション</li> <li>10. 言語と文化</li> <li>11. カルチャー・ショック</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		ターム・ペーパー	

03年度以降(春)	文化コミュニケーション概論 a	担当者	鍋倉 健悦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コミュニケーションの重要性に気付いてもらうことが当講義の目的である。ただコミュニケーション論は、本来、非常に広い領域にわたっているので、この授業ではそれぞれ基礎的なことを学んでいきたい。授業の進め方は、前半をコミュニケーション活動そのものに重点を置き、後半からは文化とコミュニケーションのかかわりに焦点を合わせていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションとコミュニケーション論</li> <li>2. コミュニケーションの原義</li> <li>3. 人間コミュニケーション</li> <li>4. 個人内コミュニケーションから対人コミュニケーション</li> <li>5. 仮想コミュニケーションから集団コミュニケーション</li> <li>6. マスコミュニケーションから異文化間コミュニケーション</li> <li>7. 異文化体験とは</li> <li>8. 異文化間コミュニケーションの背景</li> <li>9. 非言語コミュニケーション</li> <li>10. 言語と文化</li> <li>11. カルチャー・ショック</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『異文化間コミュニケーション入門』丸善ライブラリー		ターム・ペーパー	

03年度以降(春)	文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象 (represent) された言語は政治的であり、表象の代理・代用 (re-present) 可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏 (特にアメリカ) の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p><b>講義概要</b> 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キーフレームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Orientation</li> <li>2 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>3 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>4 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>5 Advertisement and Public Culture</li> <li>6 Advertisement and Public Culture</li> <li>7 Advertisement and Public Culture</li> <li>8 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>9 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>12 Wrap Up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

03年度以降（春）	文化コミュニケーション概論 a	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject introduces students to important issues and concepts as well as their underlying assumptions in the study of culture and communication. Students are expected to actively participate in discussions and develop critical thinking toward better understanding of day-to-day communication events. This subject will be taught mainly in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Globalisation and ICT (Information and Communication Technology)</li> <li>3. Communication</li> <li>4. Culture</li> <li>5. Culture, Identity, and Communication</li> <li>6. Cultural Patterns and Communication</li> <li>7. Cultural Change and Communication</li> <li>8. Communication Competence</li> <li>9. Case study #1: Prisons in Japan</li> <li>10. Case study #2: International Tourism</li> <li>11. Case study #3: Study Abroad</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts and assigned reading will be distributed in class.		Semester exam and one case report	

03年度以降（秋）	文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。この講義では、皆さんに影響を与えている一般的に言われている様々な理論が、果たしてどこまで本当なのかを考え抜くための手助けをすることを主目的としています。ですから、この講義内容を自分とは別の世界での学者の話としてではなく、自分自身の問題として捉えていただければ幸いです。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>I. コミュニケーション理論のフロンティア <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 科学技術的なコミュニケーション理論</li> <li>3. 人間主義的なコミュニケーション理論</li> <li>4. 批判的実践なコミュニケーション理論</li> </ol> </li> <li>II. 文化研究への招待 <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 比較文化論の問題</li> <li>6. 文化本質主義の問題</li> <li>7. 自民族中心主義と文化相対論の問題</li> <li>8. 文化の政治性とは何か？</li> </ol> </li> <li>III. レトリック研究への招待 <ol style="list-style-type: none"> <li>9. レトリックとは何か？</li> <li>10. 誰かを説得しようとしている自分</li> <li>11. 知らぬ間に説得されている自分</li> <li>12. 講義のまとめ</li> </ol> </li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』（有斐閣）</p>		<p>クイズ2回（不定期、15%×2回=30%） 学期末課題（複数の形式から選択、70%）</p>	



03年度以降(春)	文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えへの問い直しから始まるからです。</p> <p>この講義では、皆さんに影響を与えている一般的に言われている様々な理論が、果たしてどこまで本当なのかを考え抜くための手助けをすることを主目的としています。ですから、この講義内容を自分とは別の世界での学者の話としてではなく、自分自身の問題として捉えていただければ幸いです。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<p>I. コミュニケーション理論のフロンティア</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 科学技術的なコミュニケーション理論</li> <li>3. 人間主義的なコミュニケーション理論</li> <li>4. 批判的実践なコミュニケーション理論</li> </ol> <p>II. 文化研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 比較文化論の問題</li> <li>6. 文化本質主義の問題</li> <li>7. 自民族中心主義と文化相対論の問題</li> <li>8. 文化の政治性とは何か？</li> </ol> <p>III. レトリック研究への招待</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. レトリックとは何か？</li> <li>10. 誰かを説得しようとしている自分</li> <li>11. 知らぬ間に説得されている自分</li> <li>12. 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：プリント配布予定 参考書：『異文化コミュニケーション研究法』(有斐閣)</p>		<p>クイズ2回(不定期、15%×2回=30%) 学期末課題(複数の形式から選択、70%)</p>	

03年度以降(秋)	文化コミュニケーション概論 b	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This subject introduces students to important issues and concepts as well as their underlying assumptions in the study of culture and communication. Students are expected to actively participate in discussions and develop critical thinking toward better understanding of day-to-day communication events. This subject will be taught mainly in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Globalisation and ICT (Information and Communication Technology)</li> <li>3. Communication</li> <li>4. Culture</li> <li>5. Culture, Identity, and Communication</li> <li>6. Cultural Patterns and Communication</li> <li>7. Cultural Change and Communication</li> <li>8. Communication Competence</li> <li>9. Case study #1: Prisons in Japan</li> <li>10. Case study #2: International Tourism</li> <li>11. Case study #3: Study Abroad</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Handouts and assigned reading will be distributed in class.</p>		<p>Semester exam and one case report</p>	

03年度以降（春）	国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体（国家、国際機関、NGO など）の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）の国際社会で起こっている事象（ヒト・モノ・カネ・情報のグローバル化）にかかわる現象を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係論とは—国家と国際社会</li> <li>2. 冷戦の構造(1) 構造</li> <li>3. 冷戦の構造(2) 起源</li> <li>4. 冷戦の構造(3) 特徴</li> <li>5. 冷戦の展開(1) 戦争(1)</li> <li>6. 冷戦の展開(2) 戦争(2)</li> <li>7. 冷戦の展開(3) 崩壊</li> <li>8. ポスト冷戦期の国際社会(1)</li> <li>9. ポスト冷戦期の国際社会(2)</li> <li>10. ポスト冷戦期の国際社会(3)</li> <li>11. ポスト冷戦期の国際社会(4)</li> <li>12. ポスト冷戦期の国際社会(5)</li> </ol> <p>（初回の授業時に詳細な授業計画を配布する）</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。		学期後半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。	

03年度以降（秋）	国際コミュニケーション概論 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。</p> <p>本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？（その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など）（第1・2週）</li> <li>2. 国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？（第3・4週）</li> <li>3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？（第5・6週）</li> <li>4. 中間試験実施（第7週）</li> <li>5. 冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？（第8・9週）</li> <li>6. 相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？（第10・11週）</li> <li>7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？（第12週）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

03 年度以降 (春)	国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究 (study of international relations) とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など) (第1・2週)</li> <li>2. 国際関係の特質～国際関係論どのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？(第3・4週)</li> <li>3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？(第5・6週)</li> <li>4. 中間試験実施(第7週)</li> <li>5. 冷戦～冷戦どのように始まり、その後どのように展開したのか？(第8・9週)</li> <li>6. 相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？(第10・11週)</li> <li>7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？(第12週)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

03 年度以降 (秋)	国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGO など)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のグローバリゼーションにかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係論とは-国家と国際社会</li> <li>2. 冷戦の構造(1) 構造</li> <li>3. 冷戦の構造(2) 起源</li> <li>4. 冷戦の構造(3) 特徴</li> <li>5. 冷戦の展開(1) 戦争(1)</li> <li>6. 冷戦の展開(2) 戦争(2)</li> <li>7. 冷戦の展開(3) 崩壊</li> <li>8. ポスト冷戦期の国際社会(1)</li> <li>9. ポスト冷戦期の国際社会(2)</li> <li>10. ポスト冷戦期の国際社会(3)</li> <li>11. ポスト冷戦期の国際社会(4)</li> <li>12. ポスト冷戦期の国際社会(5)</li> </ol> <p>(初回の授業時に詳細な授業計画を配布する)</p> <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。		学期末半ば提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。	

02年度以前(春)	国際コミュニケーション概論(再履修)	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。</p> <p>本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)(第1・2週)</li> <li>2. 国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？(第3・4週)</li> <li>3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？(第5・6週)</li> <li>4. 中間試験実施(第7週)</li> <li>5. 冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？(第8・9週)</li> <li>6. 相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか？(第10・11週)</li> <li>7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？(第12週)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

02年度以前(秋)	国際コミュニケーション概論(再履修)	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミクスを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批判的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象(represent)された言語は政治的であり、表象の代理・代用(re-present)可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批判的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータムの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Orientation</li> <li>2 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>3 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>4 Hollywood and Hypercommercial</li> <li>5 Advertisement and Public Culture</li> <li>6 Advertisement and Public Culture</li> <li>7 Advertisement and Public Culture</li> <li>8 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>9 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>10 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>11 Desire, Sexuality and Power in Music Video</li> <li>12 Wrap Up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

02年度以前(春)	国際コミュニケーション概論(再履修)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテキストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。</p> <p>表象(represent)された言語は政治的であり、表象の代理・代用(re-present)可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏(特にアメリカ)の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなる。</p> <p><b>講義概要</b> 講義では1テーマを3ないし4回の授業で扱う。テキストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キーフレームの解説を加えながら講義を進めていく。</p>		<p>1 Course Orientation 2 Hollywood and Hypercommercial 3 Hollywood and Hypercommercial 4 Hollywood and Hypercommercial 5 Advertisement and Public Culture 6 Advertisement and Public Culture 7 Advertisement and Public Culture 8 Desire, Sexuality and Power in Music Video 9 Desire, Sexuality and Power in Music Video 10 Desire, Sexuality and Power in Music Video 11 Desire, Sexuality and Power in Music Video 12 Wrap Up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する。		定期試験、不定期に課す課題、及び出席状況等による総合評価	

02年度以前(秋)	国際コミュニケーション概論(再履修)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっています。第一部は、国際関係論の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明します。そして第二部では冷戦時代の国際政治を概観します。</p> <p>なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく予定です。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けます。</p> <p>本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えてください。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けていますので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p>		<p>1. イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か?(その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)(第1・2週)</p> <p>2. 国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か?(第3・4週)</p> <p>3. 国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか?(第5・6週)</p> <p>4. 中間試験実施(第7週)</p> <p>5. 冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか?(第8・9週)</p> <p>6. 相互依存と国際関係～グローバリゼーションは国際関係にどんな変化をもたらしたのか?(第10・11週)</p> <p>7. 核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか?(第12週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の講義で詳しい参考文献リストを配布します。		中間試験と学期末のブックレポートによる評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をもっと深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について紹介するので、その面白さを少しでも感じてもらい、これ以降の音声関係の科目履修へつながっていったらと思う。</p> <p><b>講義概要</b> 大教室における半期12回程度の授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須である。また、入門なのでどうしても用語を覚えなくてはならない。小テストや課題により、授業の補足・確認をしていく。</p> <p><b>メッセージ</b> 第一回目の授業に、第1章(pp.2-7)を読んでくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>第1章 音声学とは Speech Chain, 領域(言語学, 学際的分野, 応用)</li> <li>第2章 発声のメカニズム 器官(声帯, 声道, 音源, ソース・フィル理論, 母音/子音)</li> <li>第3章 音声表記 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法等), ピッチ/強さ/長さ</li> <li>第4章 母音, 第14章 方言 分類(高低/前後, 円唇), 基本母音</li> <li>第5章 子音 有声/無声, 調音位置/方法, 共鳴音,</li> <li>子音(ii), 日本語との比較 復習・練習問題</li> <li>第6章 音節, 第7章 語強勢 開/閉音節, 音素配列, モーラ/音節, アクセント/リズム</li> <li>第8章 音縮小, 第9章 同時調音 同化, 弱化, 無性化, 脱落,</li> <li>第10章 イントネーション</li> <li>第11章 音響音声学 波形, 周波数, 音圧, スペクトル, 母音/子音, 普遍性</li> <li>第12章 聴覚音声学 器官, 母音, 子音, VOT, 動物, bottom-up/top-down</li> <li>第15章 音声と規則性 素性, 語彙と音韻規則</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席・参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語音声学	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声と比較も交えて、英語音声をもっと深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について紹介するので、その面白さを少しでも感じてもらい、これ以降の音声関係の科目履修へつながっていったらと思う。</p> <p><b>講義概要</b> 大教室における半期12回程度の授業であるので、音声学の基礎の講義となる。指定テキストは量的にも質的にもやさしい基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでおくことが必須である。また、入門なのでどうしても用語を覚えなくてはならない。小テストや課題により、授業の補足・確認をしていく。</p> <p><b>メッセージ</b> 第一回目の授業に、第1章(pp.2-7)を読んでくること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>第1章 音声学とは Speech Chain, 領域(言語学, 学際的分野, 応用)</li> <li>第2章 発声のメカニズム 器官(声帯, 声道, 音源, ソース・フィル理論, 母音/子音)</li> <li>第3章 音声表記 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法等), ピッチ/強さ/長さ</li> <li>第4章 母音, 第14章 方言 分類(高低/前後, 円唇), 基本母音</li> <li>第5章 子音 有声/無声, 調音位置/方法, 共鳴音,</li> <li>子音(ii), 日本語との比較 復習・練習問題</li> <li>第6章 音節, 第7章 語強勢 開/閉音節, 音素配列, モーラ/音節, アクセント/リズム</li> <li>第8章 音縮小, 第9章 同時調音 同化, 弱化, 無性化, 脱落,</li> <li>第10章 イントネーション</li> <li>第11章 音響音声学 波形, 周波数, 音圧, スペクトル, 母音/子音, 普遍性</li> <li>第12章 聴覚音声学 器官, 母音, 子音, VOT, 動物, bottom-up/top-down</li> <li>第15章 音声と規則性 素性, 語彙と音韻規則</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『現代の英語音声学』佐藤寧、佐藤努。金星堂。1997 その他 配布資料		出席・参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。音声理論の講義を補足に、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の標準語と標準音</li> <li>2. 発音器官と機能</li> <li>3. 英語音の表記法</li> <li>4. 母音の定義と分類</li> <li>5. 英語の単母音</li> <li>6. 英語の二重母音、三重母音</li> <li>7. 英語の子音分類法</li> <li>8. 破裂音、破擦音、鼻音</li> <li>9. 側音、摩擦音、半母音</li> <li>10. 弱形と強形</li> <li>11. 同化作用、</li> <li>12. 置換作用、省略作用</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		テストの点	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語音声学	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 英語の一般的音声現象と英語特有の音声変化を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立てる。言語研究やその応用研究への基礎知識を与える。</p> <p>講義概要： 音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類とその特徴、日英米音の差異、英語の韻律特徴など発話に必要な音声現象を講義する。音声理論の講義を補足に、視聴覚機器を使用し、多少の発音練習も加える。</p>		<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 語の標準語と標準音</li> <li>2. 発音器官と機能</li> <li>3. 英語音の表記法</li> <li>4. 母音の定義と分類</li> <li>5. 英語の単母音</li> <li>6. 英語の二重母音、三重母音</li> <li>7. 英語の子音分類法</li> <li>8. 破裂音、破擦音、鼻音</li> <li>9. 側音、摩擦音、半母音</li> <li>10. 弱形と強形</li> <li>11. 同化作用、</li> <li>12. 置換作用、省略作用</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		テストの点	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スピーチ・クリニック	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> コミュニケーションにおいて、自分の言ったことが相手に通じることは必要不可欠である。この授業では、より英語らしい音声を理解し獲得することを目標とする。また、発音することは聴き取ることと表裏一体である。発音演習によって聴き取り能力の向上も目指す。これらにより円滑で効率のよいコミュニケーションスキル獲得の一助とする。</p> <p><b>講義概要</b> 日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について理解しやすいように解説し、特に、日本語話者にとって問題となりやすい発音・リズム・イントネーションなどを中心に学習する。また、発音と綴りの関係も復習する。 これら学んだ知識を毎回の練習・テストなどを通して実践できるものにする。また適宜フリースピーチを取り入れ、実践コミュニケーションの中で音声の効果を考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「個性としての日本人らしさ」はいけないのか 声(大きさ, 高さ, 強さ, 長さ, etc.) 調音器官(舌など)</li> <li>2. I-母 1, 2 「イ」に近い音の区別, 綴り I-母 14, 15 「ウ」に近い音の区別, 綴り</li> <li>3. I-母 3, 4, 16 「エ」に近い音の区別, 綴り I-母 11, 12, 13, 20 「オ」に近い音の区別, 綴り</li> <li>4. I-母 4, 5, 6, 8, 9, 10 「ア」に近い音の区別, 綴り</li> <li>5. I-母 17, 18, 19 二重母音, その他 復習 1</li> <li>6. I-子 1, 2, 3 閉鎖音の位置と呼気 p, t, k I-子 4/15, 5/6/7 摩擦音 f/h, v/b, s/th/sh の区別 I-子 6/9 摩擦音と破擦音 z/dz の区別</li> <li>7. I-子 3/12 語末の g/ng の区別 I-子 10/11/12 語末の m/n/ng の区別</li> <li>8. I-子 13/14 語頭, 母音間, 子音後の l/r の区別</li> <li>9. II-1, 2, 4, 5, 6 音変化, 弱形</li> <li>10. III-3 アクセント, リズム, イントネーション</li> <li>11. スピーチ(抑揚, 強弱, 速さ, ポーズ, 声色, 非言語)</li> <li>12. 復習 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『英語発音・聴き取りの基礎 - CD付』 杉野健太郎, Joseph Lauer, 朝日出版社。 その他 配布資料		毎回の授業における練習評価, 小テスト, 課題, 試験の総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スピーチ・クリニック	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> コミュニケーションにおいて、自分の言ったことが相手に通じることは必要不可欠である。この授業では、より英語らしい音声を理解し獲得することを目標とする。また、発音することは聴き取ることと表裏一体である。発音演習によって聴き取り能力の向上も目指す。これらにより円滑で効率のよいコミュニケーションスキル獲得の一助とする。</p> <p><b>講義概要</b> 日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について理解しやすいように解説し、特に、日本語話者にとって問題となりやすい発音・リズム・イントネーションなどを中心に学習する。また、発音と綴りの関係も復習する。 これら学んだ知識を毎回の練習・テストなどを通して実践できるものにする。また適宜フリースピーチを取り入れ、実践コミュニケーションの中で音声の効果を考えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「個性としての日本人らしさ」はいけないのか 声(大きさ, 高さ, 強さ, 長さ, etc.) 調音器官(舌など)</li> <li>2. I-母 1, 2 「イ」に近い音の区別, 綴り I-母 14, 15 「ウ」に近い音の区別, 綴り</li> <li>3. I-母 3, 4, 16 「エ」に近い音の区別, 綴り I-母 11, 12, 13, 20 「オ」に近い音の区別, 綴り</li> <li>4. I-母 4, 5, 6, 8, 9, 10 「ア」に近い音の区別, 綴り</li> <li>5. I-母 17, 18, 19 二重母音, その他 復習 1</li> <li>6. I-子 1, 2, 3 閉鎖音の位置と呼気 p, t, k I-子 4/15, 5/6/7 摩擦音 f/h, v/b, s/th/sh の区別 I-子 6/9 摩擦音と破擦音 z/dz の区別</li> <li>7. I-子 3/12 語末の g/ng の区別 I-子 10/11/12 語末の m/n/ng の区別</li> <li>8. I-子 13/14 語頭, 母音間, 子音後の l/r の区別</li> <li>9. II-1, 2, 4, 5, 6 音変化, 弱形</li> <li>10. III-3 アクセント, リズム, イントネーション</li> <li>11. スピーチ(抑揚, 強弱, 速さ, ポーズ, 声色, 非言語)</li> <li>12. 復習 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『英語発音・聴き取りの基礎 - CD付』 杉野健太郎, Joseph Lauer, 朝日出版社。 その他 配布資料		毎回の授業における練習評価, 小テスト, 課題, 試験の総合評価による。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	スピーチ・クリニック	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：英語の基礎的な発音より始め、自然体の英語音の習得を目指す。</p> <p>概要：音声理論は補足説明に留め、学生の発音練習や、聴取訓練に時間を多くを費やす実践型の授業である。正確に音を聴取するため、LL教室を使う。</p> <p>出席は重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸法と発声法</li> <li>2. 高・前母音。      リズム</li> <li>3. 高・後母音。      リズム</li> <li>4. 開・中母音。      弱形</li> <li>5. 摩擦音—1。      弱形</li> <li>6. 摩擦音—2。      子音連続</li> <li>7. 無声・破裂音。    子音連続</li> <li>8. 破擦音。          ストレス</li> <li>9. 鼻音。              ストレス</li> <li>10. 側音。             イントネーション</li> <li>11. 母音+/r/。        イントネーション</li> <li>12. 二重母音。        接続</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		授業の平常点とテストの点の総合。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スピーチ・クリニック	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：英語の基礎的な発音より始め、自然体の英語音の習得を目指す。</p> <p>概要：音声理論は補足説明に留め、学生の発音練習や、聴取訓練に時間を多くを費やす実践型の授業である。正確に音を聴取するため、LL教室を使う。</p> <p>出席は重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸法と発声法</li> <li>2. 高・前母音。      リズム</li> <li>3. 高・後母音。      リズム</li> <li>4. 開・中母音。      弱形</li> <li>5. 摩擦音—1。      弱形</li> <li>6. 摩擦音—2。      子音連続</li> <li>7. 無声・破裂音。    子音連続</li> <li>8. 破擦音。          ストレス</li> <li>9. 鼻音。              ストレス</li> <li>10. 側音。             イントネーション</li> <li>11. 母音+/r/。        イントネーション</li> <li>12. 二重母音。        接続</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。		授業の平常点とテストの点の総合。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スピーチ・クリニック (3学期生以上用)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2年生以上で英語教員を目指す人を対象とする授業で、次のような目的で行う。</p> <p>① 英語の発音矯正を主な目的とする。その第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるように訓練する。</p> <p>② 英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際に役立つような指導方法を身につける。</p> <p><b>[講義概要]</b> 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。発音記号が読めて、書けることが必要。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。</p> <p>定員 20名の半期のコースである。定員を超えた場合は、抽選となる。</p>		<p>1. Introduction Lesson 1                      Stress</p> <p>2. Pre-Test Lessons 2-3                      Stops</p> <p>3. Lessons 4-5                      Stops and Fricatives</p> <p>4. Lessons 6-7                      Fricatives</p> <p>5. Lessons 8-9                      Nasals and Liquids</p> <p>6. Lessons 10-11                      Liquids and Semivowels</p> <p>7. Lessons 12-13                      Consonant Clusters Stress and Rhythm</p> <p>8. Lessons 14-15                      Front Vowels</p> <p>9. Lessons 16-17                      Central Vowels</p> <p>10. Lessons 18-19                      Back Vowels</p> <p>11. Lessons 20-21                      Diphthongs Obscure Vowels and Rhythm</p> <p>12. Lessons 22-23                      Intonation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
牧野勤 他: <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		期末試験に平常点(出席状況、アチーブメント・テスト、ミニ実習の結果)を加味する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スピーチ・クリニック (3学期生以上用)	担当者	清水 由理子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2年生以上で英語教員を目指す人を対象とする授業で、次のような目的で行う。</p> <p>① 英語の発音矯正を主な目的とする。その第一歩として、聞き取りの力をつける。音、強勢、抑揚の違いの聞き分けとそれを実際に発音できるように訓練する。</p> <p>② 英語教育の現場で生徒に英語の発音を教える際に役立つような指導方法を身につける。</p> <p><b>[講義概要]</b> 英語の単音・音のつながり・強勢とリズム・抑揚についての特徴と発音の仕方の要点を把握し、実際に練習する。発音記号が読めて、書けることが必要。毎回、診断テストとアチーブメント・テストを行うので、その結果を参考にして自分の苦手な部分を課外にも十分練習することが求められる。</p> <p>定員 20名の半期のコースである。定員を超えた場合は、抽選となる。</p>		<p>1. Introduction Lesson 1                      Stress</p> <p>2. Pre-Test Lessons 2-3                      Stops</p> <p>3. Lessons 4-5                      Stops and Fricatives</p> <p>4. Lessons 6-7                      Fricatives</p> <p>5. Lessons 8-9                      Nasals and Liquids</p> <p>6. Lessons 10-11                      Liquids and Semivowels</p> <p>7. Lessons 12-13                      Consonant Clusters Stress and Rhythm</p> <p>8. Lessons 14-15                      Front Vowels</p> <p>9. Lessons 16-17                      Central Vowels</p> <p>10. Lessons 18-19                      Back Vowels</p> <p>11. Lessons 20-21                      Diphthongs Obscure Vowels and Rhythm</p> <p>12. Lessons 22-23                      Intonation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
牧野勤 他: <i>New Approach to English Pronunciation</i> , 愛育社		期末試験に平常点(出席状況、アチーブメント・テスト、ミニ実習の結果)を加味する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 「読む・書く・聞く・話す」の4技能すべてに必要な基本的文法事項を復習し、総合的英語力の基礎を固める。また、学習項目は文字上で分析的に覚えるのみでなく口頭で暗記し、学習の定着を図り、実践的なリスニング/スピーキングの能力の向上を目指す。</p> <p><b>講義概要</b> 授業では、文法項目ごとに確認しながら問題集を解く練習をし、また文法項目以外に使われている語彙・イディオム・表現などを総合的に学習する。 毎回、問題解答や口頭暗記などの課題が出される。自主的な授業参加が求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation, Chapter 1    Parts of Speech</li> <li>2. Chapters 2 and 3        Intransitive/Transitive Verbs</li> <li>3. Chapters 4                Phrasal Verbs</li> <li>4. Chapters 5 and 6        Nouns, Pronouns</li> <li>5. Chapters 7 and 8        Adjectives, Adverbs</li> <li>6. Chapters 9 and 10       Articles, Auxiliary Verbs</li> <li>7. Chapters 11, 12 and 13   Tenses, Aspects</li> <li>8. Chapters 14 and 15      Infinitives, Gerunds</li> <li>9. Chapters 16 and 17      Participles, Relative Clauses</li> <li>10. Chapters 18 and 19     Comparison, Passive</li> <li>11. Chapters 20 and 21     Prepositions, Conjunctions</li> <li>12. Chapters 22, 23 and 24   Negative, Conditionals    Narration, Inversion, etc.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『TOEIC®に効くやさしい英文法 Easy English Grammar for the TOEIC® Test』小中英彦, 青踏社.		毎回の授業参加、課題、小テスト、試験の総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 「読む・書く・聞く・話す」の4技能すべてに必要な基本的文法事項を復習し、総合的英語力の基礎を固める。また、学習項目は文字上で分析的に覚えるのみでなく口頭で暗記し、学習の定着を図り、実践的なリスニング/スピーキングの能力の向上を目指す。</p> <p><b>講義概要</b> 授業では、文法項目ごとに確認しながら問題集を解く練習をし、また文法項目以外に使われている語彙・イディオム・表現などを総合的に学習する。 毎回、問題解答や口頭暗記などの課題が出される。自主的な授業参加が求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation, Chapter 1    Parts of Speech</li> <li>2. Chapters 2 and 3        Intransitive/Transitive Verbs</li> <li>3. Chapters 4                Phrasal Verbs</li> <li>4. Chapters 5 and 6        Nouns, Pronouns</li> <li>5. Chapters 7 and 8        Adjectives, Adverbs</li> <li>6. Chapters 9 and 10       Articles, Auxiliary Verbs</li> <li>7. Chapters 11, 12 and 13   Tenses, Aspects</li> <li>8. Chapters 14 and 15      Infinitives, Gerunds</li> <li>9. Chapters 16 and 17      Participles, Relative Clauses</li> <li>10. Chapters 18 and 19     Comparison, Passive</li> <li>11. Chapters 20 and 21     Prepositions, Conjunctions</li> <li>12. Chapters 22, 23 and 24   Negative, Conditionals    Narration, Inversion, etc.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『TOEIC®に効くやさしい英文法 Easy English Grammar for the TOEIC® Test』小中英彦, 青踏社.		毎回の授業参加、課題、小テスト、試験の総合評価による。	

03年度以降 02年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日常会話に必要な文法を、(1) 文法事項を盛り込んだ対話と、(2) 基本文法の簡潔な説明と、(3) 日常会話で使われる英文から成る練習問題を通じて体得することを目指す。動詞の時制・完了相・進行相・受動態・仮定法、助動詞、動名詞・不定詞、現在分詞・過去分詞、関係代名詞・関係副詞を学ぶ。</p>		<p>1 Unit 7. Tenses 2 Unit 8. Auxiliaries 3 Unit 9. Perfectives 4 Unit 10. Progressives 5 Unit 11. Passives 6 Unit 12. Subjunctives 7 Unit 13. Gerunds and Infinitives 8 Unit 14. Participles 9 Unit 15. Relative Pronouns 10 Unit 16. Relative Adverbs 11 復習 12 予備日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：English Grammar for Communication by Minoru Ohtsuki and Lena Vedahl. 南雲堂 ¥1,800 参考文献：江川泰一郎著「英文法解説」(改訂三版) 金子書房 ¥1,700</p>		<p>期末テストと平常点で評価する。</p>	

03年度以降 02年度	ベーシック・カレッジ・グラマー ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：English Grammar for Communication by Minoru Ohtsuki and Lena Vedahl. 南雲堂 ¥1,800 参考文献：江川泰一郎著「英文法解説」(改訂三版) 金子書房 ¥1,700</p>		<p>期末テストと平常点で評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>正直に告白します。私は文法が大の苦手です。「なぜ、こうなのか、と聞かれて、うまく説明できないのです。」それでも、TOEIC や TOEFL の点数は満点近いものを持っています。</p> <p>まず、文法は苦手でも、英語は出来るようになる、と自己暗示をかけてください。次に、学習は毎週の積み重ねだとあきらめて、毎回、予習、復習を欠かさず出席しましょう。</p> <p>私もこれを機会に、皆さんと文法を体系的に勉強しようと思っています。</p> <p>一緒にがんばりましょう。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
売店に私の名前、クラスで指定されているものを確認して、初回の授業前に必ず購入してください。		授業中の小テストと期末試験の総合による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	ベーシック・カレッジ・グラマー	担当者	白鳥 正孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今日「書く、話す」英語へと流れが大きくシフトしている。そんな中で、つい英文法の基礎がなおざりにされ勝ちです。本講は、大学生として相応しい英語を書き、話す為にも基本的に必要と思われる文法知識をおさらいし、かつ、しっかり身につけることを目的とします。併せてTOEICの文法への攻略もめざします。</p> <p>上記目的に則り、22項目の文法事項(右の授業計画参照)を、毎週だいたい2項目づつ進める。あくまでも問題を沢山こなすことにより、自然と身につくことを心掛ける。</p> <p>参考文献 安井稔 『英文法総覧』 開拓社 昭和 59年</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、単純現在</li> <li>2. 現在進行形・単純過去・過去進行形</li> <li>3. 現在完了 1・2</li> <li>4. 受動態 1・2</li> <li>5. 助動詞 1・2</li> <li>6. 助動詞 3、仮定法 1</li> <li>7. 仮定法 2・形容詞</li> <li>8. 比較 1・2</li> <li>9. 動名詞 1. 2</li> <li>10. 不定詞 1・2</li> <li>11. 関係詞節 1・2</li> <li>12. 関係詞 3、総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
田口悦男・Kirsten Snipp 『自然に身につく英文法』朝日出版社 2004年		10点満点の毎回の小テストの積み重ねによる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (The Art of Teaching) 英語専門講読 (The Art of Teaching)	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to give students the chance to better understand the art of teaching.</p> <p>In this first term, we will read and consider more deeply the role of the teacher--What makes a good teacher? What should one know, do, and be?--These are some of the questions we hope to answer in this term.</p> <p>In order to gain a more rounded view of the reading, supplementary material and activities will be used. Major among these is the use of video film. Two videos portraying examples of teachers and teaching will be shown.</p> <p>Students are expected to observe the videos, while concurrently filling out a prepared worksheet dealing with some of the issues from the reading.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Theme: The teacher: Rewards and difficulties (p.8-11).</p> <p>Week 2: Theme: The qualities of a good teacher: Knowing and liking the subject (p.12-24).</p> <p>Week 3: Theme: The qualities of a good teacher: Liking the pupils (p.25-32).</p> <p>Week 4: Theme: The qualities of a good teacher: Knowing the pupils (p.33-47).</p> <p>Week 5: Theme: The qualities of a good teacher: Knowing other things (p.48-56).</p> <p>Week 6: Theme: The abilities of a good teacher (p.57-65).</p> <p>Week 7: Video and worksheet.</p> <p>Week 8: Review of 1<sup>st</sup> half of term.</p> <p>Week 9: Theme: Great teachers, part I (p.154-188).</p> <p>Week 10: Theme Theme: Great teachers, part II (p.189-233).</p> <p>Week 11: Video and worksheet.</p> <p>Week 12 Review of 2<sup>nd</sup> half of term.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hight, G., <i>The Art of Teaching</i> . (Vintage). Handouts.		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (The Art of Teaching) 英語専門講読 (The Art of Teaching)	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to give students the chance to better understand the art of teaching.</p> <p>In this second term, we will read and consider more deeply some of the methods traditionally used by the teacher--What does a teacher do to teach? How do students learn from these?--These are some of the questions we hope to answer in this term.</p> <p>In order to gain a more rounded view of the reading, supplementary material and activities will be used. Major among these is the use of video film. Two videos portraying examples of teachers and teaching will be shown.</p> <p>Students are expected to observe the videos, while concurrently filling out a prepared worksheet dealing with some of the issues from the reading.</p> <p>As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Introduction. Theme: The Teacher's methods: Planning (p.66-79).</p> <p>Week 2: Theme: Renewal of material (p.80-85).</p> <p>Week 3: Theme: Lecturing, part I (p.86-96).</p> <p>Week 4: Theme: Lecturing, part II (p.97-106).</p> <p>Week 5: Theme: Tutoring (p.107-115).</p> <p>Week 6: Video and worksheet.</p> <p>Week 7: Review of 1<sup>st</sup> half of term.</p> <p>Week 8: Theme: Recitation, part I (p.116-128).</p> <p>Week 9: Theme: Recitation, part II (p.129-145).</p> <p>Week 10: Theme: Fixing the impression (p.146-153).</p> <p>Week 11: Video and worksheet.</p> <p>Week 12 Review of 2<sup>nd</sup> half of term.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hight, G., <i>The Art of Teaching</i> . (Vintage). Handouts.		Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Second Language Acquisition) 英語専門講読 (Second Language Acquisition)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course we will study how second languages are learned. We will not focus so much on how second languages should be taught. We will deal with the nature of learner language, known as Interlanguage, and how it changes over time. Various aspects of Interlanguage will be studied: social aspects, discourse aspects, psycholinguistic aspects and linguistic aspects. We will also study individual differences in second language learning, and how classroom instruction can affect the process of language acquisition.</p> <p>As well as reading the textbook, students will study excerpts from well-known articles in the field of second language acquisition, and write a number of short papers on some of the topics studied.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Definition of second language acquisition</li> <li>2. Texts 1 &amp; 2: R. Schmidt &amp; R. Ellis</li> <li>3. The nature of learner language I</li> <li>4. The nature of learner language II</li> <li>5. Texts 3 &amp; 4: P. Corder &amp; H. Cancino</li> <li>6. Interlanguage</li> <li>7. Social aspects of interlanguage I</li> <li>8. Social aspects of interlanguage II</li> <li>9. Text 8: J. Schumann</li> <li>10. Discourse aspects of interlanguage I</li> <li>11. Discourse aspects of interlanguage II</li> <li>12. Texts 10, 11 &amp; 12: S. Krashen, M. Long &amp; M. Swain</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Second Language Acquisition Rod Ellis Oxford Introductions to Language Study		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of short papers and a final examination.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Second Language Acquisition) 英語専門講読 (Second Language Acquisition)	担当者	T. Hill
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course we will study how second languages are learned. We will not focus so much on how second languages should be taught. We will deal with the nature of learner language, known as Interlanguage, and how it changes over time. Various aspects of Interlanguage will be studied: social aspects, discourse aspects, psycholinguistic aspects and linguistic aspects. We will also study individual differences in second language learning, and how classroom instruction can affect the process of language acquisition.</p> <p>As well as reading the textbook, students will study excerpts from well-known articles in the field of second language acquisition, and write a number of short papers on some of the topics studied.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Psycholinguistic aspects of interlanguage I</li> <li>2. Psycholinguistic aspects of interlanguage II</li> <li>3. Texts 14 &amp; 15: E. Kellerman &amp; R. Schmidt</li> <li>4. Linguistic aspects of interlanguage I</li> <li>5. Linguistic aspects of interlanguage II</li> <li>6. Text 17 &amp; 18: M. Long &amp; L. White</li> <li>7. Individual differences in L2 acquisition I</li> <li>8. Individual differences in L2 acquisition II</li> <li>9. Texts 20 &amp; 21: G. Crookes &amp; R. Oxford</li> <li>10. Instruction and L2 acquisition I</li> <li>11. Instruction and L2 acquisition II</li> <li>12. Text 22: P. Lightbown</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Second Language Acquisition Rod Ellis Oxford Introductions to Language Study		Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of short papers and a final examination.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語専門講読 a (Exploring Learning) 英語専門講読 (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>HOW YOU LEARN WITH OTHERS</b> will be the main topic for this advanced class. You can experiment with learning in many ways and then discuss these in your recordings. Starting the second week you can be recorded having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can show how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, group dynamics, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can ENJOY learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes OUTSIDE, learn to JUGGLE, call each other on our cell phones and get used to USING English outside of class in our everyday lives.</p> <p>A Dokkyo E-mail MAILING LIST will be used for this class to mail newsletters and reading material. Students are expected to check their email accounts regularly. Note: keitai accounts cannot be used.</p>		<p><b>Weeks</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and tentative syllabus</li> <li>2. Video 1 Five ways I like to learn</li> <li>3. Video 2 Helpful Friends &amp; Classmates</li> <li>4. Video 3 Learning New Strategies</li> <li>5. Video 4 Mistake stories</li> <li>6. Video 5 Group Dynamics</li> <li>7. Video 6 Quick Writes</li> <li>8. Video 7 Topics to be determined</li> <li>9. Video 8 Topics to be determined</li> <li>10. Video 9 Topics to be determined</li> <li>11. Video 10 Topics to be determined</li> <li>12. Video 11 My Progress This Semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>Required Texts</b> 1) (1998). <i>Language Hungry!</i> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語専門講読 b (Exploring Learning) 英語専門講読 (Exploring Learning)	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Please note:</b> This class has an English Mostly policy— students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your WILLINGNESS to try to speak in English is.</p> <p>The reading load for this class is 10 to 20 pages a week, but the books are relatively easy.</p> <p><u>Comment from a student last year</u> "Videoring our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot." For more information see <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm</a></p>		<p><b>September (Fall Semester) Weeks</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Video 1 Summer vacation</li> <li>2. Video 2 Jobs</li> <li>3. Video 3 Extensive Reading</li> <li>4. Video 4 Being Someone Else</li> <li>5. Video 5 Language Learning History</li> <li>6. Video 6 MOVIE Rapa Nui</li> <li>7. Video 7 Topics to be determined</li> <li>8. Open Variation</li> <li>9. Video 8 Class Reunion</li> <li>10. Video 9 Random Acts of Kindness</li> <li>11. Video 10 Review of books</li> <li>12. Video 11 My Progress This semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE		SAME EVALUATION SYSTEM and TEXTS AS ABOVE	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (音声学入門) 英語専門講読 (音声学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 音声学と音韻論の入門書を講読し、英語やその他の言語の音や音声学・音韻論についての基礎知識を学ぶ。また、英語や日本語などの音声に関連した言語現象について読み、言語や音声に対する興味を開拓し、分析的な視点を養う。 専門的な内容について精読する訓練をする。</p> <p><b>講義概要</b> 各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となる。授業においては担当発表者がハンドアウト(配布資料)やパワーポイントを使用して内容を発表する。これについて質疑応答・議論を行う。 「専門講読入門」(担当者同じ)でも音声を扱っているが、本科目で使用するテキストの方がより詳細であり、また音響的な面や音韻素性についても導入されており、専門性が増している。よって、既に「専門講読入門」で音声に関する科目を受講した学生にとっては、本書は確認とさらなる発展となる。また、受講したことがない学生も充分学べるように丁寧な解説がされている。 秋学期後半には、具体的な音声現象について書かれた短い論文・概説を読み、音声の面白さを少し感じてもらえればと思う。</p> <p><b>メッセージ</b> リーディング課題は、最初は苦しいかもしれないが、少しずつ慣れていけるはずである。読んでいるかどうか少しずつチェックをする予定なので、是非チャレンジしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Ch-2: Introduction to articulatory phonetics 調音音声学とは 2.1 気流, 声帯, 口腔/鼻腔,</li> <li>3. 2.1 調音位置, 調音方法, 2.2 音声分類, 2.3 分節音/超分節音, 2.4 母音/子音 Exercise 1</li> <li>4. Ch-3: Consonants 子音 3.1 閉鎖音</li> <li>5. 3.2 破擦音, 3.3 摩擦音</li> <li>6. 3.4 鼻音, 3.5 流音, 3.6 わたり音 Exercise 2</li> <li>7. Ch-4: Vowels 母音 4.1 分類, 4.2 基本母音, 4.3 他の分類</li> <li>8. 4.4 英語の母音</li> <li>9. 4.5 英語のバリエーション Exercise 3</li> <li>10. Ch-5: Acoustic Phonetics 音響音声学 5.1 波形, 周期性, 周波数/強度/持続時間/音質</li> <li>11. 5.2 音声波形, 共鳴音/母音/, 音質(母音/鼻音/r), 子音, 子音-音声連続,</li> <li>12. VOT, 知覚</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Introducing Phonetics &amp; Phonology</i> , M. Davenport & S. J. Hannahs, Arnold, 1998. その他 配布資料		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (音声学入門) 英語専門講読 (音声学入門)	担当者	青柳 真紀子
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Ch-6: Features 素性 6.1 分節音の構成, 二項素性, 6.2 音韻素性</li> <li>2. 6.3 素性の色々 (Major class/Consonantal/Place/Manner)</li> <li>3. Ch-7: Phonemic analysis 音素分析 7.1 音素と異音, 7.2 最小対, 相補分布, 自由変異,</li> <li>4. 7.3 基底-表層</li> <li>5. Exercise 1</li> <li>6. Ch-8: Phonological alternations, processes and rules</li> <li>7. 8.1 音韻交替, 過程, 規則 8.2 交替の要因(音声, 形態, 語彙)</li> <li>8. 8.3 音韻規則</li> <li>9. Exercise 2</li> <li>10. Supplemental Reading (モーラと音節, 音韻と音声)</li> <li>11. Supplemental Reading (アクセント, 音韻と音声)</li> <li>12. Supplemental Reading (母音の無声化, 音韻と音声)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Introducing Phonetics &amp; Phonology</i> , M. Davenport & S. J. Hannahs, Arnold, 1998. その他 配布資料		発表、授業参加(準備・参加)、小テスト、試験の総合評価による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p>You are responsible for ordering the coursebook online by yourselves.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Language and language learning</li> <li>3. Classroom management</li> <li>4. Listening 1</li> <li>5. Listening 2</li> <li>6. Speaking 1</li> <li>7. Speaking 2</li> <li>8. Pronunciation 1</li> <li>9. Pronunciation 2</li> <li>10. Presentations</li> <li>11. Presentations</li> <li>12. Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
D. Nunan, <u>Practical English Language Teaching</u> (McGraw Hill), 講義支援システム使用		class participation, reading assignments and projects	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p>All the coursework will be conducted in English. You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher-training course.</p> <p>You are responsible for ordering the coursebook online by yourselves.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Grammar 1</li> <li>3. Grammar 2</li> <li>4. Vocabulary 1</li> <li>5. Vocabulary 2</li> <li>6. Reading 1</li> <li>7. Reading 2</li> <li>8. Writing 1</li> <li>9. Writing 2</li> <li>10. Presentations</li> <li>11. Presentations</li> <li>12. Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
D. Nunan, <u>Practical English Language Teaching</u> (McGraw Hill), 講義支援システム使用		class participation, reading assignments and projects	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (英語音を学ぶ) 英語専門講読 (英語音を学ぶ)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的: 英語は異なった地域で、異なった人々が使っている。それは地域、社会の経済的階級、年齢、性別、民族、あるいは歴史などさまざまな異なった状況、環境との関わりを意味する。ここでは社会との繋がりの中で英語の音声面の構造、変化を観察、考察する。</p> <p>概要: 授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明で進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Social variability</li> <li>2. Dialect and accent</li> <li>3. Traditional-dialect</li> <li>4. Geographical variation</li> <li>5. Socio-economic class</li> <li>6. Sex, ethnicity</li> <li>7. Age: the time dimension</li> <li>8. Styles and roles</li> <li>9. Perceiving a stereotype</li> <li>10. Projecting an image</li> <li>11. Standards</li> <li>12. Systematic research</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末の試験の点と平常点の総合	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (英語音を学ぶ) 英語専門講読 (英語音を学ぶ)	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的: 社会との繋がりの中で英語の音声面の構造、変化を考察する。</p> <p>概要: 授業は学生の輪読と、担当者の語句、内容の説明で進める。極力、多くの学生に当てたいので、十分、予習し、遅刻、欠席のないように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Phonology</li> <li>2. The taxonomic-phonemic mode</li> <li>3. Phonetic similarity</li> <li>4. Non-contrastive distribution</li> <li>5. Affricates and diphthongs</li> <li>6. The phonological word</li> <li>7. Multiple complementation</li> <li>8. Neutralization</li> <li>9. Taxonomic phonemics</li> <li>10. Phonological rules</li> <li>11. Natural classes</li> <li>12. Optional rules</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		期末の試験の点と平常点の総合	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (『ヨブ記』を Revised Version で読む) 英語専門講読 ( 同 上 )	担当者	川崎 潔																																				
講義目的、講義概要		授業計画																																					
<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書である。AV は先行する英訳聖書の粋を集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語原典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で読むことにしたい。Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教文学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version (1881-85年出版) は用語や文体がほぼ AV に似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version (新旧両訳 1952) や New English Bible (新旧両訳・外典 1970) と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>Chapter</td><td>I</td></tr> <tr><td>2</td><td>Chapter</td><td>I</td></tr> <tr><td>3</td><td>Chapter</td><td>II</td></tr> <tr><td>4</td><td>Chapter</td><td>II・III</td></tr> <tr><td>5</td><td>Chapter</td><td>III</td></tr> <tr><td>6</td><td>Chapter</td><td>IV</td></tr> <tr><td>7</td><td>Chapter</td><td>V</td></tr> <tr><td>8</td><td>Chapter</td><td>V・VI</td></tr> <tr><td>9</td><td>Chapter</td><td>VI</td></tr> <tr><td>10</td><td>Chapter</td><td>VII</td></tr> <tr><td>11</td><td>Chapter</td><td>VIII</td></tr> <tr><td>12</td><td>予備日</td><td></td></tr> </table>		1	Chapter	I	2	Chapter	I	3	Chapter	II	4	Chapter	II・III	5	Chapter	III	6	Chapter	IV	7	Chapter	V	8	Chapter	V・VI	9	Chapter	VI	10	Chapter	VII	11	Chapter	VIII	12	予備日	
1	Chapter	I																																					
2	Chapter	I																																					
3	Chapter	II																																					
4	Chapter	II・III																																					
5	Chapter	III																																					
6	Chapter	IV																																					
7	Chapter	V																																					
8	Chapter	V・VI																																					
9	Chapter	VI																																					
10	Chapter	VII																																					
11	Chapter	VIII																																					
12	予備日																																						
テキスト、参考文献		評価方法																																					
<p>小林清一 注釈：The Book of Job, 南雲堂          浅野順一 『ヨブ記 注解』 I、II、III、IV、創文社          浅野順一 『ヨブ記—その今日への意義』 岩波新書</p>		<p>期末テストと平常点によって評価する。</p>																																					

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (『ヨブ記』を Revised Version で読む) 英語専門講読 ( 同 上 )	担当者	川崎 潔																																				
講義目的、講義概要		授業計画																																					
同上		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>Chapter</td><td>IX</td></tr> <tr><td>2</td><td>Chapter</td><td>X</td></tr> <tr><td>3</td><td>Chapter</td><td>X I</td></tr> <tr><td>4</td><td>Chapter</td><td>X II</td></tr> <tr><td>5</td><td>Chapter</td><td>X II・X III</td></tr> <tr><td>6</td><td>Chapter</td><td>X III</td></tr> <tr><td>7</td><td>Chapter</td><td>X IV</td></tr> <tr><td>8</td><td>Chapter</td><td>X X X VIII</td></tr> <tr><td>9</td><td>Chapter</td><td>X X X VIII</td></tr> <tr><td>10</td><td>Chapter</td><td>X L</td></tr> <tr><td>11</td><td>Chapter</td><td>X L II</td></tr> <tr><td>12</td><td>予備日</td><td></td></tr> </table>		1	Chapter	IX	2	Chapter	X	3	Chapter	X I	4	Chapter	X II	5	Chapter	X II・X III	6	Chapter	X III	7	Chapter	X IV	8	Chapter	X X X VIII	9	Chapter	X X X VIII	10	Chapter	X L	11	Chapter	X L II	12	予備日	
1	Chapter	IX																																					
2	Chapter	X																																					
3	Chapter	X I																																					
4	Chapter	X II																																					
5	Chapter	X II・X III																																					
6	Chapter	X III																																					
7	Chapter	X IV																																					
8	Chapter	X X X VIII																																					
9	Chapter	X X X VIII																																					
10	Chapter	X L																																					
11	Chapter	X L II																																					
12	予備日																																						
テキスト、参考文献		評価方法																																					
同上		同上																																					

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (英語の文の統語的特徴と階層構造) 英語専門講読 (英語の文の統語的特徴と階層構造)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> 英語の文を構成する要素がどのような階層構造を形成するかという問題を、全ての種類の言語要素が三つの階層を形成するという仮説に基づいた研究成果を読みながら、英語の統語構造の特徴を学習する。</p> <p><b>講義概要:</b> 言語を構成する文はいずれも、語(または言語音)の連続から構成されるが、同時にそのような語の連続は構造をなしているということは20世紀の言語学の重要な発見の一つである。文を構成する語句の線状的配列と語句の種類(範疇)と語句が構成する構造は、語・句の強勢と文の音調だけでなく文の意味解釈を決定するためにも重要である。</p> <p>ここでテキストとして使用するJackendoffの<i>X<sub>E</sub>-Syntax</i>という著書は、語彙論仮説(Lexicalist Hypothesis)に基づいて英語の文に現れる様々な語句の構造上の特徴を、多くの例を用いながら明示し、それに基づいて、英語の文構造を説明する句構造規則に関する仮説を提案している。</p> <p>形容詞と名詞の関係や形容詞と副詞の類似性を例証しながら、それに基づいて統語的弁別的素性句や規則式型(rule schema)を用いて句構造を規定する方法を検討している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Chomsky's development of X<sub>E</sub>-Convention</li> <li>2. Differences between gerundive and derived nominals</li> <li>3. Proposal of Lexicalist Hypothesis</li> <li>4. Relation between adjectives and nouns</li> <li>5. Explaining the relation with Lexicalist Hypothesis</li> <li>6. Similarities between adjectives and adverbs</li> <li>7. Explaining the similarities with Lexicalist Hypothesis</li> <li>8. Theory of Phrase Structure</li> <li>9. Reformulation of X<sub>E</sub>-Convention</li> <li>10. Formulation with syntactic distinctive features</li> <li>11. Formulation with rule schema</li> <li>12. Generalized subject relation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Ray Jackendoff(1977) <i>X<sub>E</sub>-Syntax</i>. MIT Press. 参考文献: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社. 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法』研究社. 長谷川欣佑・他(著)『文(1)』研究社.</p>		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (英語の文の統語的特徴と階層構造) 英語専門講読 (英語の文の統語的特徴と階層構造)	担当者	鈴木 英一
講義目的・講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b>(春学期と同じ) 英語の文を構成する要素がどのような階層構造を形成するかという問題を、全ての種類の言語要素が三つの階層を形成するという仮説に基づいた研究成果を読みながら、英語の統語構造の特徴を学習する。</p> <p><b>講義概要:</b>(春学期の続き) Jackendoffの<i>X<sub>E</sub>-Syntax</i>は、メタ理論的な面では、変形規則が語の内部に影響を与えることはできず語は語彙目録(辞書)で規定されるという語彙論仮説(Lexicalist Hypothesis)を主張しながら、全ての句が主要部(head)と補部(complement)と指定辞(specifier)という三つの要素から構成されるとともに、三つの階層を形成しているという仮説を提案している。</p> <p>“three levels of complements”というのは三つの階層レベルに生ずる補部のことであり、例えば、“V<sub>E</sub> complements”, “V<sub>E</sub>È complements”はそれぞれV<sub>E</sub>とV<sub>E</sub>Èというレベルの補部のことであり、また、“N<sub>E</sub> complements”, “N<sub>E</sub>È complements”はそれぞれN<sub>E</sub>とN<sub>E</sub>Èというレベルの補部のことであり。</p> <p>指定辞(specifier)としては、article(冠詞), quantifier(限量詞), numeral(数詞), partitive construction(部分名詞句構造)などを取り上げて説明している。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Treatment of the complementizers</li> <li>2. Position of the auxiliaries</li> <li>3. Three levels of complements</li> <li>4. V<sub>E</sub> complements</li> <li>5. N<sub>E</sub> complements</li> <li>6. V<sub>E</sub>È complements</li> <li>7. N<sub>E</sub>È complements</li> <li>8. Complements of adjectives, adverbs and prepositions</li> <li>9. Articles and quantifiers as NP specifier</li> <li>10. Partitive construction</li> <li>11. Pseudopartitive structure</li> <li>12. Numeral</li> </ol>	
テキスト・参考文献		評価方法	
<p>テキスト: Ray Jackendoff(1977) <i>X<sub>E</sub>-Syntax</i>. MIT Press. 参考文献: 鈴木英一(著)『統語論』開拓社. 長谷川欣佑(著)『生成文法の方法』研究社. 長谷川欣佑・他(著)『文(1)』研究社.</p>		出席状況、授業の予習、授業中の発表、期末試験の成績を総合して評価する。なお、単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Language Learning) 英語専門講読 (Language Learning)	担当者	鈴木 真奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to give you an overview of language learning.</p> <p>In the spring semester, we will study theories of language learning. You are expected to reflect on your first and second language learning through this course work.</p> <p>You will present a topic once in each semester. You need to prepare a handout for your presentation. You will read, write, think and talk about weekly topics in English.</p> <p>You are expected to make a good learning community through participation in this class.</p> <p>You will take a quiz of reading comprehension and vocabulary from reading assignments at the beginning of every class.</p> <p>We will use e-mail as a means of our communication outside the classroom.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction/ Overview</li> <li>2. Learning a First Language</li> <li>3. Theories of Second Language Learning I (Behaviorism; Innatism)</li> <li>4. Theories of Second Language Learning II (Information processing, Connectionism)</li> <li>5. Theories of Second Language Learning III (Sociocultural theory)</li> <li>6. Sociolinguistic Perspectives</li> <li>7. Input and Krashen's Input Hypothesis</li> <li>8. Swain's Comprehensible Output Hypothesis</li> <li>9. Interaction in Second Language Learning</li> <li>10. Role of Instruction (Feedback)</li> <li>11. Role of Instruction (Focus on Form)</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lightbown, P. M., Spada, N. (1999). How Languages are Learned (Rev. ed.). Oxford: Oxford University Press.		Weekly quizzes, assignments, presentation and its handout, class participation, and final written examination	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Language Learning) 英語専門講読 (Language Learning)	担当者	鈴木 真奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the fall semester, we will mainly learn individual differences in language learning. Then, we will discuss controversial issues of language learning. We will explore effective language learning through this course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review/ Introduction</li> <li>2. Individual Differences I (Intelligence; Aptitude)</li> <li>3. Individual Differences II (Personality; Motivation)</li> <li>4. Individual Differences III (Learner Preference; Learner Belief)</li> <li>5. Individual Differences IV (Critical Period Hypothesis)</li> <li>6. Interlanguage (Developmental Sequences)</li> <li>7. Natural and Instructional Settings</li> <li>8. Second Language Learning in the Classroom I</li> <li>9. Second Language Learning in the Classroom II</li> <li>10. Discussion on Language Learning I</li> <li>11. Discussion on Language Learning II</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lightbown, P. M., Spada, N. (1999). How Languages are Learned (Rev. ed.). Oxford: Oxford University Press.		Weekly quizzes, assignments, presentation and its handout, class participation, and final written examination	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (ニュースやスピーチのスク립トを読む) 英語専門講読 (ニュースやスピーチのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。当講義の目的は、英語でのニュース・スピーチ・インタビュー等を聴いて理解できるようにするためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを読んでいく。</p>		未定	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席による 平常の授業にて評価を行い、試験などはない	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 b (ニュースやスピーチのスク립トを読む) 英語専門講読 (ニュースやスピーチのスク립トを読む)	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。当講義の目的は、英語でのニュース・スピーチ・インタビュー等を聴いて理解できるようにするためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスク립トを読んでいく。</p>		未定	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回ごとにスク립トのプリントを使用		出席による 平常の授業にて評価を行い、試験などはない	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (語彙意味論入門) 英語専門講読 (語彙意味論入門)	担当者	福田 有美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>意味論・語用論・語法・形態論に関する題材を通して、英語という言語を科学的に観察・分析するとはどういうことかを学ぶ。実際の語用を多く例にとった言語理論研究の成果を紹介する。英語の語法を理論言語学の枠組みで解明し、外界認識の仕方、発想の仕方に迫り、言語と人間のほかの認知システムとの関係への理解を深めたい。</p> <p>日英語の具体例を取り上げながら、その奥に潜む原理を明らかにしていくこと姿勢を読み取りたい。</p>		<p>受講生が各章を担当し、テキストを読み解いていく(発表形式)活動と、関連論文の紹介(講読形式)を組み合わせる。</p> <p>1-2. Markedness 3-4 Opposites &amp; Negatives 5-6 Deixis 7-8 Orientations 9-10 Modal Verbs 11-12 <i>Spray/Load Verbs</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>10 Voyages in the Realms of Meaning</i>, Th. R. Hofmann &amp; T. Kageyama. くろしお出版(購入) <i>Verb Semantics and Syntactic Structure</i>, ed. by T. Kageyama. くろしお出版(必要箇所をプリントで配布)</p>		<p>定期試験(40%)、授業参加度(40%)、提出物(20%)をめやすとする</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (語彙意味論入門) 英語専門講読 (語彙意味論入門)	担当者	福田 有美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春) 学期より継続した内容と目的</p>		<p>受講生が各章を担当し、テキストを読み解いていく(発表形式)活動と、関連論文の紹介(講読形式)を組み合わせる。</p> <p>1-2 Time: Tense &amp; Aspect 3-4 Aspect in Verbs 5-6 Words to Sentences 7-8 Meaning &amp; Context 9-10 Combining Sentences 11-12 Verb Prefixation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>10 Voyages in the Realms of Meaning</i>, Th. R. Hofmann &amp; T. Kageyama. くろしお出版(購入) <i>Verb Semantics and Syntactic Structure</i>, ed. by T. Kageyama. くろしお出版(必要箇所をプリントで配布)</p>		<p>定期試験(40%)、授業参加度(40%)、提出物(20%)をめやすとする</p>	



03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語専門講読 a (統語論 (生成文法)) 英語専門講読 (統語論 (生成文法))	担当者	柚木一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 1980 年代～90 年代始めに書かれた生成文法に関する文献を読んで、理論の概要を把握することを目的とします。読んでいく論文としては、なるべく言語現象のデータが多く含まれるものを選ぶつもりなので、理論上のシステムに偏ることはないと思います：提示される興味深いデータに対して、「こうかな？それともこうかな？」という独自の説明・一般化へのアイデアが自分で出せるようになれば良いと思います。</p> <p>[講義概要] 毎回少しずつ、扱う論文のレポートを皆さんにしてもらいます。その中で、著者の分析・説明について議論できれば面白いと思います。専門的な事柄はもちろん私が解説します。 (春学期) は、句構造に関する論文を中心とします。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 句構造について</p> <p>3. </p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p> <p>7. 論文の輪読</p> <p>8. </p> <p>9.</p> <p>10.</p> <p>11.</p> <p>12. レポート提出</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示します。		レポートによります。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読 b (統語論 (生成文法)) 英語専門講読 (統語論 (生成文法))	担当者	柚木 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 上に同じ</p> <p>[講義概要] 毎回少しずつ、扱う論文のレポートを皆さんにしてもらいます。その中で、著者の分析・説明について議論できれば面白いと思います。専門的な事柄はもちろん私が解説します。 (私学期) は、移動現象に関する論文を中心とします。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2. 移動現象について</p> <p>3. </p> <p>4.</p> <p>5.</p> <p>6.</p> <p>7. 論文の輪読</p> <p>8. </p> <p>9.</p> <p>10.</p> <p>11.</p> <p>12. レポート提出</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内で指示します。		レポートによります。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Linguistic knowledge and second language acquisition) 英語専門講読 (同上)	担当者	米山 聖子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 本講義では、初級言語学の教科書を用い、以下の2つの点を学びます。1つ目は、米国の大学で用いられている教科書を正確に読み取るとともに、英語での理論の展開方法を学ぶことです。2つ目は、英語母国語話者が第二言語を学ぶためにどのように言語学的知識が役に立つかの知見にたつて書かれた教科書を理解することにより、第二言語としての英語の獲得に必要なことを学ぶことです。この講義は言語コミュニケーションや英語教育に興味のある学生、また、将来留学を希望し、英語で新しい知識の習得する訓練を試みる学生には特に有益です。</p> <p><b>講義概要:</b> 授業で用いる教科書は、オハイオ州立大学において、スペイン語、フランス語、日本語など、第二外国語を学ぶ学生が言語学的知識を用いて、それらの言語をどのように効果的に学ぶことを目標としているコースで用いられているものです。従って、受講者は言語学的知識を持っていることは前提としていません。授業は、担当者があらかじめ指定された範囲を十分検討した上で、パワーポイントを用いての発表を行います。また、受講者はその内容について討論を行ったり、関連のプロジェクトを行いながら、内容理解を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2</li> <li>4. Chapter 3</li> <li>5. Chapter 4</li> <li>6. Chapter 5</li> <li>7. Chapter 6</li> <li>8. Chapter 7</li> <li>9. Chapter 8</li> <li>10. Chapter 9</li> <li>11. Chapter 10</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>"Practical Linguistics", Peter Culicover &amp; Elizabeth Hume, (ms), Department of Linguistics, Ohio State University.</p>		<p>授業中の課題や宿題に対する評価、出席状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Linguistic knowledge and second language acquisition) 英語専門講読 (同上)	担当者	米山 聖子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 本講義では、初級言語学の教科書を用い、以下の2つの点を学びます。1つ目は、米国の大学で用いられている教科書を正確に読み取るとともに、英語での理論の展開方法を学ぶことです。2つ目は、英語母国語話者が第二言語を学ぶためにどのように言語学的知識が役に立つかの知見にたつて書かれた教科書を理解することにより、第二言語としての英語の獲得に必要なことを学ぶことです。この講義は言語コミュニケーションや英語教育に興味のある学生、また、将来留学を希望し、英語で新しい知識の習得する訓練を試みる学生には特に有益です。</p> <p><b>講義概要:</b> 授業で用いる教科書は、オハイオ州立大学において、スペイン語、フランス語、日本語など、第二外国語を学ぶ学生が言語学的知識を用いて、それらの言語をどのように効果的に学ぶことを目標としているコースで用いられているものです。従って、受講者は言語学的知識を持っていることは前提としていません。授業は、担当者があらかじめ指定された範囲を十分検討した上で、パワーポイントを用いての発表を行います。また、受講者はその内容について討論を行ったり、関連のプロジェクトを行いながら、内容理解を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期のまとめ</li> <li>2. Chapter 11</li> <li>3. Chapter 12</li> <li>4. Chapter 13</li> <li>5. Chapter 14</li> <li>6. Chapter 15</li> <li>7. Chapter 16</li> <li>8. Chapter 17</li> <li>9. Chapter 18</li> <li>10. Chapter 19</li> <li>11. Chapter 20</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>"Practical Linguistics", Peter Culicover &amp; Elizabeth Hume, (ms), Department of Linguistics, Ohio State University.</p>		<p>授業中の課題や宿題に対する評価、出席状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (English & American short stories) 英語専門講読(English & American short stories)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.</p> <p>The stories are chosen for their active ingredients: thought – provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and methods</li> <li>2. Sample reading</li> <li>3. First reading: comprehension</li> <li>4. (3) continued</li> <li>5.. Quiz, and start second reading</li> <li>6. continued (5)</li> <li>7. Discussion and comment</li> <li>8. Quiz 2. Next reading starts</li> <li>9. Study and compare writers</li> <li>10. Continued study</li> <li>11. Continued reading and study</li> <li>12. Final quiz, revisions, discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.		Quizzes and final report	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (English & American short stories) 英語専門講読(English & American short stories)	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Explanations</li> <li>2. Reading, comprehension</li> <li>3. Comparing and evaluating</li> <li>4. The author's world, the reader's</li> <li>5. Next reading</li> <li>6. Continued, discussion</li> <li>7. Student comments and ideas</li> <li>8. Hearing, seeing, reading a story</li> <li>9. Fiction vs. documentary</li> <li>10. Read, discuss and compare</li> <li>11. Read, revise, question time</li> <li>12. Last quiz. Exam preparations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Quizzes and final report	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (James Joyce) 英語専門講読 (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is intended to introduce students to the life and writings of James Joyce (1882-1941).</p> <p>In this term, we will:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Learn about Joyce's life</li> <li>2. Study the political, cultural, and religious currents of early 20<sup>th</sup> century Dublin and Europe and their function in Joyce's works.</li> <li>3. Consider the definition and significance of literary modernism and Joyce's role in the modernist movement.</li> <li>4. Begin reading Joyce's early works.</li> </ol>		<p>Each week, there will be a lecture and discussion on a different aspect of Joyce's work. Generally, we will follow this schedule:</p> <p>April: Biography and Influences</p> <p>May/June: "Dubliners."</p> <p>July: "A Portrait of the Artist as a Young Man."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307 Additional materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a></p>		<p>Grades will be determined based on two essays and two written exams.</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (James Joyce) 英語専門講読 (James Joyce)	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will our work on James Joyce, following the same procedures, with the same goals, as the first term.</p> <p>We will spend the majority of the term studying Joyce's most famous work, "Ulysses."</p> <p>We will spend a short time at the end of the term on his final and most enigmatic work, "Finnegans Wake."</p>		<p>September: Finish "A Portrait."</p> <p>October/November/December: "Ulysses."</p> <p>December: "Finnegans Wake."</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>The Portable James Joyce. Viking Press ISBN: 0140150307 Additional materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a></p>		<p>Grades will be determined based on two essays and two written exams.</p>	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語専門講読 a (Literature - A 20 <sup>th</sup> Century English Novel) 英語専門講読 (同上)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling an authentic literary work in English. As well as providing extensive practice in reading English, the work will raise wider questions about life and society, which we will discuss in class. Each week we will look at one section of the book. There will be comprehension exercises as well as discussion of some of the wider issues raised by the book.</p> <p>The text this year will be "Lord of the Flies," by British novelist William Golding. First published in 1954, it is considered to be one of the greatest English-language novels of the 20th century. The book tells the story of a group of young English boys who are stranded on a remote island after an air crash in which all the adults are killed. Through the story, Golding examines the relationship between human nature and society in an unforgettable way.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course outline: introduction to the author and the background of the book</li> <li>2. Reading and discussion</li> <li>3. Reading and discussion</li> <li>4. Reading and discussion</li> <li>5. Reading and discussion</li> <li>6. Mid-term test</li> <li>7. Reading and discussion</li> <li>8. Reading and discussion</li> <li>9. Reading and discussion</li> <li>10. Reading and discussion</li> <li>11. Reading and discussion</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Lord of the Flies" by William Golding		There will be a test at the end of each semester. Attendance and performance in class will also be considered when awarding the final grade.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語専門講読 b (Literature - A 20 <sup>th</sup> Century English Novel) 英語専門講読 (同上)	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling an authentic literary work in English. As well as providing extensive practice in reading English, the work will raise wider questions about life and society, which we will discuss in class. Each week we will look at one section of the book. There will be comprehension exercises as well as discussion of some of the wider issues raised by the book.</p> <p>The text this year will be "Lord of the Flies," by British novelist William Golding. First published in 1954, it is considered to be one of the greatest English-language novels of the 20th century. The book tells the story of a group of young English boys who are stranded on a remote island after an air crash in which all the adults are killed. Through the story, Golding examines the relationship between human nature and society in an unforgettable way.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of chapters covered so far</li> <li>2. Reading and discussion</li> <li>3. Reading and discussion</li> <li>4. Reading and discussion</li> <li>5. Reading and discussion</li> <li>6. Mid-term test</li> <li>7. Reading and discussion</li> <li>8. Reading and discussion</li> <li>9. Reading and discussion</li> <li>10. Reading and discussion</li> <li>11. Reading and discussion</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
"Lord of the Flies" by William Golding		There will be a test at the end of each semester. Attendance and performance in class will also be considered when awarding the final grade.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a(アメリカ詩-エミリー・ディキンソン) 英語専門講読 (アメリカ詩-エミリー・ディキンソン)	担当者	石塚 あおい
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1,775 に及ぶ詩を創作しながらも、生存中に世に示した作品は殆どなかったエミリー・ディキンソン(1830-86)だが、現在ではアメリカが生んだ偉大なる詩人のひとりとして認識されている。しかし、暗示的で濃縮された言葉によって構築された彼女の詩は不可解で、今でも多くの学生・学者が新解釈を試みようとする様々な角度から読んでいる。この授業では、難しい理論は抜きにして、彼女の短い詩の中に圧縮された深く強い思いを鑑賞したい。受講者に要求されるものは、想像力と「謎」を解きほぐそうとする意欲、そして彼女の言葉の可能性を追及するために英英/英和辞典と「にらめっこ」をする覚悟。10名の人が彼女の詩を読めば10通りの解釈が生まれると言われるほどである。受講者の新解釈に期待したい。</p>		<p>まず、ディキンソンの詩の「謎」を解くための大きなポイントとなる事実(時代背景や彼女の育った環境など)を講義する。そして、数編の詩の解釈例を示す。その後、毎週数名(受講者総数による)の学生が、あらかじめ指定された1篇の解釈を発表し、全員でディスカッションする。ディスカッションするためには、全受講者が同篇の解釈を試みて授業に臨むことが必要とされるのは言うまでもない。また、ディキンソンの「思い」をできるだけ理解するために、彼女が友人に宛てて書いた手紙の主だったものを読むと同時に、今までに発表されたディキンソンに関する国内外の研究論文を見る機会も持つ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>① テキスト(最初の授業で指示する) ② プリント 参考文献、辞書等に関しては、授業中に指示・紹介する。</p>		各期末のレポートと平常点(予習、授業における発言、及び出席率)により評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b(アメリカ詩-エミリー・ディキンソン) 英語専門講読 (アメリカ詩-エミリー・ディキンソン)	担当者	石塚 あおい
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (トランス・アトランティック入門(1)ー カリブ地域から見る世界) 英語専門講読 (同上)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的) グローバル化が進行する世界における社会や個人の生のありようとその問題とを、カリブ地域の歴史や文化をとおして考える。</p> <p>(講義紹介) カリブは西欧世界の背中についたへそ。奇妙な言い回しに聞こえるでしょう。しかし、ここはある意味で世界史の「へそ」なのです。この地域を抜きにして、近代ヨーロッパや英語圏の成立を考えることはできません。</p> <p>日本でのカリブの一般的なイメージといえば、青い海に抱かれた常夏のリゾート地といったところでしょうか。しかし実は、この美しい島々は世界のどこよりも早くから、グローバル経済の暴力に翻弄された場所なのです。5世紀前に「発見」された「新世界」は、西欧の植民地となり、歴史初の世界商品砂糖の生産地となりました。砂糖プランテーションの労働力として、大西洋をまたいだ西アフリカからアフリカ人が奴隷として強制的に連行され、人間の尊厳をうばわれた彼らの労働が、西欧の資本の蓄積を裏で支えたのです。</p> <p>カリブではすでに18世紀には、現代のグローバル化した社会の特徴がはっきりと顕れていたといってもよいで</p>		<p>1～2. イントロダクション</p> <p>3～6. <i>Life + Debt</i> (現在のカリブの状況を描いたドキュメンタリー映画。2005年春に日本でも公開予定。)</p> <p>7～10. <i>Eric Williams, Capitalism and Slavery</i> (エリック・ウィリアムズ、『資本主義と奴隷制』)から</p> <p>11～12. 黒人イメージの形成 (第7回～第10回に読むエリック・ウィリアムズの著作のなかに、「人種差別が奴隷制を生んだのではない。奴隷制が人種差別を生んだのだ」という言葉がある。11回めと12回めの講義では、ヨーロッパが奴隷制を正当化するために、どのような黒人イメージを作りあげていったのかを検討する。)</p> <p>(内容は変わりませんが、講義の順番は変わる可能性があります)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは原則としてプリントを用意します。参考図書として購入を勧める本は随時紹介します。		授業への参加(単なる出席ではない)、小テスト、レポートを総合的に評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (トランス・アトランティック入門(2)ー 移動するカリブから見る世界) 英語専門講読 (同上)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上の欄からの続き)しょう。不均衡な権力関係のもとでの国境を越えた人とモノの移動、それにともなる人種・言語・文化の衝突と混交は、すでに日常になっていました。</p> <p>19世紀前半に奴隷制が終わると、今度はインドや中国から契約労働者がやってきます。契約労働とはいえ、その実態は奴隷とさして変わらぬものでした。やがて19世紀末からは、カリブから西側の豊かな国への移民がはじまります。かつて故郷から引き剥がされカリブに連れてこられた人々は、再びのディアスポラ体験をくぐるのです。そして彼らは移民先の社会と文化に変化をもたらします。</p> <p>この講義は、世界をカリブという世界史の裏の中心、「もうひとつの視点」から眺める試みです。カリブ地域(主に英語圏)の歴史と文化に触れながら、現代の世界に共通の問題、すなわち自分自身の問題を考えるきっかけをみつけてほしいと思います。</p> <p>教材としては、歴史および文学のテキストが中心となります。2005年度の「英語専門講読・カリブの英語作家たち」および「英語圏の文化特殊講義」で使用したテキストを一部使用しますが、授業の内容は同じではありませんので、重複履修も可能です。</p>		<p>1. イントロダクション(奴隷制廃止以降の歴史を概観する)</p> <p>2. 白い黒人</p> <p>3. 移動するカリブ</p> <p>4～8. <i>Short Stories &amp; Essays</i> (カリブにルーツをもつ英語作家のテキストを読みます)</p> <p>9. <i>Cultural Identity</i></p> <p>10～12. <i>Changing Britania</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。			

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Ezra Pound の初期から中期を読む) 英語専門講読 (Ezra Pound の初期から中期を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
Ezra Pound の初期から中期の詩を読む。20世紀最大な詩人、エズラ・パウンド。パウンドは、終生、叙事詩にこだわった。その思いは <i>The Cantos</i> に結実するのであるが、その前段階として、“Hugh Selwyn Mauberley”がある。本講座では、春学期には、“Mauberley”を読む準備を、そして春学期後半から、“Mauberley”そのものを読むこととする。		1) ガイダンス 2) The Tree, La Frasné 3) Erat Hora, Piere Vidal Old 4) The Flame 5) Sestina: Altaforte 6) A Girl, The Return 7) Imagist Poems 8) ditto 9) The River-Merchant's Wife: A Letter 10) The Jewel Stairs' Grievance 11) Separation on the River Kiang 12) Hugh Selwyn Mauberley	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pound, Ezra <i>Personae</i> (New Directions) Brooker, Peter, <i>A Students' Guide to Selected Poems of Ezra Pound</i> , (Faber & Faber)		2通のレポート。要領は、後で伝える。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Ezra Pound の初期から中期を読む) 英語専門講読 (Ezra Pound の初期から中期を読む)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
秋学期に入って、“Mauberley”読み進める。時代と叙事詩のかかわり。それが後期のテーマだ。		1) II 2) III 3) IV 4) IV 5) V 6) Yeux Glauques 7) Siena Mi Fe'; Disfecemi Maremma 8) Brennbaum 9) Mr. Nixon 10) X 11) X I 12) X II	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		2通のレポート。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (W.P. Kinsella の Indian Stories を読む) 英語専門講読 (W.P. Kinsella の Indian Stories を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1987年リーコック賞受賞作家、W. P. Kinsella (1935-) の作品から、北米居留地インディアン社会と、それを取り巻く白人社会を描いた短篇集シリーズのうち、前半の3冊を扱う。</p> <p>キンセラの作品に登場するのは「高貴な野蛮人」でも「かわいそうな被害者」でもない。デザイナーズを着せ、マクドナルドのエッグマックマフィンやケンタッキーフライドチキンを食べ、テレビゲームが大好きで、天性のユーモアに溢れ、性におおらかで子供が多く、失業率と犯罪発生率は白人社会の比類ではないが、年長者や社会的弱者に優しく、白人社会とはことなる正義と倫理をもっている——授業では、このような等身大の現代インディアン青年たちが繰り広げる抱腹絶倒の物語を通し、先住民と白人の文化や価値観の相違に起因する、社会の諸問題について、検討していく。先住民問題だけでなく、黒人や女性の開放運動史も当然視野に入れていかねばならない。</p> <p>授業は、リポーターによるプレゼンテーションを中心に進める。</p>		<p>■ 第1週 春学期オリエンテーション(含担当者割当)</p> <p>■ 第2～3週 北米先住民を扱った小説を読むに当たって最低限必要な知識を深める。アメリカ大陸「発見」、ポカホンタス、感謝祭、バッファロー、ドーズ法、涙の旅路、居留地、同化政策、寄宿学校、アンドリュー・ジャクソン、西漸運動、高貴な野蛮人、スポーツチームや車の名前、国際先住民年、<i>Dance with Wolves</i>、<i>Great Spirits</i>、<i>medicine man</i>、「良いインディアンは死んだインディアン」等が扱われる。</p> <p>■ 第4～11週 <i>Dance Me Outside</i>、<i>Scars</i>、<i>Born Indian</i> の3作品集より、受講者と相談の上、6～9作品を取り上げる。リポーターは割り当てられた作品について、ハンドアウトを準備の上、プレゼンテーションを行う。</p> <p>■ 第12週 春学期の総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、入手困難なものが多いので、プリントを配布する。参考文献はその都度指示する。		プレゼンテーション、授業中の発言、学期ごとのペーパーなどから、総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (W.P. Kinsella の Indian Stories を読む) 英語専門講読 (W.P. Kinsella の Indian Stories を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、1987年リーコック賞受賞作家、W. P. Kinsella(1935-)の作品から、北米居留地インディアン社会と、それを取り巻く白人社会を描いたシリーズ短篇集7冊のうち、後半の4冊を扱う。</p>		<p>■ 第1週 秋学期オリエンテーション</p> <p>■ 第2～3週 <i>The Moccasin Telegraph and Other Indian Tales</i> より、受講者と相談の上、いくつかの作品をとりあげる。(以下同様)</p> <p>■ 第4～6週 <i>The Fencepost Chronicles</i> より</p> <p>■ 第7～8週 <i>Miss Hobbema Pageant</i> より</p> <p>■ 第9～11週 <i>Brother Frank's Gospel Hour</i> より</p> <p>■ 第12週 秋学期の総括</p> <p>*授業進度などは、変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは、入手困難なものが多いので、プリントを配布する。参考文献はその都度指示する。		プレゼンテーション、授業中の発言、学期ごとのペーパーなどから、総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (文学コミュニケーション) 英語専門講読 (文学コミュニケーション)	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
20世紀小説の傾向を確立した、James Joyce の統一的な短編集、 <i>Dubliners</i> のうちの、最も重要な”The Sisters”, 及び”The Dead”を含め、できるだけ多くの作品を、適宜解説を加え、討論も交えながら、単に英文を上撫でするのではなしに精読する。		随時指名した学生と担当者の質疑応答により、英文を逐一味吟しながら読み進め、その内容を多様な角度から把握してゆく。受講者には、絶えまぬ予習と、勤勉さが要求される。	
テキスト		評価方法	
James Joyce, <i>The Dubliners</i> , Penguin Books. (DUOに発注済み)		平常点と、随時のテストにおいて評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (文学コミュニケーション) 英語専門講読 (文学コミュニケーション)	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
継続して、同じ上記の短編集を読み進めてゆく。春学期の項参照。		春学期の項参照。	
テキスト、参考文献		評価方法	
James Joyce, <i>The Dubliners</i> , Penguin Books. (DUOに発注済み)		平常点と、随時のテストにおいて評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (オーストラリアの詩) 英語専門講読 (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; 「詩」と聞いて、「ぼ・え・む♡」的なものを連想する方がいらっしゃるかもしれません。あるいはオタクめいた、いかにも暗そうな人が読むものだ。まず、その偏見から変えていきましょう。「言葉は力であり、魔法である」。このことを、頭だけでなく心から理解できたとき、その後の生活が変わっていくと思います。</p> <p>「オーストラリア」が大好き!という方はたくさんいらしゃいますよね。「好き」ということは「もっと知りたい」ということに通じると思います。表面的な知識だけでなく、様々な角度からオーストラリアを考察していきましょう。まだ、あまりよくオーストラリアのことを知らないけれど、関心・興味はあるという方。「関心・興味」は研究への第一歩です。熱意のある方、お待ちしております。</p> <p>&lt;講義概要&gt; アボリジニの歴史や神話を踏まえた上で、彼らの詩を読んできます。CD、ビデオ、DVDを使用して、授業を進めることもあります。授業はレポーターの発表後、クラスで議論する形式で進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. オーストラリア歴史概要</li> <li>3. アボリジニの歴史概要</li> <li>4. アボリジニの神話・伝説概要</li> <li>5. オーストラリア関連の映像の紹介</li> <li>6. アボリジニ独自の言語から英訳された詩①</li> <li>7. アボリジニ独自の言語から英訳された詩②</li> <li>8. アボリジニ独自の言語から英訳された詩③</li> <li>9. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩①</li> <li>10. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩②</li> <li>11. 最初から英語で書かれたアボリジニの詩③</li> <li>12. 春学期授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布いたします。 参考文献は授業で適時紹介します。</p>		<p>春学期・秋学期レポート、授業での参加度(発表、発言など)、出席状況(欠席は年間6回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。でも、やむをえない場合以外はなるべく遅刻はしないで下さいね。)</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (オーストラリアの詩) 英語専門講読 (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; 春学期と同様です。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 入植者、または入植者の血を引くものたちの詩を読んできます。詩人本人が朗読している詩や、音楽に合わせて読まれている詩のときには、CDを利用して授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート返却、コメント。後期授業の展望。</li> <li>2. 初期入植者たちが書いた詩①</li> <li>3. 初期入植者たちが書いた詩②</li> <li>4. Bruce Dawe ①</li> <li>5. Bruce Dawe ②</li> <li>6. Gwen Harwood ①</li> <li>7. Gwen Harwood ②</li> <li>8. Judith Wright ①</li> <li>9. Judith Wright ②</li> <li>10. Les Murray ①</li> <li>11. Les Murray ②</li> <li>12. 秋学期授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期同様		春学期同様	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読みます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで60%、観劇レポート(500字)2編で40%。 学期末の定期試験はありません。 レポート(必修)に関する詳細は初回授業で説明します。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (英語圏の現代演劇) 英語専門講読 (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読みます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>教室で読む台本は、実際の上演舞台が観られる台本を選んでいきますから、上演スケジュールに合わせて授業を進めていきます</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>毎回授業開始時に行う vocabulary テストで60%、観劇レポート(500字)2編で40%。 学期末の定期試験はありません。 レポート(必修)に関する詳細は初回授業で説明します。</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読 a (英語圏の歴史) 英語専門講読 (英語圏の歴史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を、授業の目的といたします。</p> <p>使用するテキストはイギリスユダヤ人史の概説書です。また、そこに書かれた文章は平易な内容です。18世紀から今日に至るイギリス社会とユダヤ人との関係が、叙述の中心となります。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高価なため、コピーを配布します。 P. Jones, Jews of Britain</p>		<p>前・後期に筆記試験をします。平常点 30%程考慮します。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分にカウントします。</p>	

03年度以降 02年度	英語専門講読 b (英語圏の歴史) 英語専門講読 (英語圏の歴史)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ			
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読a ("The Catcher in the Rye"を読む) 英語専門講読 ("The Catcher in the Rye"を読む)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。</p> <p>1951年に出版されたサリンジャーの <i>The Catcher in the Rye</i> は50年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしている。80年代には映画、<i>The Field of Dreams</i> の原作本である Shoeless Joe のインスピレーションの源泉として、最近では村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の有名進学校(preparatory school)からはみ出た16歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。</p>		<p>第1週 授業の進め方などについての説明と「第1週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第1週の質問表」に答えられるよう最初の1, 2ページを読んでくる必要がある。</p> <p>第2週 前週に配布した質問表による討論。第1章を終了する予定。</p> <p>第3週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ1章ずつ読んでいく予定。本書は26章あるので、徐々に速度を上げ、中盤からは各週1章以上読んでいく予定。</p> <p>質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をするが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらうかもしれない。</p> <p>尚、2003年度に島田の英語専門講読を履修した学生には重複履修を認めない。m( )m</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i>		学期末の定期試験、および平常点(出席点ではない!)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読b ("The Catcher in the Rye"を読む) 英語専門講読 ("The Catcher in the Rye"を読む)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第1週の質問表</p> <p><i>The Catcher in the Rye</i>, Chapter 1.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"?</li> <li>2. What does he say he is going to tell us about in this novel?</li> <li>3. Where do you think he is now, narrating his story?</li> <li>4. What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there?</li> <li>5. What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?)</li> </ol>		<p>春学期と同様な方法で <i>The Catcher in the Rye</i> を読んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読 a (イギリス児童文学) (秋学期完結) 英語専門講読 (イギリス児童文学) (秋学期完結)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「習うより慣れよ。」(Use makes perfect.) の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。(昨年の実績は、課外のレポートも含めて557頁であった。)</p> <p>Lang (Andrew, 1844-1922) の『色分け昔話集』(全12巻) の内、『ライラック昔話集』を読む。ただし、本年度は、春学期にイギリスへ研修に行ってしまうので、秋に週2回(月3、水1)開講することになる。その点をくれぐれも気をつけて受講してもらいたい。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。(1回20頁相当を2人の共同責任で読んでもらう。)</p> <p>参考文献</p> <p>キャサリン・ブリグス編著 『妖精辞典』 平野敬一他訳 富山房 1992年</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>The Shifty lad, The False Prince and the True</i></li> <li>2. <i>The Jogi's Punishment, The Heart of a Monkey</i></li> <li>3. <i>The Fairy Nurse, A Lost Paradise</i></li> <li>4. <i>How Brave Walter Hunted Wolves, The King of the Waterfalls</i></li> <li>5. <i>A French Puck, The Three Crowns</i></li> <li>6. <i>The Story of a Very Bad Boy, The Brown Bear of Norway</i></li> <li>7. <i>Little Lasse, 'Moti'</i></li> <li>8. <i>The Enchanted Deer, A Fish Story</i></li> <li>9. <i>Wonderful Tune, The Rich Brother and The Poor Brother</i></li> <li>10. <i>The One-Handed Girl, The Bones of Djulung</i></li> <li>11. <i>The Sea King's Gift, The Raspberry Worm</i></li> <li>12. <i>The Stone of Plouhinec, The Castle of Kerglas</i></li> </ol>	
テキスト		評価方法	
Lang, Andrew, <i>The Lilac Fairy Book</i> . Dover, 1968		期末試験をする。それとは別に課外に50頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読 b (イギリス児童文学) (秋学期完結) 英語専門講読 (イギリス児童文学) (秋学期完結)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>The Battle of the Birds, The Lady of the Fountain</i></li> <li>2. <i>The Four Gifts, The Groach's of the Isle of Lok</i></li> <li>3. <i>The Escape of the Mouse, The Believing Husbands</i></li> <li>4. <i>The Hoodie-Crow, The Brownie of the Lake</i></li> <li>5. <i>The Winning of Olwen, Madschun (The Olive Fairy Book)</i></li> <li>6. <i>The Blue Parrot, Geirlaug The King's Daughter</i></li> <li>7. <i>The Story of Little King Loc, 'A Long-bow Story'</i></li> <li>8. <i>Jackal or Tiger ?, The Comb and the Collar</i></li> <li>9. <i>The Thanksgiving of the Wazir, Samba the Coward</i></li> <li>10. <i>Kupti and Imani, The Strange Adventures of Little Maia</i></li> <li>11. <i>Diamond cut Diamond, The Green Knight</i></li> <li>12. <i>The Five Wise Words of the Guru, Golden-headed Fish</i></li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (日系アメリカ女性作家の声) 英語専門講読 (日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画、絵画および文学作品から浮かび上がる日系アメリカ(北米)人の文化と歴史を明らかにしながら、日本に住む私たちにとって「近くて遠い存在」の日系アメリカ人とは何かを探ります。</p> <p>19世紀以降、日本からハワイ、アメリカ本土へ渡った日本人は、さまざまな困難を克服しながら、現在に至るまで着実な発展を遂げています。</p> <p>この授業では、日系の人々にとってのアメリカあるいは日本とは、どのような意味を持つのかを、主として女性作家の作品に焦点を当てて探ります。</p>		<p>春学期</p> <p>第1回 ガイダンス 日本人にとって北米とは</p> <p>第2回 映画に見られる日系アメリカ人</p> <p>第3回 日系アメリカ人の絵画と音楽</p> <p>第4回 初期移民の歴史と文化(テキスト講読)</p> <p>第5回 日系2世 Yoshiko Uchida</p> <p>第6回 Hisaye Yamamoto</p> <p>第7回 Hisaye Yamamoto</p> <p>第8回 第二次世界大戦下の日系アメリカ人</p> <p>第9回 日系2世 Mitsuye Yamada</p> <p>第10回 Mitsuye Yamada</p> <p>第11回 Monica Sone</p> <p>第12回 Monica Sone</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』 創元社 1997年 その他プリント		プレゼンテーションおよび各自のコメント内容によります。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (日系アメリカ女性作家の声) 英語専門講読 (日系アメリカ女性作家の声)	担当者	高田 宣子
講義目的、講義概要		授業計画	
		<p>秋学期</p> <p>第1回 大戦後の日系アメリカ人</p> <p>第2回 日系2世 Joy Kogawa</p> <p>第3回 Joy Kogawa</p> <p>第4回 日系3世 Janice Mirikitani</p> <p>第5回 Janice Mirikitani</p> <p>第6回 復習と補足</p> <p>第7回 Cynthia Kadohata Cynthia Kadohata</p> <p>第8回 日系3世 Suzan Nunes</p> <p>第9回 Suzan Nunes</p> <p>第10回 Jeanne W. Houston</p> <p>第11回 Jeanne W. Houston</p> <p>第12回 日系アメリカ人の現在</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『日系アメリカ文学 三世代の軌跡を読む』 創元社 1997年 その他プリント		プレゼンテーションおよび各自のコメント内容によります。	



03年度以降(春)	英語専門講読 a (ツーリズム研究) (春学期完結)	担当者	高橋 雄一郎
02年度以前(春)	英語専門講読 (ツーリズム研究) (春学期完結)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズム研究は比較的新しい分野であるが、その中でも1976年に出版されたDean MacCannellの<i>The Tourist: A New Theory of the Leisure Class</i>は、ツーリズム研究の先駆をなすものであり、現在も基本文献として読み継がれている。</p> <p>しかし、その後、グローバル化の加速に伴い、ツーリズムの様相と研究のアプローチにも変化が見られるようになった。なかでも、文化研究やパフォーマンス研究の視点の導入は見逃すことができない。</p> <p>今回は、1999年の再版をテキストとして用い、MacCannellへの批判を含め、最新の研究を併せて読みながら、教室でのディスカッションをすすめていきたい。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
		マッキヤネルの理論を使って、自分に身近な場所におけるツーリズム分析をしたレポート(3000字程度、英文要約を添付)を英語専門講読aの、学期末試験を英語専門講読bの主な評価材料とし、教室での発表、発言、予習の仕方などを加味する。	

03年度以降(春)	英語専門講読 b (ツーリズム研究) (春学期完結)	担当者	高橋 雄一郎
02年度以前(春)	英語専門講読 (ツーリズム研究) (春学期完結)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>担当教員が秋学期在外研修のため、この授業(a,b)は変則的に水曜日1、2限に続けておこなわれ、春学期で完結する。</p> <p>毎回、英文のテキストをしっかりと予習してくる、教室でのディスカッションに備え、自分の意見をまとめることが肝要である。</p> <p>教科書は教員が用意しているが(¥2141)、部数が不足した場合は各自で手配、購入してもらう。その他にプリントを併用する。</p> <p>参考文献は図書館の指定書コーナーに準備してある。</p> <p>この授業は、現代社会の一部となったツーリズムの文化的な意味を、批判的な分析作業を通じて探るものであり、旅行業界への就職に直接役に立つものではない。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
		マッキヤネルの理論を使って、自分に身近な場所におけるツーリズム分析をしたレポート(3000字程度、英文要約を添付)を英語専門講読aの、学期末試験を英語専門講読bの主な評価材料とし、教室での発表、発言、予習の仕方などを加味する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (アメリカ詩) 英語専門講読 (アメリカ詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder の最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> を読みます。この詩集は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」について歌ったものです。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。この講義の目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行います。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩—poetry performance」についても紹介します。スナイダーについては、 <a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照してください。</p>		<p>春学期は、</p> <p>I. Mount St. Helens II. Yet Older Matters III. Steady, They Say</p> <p>のセクションに収められている詩を中心に読みます</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder. <i>Danger on Peaks</i>. Washington D.C. : Shoemaker &amp; Hoard, 2004. (ISBN 1-59376-041-8) テキストは各自 amazon.co.jp で購入してください</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決めます (ただし 4 回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (アメリカ詩) 英語専門講読 (アメリカ詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder の最新詩集 <i>Danger on Peaks</i> を読みます。この詩集は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」について歌ったものです。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。この講義の目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は学生による発表・討論の形式で行います。</p> <p>ビデオ映像やCDを使って「声としての詩—poetry performance」についても紹介します。スナイダーについては、 <a href="http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm">http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm</a> を参照してください。</p>		<p>秋学期は、</p> <p>IV. Steady, They Say V. Dust in the Wind VI. After Bamiyan</p> <p>のセクションに収められている詩を中心に読みます</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Gary Snyder. <i>Danger on Peaks</i>. Washington D.C. : Shoemaker &amp; Hoard, 2004. (ISBN 1-59376-041-8) テキストは各自 amazon.co.jp で購入してください</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決めます (ただし 4 回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
日英文化の違いについて述べた文章を読む。		テキストの文章の難易度と学生の予習能力に応じて進めていく。	
テキスト、参考文献		評価方法	
Characters and Characteristics		出席の少ない者は不合格にする。授業時での発表と小テストの結果を基本とし、必要な場合、定期試験を行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (英米文化) 英語専門講読 (英米文化)	担当者	福井 嘉彦
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に準じる。		春学期に準じる。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (イギリスの小説) 英語専門講読 (イギリスの小説)	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語学力養成の効果的なひとつの方法は、好きな文章、英文らしい歯切れの良い文章等を、手におえる範囲で繰り返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化し習得することでしょう(この作業はネイティブスピーカーも英語を使う能力を伸ばそうとするとき、行っていることです)。昔も今も将来もこのことに変わりはないと思います。</p> <p>テキストは昔からわが国で広く親しまれてきたものです。明晰で流麗な文章で、鑑賞し手本とするのに向いていると思います。</p> <p>授業では word, phrase, sentence の把握の正確さと深さを求めます。</p>		<p>最初の授業はガイダンス、あとは春夏秋冬の順序になっている内容を順を追って進めてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Private Papers of Henry Ryecroft</i> by G.Gissing (成美堂)</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (イギリスの小説) 英語専門講読 (イギリスの小説)	担当者	藤田 永祐
(講義目的、講義概要)		授業計画	
<p>語学力養成の効果的なひとつの方法は、好きな文章、英文らしい歯切れの良い文章等を、手におえる範囲で繰り返し黙読ないし音読して、発想やコロケーションを消化し習得することでしょう(この作業はネイティブスピーカーも英語を使う能力を伸ばそうとするとき、行っていることです)。昔も今も将来もこのことに変わりはないと思います。</p> <p>テキストは昔からわが国で広く親しまれてきたものです。明晰で流麗な文章で、鑑賞し手本とするのに向いていると思います。</p> <p>授業では word, phrase, sentence の把握の正確さと深さを求めます。</p>		<p>最初の授業はガイダンス、あとは春夏秋冬の順序になっている内容を順を追って進めてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Private Papers of Henry Ryecroft</i> by G.Gissing (成美堂)</p>		<p>普段の授業に数回テストを行い、その総合点と平常点で評価する。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (シェイクスピア) 英語専門講読 (シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>The Merchant of Venice</i> (『ヴェニスの商人』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアの用いた詩の形式(ブランク・ヴァース)に慣れる。現代の日常的な英語との語義や語法の違いを理解し、韻文のリズムを聞いてみる。その詩の中で、ヴェニスとベルモントを舞台として、若々しい恋愛、キリスト教徒とユダヤ人の対立、変装と逃亡といったドラマが展開する。韻文の戯曲という文学形式に近づくために、できるだけ音声テープなどを利用したいと考えている。作品への理解を深めるため、シェイクスピアの時代の劇場や作劇の伝統、社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また映画化されたものを通して、現代におけるシェイクスピア劇の受容についても考える。</p>		<p>第1回： シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明</p> <p>第2回から第12回： 丹念にテキストを読み解くことを中心に授業を行う。 1回の授業で100行くらいを目安に読み進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>The Merchant of Venice</i>		平常点、および1月に1度、小テストを行うので、その結果を総合して成績評価を行う。欠席が3回を超えた場合は、成績評価の対象にはならない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (シェイクスピア) 英語専門講読 (シェイクスピア)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>シェイクスピアの喜劇 <i>The Merchant of Venice</i> (『ヴェニスの商人』) を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。</p> <p>まずはシェイクスピアの用いた詩の形式(ブランク・ヴァース)に慣れる。現代の日常的な英語との語義や語法の違いを理解し、韻文のリズムを聞いてみる。その詩の中で、ヴェニスとベルモントを舞台として、若々しい恋愛、キリスト教徒とユダヤ人の対立、変装と逃亡といったドラマが展開する。韻文の戯曲という文学形式に近づくために、できるだけ音声テープなどを利用したいと考えている。作品への理解を深めるため、シェイクスピアの時代の劇場や作劇の伝統、社会背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。また映画化されたものを通して、現代におけるシェイクスピア劇の受容についても考える。</p>		<p>春学期の続き。 1回の授業で150行くらいを目安に読み進めていく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大修館シェイクスピア双書 <i>The Merchant of Venice</i>		平常点、および1月に1度、小テストを行うので、その結果を総合して成績評価を行う。欠席が3回を超えた場合は、成績評価の対象にはならない。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (アフリカン・ディアスポラたちの旅 を追体験する) 英語専門講読 (同上)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、アメリカ合州国のアフリカ系アメリカ人およびカリブ系アメリカ人コミュニティに生きる人びとの重層的アイデンティティを多様な英語教材を使用しながら理解していく。</p> <p>キーワードは、旅、移動する身体、そして、必然的に生じる「異質なもの」との出会い。</p>		<p>指定文献を毎回全員に講読してきてもらう。担当発表者を決めて、要点・コメントを発表してもらう。その後、全員で内容についてディスカッションしてもらう。</p> <p>① イントロ 基礎的な教養を身につける アフリカ系アメリカ人およびカリブ系コミュニティの歴史的背景を説明した文献を講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Zora Neale Hurston "Tell My Horse : Voodoo and Life in Haiti and Jamaica", Julia Alvarez "Yo!", Juan Flores "From Bomba to Hip-Hop", Peter Manuel "Caribbean Currents"などを予定しているが、受講者たちの意見も聞いてから最終決定する。また、ラップのリリックスも教材として使用する。随時、プリント配布。</p>		<p>ディスカッションへの積極的参加、発表、コメントペーパー、テスト</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (アフリカン・ディアスポラたちの旅 を追体験する) 英語専門講読 (同上)	担当者	三吉 美加
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(上欄の続き)</p> <p>授業では、アメリカ大陸およびカリブ海地域を歴史的に考察しながら、グローバル化に伴い、変化するアフリカ系アメリカ人文化およびカリブ海の文化の動態性を確認していく。また、カリブ系移民たちの「新しい場」における新興の文化活動も考察する。その際、特に、音楽とダンス(レゲエ、サルサ、メレンゲ、ヒップホップ、伝統的な音楽・ダンス)について議論した文献を使用する。「カリブ系移民」は、主として、ドミニカ系、プエルトリコ系、ジャマイカ系とする。もちろん、受講者の希望があれば応相談。</p>		<p>(上欄の続き)</p> <p>② 「ブラック・ディアスポラ」の理解 ・ Zora Neale Hurston から Lauryn Hill まで ・ 表象文化(映画、アートなど) ・ アフリカ系音楽・ダンス(レゲエ、サルサ、メレンゲ、ヒップホップ、伝統的な音楽・ダンス)</p> <p>③ 「ブラック・ラティーノ」「ブラック・カリビアン」 ・ 若いカリブ系2世(プエルトリコ系、ドミニカ系、ジャマイカ系を中心に)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (現代スコットランド文学) 英語専門講読 (現代スコットランド文学)	担当者	山田 修
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀スコットランドの短編を数編読む。おそらく学生諸君が知らない作家ばかりであるだろうが、小品ながら味のある作品もあるので、それをエンジョイしていただければよい。</p> <p>授業は輪読形式で進めていく。できるだけ多読を心がけるが、中心となるところは精読する。ところどころスコツ語/スコットランド語が出てくるが、下記の辞書(図書館1階にある)を利用していただければよい。</p> <p>最初の時間にプリントを配布するので、受講者は必ず出席すること。</p>		<p>1. オリエンテーション、プリント配布。</p> <p>2. プリントの短編を読んでいく。</p> <p>3.                    "</p> <p>4.                    "</p> <p>5.                    "</p> <p>6.                    "</p> <p>7.                    "</p> <p>8.                    "</p> <p>9.                    "</p> <p>10.                   "</p> <p>11.                   "</p> <p>12.                   "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント <i>The Concise Scots Dictionary, Aberdeen University Press</i>		定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (現代スコットランド文学) 英語専門講読 (現代スコットランド文学)	担当者	山田 修
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀スコットランドの短編を数編読む。おそらく学生諸君が知らない作家ばかりであるだろうが、小品ながら味のある作品もあるので、それをエンジョイしていただければよい。</p> <p>授業は輪読形式で進めていく。できるだけ多読を心がけるが、中心となるところは精読する。ところどころスコツ語/スコットランド語が出てくるが、下記の辞書(図書館1階にある)を利用していただければよい。</p>		<p>1. プリントの短編を読んでいく。</p> <p>2.                    "</p> <p>3.                    "</p> <p>4.                    "</p> <p>5.                    "</p> <p>6.                    "</p> <p>7.                    "</p> <p>8.                    "</p> <p>9.                    "</p> <p>10.                   "</p> <p>11.                   "</p> <p>12.                   "</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント <i>The Concise Scots Dictionary, Aberdeen University Press</i>		定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語専門講読 a (Readings on Intercultural Communication) 英語専門講読 (Readings on Intercultural Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to provide advanced reading materials on language, culture and communication. The reason behind Japan's distinctiveness lies in its ability to borrow selectively from both Eastern and Western traditions. It borrowed selectively and massively, and yet formed its own "hybrid" culture.</p> <p>Students will be able to see the process of interacting with other cultures, as they see foreigners interacting with Japanese culture. This process involves perception. In so doing, it will require critical analysis of individual perception, in order to manage ethnocentrism, a natural perceptual barrier to cross-cultural communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation: Introduction to the Course</li> <li>2. Japan in World Perspective</li> <li>3. Collectivism VS Individualism</li> <li>4. High Context VS Low Context</li> <li>5. Barriers to Cross-cultural understanding</li> <li>6. Double standards: Interpersonal, Intercultural etc.</li> <li>7. Ethnocentrism: cultural elitism</li> <li>8. The Myth of Japanese Uniqueness</li> <li>9. The Problems of Japanese Uniqueness</li> <li>10. Aspects of Language and Society (1)</li> <li>11. General Summary</li> <li>12. Term Test and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Will be announced on the first day of class.		Grades will be based on a summative evaluation of class performance ( assignments and class participation) and term tests. Attendance is obligatory.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語専門講読 b(Readings on Intercultural Communication) 英語専門講読 (Readings on Intercultural Communication)	担当者	C.B.Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
A continuation of the first term		<ol style="list-style-type: none"> <li>13. Review of the first term: Introduction to 2<sup>nd</sup> term</li> <li>14. Aspects of Language and Society (2)</li> <li>15. Gender Styles of Communication</li> <li>16. Cultural Styles of Communication</li> <li>17. Japanese communication style: guessing, honorifics</li> <li>18. Japanese communication style: back channeling</li> <li>19. Japanese communication style: relational identities</li> <li>20. Contrastive Rhetoric</li> <li>21. Language Indirectness/ vagueness</li> <li>22. The "Tempura" metaphor</li> <li>23. Ki-Shoo-Ten-Ketsu Style</li> <li>24. General Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Will be announced on the first day of class.		Grades will be based on a summative evaluation of class performance ( assignments and class participation) and term tests. Attendance is obligatory.	



03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語専門講読 a (Canadian Culture and Society) 英語専門講読 (Canadian Culture and Society)	担当者	K.MEEHAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to Canadian culture and society. We will read famous Canadian author Douglas Coupland's book, <i>Souvenir of Canada</i>, that examine the current culture in Canada today. The course will include other readings such as short stories, essays, poetry, songs, and magazine articles. Documentary films will be viewed and discussed.</p> <p>Students will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and communicate with other members of the class. Participation is an important criteria for this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TBA</li> <li>2. TBA</li> <li>3. TBA</li> <li>4. TBA</li> <li>5. TBA</li> <li>6. TBA</li> <li>7. TBA</li> <li>8. TBA</li> <li>9. TBA</li> <li>10. TBA</li> <li>11. Term Paper</li> <li>12. Term Paper</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Souvenir of Canada</i>, Douglas Coupland. Publisher : Douglas &amp; McIntyre</p>		Students will be graded on attendance (60%), class participation (200%), and papers (20%).	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語専門講読 b (Canadian Culture and Society) 英語専門講読 (Canadian Culture and Society)	担当者	K.MEEHAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to introduce students to Canadian culture and society. We will read famous Canadian author Douglas Coupland's book, <i>Souvenir of Canada</i>, that examine the current culture in Canada today. The course will include other readings such as short stories, essays, poetry, songs, and magazine articles. Documentary films will be viewed and discussed.</p> <p>Students will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and communicate with other members of the class. Participation is an important criteria for this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>13. TBA</li> <li>14. TBA</li> <li>15. TBA</li> <li>16. TBA</li> <li>17. TBA</li> <li>18. TBA</li> <li>19. TBA</li> <li>20. TBA</li> <li>21. TBA</li> <li>22. TBA</li> <li>23. Term Paper</li> <li>24. Term Paper</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Souvenir of Canada</i>, Douglas Coupland. Publisher : Douglas &amp; McIntyre</p>		Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), and papers (20%).	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (Language and Culture) 英語専門講読 (Language and Culture)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gun, Germs and Steel</p> <p>The book chosen for this class was a Pulitzer Price winner and was on the New York Times bestseller list. It is very challenging and very interesting. It looks at the development of humans during the last 13,000 years. It investigates several themes related to human development throughout the world.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-How early colonization took place</li> <li>-How written languages developed</li> <li>-How languages developed throughout the world</li> <li>-How languages moved throughout the world</li> <li>-How linguistic evidence can help trace human movement throughout history.</li> </ul> <p>Class time will be divided between lectures, material review, language study and discussions.</p> <p>Students considering this class should have</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) a keen interest in the topic of language and human history.</li> <li>2) an interest in discussing in English, and</li> <li>3) a desire to improve their reading, speaking and listening skills.</li> </ol>		<p>Week 1: Course Introduction and first lecture</p> <p>Week 2: Yali's questions: main themes of book</p> <p>Week 3: The world 13,000 years ago</p> <p>Week 4: Continuation</p> <p>Week 5: The biggest population shift</p> <p>Week 6: The Lethal Gift of Livestock</p> <p>Week 7: Continuation</p> <p>Week 8: How language 1st became written</p> <p>Week 9: Continuation</p> <p>Week 10: Phaistos Disk: the 1<sup>st</sup> printing device</p> <p>Week 11: Continuation</p> <p>Week 12: Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Guns, Germs, and Steel: The Fates of Human Societies by Jared Diamond, Norton (Softcover)		Grades are based on class participation, attendance, and evaluations	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (Language and Culture) 英語専門講読 (Language and Culture)	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of the first semester.</p> <p>Please Note:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) The course book for this class will not be ordered through the book store. Students are responsible for ordering the books themselves. This book is available at Amazon Japan:  <a href="http://www.amazon.co.jp">http://www.amazon.co.jp</a></li> <li>2) We will read and discuss 12 pages a week.</li> <li>3) The reading assignments must be completed before class.</li> <li>4) You must maintain a vocabulary notebook</li> </ol>		<p>Week 1: Yali's People</p> <p>Week 2: Continuation</p> <p>Week 3: How China became Chinese</p> <p>Week 4: Continuation</p> <p>Week 5: Language movements through Polynesia</p> <p>Week 6: Continuation</p> <p>Week 7: How Africa Became Black</p> <p>Week 8: Continuation</p> <p>Week 9: Future of Human History</p> <p>Week 10: Continuation</p> <p>Week 11: Further readings</p> <p>Week 12: Final Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Guns, Germs, and Steel: The Fates of Human Societies by Jared Diamond, Norton (Softcover)		Grades are based on class participation, attendance, and evaluations	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (異文化間コミュニケーション論) 英語専門講読 (異文化間コミュニケーション論)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 言語の学習には、聞く・話す・読む・書くの4技能と音声・語彙・文法・文字の4構成要素に関するバランスの維持が必要である。しかし現代の日本人大学生は、内容が浅薄な日常会話程度の英語を話す技能と英語の音声にのみ関心をもち、その他の言語技能と言語構成要素に関する理解力を著しく欠いているといわれる。そこで本講義は、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批評的に読解し、同時に英語の語彙と文法の知識を育成することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 海外留学や国際ビジネスの場で多くの日本人が共通に経験する英語異文化(間)コミュニケーション問題の具体例を提示し、問題の文化的原因を究明し、改善案を考察する。英文を単に和訳する作業ではなく、内容を批評的に把握し、自分の感想・意見を積極的に発表することが重要視される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プリント教材 (その1)</li> <li>2. プリント教材 (その2)</li> <li>3. (a) Concepts and Notions, and (b) Truth and Common Sense</li> <li>4. (a) Gossip and Silense, and (b) Powerful Mental Blocks</li> <li>5. (a) Language Strait-jacket, and (b) Internalized Thought, I</li> <li>6. S. (a) Internalized Thought, II, and (b) Humour across Frontiers</li> <li>7. (a) Humour in Business, and (b) What Is Culture?</li> <li>8. (a) Normal and Abnormal, and (b) Categorising Cultures</li> <li>9. (a) Reactive Cultures, I, and (b) Reactive Cultures. II</li> <li>10. (a) Data-Oriented, Dialogue-Oriented and Listening Cultures, and (b) The Use of Time</li> <li>11. (a) Cyclic Time, and (b) Cultural Roots of Organization</li> <li>12. (a) Different Concepts of Status, Leadership and Organization: Germany, France, Britain, and (b) Different Concepts of Status, Leadership and Organization: America and the East</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lewis, R. D. <i>When Cultures Collide : Managing Successfully Across Cultures</i> . 南雲堂. プリント		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (異文化間コミュニケーション論) 英語専門講読 (異文化間コミュニケーション論)	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 言語の学習には、聞く・話す・読む・書くの4技能と音声・語彙・文法・文字の4構成要素に関するバランスの維持が必要である。しかし現代の日本人大学生は、内容が浅薄な日常会話程度の英語を話す技能と英語の音声にのみ関心をもち、その他の言語技能と言語構成要素に関する理解力を著しく欠いているといわれる。そこで本講義は、異文化(間)コミュニケーションに関する英文を批評的に読解し、同時に英語の語彙と文法の知識を育成することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 異文化(間)コミュニケーション問題の根底となる文化とコミュニケーションの概念を明らかにし、文化思想とコミュニケーション理論の観点から両者の関係を批評的に考察する。さらに、異文化(間)コミュニケーション問題の具体例を提示し、問題の文化的原因を究明し、改善案を考察する。英文を単に和訳する作業ではなく、内容を批評的に把握し、自分の感想・意見を積極的に発表することが重要視される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Culture and Identity</li> <li>2. Hidden Culture</li> <li>3. Stereotypes</li> <li>4. Words, Words. Words</li> <li>5. Communication Without Words</li> <li>6. Diversity</li> <li>7. Perception</li> <li>8. Communication Styles (1)</li> <li>9. Communication Styles (2)</li> <li>10. Values</li> <li>11. Deep Culture (Beliefs and Values)</li> <li>12. Culture Shock</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Shaules, J. & Abe, J. <i>Different Realities</i> . 南雲堂.		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (新しいコミュニケーション論) 英語専門講読 (新しいコミュニケーション論)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスで読むテキストは「文化コミュニケーション研究シリーズ」として出版されたジョン・フィスク教授(米ウィスコンシン大学)が執筆したものです。これは比較的新しいコミュニケーション研究を紹介したもので、文化とコミュニケーションの研究に興味のある学生にとって参考になるテキストです。ここに書かれていることを読み、理解し、利用できるようになることが、このクラスの主目的です。参考までに、このテキストのフロント・ページにある自己紹介記述を抜粋しておきます。</p> <p>“This classic text is a lucid introduction to the main authorities in the field, aimed at students coming to the subject for the first time. It outlines a range of methods of analyzing examples of communication, and describes the theories underpinning them. Thus armed, the reader will be able to tease out the latent cultural meanings in such apparently simple communications as news photos or popular TV programmes, and to see them with new eyes.”</p> <p>基本的に春学期と秋学期を連続して履修する学生を想定して授業計画を立てています。なお、授業は平易な英語で行いますが、状況に応じて日本語も用います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 専門書の読み方、他</li> <li>3. Communication Theory</li> <li>4. Communication Theory</li> <li>5. Other Models</li> <li>6. Other Models</li> <li>7. Communication, Meaning, and Signs</li> <li>8. Communication, Meaning, and Signs</li> <li>9. Codes</li> <li>10. Codes</li> <li>11. 学期末発表</li> <li>12. 学期末発表</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Fiske, <i>Introduction to Communication Studies</i> , 2nd edition (Routledge, 1990).		出席：20%、クイズ：40%、グループ解説：20%、学期末発表：20%	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (新しいコミュニケーション論) 英語専門講読 (新しいコミュニケーション論)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上述の春学期(a)のクラスの継続。第5章の Signification から継続講読していきます。</p> <p>基本的に春学期と秋学期を連続して履修する学生を想定して授業計画を立てています。なお、授業は平易な英語で行いますが、状況に応じて日本語も用います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. Signification</li> <li>3. Signification</li> <li>4. Semiotic Methods and Applications</li> <li>5. Semiotic Methods and Applications</li> <li>6. Empirical Methods</li> <li>7. Empirical Methods</li> <li>8. Ideology and Meanings</li> <li>9. Ideology and Meanings</li> <li>10. Conclusion</li> <li>11. 学期末発表</li> <li>12. 学期末発表</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Fiske, <i>Introduction to Communication Studies</i> , 2nd edition (Routledge, 1990).		出席：20%、クイズ：40%、グループ解説：20%、学期末発表：20%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読 (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカ黒人の文化の流れを学ぶのが、この講義の目標である。絵、風刺画 写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本からの抜粋をテキストに使う予定。</p> <p>英文をじっくり読むことにより、将来必ず役立つ英語の読解力を培うのも、もう一つの目標である。</p> <p>今年度は 19 世紀末から大不況の頃までを扱う計画。</p> <p>なお、授業の理解を深めるため、アメリカ文化に関する映画を鑑賞の予定である。</p>		<p>The New Liberation Movement "Lift Every Voice and Sing" History and the Arts Lynchings and Race Riots Meeting at Harper's Ferry Interracial Organization などについて学んでいく予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト・・・プリント 参考文献・・・授業において適宜指示。</p>		<p>出席状況、どの程度予習をして授業に臨んだか、試験などにより決定される。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (アメリカ黒人の歴史) 英語専門講読 (アメリカ黒人の歴史)	担当者	岡田 誠一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。</p>		<p>World War I Medals and Music "If We Must Die" The Headless Worker Marcus Garvey Last Hired, First Fired Father Divine Votes for Bread and Butter Federal Projects などについて学んでいく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト・・・プリント 参考文献・・・授業において適宜指示。</p>		<p>出席状況、どの程度予習をして授業に臨んだか、試験などにより決定される。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (映画批評) 英語専門講読 (映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
<p><b>講義目的</b></p> <p>映画を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テキストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の3点が探求のテーマとなる。1) 理論とは何か、2) 批評とは何か、3) レトリック研究とは何か。これら3点のテーマについて、映画の綿密なテキスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化政治的意義を探っていく。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>映像という表象手段によってコミュニケーションされる映画をテキストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像というレトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画をエンターテインメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテキストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。</p>		<p>1. Course Orientation</p> <p>2. Tumbling Down the Rabbit Hole: Knowledge, Reality, and the Pit of Skepticism</p> <p>3. Tumbling Down the Rabbit Hole: Knowledge, Reality, and the Pit of Skepticism</p> <p>4. Mind and Body in Zion</p> <p>5. Mind and Body in Zion</p> <p>6. Are Sentient Machines Possible?</p> <p>7. The Problem is Choice: Control, Free Will, and Causal Determinism</p> <p>8. The Problem is Choice: Control, Free Will, and Causal Determinism</p> <p>9. How to Really Bake Your Noodle: Time, Fate, and the Problem of Foreknowledge</p> <p>10. How to Really Bake Your Noodle: Time, Fate, and the Problem of Foreknowledge</p> <p>11. Virtual Bodies: The Construction of Race and Gender in the Matrix</p> <p>12. Virtual Bodies: The Construction of Race and Gender in the Matrix</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Matt Lawrence, <u>Like A Splinter in Your Mind: The Philosophy Behind the Matrix Trilogy</u> . (Blackwell Pub.) を使用予定。		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (映画批評) 英語専門講読 (映画批評)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画(予定)	
		<p>1. Agent Smith's Moral Challenge</p> <p>2. Agent Smith's Moral Challenge</p> <p>3. De-Cyphering Right and Wrong</p> <p>4. De-Cyphering Right and Wrong</p> <p>5. There is no Spoon: Reflections on the Material World</p> <p>6. There is no Spoon: Reflections on the Material World</p> <p>7. Morpheus and the Leap of Faith</p> <p>8. Morpheus and the Leap of Faith</p> <p>9. Facing the Absurd: Existentialism for Humans and Programs</p> <p>10. Facing the Absurd: Existentialism for Humans and Programs</p> <p>11. Overcoming Your Own Matrix</p> <p>12. Overcoming Your Own Matrix/Course Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Matt Lawrence, <u>Like A Splinter in Your Mind: The Philosophy Behind the Matrix Trilogy</u> . (Blackwell Pub.) を使用予定。		定期試験又はレポート、授業への参加度(発表・発言等)、出席状況(一定以上の欠席は不合格、遅刻2回は欠席1回に相当)等から総合的に評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (異文化コミュニケーション) 英語専門講読 (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; コミュニケーション、文化、その両者の関係についての文献を読み、異文化コミュニケーションへの基本的認識・理解を深める。その上で、コミュニケーション上の問題点等を分析できることを目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt;授業は、毎週10ページ前後の範囲をもとに、受講生による内容発表(レジュメ作成)と質疑応答で進めていく。内容は、コミュニケーションの概念及び構成要素、文化とコミュニケーションの密接性に関するものを扱う。使用文献は以下からの抜粋も含む。</p> <p>Samovar, R. A., &amp; Porter, R. E.(2001). <i>Communication between cultures (4th ed.)</i>. Belmont, CA: Wadsworth.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとレジュメ作成手順、発表担当者割り当て</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. Communication and culture (1)</li> <li>4. Communication and culture (2)</li> <li>5. Communication and culture (3)</li> <li>6. Culture and perception (1)</li> <li>7. Culture and perception (2)</li> <li>8. Culture and behavior (1)</li> <li>9. Culture and behavior (2)</li> <li>10. Language and culture (1)</li> <li>11. Language and culture (2)</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Singer M. R. (1998). <i>Perception and identity in intercultural communication</i> . Yarmouth, ME: Intercultural Press 他。第1回の授業で詳細を発表		授業参加度(出席と発表)、定期試験による総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (異文化コミュニケーション) 英語専門講読 (異文化コミュニケーション)	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的および授業の進め方は上記に同じ。文献については、非言語コミュニケーション、異文化接触の具体例、異文化適応、アイデンティティなど、春学期よりも専門的な分野に焦点を当てたものを扱う。使用文献は以下からの抜粋を含む。</p> <p>- Samovar, R. A., &amp; Porter, R. E.(2001). <i>Communication between cultures (4th ed.)</i>. Belmont, CA: Wadsworth.</p> <p>- Brislin, R. (1993). <i>Understanding culture's influence on behavior</i>. Harcourt Brace College Publishers.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Nonverbal communication and culture (1)</li> <li>3. Nonverbal communication and culture (2)</li> <li>4. Nonverbal communication and culture (3)</li> <li>5. Cross-cultural contact (1)</li> <li>6. Cross-cultural contact (2)</li> <li>7. Cross-cultural contact and identity (1)</li> <li>8. Cross-cultural contact and identity (2)</li> <li>9. Cross-cultural adaptation (1)</li> <li>10. Cross-cultural adaptation (2)</li> <li>11. Cross-cultural adaptation (3)</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照		授業参加度(出席と発表)、定期試験による総合評価状況に応じて、レポート提出あり。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (権力とアイデンティティ) 英語専門講読 (権力とアイデンティティ)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティの問題を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化対人コミュニケーションの基礎概念や理論について幅広く学習します。毎週約30ページの英文テキストと10~20ページの補助教材(和文・英文)を批判的に読みます。秋学期では、春学期の学習内容を背景に、異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティの問題について、日米間の異文化接触の問題を扱ったドキュメンタリービデオを分析しながら考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、自由発表をしていただきます。</p> <p>授業は主として日本語で行いますが、授業発表用の資料、レポート、定期試験の使用言語は英語とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. Introduction to Intercultural Competence (pp. 1-24)</li> <li>3. Culture and Intercultural Communication (pp. 25-54)</li> <li>4. Intercultural Communication Competence (pp. 55-82)</li> <li>5. Cultural Patterns and Communication: Foundations (pp. 83-109)</li> <li>6. Cultural Patterns and Communication: Taxonomies (pp. 110-138)</li> <li>7. Cultural Identity, Cultural Biases, and Intercultural Contact (pp. 139-176)</li> <li>8. Nonverbal Intercultural Communication (pp. 175-201)</li> <li>9. Verbal Intercultural Communication (pp. 203-237)</li> <li>10. Cultural Variations in Interpersonal Relationships (pp. 261-291)</li> <li>11. The Potential for Intercultural Competence (pp. 327-341)</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lustig, M. W., & Koester, J. (2003). <i>Intercultural competence</i> (4th ed). Boston, MA: Allyn and Bacon. プリントを使用。		授業発表 (40%)、レポート (25%)、定期試験 (25%)、授業参加 (10%) *** 4回以上の欠席は不可***	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (権力とアイデンティティ) 英語専門講読 (権力とアイデンティティ)	担当者	工藤 和宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティの問題を学習テーマとしながら、英語文献の批判的読解力、リサーチおよびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。</p> <p>授業はグループ・ワークや発表を中心とする参加型形式です。春学期では、異文化対人コミュニケーションの基礎概念や理論について幅広く学習します。毎週約30ページの英文テキストと10~20ページの補助教材(和文・英文)を批判的に読みます。秋学期では、春学期の学習内容を背景に、異文化間コミュニケーションにおける権力とアイデンティティの問題について、日米間の異文化接触の問題を扱ったドキュメンタリービデオを分析しながら考察します。これらの学習内容を踏まえた上で、自由発表をしていただきます。</p> <p>授業は主として日本語で行いますが、授業発表用の資料、レポート、定期試験の使用言語は英語とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. Power and Identity in Intercultural Communication</li> <li>3. "Doubles: Japan and America's Intercultural Children"</li> <li>4. "Doubles": Analysis 1</li> <li>5. "Doubles": Analysis 2</li> <li>6. "Struggle and Success: The African American Experience in Japan"</li> <li>7. "Struggle and Success": Analysis 1</li> <li>8. "Struggle and Success": Analysis 2</li> <li>9. グループ自由発表の準備</li> <li>10. グループ自由発表</li> <li>11. グループ自由発表</li> <li>12. グループ自由発表、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。		授業発表 (40%)、レポート (25%)、定期試験 (25%)、授業参加 (10%) *** 4回以上の欠席は不可***	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (異文化の理解とは何か) 英語専門講読 (異文化の理解とは何か)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> この授業では、異文化(間)コミュニケーションを専門分野とする文献に慣れ親しむために、当該分野の基礎概念を理解し、特に「異文化理解」と関連する理論について知り、その理解をより深めることを目的とします。 つまり、春学期の前半では基礎概念を中心とした比較的読みやすい文献を、後半では理論に関するアカデミックな文献を読んでいきます。</p> <p><b>【講義概要】</b> 授業は、基本的に、学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッション、担当者による解説や追加説明という形式で進めていきます。 プレゼンテーションに関しては、プレゼンテーション・スキルや資料提示等についても指導していきます。また、ディスカッションにおいては、自由な意見の交換を最も重視します。したがって、学生個々人の積極的な発言がなければ授業は成立しませんので、そのような意欲のある学生を求めます。 毎回の授業で読む分量はかなり多いと思われるので、それだけの時間を確保してください。</p>		初回の授業で説明します。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント教材(春学期分を初回の授業で配布)		グループ・プレゼンテーション、授業への貢献度、定期試験等によって評価します。3分の1以上の出席が必要です。詳細は初回の授業で説明します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (異文化の理解とは何か) 英語専門講読 (異文化の理解とは何か)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>【講義目的】</b> この授業では、「異文化理解」を取り巻くさまざまな問題や課題を理解するために、当該分野の理論について知り、客観的な考察や研究において問題となる領域について議論し、その理解をより深めることを目的とします。 つまり、秋学期の前半では理論に関するアカデミックな文献を、後半では特に「翻訳」という領域をテーマとして、多少哲学的な文献を読んでいきます。</p> <p><b>【講義概要】</b> 授業は、基本的に、学生によるグループ・プレゼンテーションとディスカッション、担当者による解説や追加説明という形式で進めていきます。 プレゼンテーションに関しては、プレゼンテーション・スキルや資料提示等についても指導していきます。また、ディスカッションにおいては、自由な意見の交換を最も重視します。したがって、学生個々人の積極的な発言がなければ授業は成立しませんので、そのような意欲のある学生を求めます。 毎回の授業で読む分量はかなり多いと思われるので、それだけの時間を確保してください。</p>		初回の授業で説明する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント教材(秋学期分を初回の授業で配布)		グループ・プレゼンテーション、授業への貢献度、定期試験等によって評価します。3分の1以上の出席が必要です。詳細は初回の授業で説明します。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語専門講読 a (Miraculous achievements of East Asian economies) (火3) 英語専門講読 (同上) (火3)	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is about the past, present, and future of the East Asian economies, which is popularly known as the Miracle of the 20 century. It deals with a clarification of The miraculous achievements of these economies, causes and impacts of the economic crisis during 1997-98, and the future growth prospects of the regional economies and the major challenges ahead.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Overview of the East Asian Economy①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. What the Miracle is All about①</li> <li>6. 同上②</li> <li>7. 同上③</li> <li>8. What the Miracle is not About①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. 同上③</li> <li>11. 同上④</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rao, B., East Asian Economies, McGraw-Hill Book Co., 2001		Term Examination, Assignment, Presentation. (concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語専門講読 b (Miraculous achievements of East Asian economies) (火3) 英語専門講読 (同上) (火3)	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is about the past, present, and future of the East Asian economies, which is popularly known as the Miracle of the 20 century. It deals with a clarification of The miraculous achievements of these economies, causes and impacts of the economic crisis during 1997-98, and the future growth prospects of the regional economies and the major challenges ahead.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. An overview of the Crisis of 1997-1998①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. Country Reviews and IMF Program①</li> <li>6. 同上②</li> <li>7. 同上③</li> <li>8. Prospects and Challenges for Economic Growth①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. Freedom and Values①</li> <li>11. 同上②</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rao, B., East Asian Economies, McGraw-Hill Book Co., 2001		Term Examination, Assignment, Presentation. (concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a(Economic cooperation in East Asia)(木3) 英語専門講読 (Economic cooperation in East Asia)(木3)	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
This course focuses on the rationale of and obstacles to institutionalization of regional economic cooperation in East Asia. It covers the basic characteristics of the East Asian region, intra-regional trade and investment links, evolution of institutional arrangement and deep-rooted impediments to regional cooperation. It also deals with the relationship between bilateralism and regionalism in East Asia.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Regional Overviews①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. Characteristics of the East Asian Region①</li> <li>5. 同上②</li> <li>6. Trade Links①</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. Investment Links①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. East Asian Monetary Cooperation①</li> <li>11. 同上②</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lincoln, E.J., East Asian Economic regionalism, Brookings Institution Press, 2004; Dent, C.M. (ed.) Asia-pacific Economic and security Co-operation, Palgrave Macmillan, 2003.		Term Examination, Assignment, Presentation. (concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b(Economic cooperation in East Asia)(木3) 英語専門講読 (Economic cooperation in East Asia)(木3)	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
This course focuses on the rationale of and obstacles to institutionalization of regional economic cooperation in East Asia. It covers the basic characteristics of the East Asian region, intra-regional trade and investment links, evolution of institutional arrangement and deep-rooted impediments to regional cooperation. It also deals with the relationship between bilateralism and regionalism in East Asia.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Evolution of Regional Institutions①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. Internal and External Challenges①</li> <li>6. 同上②</li> <li>7. 同上③</li> <li>8. Regional Leadership①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. Regional Bilateralism①</li> <li>11. 同上②</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lincoln, E.J., East Asian Economic regionalism, Brookings Institution Press, 2004; Dent, C.M. (ed.) Asia-pacific Economic and security Co-operation, Palgrave Macmillan, 2003.		Term Examination, Assignment, Presentation. (concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降(春)	英語専門講読 a (Economic reform in Japan) (木4)	担当者	Park Yong-II
02年度以前(春)	英語専門講読 (Economic reform in Japan) (木4)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the light of the dramatic transformation from the Remarkable success until the 1980s to the decade-long stagnation, the course deals with causes of the rise and demise of Japanese economy and discusses the structural reform under implementation and its challenges. It focuses on intensive discussion with Japanese young students about a variety of reform projects that Japanese government implements to revitalize its economy.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Japan's Modernization and Industrialization①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. Formation and Collapse of the Public Construction State①</li> <li>5. 同上②</li> <li>6. From Structural Reform to Institutional Reform①</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. Development of Global Corporations①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. The Japanese Banking System①</li> <li>11. 同上②</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sakakibara,E.,Structural Reform in Japan, The Brookings Institution,2003.		Term Examination,Assignment,Presentation.(concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降(秋)	英語専門講読 a (Economic reform in Japan) (木4)	担当者	Park Yong-II
02年度以前(秋)	英語専門講読 (Economic reform in Japan) (木4)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the light of the dramatic transformation from the Remarkable success until the 1980s to the decade-long stagnation, the course deals with causes of the rise and demise of Japanese economy and discusses the structural reform under implementation and its challenges. It focuses on intensive discussion with Japanese young students about a variety of reform projects that Japanese government implements to revitalize its economy.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Reopening Japan and Reforming its Foreign Policy Regime①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. The Formation of the Japanese Meritocracy System ①</li> <li>5. 同上②</li> <li>6. The Central versus Local Government Debate①</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. Fundamental Change in Agricultural Policy①</li> <li>9. 同上②</li> <li>10. Health care reform</li> <li>11. Building a new nation</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sakakibara,E.,Structural Reform in Japan, The Brookings Institution,2003.		Term Examination,Assignment,Presentation.(concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (米国の東アジア政策) 英語専門講読 (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アメリカの東アジア政策の現状分析をおこなう。</p> <p>ブッシュ政権二期目がスタートした。一期目の米国外交を担ったパウエル国務長官以下の外交チームは多くが交代し、後任のライス国務長官をはじめとする新外交チームがどう舵取りするかが注目される。</p> <p>外交も安全保障政策の一環であるなら、国防も表裏一体の関係がある。ブッシュ政権一期目は、国務省と国防総省の路線対立が指摘された。二期目の国防をになうラムズフェルド国防長官、ウォルフォウィッツ国防副長官が留任したことで、当面の課題である米軍の再編問題に取り組むことになる。そうした中で、注目されるのが日米同盟関係の強化であり、米韓同盟の再構築である。同時に、東アジア地域で軍事的影響力を拡大しようとする中国との関係、「独立」志向を顕在化させてきた台湾との関係、そして何よりも核開発に執着する北朝鮮問題への取り組みもその文脈で重視されることになる。</p> <p>米国外交の直面する重点課題は現在、中東に偏った印象をうける。しかし、当面の外交努力を中東に集中させるためにも、東アジアの安定は不可欠である。今年の米国の東アジア外交が、現状の安定を目指してどう展開されるか、最新のドキュメント、レポートを通じ検討する。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>外交文書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のテキストを毎回配布する。</p>		<p>成績は授業時の学生による報告と討議参加が評価の基準となる。出席率70%以下は不可。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (米国の東アジア政策) 英語専門講読 (米国の東アジア政策)	担当者	阿部 純一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春学期に同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は2つある。第一に、国際関係論や地域研究 (Area Studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的知識、ならびに各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>テキストを読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求める。今年からは特に出席を重視する。</p> <p>なお、受講者数には上限がある。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト (国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳) を実施する。</p>		<p>(テキストのパートごとに進める。詳細については1回目の授業時に説明する)</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Regional Outlook: Southeast Asia 2004-2005</i>, ISEAS, 2004.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは200ページ前後、価格は2000円程度。履修者決定時点で一括注文する。</li> <li>・テキストの内容は、2004年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済の状況に関する国別の分析。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は2つある。第一に、国際関係論や地域研究 (Area Studies) にとって不可欠な英語表現を学習する。第二に、アジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する基本的知識、ならびに各国、各地域の現状分析を行う際の視点・手法の習得を図る。</p> <p>テキストを読み進めることを中心に、同地域に横たわる諸問題について検討する。週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その内容を全訳したレポートを毎週、受講者全員が提出する。授業はそれを基に受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進める。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求める。今年からは特に出席を重視する。</p> <p>なお、受講者数には上限がある。また、初回の授業で1時間程度の英文の読解力テスト (国際政治経済の時事問題に関する英文の和訳) を実施する。</p>		<p>(テキストのパートごとに進める。詳細については1回目の授業時に説明する)</p> <p>テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2005</i>, ISEAS, 2005.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは、全体で350ページ前後、価格は2000～2500円程度 (春学期とは別のテキスト)。履修者決定時点で一括注文する。</li> <li>・テキストの内容は、2004年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。		出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a(各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ビジネス通信文(Business Correspondence)のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とロジカル・シンキングの涵養を目指します。</p> <p>春学期は、法律文書(legal writings)の代表である契約書を扱います。具体的には、海外販売代理店契約の英文契約書をテキストとして読み、法律英語の文体や語法の特徴を言語的知識として学ぶと同時に、国際ビジネスに関する実務的な知識を習得できるように努力します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 春学期の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。</li> <li>2 法律英語の文体や語法の基本的特徴、英文契約書の標準的構成などについて講義します。</li> <li>3 同上</li> <li>4 海外販売代理店契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。</li> <li>5 「当事者の指定」、「当事者関係」、「販売地域」、および「取扱製品」の各条項を読みます。</li> <li>6 「排他独占権」、「最低保証」、「個々の契約」、および「情報と報告」の各条項を読みます。</li> <li>7 「販売促進」と「工業所有権」の各条項を読みます。</li> <li>8 「地域外販売禁止」、「代理店手数料」、および「費用」の各条項を読みます。</li> <li>9 その他の一般条項を読みます。</li> <li>10 同上</li> <li>11 同上</li> <li>12 春学期の総復習を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b(各種英文ビジネス文書の読み方と実務) 英語専門講読 (各種英文ビジネス文書の読み方と実務)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、英文財務諸表を扱います。実在の米国企業の財務諸表(financial statements)を範例とした英文のテキストを読みながら、貸借対照表(balance sheet)や損益計算書(income statement)の意義、表示区分と読み方、勘定科目、各種の分析指標などについて学びます。</p> <p>英文財務諸表になじみ、ごく基本的なレベルで企業業績を読み取ることができるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 秋学期の授業計画と学習内容について詳しく説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。</li> <li>2 財務諸表、とくに貸借対照表と損益計算書の意義について詳しく説明します。</li> <li>3 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。</li> <li>4 同上</li> <li>5 実在の米国企業の英文財務諸表を範例とした英文のテキストを、専門用語に慣れながら読み進み、実務知識の習得を目指します。</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 各種の分析指標を用いて、テキストが範例としている米国企業の簡単な経営分析を行い、業績を検討します。</li> <li>11 同上</li> <li>12 秋学期の総復習を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (アジア太平洋地域の安全保障) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の安全保障)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントもOK。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 プレゼンテーションと討論</p> <p>3 同上</p> <p>4 同上</p> <p>5 同上</p> <p>6 同上</p> <p>7 同上</p> <p>8 同上</p> <p>9 同上</p> <p>10 同上</p> <p>11 同上</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2004</i> , Tokyo:JCIE, 2004		受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (アジア太平洋地域の安全保障) 英語専門講読 (アジア太平洋地域の安全保障)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>第1の目的は、アジア太平洋地域の国際関係と安全保障を分析することです。第2の目的は、英語の運用能力を高めるとともに、現代の国際関係に関する情報を獲得することです。</p> <p>対象国は①アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、EU、日本、韓国などの先進国、②中国、インド、ロシアなど巨大な途上国、③シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナムなど東南アジア諸国。</p> <p>2週単位で授業が進みます。第1週は、受講生は担当する国を決め、詳細なレジュメを用意してプレゼンテーションを行います。その際、新聞・雑誌・専門資料を活用し、テキストの内容を掘り下げる工夫が求められます。</p> <p>第2週は、テキストの英文を理解する作業が行われます。例えば第1週はオーストラリアに関するプレゼンがあり、第2週はテキストに掲載されているオーストラリアを、英語に着目して討論します。</p> <p>受講生から英語での質問、コメントもOK。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 プレゼンテーションと討論</p> <p>3 同上</p> <p>4 同上</p> <p>5 同上</p> <p>6 同上</p> <p>7 同上</p> <p>8 同上</p> <p>9 同上</p> <p>10 同上</p> <p>11 同上</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
C. Morrison ed., <i>Asia Pacific Security Outlook 2004</i> , Tokyo:JCIE, 2004.		受講生によるレジュメ作成とプレゼンテーション、出席と討論への参加が基本となります。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語専門講読 a (現代国際関係) 英語専門講読 (現代国際関係)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【授業の目的】</p> <p>①現代国際関係における諸問題への関心を高めて、理解を深めること。</p> <p>②プレゼンテーションを通じて、ものごと筋道立てて考え、発表する能力を身に付けること。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>春学期は、以下の英文テキストについての発表を行います。この作業を通じて、秋学期に向けたプレゼンテーションの「ネタ」を見つけてもらいます。</p>		<p>1. この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびにグループ分け実施(第1週)</p> <p>2. 各グループによるプレゼンテーション(第2週～第11週)</p> <p>3. 秋学期の発表についての打ち合わせ(最終週)</p> <p>【授業専用掲示板への投稿について】</p> <p>授業で取り扱った問題についてのコメント・感想を必ず授業専用掲示板に投稿してください。授業への参加(貢献)と掲示板への投稿をもって、「出席」の扱いとします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
W. Raymond Duncan, Barbara Jancar-Webster, and Bob Switky, <i>World Politics in the 21st Century</i> , updated edition (New York: Addison Wesley, 2002).		毎回のディスカッションへの貢献度、出席率、掲示板への投稿、プレゼンテーションを総合して評価を行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語専門講読 b (現代国際関係) 英語専門講読 (現代国際関係)	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、各グループが特定のテーマについてパワーポイントを使ってプレゼンテーションをします。テーマは、基本的には春学期のテキストで学んだことに関連していることが望ましいでしょう。漠然としたテーマではなく、特定の問題に焦点を当てて発表してください。自己満足的な発表ではなく、「聞き手」を常に意識したプレゼンテーションをするよう努力してください。またプレゼンテーションにあたり、各グループは調査結果をレポートするだけでなく、<u>問題提起</u>を行って、プレゼンテーションのあとに続く全体討論を盛り上げる役割も担っています。この授業は学生が中心となって進めることとなります。教員はあくまでもアドバイザーです。</p>		<p>1. 秋学期オリエンテーション(第1週)</p> <p>2. 各グループによるプレゼンテーション(第2週～最終週)</p> <p>【注意事項】</p> <p>発表終了後には、全学生に対して(発表担当グループは除く)授業用掲示板を通じて、発表に関するコメントを投稿するよう求めます。コメントは単なる感想ではなく、第一にプレゼンテーションがわかりやすいものだったか、わかりにくかったとしたらどういう工夫が必要なのか、第二には、テーマについてどんなことを考えたのか、疑問に思ったことなどを具体的に投稿してください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		毎回のディスカッションへの貢献度、出席率、掲示板への投稿、プレゼンテーションを総合して評価を行う。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語において、どのようなパラグラフが「良いパラグラフ」と呼ばれるのか、それをまず考える。そして、それを日本語で実践し、さらには、英語でも行う。</p> <p>パラグラフの書き方には、いくつかあるが、それをテキストで学び、主に英語で(時には日本語で)実践する。</p> <p>さらに、なにか書きたいことがなければ、「書こう!」という意識は生まれにくい。本講座では、その「書きたい!」という意識を育てることも視野に入れておきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) Unit 1</li> <li>3) Unit 2</li> <li>4) Unit 3</li> <li>5) Unit 4</li> <li>6) Unit 4 の英語での実践</li> <li>7) Unit 5</li> <li>8) Unit 5 の英語での実践</li> <li>9) Unit 6</li> <li>10) Unit 6 の英語での実践</li> <li>11) Unit 7</li> <li>12) Unit 7 の英語での実践</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Thoughts into Writing</i> (Seibido)		各回に提出する英作文の評価。あまりに欠席が多い場合は、それも評価の対象となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じことを、引き続き行う。前期は、パラグラフの構成の説明に時間をかけるが、後期は、学生自身が英語を書く作業に多くの時間を費やす予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Unit 8</li> <li>2) Unit 8 の英語での実践</li> <li>3) Unit 9</li> <li>4) Unit 9 の英語での実践</li> <li>5) Unit 10</li> <li>6) Unit 10 の英語での実践</li> <li>7) Unit 11</li> <li>8) Unit 11 の英語での実践</li> <li>9) Unit 12</li> <li>10) Unit 12 の英語での実践</li> <li>11) Unit 13</li> <li>12) Unit 13 の英語での実践</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英作文 a 英作文	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、正しく簡潔な英語の文章を書くために不可欠の知識を確認し、かつ、英語パラグラフについて基本的なルールを修得することを目指します。毎回、各々のテーマに関連した英語の文章について、「書く」という立場から検討をした後、学生が陥りやすい過ちに着目しつつ様々な文章パターンを学習し、更に、そうして得た知識を基に実際作文することによって、英文の表現力を確実なものにしてゆきましょう。2週間で1つのUnitを完成させます。各Unitごとに、第1週目には文章パターンを学習し、2週目にはパラグラフに着目します。また、学習事項を基に自己表現の文を書く場を設けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reading: Color Me Pink ——文章検討</li> <li>3. Writing: The Topic Sentence/ Supporting Sentences/ Concluding Sentences</li> <li>4. Reading: Tea, Anyone? ——文章検討</li> <li>5. Writing: Essay を書く / Thesis Statement 書き手の主張・読み手に最も知らせたいこと</li> <li>6. Reading: An American History, Hawaiian Style ——文章検討</li> <li>7. Writing: Chronological Order/ Introduction</li> <li>8. Reading: A Fable: "Untouchable" ——文章検討</li> <li>9. Writing: Conclusion</li> <li>10. Brainstorming Techniques</li> <li>11. Reading: Bumps and Personalities ——文章検討</li> <li>12. Writing: "Although, even though, though" の用法</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Weaving It Together...Connecting Reading and Writing</i> , by Milanda Broukal, 佐々木由美 (松柏社, Heinle&Heinle / Thomson Learning)		出席状況、平常点、提出物を総合評価	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英作文 b 英作文	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続きこの授業では、正しく簡潔な英語の文章を書くために不可欠の知識を確認し、かつ、英語パラグラフについて基本的なルールを修得することを目指します。毎回、各々のテーマに関連した英語の文章について、「書く」という立場から検討をした後、学生が陥りやすい過ちに着目しつつ様々な文章パターンを学習し、更に、そうして得た知識を基に実際作文することによって、英文の表現力を確実なものにしてゆきましょう。2週間で1つのUnitを完成させます。各Unitごとに、第1週目には文章パターンを学習し、2週目にはパラグラフに着目します。また、学習事項を基に自己表現の文を書く場を設けます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reading: The Many Faces of Medicine ——文章検討</li> <li>2. Writing: Essay を書く</li> <li>3. Reading: The Shakers ——文章検討</li> <li>4. Writing: 人物描写の Model Essay</li> <li>5. Reading: George Washington Carver ——文章検討</li> <li>6. Writing: Using Description with Narrative</li> <li>7. Reading: Our Changing Language ——文章検討</li> <li>8. Writing: Transitions (つなぎのことば)として“because”, “as”の使い方</li> <li>9. Reading: English Around The World ——文章検討</li> <li>10. Writing: “cause” and “effect”</li> <li>11. Reading: Zoos ——文章検討</li> <li>12. Writing: 説得、主張の Model Essay</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Weaving It Together...Connecting Reading and Writing</i> , by Milanda Broukal, 佐々木由美 (松柏社, Heinle&Heinle / Thomson Learning)		出席状況、平常点、提出物を総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語の基礎構造(5文型)をしっかり理解し、短い日本語をたくさん、スピーディに英語にしてゆく。</p> <p>たくさん練習する。つまり、英語を produce することによって、Speaking に近づいてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1, 2文型</li> <li>2. 第2, 3文型</li> <li>3. 第3, 4文型</li> <li>4. 第4, 5文型</li> <li>5. 1-5 復習</li> <li>6. 形容詞句(第1-3文型)</li> <li>7. 副詞句(第1-3文型)</li> <li>8. 名詞句(第1-3文型)</li> <li>9. 形容詞句(第1-5文型)</li> <li>10. 副詞句(第1-5文型)</li> <li>11. 名詞句(2)(第1-5文型)</li> <li>12. 6-11 復習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Building up English Skills (テキスト) その他多くの配布プリント		テストと出欠を含む平常点。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 a 英作文	担当者	金子 節也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>口頭英作文の要素を取り入れる。作文をさらにスピードアップ。プリント教材(自作)を併用。時事作文的要素を取り入れて、現実性を増す。5文型重視は春期と同じ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 等位節</li> <li>2. 名詞節(1)</li> <li>3. 副詞節(1)</li> <li>4. 形容詞節(1)</li> <li>5. 1-4 復習</li> <li>6. 形容詞節(2)</li> <li>7. 名詞節(2)</li> <li>8. 副詞節(2)</li> <li>9. 副詞節(3)</li> <li>10. 副詞節(4)</li> <li>11. 副詞節(5)</li> <li>12. 6-12 復習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教養ある native speaker (Donald Keene, Edward G. Seidensticker, Edwin O. Reischauer) の書いた自然な英文を読んで英語らしい表現法を学び、それにならって英文を書く練習をし、自己表現の域にたつする。</p> <p>概要</p> <p>(1) Model Paragraph を読んで Comprehension Questions に英語で答える。</p> <p>(2) Sentence Building : 既習の語や言いまわしを用いて、テキストとはやや異なった状況を表現する。</p> <p>(3) Model Paragraph を範例として、指示された状況に適合した英文を作成する。</p>		<p>1 授業の説明と Lesson 1 の一部</p> <p>2 Lesson 1, 2</p> <p>3 Lesson 2, 3</p> <p>4 Lesson 3, 4</p> <p>5 Lesson 4, 5</p> <p>6 Lesson 5, 6</p> <p>7 Lesson 6, 7</p> <p>8 Lesson 7, 8</p> <p>9 Lesson 8, 9</p> <p>10 Lesson 9, 10</p> <p>11 Lesson 10</p> <p>12 予備日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
天満美智子 : A Modern Writing Laboratory (朝日出版)		期末テスト、英作文の提出、平常点による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	川崎 潔
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>1 Lesson 11</p> <p>2 Lesson 11, 12</p> <p>3 Lesson 12, 13</p> <p>4 Lesson 13, 14</p> <p>5 Lesson 14, 15</p> <p>6 Lesson 15, 16</p> <p>7 Lesson 16, 17</p> <p>8 Lesson 17, 18</p> <p>9 Lesson 18, 19</p> <p>10 Lesson 19, 20</p> <p>11 Lesson 20</p> <p>12 予備日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; 英文をうまく論理的に書くためには、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 評価の高い英文を「真似る」こと (「学(まね)ぶ」と同源ですよ)</li> <li>② 基礎構文をしっかり身につけること</li> <li>③ 語彙を増やすこと</li> <li>④ とにかく書くこと</li> </ol> <p>だと思います。よって、この授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 語彙・基礎構文の強化</li> <li>2) モデル英文の分析</li> <li>3) テーマに沿った英文を書く(1パラグラフで書く)</li> </ol> <p>といったことを主眼としていきます。</p> <p>&lt;講義概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「語彙・基礎構文の強化」→毎回小テストを行います。</li> <li>・「モデル英文の分析」→プリントを配布します。</li> <li>・「テーマごとの英作文作成」→毎回ペアに分かれて、他の受講者の英作文を添削する訓練も行います。</li> <li>・毎回パソコン設備のある教室を使用します。サイトの紹介も適時する予定です。</li> </ul>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリントを主に使用する予定です。 小テスト用のテキストは、第一回の授業で紹介します。</p>		<p>提出物、毎回行う小テストの総得点、授業での参加度、出席状況(欠席は年間6回以内。30分以内の遅刻の場合、3分の1の欠席として計算します。でも、やむをえない場合以外はなるべく遅刻はしないで下さいね。)</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; 春学期授業同様</p> <p>&lt;講義概要&gt; 春学期授業同様</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期授業同様		春学期授業同様	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英作文 a 英作文	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Academic Writing に入る前の基礎的な英作文能力の定着を図ることを目的とする。具体的には、表現したい明確にし、内容を整理して、それを単純な英文構造にしたがって書くことである。また、自分が書いた英文を客観的にモニターする能力や態度も養いたい。</p> <p>授業は、講義、テキストの問題演習、表現や文法事項に関するディスカッションを行う。また、一人ひとりが問題点を把握し、より正確な表現ができるようになるために、学生個人々人に対する個別指導を行う。</p> <p>春学期は、文法的な正しさよりも、意図を明確に表現することを繰り返し啓蒙し、そのような意識の形成を図る。さらに、「書くこと」に関するさまざまな手続きを通して、常識的（良識的）なルールについても指導していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. センテンスの種類</li> <li>3. 句と節</li> <li>4. 名詞</li> <li>5. 冠詞</li> <li>6. 形容詞</li> <li>7. 副詞</li> <li>8. 比較</li> <li>9. 代名詞</li> <li>10. 関係詞</li> </ol> <p>適宜、公開添削指導の回を設ける。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Womack, T. &amp; Miura, S. (2000). <i>Approaching English Sentences</i>. Seibido.</p> <p>Fujii, T. &amp; Fukao, A. (2004). <i>Power Tools for College Writing</i>. McMillan.</p>		出席、レポート、授業への貢献度などを総合的に評価する。詳細は初回の授業で説明する。	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英作文 b 英作文	担当者	瀬戸 千尋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の内容を踏まえたさらなる能力の伸長を図り、パラグラフを構成し、「書き言葉」としてのコミュニケーション能力を育成することを目的とする。つまり、より正確かつ明確で簡潔な英文を書くことを通して、読み手に誤解を招かないように自らの考えを表現することができるようになることである。</p> <p>春学期と同様、講義、テキストの問題演習、表現や文法事項、パラグラフの構成についてディスカッションを行う。また、一人ひとりが問題点を把握し、より正確な表現ができるようになるために、学生個人々人について個別指導を行う。</p> <p>秋学期は、段落構成上必要な知識や技術に配慮しながら授業を進める。そして、より論理的な構成と洗練された表現で書くことの必要性を意識できるように講義を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 時制</li> <li>2. 時制の一致</li> <li>3. 態</li> <li>4. 仮定法</li> <li>5. 不定詞・動名詞・分詞</li> <li>6. 前置詞</li> <li>7. 接続詞</li> </ol> <p>春学期の内容がずれ込むこともあるので、秋学期の学習内容を少なめに設定してある。また、春学期同様、随時公開添削指導の回を設ける。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Womack, T. &amp; Miura, S. (2000). <i>Approaching English Sentences</i>. Seibido.</p> <p>Fujii, T. &amp; Fukao, A. (2004). <i>Power Tools for College Writing</i>. McMillan.</p>		出席、レポート、授業への貢献度などを総合的に評価する。詳細は初回の授業で説明する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	中村 粲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義概要&gt; 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ内容のものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた実践的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt; 始業時に大きな声で挨拶する。毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等は厳禁。ガムも不可。茶髪、金髪は感心しない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本時制①</li> <li>2 基本時制②</li> <li>3 It・There①</li> <li>4 It・There②</li> <li>5 完了①</li> <li>6 完了②</li> <li>7 否定・不定詞①</li> <li>8 否定・不定詞②</li> <li>9 分詞・動名詞①</li> <li>10 分詞・動名詞②</li> <li>11 比較①</li> <li>12 比較②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	中村 粲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義概要&gt; 精選された問題で和文英訳のコツと書き方を教え、実作を通して体得してもらう。問題は日常一般の話題に止まらず、日本人としての知識教養を培い、対外発信に役立つ内容のものを選んである。 春学期は基本的文法事項を応用した和文英訳を主に、秋学期は文法応用をはなれた実践的和文英訳を多く取り入れた練習をする。 毎回学生に板書させ、それを添削し、訳例を示す。</p> <p>&lt;受講者への要望&gt; 始業時に大きな声で挨拶する。毎回重要かつ独自の解説をするので、遅刻欠席せずに真剣に受講すること。授業中の私語、飲食等は厳禁。ガムも不可。茶髪、金髪は感心しない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 仮定(叙想)法①</li> <li>2 仮定(叙想)法②</li> <li>3 物主構文①</li> <li>4 物主構文②</li> <li>5 実戦問題①</li> <li>6 実戦問題②</li> <li>7 実戦問題③</li> <li>8 実戦問題④</li> <li>9 実戦問題⑤</li> <li>10 実戦問題⑥</li> <li>11 実戦問題⑦</li> <li>12 実戦問題⑧</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用。		平素の熱意と勤怠及び定期試験の成績を総合的に考慮して評価する。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、まず何よりも「基本的な英語表現」を習得することを目的としています。つまり、英文パラグラフ、さらには英文エッセイを書けるようになるためには不可欠な、自分の言いたいことを正確な英語で表現する能力を身につけることを目指します。したがって、この授業では、課題提出、毎週の小テスト、授業中の課題を通じて、短い文章を、英語に表現しなおす訓練をできるだけ多くしていきます。</p> <p>また、英語の表現をできるだけ多く覚える訓練の一環として、毎週の授業の冒頭では、英文ニュースのディクテーション(書き取り)も行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト第1章</li> <li>2. テキスト第2章</li> <li>3. テキスト第3章</li> <li>4. テキスト第4章</li> <li>5. テキスト第5章</li> <li>6. テキスト第6章</li> <li>7. テキスト第7章</li> <li>8. テキスト第8章</li> <li>9. テキスト第9章</li> <li>10. テキスト第10章</li> <li>11. テキスト第11章</li> <li>12. テキスト第12章</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Expanding Your Writing Skills, 朝日出版社。 Learners' Writing Clinic (英作文クリニック 360例), 鶴見書店。		毎週の課題提出状況、毎週行う小テスト、ならびに学期末試験による評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、「基本的な英語表現」を習得するための訓練を進めながら、さらに同時に英文パラグラフにも挑戦します。宿題という形で、ある特定のテーマについてのパラグラフを書いてもらいます。</p> <p>また、春学期同様、英語の表現をできるだけ多く覚える訓練の一環として、毎週の授業の冒頭では、英文ニュースのディクテーション(書き取り)も行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト第13章</li> <li>2. テキスト第14章</li> <li>3. テキスト第15章</li> <li>4. テキスト第16章</li> <li>5. テキスト第17章</li> <li>6. テキスト第18章</li> <li>7. テキスト第19章</li> <li>8. テキスト第20章</li> <li>9. テキスト第21章</li> <li>10. テキスト第22章</li> <li>11. テキスト第23章</li> <li>12. 最後のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Expanding Your Writing Skills, 朝日出版社。 Learners' Writing Clinic (英作文クリニック 360例), 鶴見書店。		毎週の課題提出状況、毎週行う小テスト、ならびに学期末試験による評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は文章でも単語でも、先ず自分の母国語で思い浮かべるでしょう。それを英語に直していくと、ちゃんとした英文にならない、そんなことは当たり前のことですが、しかしこの当たり前のことがとても重要なことだと思います。たとえばフランス人やドイツ人が英語を習得する際、母国語で思い浮かべたもの(彼らも最初は頭の中で必ずそうするでしょう)を英語にする作業が、日本語を母国語とする者よりはるかに楽であるに違いありません。なぜ東洋人が英語をマスターするのが苦手なのかの根本的理由はそこにあると思います。それなら最初から頭の中で英語で組み立てればよいというのは現実や事実在即さぬ理屈であって、普段頭の中で英語で考え、英語で感情でも気持ちでも表現していないなら、急にそんなことを要求されても出来ないのは自明の理です。</p> <p>適切な word や phrase や sentence を使う能力、sentence と sentence をつなぐ能力は(受験勉強ではカバーできない)訓練を要するのです。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>English Composition at Work</i> (金星堂) 参考文献は授業中に適宜指定する。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人は文章でも単語でも、先ず自分の母国語で思い浮かべるでしょう。それを英語に直していくと、ちゃんとした英文にならない、そんなことは当たり前のことですが、しかしこの当たり前のことがとても重要なことだと思います。たとえばフランス人やドイツ人が英語を習得する際、母国語で思い浮かべたもの(彼らも最初は頭の中で必ずそうするでしょう)を英語にする作業が、日本語を母国語とする者よりはるかに楽であるに違いありません。なぜ東洋人が英語をマスターするのが苦手なのかの根本的理由はそこにあると思います。それなら最初から頭の中で英語で組み立てればよいというのは現実や事実在即さぬ理屈であって、普段頭の中で英語で考え、英語で感情でも気持ちでも表現していないなら、急にそんなことを要求されても出来ないのは自明の理です。</p> <p>適切な word や phrase や sentence を使う能力、sentence と sentence をつなぐ能力は(受験勉強ではカバーできない)訓練を要するのです。</p> <p>時にテキストを離れて、詩とかエッセイの英訳に取り組みます。</p>		<p>テキストに沿って進めますが、学生一人ひとりの能力が異なるため、個人指導が欠かせません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>English Composition at Work</i> (金星堂) 参考文献は授業中に適宜指定する。</p>		<p>平素の小テストと平常点。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英作文 a 英作文	担当者	米山 聖子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 本講義はパラグラフライティングとエッセイライティングの基礎を学び、TOEFLの作文問題に対応できるだけのライティング能力の習得を目指します。前期は、ライティングの基礎知識を習得し、後期はその知識を用いて実践訓練を行います。また、語彙増強、表現の言い換えやまとまった文章の要約も適宜行っていくこととします。本講義はパラグラフライティングの知識を前提としませんが、授業中に行う課題と宿題などの日々の積み重ねがライティング技術の獲得には不可欠であるため、授業に出席できない学生は登録を認めない。この講義は、ライティングを基礎から学び、TOEFLの作文問題の対策に取り組みたいと考えている学生には特に有益です。</p> <p><b>講義概要:</b> 本講義は大きく分けて4つのパートに分かれます。Part 1からPart 3ではパラグラフライティングとエッセイライティングの基本を学びます。Part 4ではPart 3までで学んだライティングの知識を用いて実践訓練としてTOEFLの作文問題に取り組みます。作文はオンライン添削システムを利用して評価することにより、自己の作文能力を認識するとともに、弱点補強を行います。</p>		<p>1. 講義概要 &lt;Part 1: Paragraph Writing&gt;</p> <p>2. Topic and Supporting Sentences</p> <p>3. Organizing Ideas</p> <p>4. Information: Giving Information</p> <p>5. Expressing and Opinion</p> <p>6. Describing Processes and Writing Instructions</p> <p>7. Writing Personal and Business Letters</p> <p>8. Reporting</p> <p>&lt;Part 2: Essay Writing&gt;</p> <p>9. Getting Ready to Write</p> <p>10. Defining Paragraphs</p> <p>11. Defining Essays</p> <p>12. Revising and Editing</p> <p>&lt;Part 3: Major rhetorical forms&gt; 夏休みの課題として5つのエッセイパターンについて学ぶ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。Criterion (オンライン添削システム)の登録料として1500円が必要(2月現在。登録料の変更の可能性あり。)		授業中の課題や宿題に対する評価、出席状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英作文 b 英作文	担当者	米山 聖子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 本講義はパラグラフライティングとエッセイライティングの基礎を学び、TOEFLの作文問題に対応できるだけのライティング能力の習得を目指します。前期は、ライティングの基礎知識を習得し、後期はその知識を用いて実践訓練を行います。また、語彙増強、表現の言い換えやまとまった文章の要約も適宜行っていくこととします。本講義はパラグラフライティングの知識を前提としませんが、授業中に行う課題と宿題などの日々の積み重ねがライティング技術の獲得には不可欠であるため、授業に出席できない学生は登録を認めない。この講義は、ライティングを基礎から学び、TOEFLの作文問題の対策に取り組みたいと考えている学生には特に有益です。</p> <p><b>講義概要:</b> 本講義は大きく分けて4つのパートに分かれます。Part 1からPart 3ではパラグラフライティングとエッセイライティングの基本を学びます。Part 4ではPart 3までで学んだライティングの知識を用いて実践訓練としてTOEFLの作文問題に取り組みます。作文はオンライン添削システムを利用して評価することにより、自己の作文能力を認識するとともに、弱点補強を行います。</p>		<p>&lt;Part 4: TOEFL writing preparation&gt;</p> <p>1. 前期授業と夏休みの課題についての復習</p> <p>2. TOEFLのライティングについて</p> <p>3. TOEFL practice using Criterion</p> <p>4. TOEFL practice using Criterion</p> <p>5. TOEFL practice using Criterion</p> <p>6. TOEFL practice using Criterion</p> <p>7. TOEFL practice using Criterion</p> <p>8. TOEFL practice using Criterion</p> <p>9. TOEFL practice using Criterion</p> <p>10. TOEFL practice using Criterion</p> <p>11. TOEFL practice using Criterion</p> <p>12. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布。Criterion (オンライン添削システム)の登録料として1500円が必要(2月現在。登録料の変更の可能性あり。)		授業中の課題や宿題に対する評価、出席状況、授業への参加度、受講生相互の評価による総合判断。	

03年度以降(春)	英語エッセイ・ライティング a	担当者	D.L.Blanken
02年度以前(春)	英語エッセイ・ライティング		
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(秋)	英語エッセイ・ライティング b	担当者	D.L.Blanken
02年度以前(秋)	英語エッセイ・ライティング		
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	E.J. NAOUMI
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students taking this course are expected to have a good knowledge of the elements of paragraph writing such as introductions, topic sentences, supporting sentences and conclusions. This knowledge will be the starting point for this essay writing course.</p> <p>Students will be encouraged to develop good writing habits and there will also be an introduction to summary and editing skills.</p>		<p>Week 1: Introduction to the course  Week 2: Good writing habits - personal letters  Week 3: “ - summary skills  Week 4: ”  Week 5: Biography  Week 6: ”  Week 7: Description of a place  Week 8: “  Week 9: Introduction to academic writing  Week 10: “  Week 11: “  Week 12: Writing workshop</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class		Attendance, participation and writing portfolio	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	E.J. NAOUMI
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>We will continue practicing the skills introduced in the first semester, but the focus will be upon persuasive writing and report writing.</p>		<p>Week 1: Revision  Week 2: Formal writing – Letter of complaint  Week 3: Patterns in persuasive writing  Week 4: “  Week 5: “  Week 6: “  Week 7: “  Week 8: “  Week 9: Writing reports and exams  Week 10: “  Week 11: “  Week 12: Writing workshop</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Same text as the first semester		Attendance, participation and writing portfolio	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This programme is aimed primarily at having the students produce good, clear, error-free English. Also, we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.</p> <p>講義概要</p> <p>Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write and this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly.</p> <p>Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and methods</li> <li>2. Errors in construction</li> <li>3. Punctuation: good comma usage</li> <li>4. Direct and indirect speech</li> <li>5.. Ambiguity pitfalls</li> <li>6. Paragraph effectiveness</li> <li>7. Relative pronouns</li> <li>8. Transcription</li> <li>9. Descriptive skills</li> <li>10. Seeing and writing</li> <li>11. The short story</li> <li>12. Balanced writing</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various materials		Graded weekly assignments	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Reader's meaning / writer's meaning</li> <li>2. Comparing some written works</li> <li>3. Letter writing / main points</li> <li>4. The anecdote</li> <li>5. Concise writing</li> <li>6. Time and sequence</li> <li>7. Criticism</li> <li>8. Nuance</li> <li>9. Writing for the reader</li> <li>10. The power of humor</li> <li>11. Creative expression</li> <li>12. Can they see it as I see it?</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		As above	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	L.K.Hawkins
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語エッセイ・テイティング a 英語エッセイ・テイティング	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要 Course Description-objectives, etc		授業計画 Weekly Schedule	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Read complex essays and write SUMMARIES of them; RESPOND to the writings of others using PERSONAL EXPERIENCE and TEXTUAL ANALYSIS; ANALYZE and RESPOND in essay form to media images.</p> <p>The course is designed to provide students with the tools required to become INDEPENDENT writers. Students will be able to:</p> <p>Develop their ideas; Keep their ideas unified in writing; Maintain coherence in their essays; Follow basic principles of style.</p> <p>To succeed in this course, there is a great deal of work to be done IN CLASS. ATTENDANCE IS MANDATORY.</p>		<p>April: SUMMARIES</p> <p>May/June: RESPONSES</p> <p>June/July: MEDIA ANALYSIS</p>	
テキスト、参考文献 textbook, references		評価方法 evaluation policy & method	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay Grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語エッセイ・テイティング b 英語エッセイ・テイティング	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term. But we will add a research component.</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Analyze CAUSE/EFFECT relationships; Propose SOLUTIONS to problems; Conduct independent research; Use sources effectively to support their own ideas; Document their sources according to APA Style.</p> <p>In addition, through continued practice, students will be able to identify strengths and weaknesses in their own writing and edit their work themselves.</p>		<p>September/October: CAUSE/EFFECT Essay</p> <p>October: Research Skills</p> <p>November/December: PROBLEM SOLVING</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at mikehoodenglish.com		<p>Essay grades: 60%</p> <p>Participation: 40%</p>	



03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	P. McEville
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to improve the students ability to write essays. This course will build on skills the students learned in Paragraph Writing. Besides writing, students will also learn to proofread their peer's essays.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Writing Academic English</i> (Longman)		Grades will be based on classroom participation and homework: 50% Examination: 50%	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	P. McEville
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Essay Writing 1a..</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Writing Academic English</i> (Longman)		Grading will be based on active class participation, various homework as well as in-class and group assignments and a final project.	

05年度以降 (春) 05年度以前 (春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this class is to help students become better at writing essays in English. This class is for students who are quite confident in their English abilities; that is, their English level should be upper-intermediate or advanced. In this class, the students will be required to do a lot of talking and thinking about a variety of high-interest topics. At the end of the second semester, the students will write one essay of their choice on a topic covered. In addition to writing, the students will be required to discuss many topics of high interest. It is hoped that the students can also increase their speaking and vocabulary skills in this lesson. Motto for this class: If at first you don't succeed, try, try again!</p> <p>Students! Please note that these classes always start on time so please be punctual. Also, come to all the lessons.</p>		<p>A variety of topics will be discussed over the course of the two semesters. They may include all, or some, of the following. Please note that the pace of the lesson will dictate how many topics are covered. Also the topics might not be covered in the order listed.</p> <p>Topics to be covered include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Computers.</li> <li>3 Caring for Children.</li> <li>4 Gay Issues.</li> <li>5 Problems of an aging society.</li> <li>6 Cars; the advantages and disadvantages.</li> <li>7 What are your values?</li> <li>8 Some aspects of employment.</li> <li>9 Do animals have rights?</li> <li>10 Women's Issues.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used. Students will be given many handouts during the lessons. They should buy a clear folder with many pages in which to keep them		Class work/ homework/ vocabulary tests/ speeches: 50% Speaking Tests: 40% Good attendance/punctual/speaking English/ trying hard: 10%	

05年度以降 (秋) 05年度以前 (秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
The same as the above		<p>A variety of topics will be discussed over the course of the two semesters. They may include all, or some, of the following. Please note that the pace of the lesson will dictate how many topics are covered. Also the topics might not be covered in the order listed.</p> <p>Topics to be covered include:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Computers.</li> <li>3 Caring for Children.</li> <li>4 Gay Issues.</li> <li>5 Problems of an aging society.</li> <li>6 Cars; the advantages and disadvantages.</li> <li>7 What are your values?</li> <li>8 Some aspects of employment.</li> <li>9 Do animals have rights?</li> <li>10 Women's Issues.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used. Students will be given many handouts during the lessons. They should buy a clear folder with many pages in which to keep them		Class work/ homework/ vocabulary tests/ speeches: 50% Speaking Tests: 40% Good attendance/punctual/speaking English/ trying hard: 10%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	R.DURHAM
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>COURSE DESCRIPTION:</b> THIS COURSE WILL ASSIST YOU TO IMPROVE YOUR ENGLISH WRITING ABILITIES. MUCH TIME WILL BE SPENT RE-WRITING "WASEI EIGO" SENTENCES IN THE FORM OF GRAMMATICALLY-CORRECT &amp; CULTURALLY-APPROPRIATE ENGLISH. SOME PRACTICE IN WRITING BASIC PARAGRAPHS WILL BE GIVEN. IF STUDENT ABILITIES WARRANT IT, SOME PRACTICE IN WRITING BRIEF ESSAYS MAY BE GIVEN.</p> <p><b>MAIN POINTS:</b> THE COURSE FOCUS WILL BE ON LEARNING TO WRITE IN CORRECT ACADEMIC ENGLISH; AND ON EXPLAINING A LOT. STUDENTS WILL BE ENCOURAGED TO COMPOSE WITH THE ASSISTANCE OF COMPUTER WORD-PROCESSING PROGRAMS.</p> <p>PLEASE ASSIST THE INSTRUCTOR TO LEARN YOUR NAME, BY ALWAYS DISPLAYING YOUR NAME CARD ON THE DESK IN FRONT OF YOU. PLEASE ALWAYS SIT NEAR TO THE FRONT OF THE CLASSROOM. PLEASE ALWAYS SIT BESIDE OTHER CLASSMATES; &amp; PLEASE LEARN TO SPEAK TO OTHER CLASSMATES IN A FRIENDLY, EXTROVERTED WAY.</p>		<p><b>TENTATIVE WEEKLY OUTLINE FOR THE SPRING SEMESTER (ITEMS SHOWN MAY CHANGE, DEPENDING UPON STUDENT NEEDS &amp; LEVELS):</b> WEEK 1: INTRODUCING YOURSELF IN A PARTY SITUATION: PAIR PRACTICE. ENGLISH RE-WRITING EXERCISES. WEEK 2: INTRODUCTION TO THE BASIC ELEMENTS OF SENTENCE CONSTRUCTION &amp; PARAGRAPH-WRITING. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 3: CAPITALIZING TITLES CORRECTLY ENGLISH RE-WRITING EXERCISES. CREATING DYNAMIC COMPOSITION TITLES WEEK 4: WRITING ABOUT GOLDEN WEEK. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 5: EXAMINATION OF SOME CHANGES NECESSARY TO STUDENT 'GOLDEN WEEK' COMPOSITIONS. QUIZ. THE IMPORTANT ELEMENTS OF AN ENGLISH PARAGRAPH. WEEK 6: ENGLISH RE-WRITING EXERCISES. INDENTING &amp; MARGINING PRACTICES FOR PARAGRAPHS. WEEK 7: CORRECT HYPHENATION OF ENGLISH WORDS NEAR TO RIGHT PAGE MARGINS. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 8: QUIZ: THE NECESSITY OF AVOIDING PLAGIARISM AT ALL COSTS; HOW TO REFERENCE QUOTES &amp; BORROWED INFORMATION. WEEK 9: RE-WRITING EXERCISES. STUDENTS WILL BE ASKED TO WRITE EMOTIVE, FASCINATING ANSWERS TO QUESTIONS SUCH AS "HOW ARE YOU?", "WHAT ARE YOUR HOBBIES?", AND OTHER EVERYDAY DISCUSSION ITEMS. WEEK 10: STUDENTS WILL BE INVITED TO WRITE ABOUT OPINIONS, AND/OR THEIR DAILY/WEEKLY SCHEDULES. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 11: QUIZ. RE-WRITING EXERCISES. WRITING ABOUT SUMMER BREAK/VACATION PLANS (CORRECTLY USING THE FUTURE TENSE). WEEK 12: CHECKING OF STUDENT COMPOSITIONS. RE-WRITING EXERCISES.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>TEXTBOOK: THE INSTRUCTOR MAY CHOOSE A TEXTBOOK, AFTER MEETING WITH AND ASSESSING STUDENT NEEDS. HOWEVER, MANY OF THE WRITING EXERCISES MAY NOT REQUIRE ANY TEXTBOOK. <i>A GOOD ENGLISH-JAPANESE/JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY IS REQUIRED</i> -- BEST OF ALL, A QUALITY ENGLISH-ENGLISH 'LEARNER'S DICTIONARY'.</p>		<p>EVALUATION: TESTS/QUIZES/EXAMS: APPROX. 40%; CLASS PARTICIPATION: APPROX. 20%; HOMEWORK/PRESENTATION(S): APPROX. 20%; ATTENDANCE: APPROX. 20%. THESE GRADES &amp; PERCENTAGE ARE OF COURSE OPEN TO VARIATION, IN ORDER TO ACCOMMODATE THE DIFFERENT SITUATION/MOOD OF EACH DISTINCT CLASS.</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	R.DURHAM
講義目的、講義概要		授業計画	
		<p><b>TENTATIVE WEEKLY OUTLINE FOR THE FALL SEMESTER (ITEMS SHOWN MAY CHANGE, DEPENDING UPON STUDENT NEEDS &amp; LEVELS):</b> WEEK 1: WELCOME BACK! STUDENTS WILL BE ASKED TO WRITE IN DETAIL ABOUT THE SUMMER BREAK: "HOW WAS YOUR SUMMER BREAK?" PAIR PRACTICE. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 2: EXAMINATION OF SOME CORRECT &amp; INCORRECT SENTENCE CONSTRUCTIONS IN STUDENT 'SUMMER BREAK' COMPOSITIONS. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 3: QUIZ. WEEK 4: INVESTIGATING AND WRITING ABOUT HALLOWE'EN: HISTORY &amp; CUSTOMS. WEEK 5: HALLOWE'EN CONTINUED: WRITING ABOUT HALLOWE'EN PARTY POSSIBILITIES, USING WOULD/PAST VERB &amp; ALSO WILL/PRESENT VERB PAIRS. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 6: STUDENTS MAY BE ASKED TO WRITE CULTURALLY-APPROPRIATE &amp; GRAMMATICALLY-CORRECT REPLIES TO QUESTIONS SUCH AS "HAVE YOU EVER ...?" or "HOW LONG HAVE YOU...?" WEEK 7: QUIZ. STUDENTS MAY BE ASKED TO WRITE ABOUT "WHAT KIND OF ----- DO YOU LIKE?". AND TO ELABORATE/EXPLAIN IN GRAMMATICALLY-CORRECT SENTENCES/PARAGRAPHS. WEEK 8: STUDENTS MAY BE INVITED TO DESCRIBE, IN WRITING, THE AREA NEAR TO THE STATION CLOSEST TO WHERE EACH OF THEM LIVES. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 9: STUDENTS MAY BE INVITED TO WRITE ABOUT THE DOKKYO FALL FESTIVAL. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 10: RE-WRITING EXERCISES. INVESTIGATING CHRISTMAS TRADITIONS &amp; CUSTOMS IN VARIOUS COUNTRIES AROUND THE WORLD. DEPENDING UPON TIME CONSTRAINTS &amp; UPON DEGREE OF STUDENT INTEREST, THIS COULD BE MADE INTO A SMALL RESEARCH PROJECT/COMPOSITION. WEEK 11: QUIZ. WRITING ABOUT CHRISTMAS, CONTINUED. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 12: WRITING ABOUT "OSHO GATSU". RE-WRITING EXERCISES.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>TEXTBOOK: THE INSTRUCTOR MAY CHOOSE A TEXTBOOK, AFTER MEETING WITH AND ASSESSING STUDENT NEEDS. HOWEVER, MANY OF THE WRITING EXERCISES MAY NOT REQUIRE ANY TEXTBOOK. <i>A GOOD ENGLISH-JAPANESE/JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY IS REQUIRED</i> -- BEST OF ALL, A QUALITY ENGLISH-ENGLISH 'LEARNER'S DICTIONARY'.</p>		<p>EVALUATION: TESTS/QUIZES/EXAMS: APPROX. 40%; CLASS PARTICIPATION: APPROX. 20%; HOMEWORK/PRESENTATION(S): APPROX. 20%; ATTENDANCE: APPROX. 20%. THESE GRADES &amp; PERCENTAGE ARE OF COURSE OPEN TO VARIATION, IN ORDER TO ACCOMMODATE THE DIFFERENT SITUATION/MOOD OF EACH DISTINCT CLASS.</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	S.J.Christie
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to introduce students to logical thought processes, enabling students to produce longer and more complex written statements in a clear and logical manner. After a review of the various types of paragraphs (e.g. introduction / conclusion, comparison / contrastive, process, opinion, etc.) and covering introductory western argumentation, students will progress to writing essays for academic purposes.</p>		<p>Week by week activities depend upon the students' comprehension of course materials and their needs. The general course outline is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. Introduction to the course <i>English Essay Writing</i>.</li> <li>II. Review/Overview of paragraph structure and types.</li> <li>III. Introduction to western logical forms.</li> <li>IV. Logic and argumentation.</li> <li>V. Introduction to Essay structure and types.</li> <li>VI. Introduction/Explanation of the Final Project and Summer research activities.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Art of Making Sense</i> ISBN: 4-89684-373-8 <i>Success with College Writing: from Paragraph to Essay</i> ISBN: 4-89585-444-2</p>		Grading will be based on active class participation, various homework as well as in-class and group assignments and an examination	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	S.J.Christie
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course, building upon the foundation of the spring course will expand upon the students' essay writing skills to integrate visual information (e.g. charts, graphs, maps, illustrations, etc.) into their essays and clearly explain the information and its relevance to the overall message of the essay. The culmination of the course will concern the considerations required for the preparation and adaptation of the students' essays into "presentation" formats (e.g. html (web based), PDF (acrobat), or PPT (PowerPoint) for the dissemination of their message to a wider audience.</p>		<p>Week by week activities depend upon the students' comprehension of course materials and their needs. The general course outline is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>I. Introduction to the course <i>English Essay Writing</i>.</li> <li>II. Review/Overview of paragraph structure and types.</li> <li>III. Introduction to western logical forms.</li> <li>IV. Logic and argumentation.</li> <li>V. Introduction to Essay structure and types.</li> <li>VI. Introduction/Explanation of the Final Project and Summer research activities.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Art of Making Sense</i> ISBN: 4-89684-373-8 <i>Success with College Writing: from Paragraph to Essay</i> ISBN: 4-89585-444-2</p>		Grading will be based on active class participation, various homework as well as in-class and group assignments and a final project.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語エッセイ・ライティング a 英語エッセイ・ライティング	担当者	鈴木 眞奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal of this course is to give you an opportunity to know and understand yourself better through the process of English writing. You will write essays in various genres. This course also aims to enhance your English holistically. You are expected to make a good learning community through participation in this class.</p> <p>We will use e-mail as means of communication outside the classroom. In the spring semester, you will learn narrative and expository essays. You will write your personal history as a final paper at the end of the semester.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction/ Setting Goals/ Self-introduction</li> <li>2. Japanese English Writers' Typical Writing Patterns/ Personal Essay (To know yourself)</li> <li>3. Organization/ Expository Essay (Something you recommend)</li> <li>4. Personal Essay/ Thank-you Letter</li> <li>5. Cohesion/ Narrative Writing (the Golden Week)</li> <li>6. Translation of your Favorite Japanese Poem or Song into English</li> <li>7. How to Write Letters</li> <li>8. E-mail Writing/ Peer Revision</li> <li>9. The Test of Written English (TWE)'s Essay (TOEFL)</li> <li>10. The Process of Writing Essays/ Brain-storming</li> <li>11. Make an Outline of your Final Essay</li> <li>12. Final Report of your Personal History/ Reflection on Your Achievement</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Your weekly assignments, final paper, self-assessment, and class participation	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語エッセイ・ライティング b 英語エッセイ・ライティング	担当者	鈴木 眞奈美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the fall semester, you will learn academic writing. You will write a proposal of your thesis or your career plan as a final paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review/ Introduction</li> <li>2. Note-taking</li> <li>3. Summary Writing</li> <li>4. Summary Writing</li> <li>5. Argumentative Essay</li> <li>6. Argumentative Essay</li> <li>7. Research Paper/Your Academic Interests</li> <li>8. Library Research for Research Paper</li> <li>9. Your Future Plan</li> <li>10. Your Curriculum Vitae (CV) and Cover Letter</li> <li>11. Make an Outline of your Final Paper</li> <li>12. Final Report of your Proposal or Plan/ Reflection on your Achievement</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts		Your weekly assignments, final paper, self-assessment, and class participation	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	翻訳 a 英日翻訳	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を日本語に直すことによって、そこにはどのような差があるのか、そしてないのか、それを、翻訳という実践によって探る。</p> <p>春学期はビートルズの歌詞を翻訳し、「解釈」というものがいかに翻訳されたものに反映されるか、これを考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス</li> <li>2) The Beatles "She's Leaving Home," "Norwegian Wood (This Bird Has Gone)"</li> <li>3) "Nowhere Man," "In My Life"</li> <li>4) "Eleanor Rigby," "For No One"</li> <li>5) "Getting Better," "Fixing a Hole"</li> <li>6) "She's Leaving Home," "Lovely Rita"</li> <li>7) "Lucy in the Sky with Diamonds"</li> <li>8) "Piggies," "Blackbird"</li> <li>9) "Rocky Raccoon"</li> <li>10) "Across the Universe"</li> <li>11) "Maxwell's Silver Hammer," "Octopus's Garden"</li> <li>12) "Strawberry Fields Forever"</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		ある学生が訳してきたものを、受講しているほかの学生が点数制で評価する。また、他人の翻訳を読むことも勉強である。欠席は減点対象になる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	翻訳 b 英日翻訳	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>T. S. Eliot の、<i>Old Possum's Book of Practical Cats</i> を日本語に直す作業をする。</p> <p>この話は、ミュージカル『キャッツ』の元となっているものである。英語はそれほど難しくないだけに、日本語のセンスが必要とされる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) The Naming of Cats</li> <li>2) The Old Gumbie Cat</li> <li>3) Growltiger's Last Stand</li> <li>4) The Rum Tum Tugger</li> <li>5) The Song of the Jellicles</li> <li>6) Mungojerrie and Rumpelteazer</li> <li>7) Old Deuteronomy</li> <li>8) The Pikes and the Pollicles</li> <li>9) Mr. Mistoffelees</li> <li>10) Macavity: the Mystery Cat</li> <li>11) Gus: the Theatre Cat</li> <li>12) Bustopher Jones: the Cat about Town</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
T. S. Eliot <i>Old Possum's Book of Practical Cats</i> (Faber & Faber)		春学期と同じ。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	翻訳 a 英日翻訳	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に文学作品(小説)を英文から日本語の文章に翻訳するための基礎を学びます。英語で書かれた文学作品を1. 正しく 2. 読みやすく 3. 自然に感じられるように訳すためにはどうしたら良いか、実際毎回の演習を通じて学んでゆきましょう。既に翻訳が出版されているものについては、その訳文を参考にしたり、各自作成したものと比較したりしながら、翻訳の面白さを経験してみましょう。また、各文学作品の翻訳に取り掛かる前に、各作家の紹介文(英文)をまず訳してみます。</p> <p>尚、取り上げる作品は、主にアメリカの著名な作家のものから幾つか選びます</p>		1: Introduction 2: ①作家の経歴 3: その作品 4: 同上 5: 同上 6: ②作家の経歴 7: その作品 8: 同上 9: 同上 10: ③作家の経歴 11: その作品 12: 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席状況、毎回の提出物、期末のレポートを総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	翻訳 b 英日翻訳	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、春学期に引き続き、文学作品(小説)を英文から日本語の文章に翻訳するための基礎を学んでゆきます。1. 正しく 2. 読みやすく 3. 自然に感じられるように訳すためにはどうしたら良いか、前期同様毎回の演習を通じて学んでゆきましょう。各作家の紹介文(英文)を訳した後、作家によって文体が違うことに留意しながら、文章にふさわしい日本語の文体を考えて作品を訳してゆきましょう。</p>		1: 前期レポート返却と総評 2: ④作家の経歴 3: その作品 4: 同上 5: 同上 6: ⑤作家の経歴 7: その作品 8: 同上 9: 同上 10: ⑥作家の経歴 11: その作品 12: 同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席状況、毎回の提出物、期末のレポートを総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	翻訳 a 英日翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を明らかにし、翻訳の限界と可能性について実践的に探ります。</p> <p>翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。</p> <p>授業では、主として文系英文および和文(新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品)などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p> <p>コトバの意味と音に関心のある学生を求めます。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～12回 翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	翻訳 b 英日翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p>		<p>第1回春学期テストの講評および秋学期授業のガイダンス</p> <p>第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回復習テスト</p> <p>第8～11回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第12回まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		コメント、プレゼンテーション、復習テストなど	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	翻訳 a 英日翻訳	担当者	藤田 永祐
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文学作品やエッセイなどを英文から日本語に翻訳することを学びます。正しい、自然な日本語にする工夫、研究、訓練をします。授業はグループ作業を取り入れます。率直に意見を取り交わして、磨きあうことが大切です。各グループで作成したものを、比較検討することで、さらに練り上げるという手順をとってみたいと思います。</p> <p>同時に個人作業の課題を設定して平行して進めていく予定です。</p> <p>定員オーバーの場合は、最初の時間に簡単なテストをし、その日のうちに結果を掲示します。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	翻訳 b 英日翻訳	担当者	藤田 永祐
<b>(講義目的、講義概要)</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文学作品やエッセイなどを英文から日本語に翻訳することを学びます。正しい、自然な日本語にする工夫、研究、訓練をします。授業はグループ作業を取り入れます。率直に意見を取り交わして、磨きあうことが大切です。各グループで作成したものを、比較検討することで、さらに練り上げるという手順をとってみたいと思います。</p> <p>同時に個人作業の課題を設定して平行して進めていく予定です。</p> <p>定員オーバーの場合は、最初の時間に簡単なテストをし、その日のうちに結果を掲示します。</p>			
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。		平常点、提出物、出席を総合評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	カレッジ・グラマー a カレッジ・グラマー	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、オーソドックスな手法としてのデータ観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で、既存の方法論にとらわれることなく、ある程度白紙の状態からスタートし、英語に関して与えられたデータを観察した結果、そこからどのようなことがこれまでとは異なる理論として導出されるのか考察します。ですので、積極的に何か新しいことが言えるのではないかという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。そのため授業の方向性はある程度学生からの活発な意見交換も尊重したいと思いますので、初回授業時に授業の主な方向性を決定します。主に学生に発表してもらう形式をとりますので、学生側が受身的な姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・文型 3・規則性の発見 4・構文分析例 6・付加詞 5・受動文 6・代名詞 7・再帰代名詞 8・否定</p> <p>(上記以外で学生から要望のある構文なども考慮する予定なので、プログラムに多少の余裕をもたせてあります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英文法4・文I』研究社 『機能英文法』大修館書店 『統語論』開拓社 他		1・出席、2・試験、3・平常点 上記3点の総合とします。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	カレッジ・グラマー b カレッジ・グラマー	担当者	河原 宏之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、オーソドックスな手法としてのデータ観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で、既存の方法論にとらわれることなく、ある程度白紙の状態からスタートし、英語に関して与えられたデータを観察した結果、そこからどのようなことがこれまでとは異なる理論として導出されるのか考察します。ですので、積極的に何か新しいことが言えるのではないかという姿勢で授業に臨んでもらいたいと思います。そのため授業の方向性はある程度学生からの活発な意見交換も尊重したいと思いますので、初回授業時に授業の主な方向性を決定します。主に学生に発表してもらう形式をとりますので、学生側が受身的な姿勢にならないことを希望します</p>		<p>1・イントロダクション 2・文型 3・規則性の発見 4・構文分析例 6・付加詞 5・受動文 6・代名詞 7・再帰代名詞 8・否定</p> <p>(上記以外で学生から要望のある構文なども考慮する予定なので、プログラムに多少の余裕をもたせてあります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『現代の英文法4・文I』研究社 『機能英文法』大修館書店 『統語論』開拓社 他		1・出席、2・試験、3・平常点 上記3点の総合とします。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	カレッジ・グラマーa カレッジ・グラマー	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いである。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか?」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む言語の規則性を探っていく習慣を身につけていかねばならない。この授業では、テキストを基にした講義から、規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っている。同時に、その考え方を掴む実践編として、TOEICやTOEFLに見られるような英文法と語彙の練習問題を毎回30分位の時間を割いて解いてもらい、答合わせと解説を行う。</p>		<p>テキストに沿って6章までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>1章 基本文型—新しい視点から眺めて 2章 文の構造—文の多様性を探る 3章 動詞—文の中心語句を解明 4章 否定—否定の正しい意味解釈のために 5章 助動詞—文のニュアンスを表現する 6章 受動文—なぜ受動文は存在するのか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	カレッジ・グラマーb カレッジ・グラマー	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>専修学校ではなく大学で英語を学ぶ英語学科の学生にとって恥ずかしくないきっちりとした英文法の知識を身につけることが当然の狙いである。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか?」と素朴な疑問を抱くことが肝要で、そこから始めて、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む言語の規則性を探っていく習慣を身につけていかねばならない。この授業では、テキストを基にした講義から、規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたいと思っている。同時に、その考え方を掴む実践編として、TOEICやTOEFLに見られるような英文法と語彙の練習問題を毎回30分位の時間を割いて解いてもらい、答合わせと解説を行う。</p>		<p>テキストに沿って7章から最後までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>7章 準動詞—第2の「文」としての解釈 8章 形容詞—名詞修飾だけが形容詞の機能ではない 9章 名詞句と文構造の多様性—正確な文の解釈を求めて 10章 代用表現—合理的な表現手段について 11章 関係詞—基本から派生へ 12章 特殊構文—効果的なコミュニケーションのために</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・他『大学生のための現代英文法』開拓社		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	カレッジ・グラマーa カレッジ・グラマー	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語を正確に使えるようになることがこの授業の目的である。テキストには、アメリカの学生生活において使われる英語が各頁に記載されていて、英語の文法的な知識の習得だけではなく、アメリカ人の、特にアメリカの学生の生活様式を知ることができるであろう。テキストの半分は練習問題である。居眠りをする暇はない。例文はすべて口語英語(話し言葉)であることは言うまでもない。</p>		<p>I. 語順 II. 動詞 III. 動名詞 IV. 冠詞</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hayden, R. E, <i>Mastering American English</i> (Longman)		出席、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	カレッジ・グラマーb カレッジ・グラマー	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>V. 前置詞 VI. 名詞と代名詞 VII. 形容詞と副詞 VIII. 句読点の付け方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	カレッジ・グラマー a カレッジ・グラマー	担当者	山田 修
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語教員を志望する学生諸君の、いわゆる「学校文法」の習得を目指す。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための、手段としての文法を考える。</p> <p>必要に応じて各項目の簡単な説明はするが、テキストの説明は各自読み、授業は問題中心に進めていく。時間がある場合には、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・その他</li> <li>2. Unit 1 文の構造と種類</li> <li>3. Unit 2 動詞</li> <li>4. Unit 3 時制と相</li> <li>5. Unit 4 重文と複文</li> <li>6. Unit 5 不定詞と分詞(非定形節)</li> <li>7. Unit 6 名詞</li> <li>8. Unit 7 形容詞と副詞</li> <li>9. Unit 8 助動詞</li> <li>10. Unit 9 動詞の表現形式と法</li> <li>11. Unit 10 情報構造と派生的構文</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学習者中心の最新文法』長谷川瑞穂・木全睦子 (朝日出版社) (参考) 江川泰一郎『英文法解説』金子書房		定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	カレッジ・グラマー b カレッジ・グラマー	担当者	山田 修
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語教員を志望する学生諸君の、いわゆる「学校文法」の習得を目指す。文法のための文法ではなく、英文を読んでいくための、英文を書くための、手段としての文法を考える。</p> <p>必要に応じて各項目の簡単な説明はするが、テキストの説明は各自読み、授業は問題中心に進めていく。時間がある場合には、テキスト外の問題をやり、文法知識の習得を確認する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション・その他</li> <li>2. I 名詞; II 代名詞(1), 代名詞(2)</li> <li>3. III 進行形・完了形(1)(2)(3); IV 助動詞(1)(2)(3)</li> <li>4. V 態(1)(2); VI 不定詞(1)(2)</li> <li>5. VII 分詞(1)(2); VIII 動名詞(1)(2)</li> <li>6. IX 形容詞・副詞; X 比較(1)(2)</li> <li>7. XI 関係詞(1)(2)(3); XII 否定表現(1)(2)</li> <li>8. XIII 「時」の表現; XIV 「原因・理由」の表現</li> <li>9. XV 「目的・結果・程度」の表現; XVI 「譲歩」の表現</li> <li>10. XVII 「条件・仮定」の表現(I)(2); XVIII 「様態・範囲・制限」の表現</li> <li>11. XIX 強調・倒置の構文; XX 省略・挿入の構文</li> <li>12. XXI 名詞構文・無生物主語構文; XXII 同格・相関関係の構文</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『大学英文法の要点』福井慶一郎(朝日出版社) (参考) <i>Grammar and Spoken and Written English</i> , Longman		定期試験の結果および出席状況等の普段点を総合して評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate level students of English. We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences and participate in discussions. The weekly topics list a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final. Part of each lesson will be set aside for short presentations by the students. Performance and strength of preparation in the presentations will be reflected in the final grade.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course</li> <li>2 Consolidation activities</li> <li>3 Consolidation activities</li> <li>4 Work – talking about jobs and careers</li> <li>5 Homes – location inside the house</li> <li>6 Directions – giving directions and using maps</li> <li>7 Past(1) – talking about people's histories</li> <li>8 Travel – making travel arrangements</li> <li>9 Introduction to the UK</li> <li>10 London</li> <li>11 Comparing countries</li> <li>12 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%).	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	D. Bradley
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The autumn term will be a continuation of the course begun in the spring. We will proceed with the same approach and style of lesson. The same conditions for grading and presentations will apply.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Consolidation</li> <li>2 Health</li> <li>3 Giving advice</li> <li>4 Past(2) – biographies</li> <li>5 Hypothetical situations – talking about the future</li> <li>6 Hypothetical situations – talking about the past</li> <li>7 Festivals</li> <li>8 Cultural comparison</li> <li>9 Current events – listening to the news</li> <li>10 Discussions – giving opinions</li> <li>11 Discussions – giving opinions</li> <li>12 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.		Grades will be based on attendance (33%), class participation (33%) and the presentations (33%).	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	E.J. NAOUMI
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The first semester will emphasize presentation skills. Students will begin by making short speeches on topics studied in class and will work towards a final group presentation at the end of the semester.</p> <p>Topics will be introduced through videos and class activities but the students are expected to develop them.</p>		<p>Week 1: Introduction to the course Week 2: Icebreakers Week 3: Common Interests Week 4: “ Week 5: Sport Week 6: “ Week 7: Work Week 8: “ Week 9: Travel Week 10: Week 11: Presentation skills Week 12: “</p> <p>Topics may change according to student interests.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Worksheets will be provided by the instructor.		Attendance, participation, worksheets, individual and group presentations.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	E.J. NAOUMI
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students will continue to practice presentation skills but the topics will be taken from movies and the news.</p>		<p>Week 1: Movie questionnaire Week 2: “About A Boy” Week 3: “ Week 4: “ Week 5: “Movie 2” Week 6: “ Week 7: “ Week 8: “ Week 9: News Topics Week 10: “ Week 11: “ Week 12: Preparation for the final test</p> <p>Students will be allowed to choose the second movie.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Worksheets will be provided by the teacher. The movies and listening materials for the news will be available in the AV Library.		Attendance, participation, worksheets, individual and group presentations.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to give students the opportunity to further build on and develop their English comprehension and communicative competence skills.</p> <p>In the first semester, we will work on a three-week cycle-reading, comprehending, discussing, and otherwise working with up-to-date content-based news articles and material of a topical nature adapted from print and online sources.</p> <p>I will be selecting the articles and preparing the tasks and activities. It is the students' responsibility to read and further research into the topic as well as to complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your ideas in class. In this way, we can make the best use of the time we have available to help you, the student, improve your comprehension and communicative skills, as well as develop a greater understanding of issues and events happening in the world around you.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Course description &amp; explanation</p> <p>Week 2: Selection A assignments &amp; comprehension</p> <p>Week 3: Selection A assignments &amp; activities</p> <p>Week 4: Selection A assignments &amp; discussion</p> <p>Week 5: Selection B assignments &amp; comprehension</p> <p>Week 6: Selection B assignments &amp; activities</p> <p>Week 7: Selection B assignments &amp; discussion</p> <p>Week 8: Selection C assignments &amp; comprehension</p> <p>Week 9: Selection C assignments &amp; activities</p> <p>Week 10: Selection C assignments &amp; discussion</p> <p>Week 11: Setup for second semester presentations</p> <p>Week 12: First semester consolidation &amp; review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Handouts of printed text sources. Reading of online text sources.		Students will be evaluated based on preparation (assigned reading & homework), class participation (class discussion, informal presentations), and a final assessment.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	J.J. DUGGAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to give students the opportunity to further build on and develop their English communicative competence skills.</p> <p>In the second semester, we will work on a one-week cycle reading, researching, discussing, and formally presenting up-to-date content-based material of a topical nature adapted from print and/or online sources.</p> <p>Students, working in pairs or small groups, and utilizing the resources provided by the teacher, will be selecting articles of their own choosing and of interest not just to them but to the class as a whole. You will then be expected to further research into your chosen material, and to give a formal presentation to the class as well as lead the discussion following.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>Week 1: Second semester class preparation</p> <p>Week 2: Selection D presentation &amp; discussion</p> <p>Week 3: Selection E presentation &amp; discussion</p> <p>Week 4: Selection F presentation &amp; discussion</p> <p>Week 5: Selection G presentation &amp; discussion</p> <p>Week 6: Selection H presentation &amp; discussion</p> <p>Week 7: Selection I presentation &amp; discussion</p> <p>Week 8: Selection J presentation &amp; discussion</p> <p>Week 9: Selection K presentation &amp; discussion</p> <p>Week 10: Selection L presentation &amp; discussion</p> <p>Week 11: Selection M presentation &amp; discussion</p> <p>Week 12: Second semester consolidation &amp; review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Student-chosen handouts from printed text/online sources, and/or reading of online text sources..		Students will be evaluated based on preparation (assigned reading & homework), class participation (class discussion, a formal presentation), and a final assessment.	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	K.MEEHAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Personality</li> <li>2. Lifestyles</li> <li>3. Gun control</li> <li>4. Animal rights</li> <li>5. Death penalty</li> <li>6. Population Control</li> <li>7. Democracy</li> <li>8. Art and Artists</li> <li>9. Crime and punishment</li> <li>10. Beliefs</li> <li>11. Trends</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Students will be provided with prints for each class. There is no assigned textbook,		Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), and tests (20%).	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	K.MEEHAN
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to build on students existing English conversation skills, and further develop them through discussion of current topics and major domestic and international issues.</p> <p>Students will be expected to speak English during class both in class-wide and small-group discussions. They will be expected to engage in all activities, express their own opinions, and Communicate with other members of the class. Participation is the most important criteria for this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Advertising</li> <li>2. Fashion</li> <li>3. Film and TV</li> <li>4. Green Issues</li> <li>5. Language</li> <li>6. Poverty</li> <li>7. Sexism</li> <li>8. Friendship</li> <li>9. New Technology</li> <li>10. Sports</li> <li>11. Executive salaries</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Students will provide with prints for each class. There is no assigned textbook.		Students will be graded on attendance (60%), class participation (20%), Tests (20%).	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	M. Woollerton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students.</p> <p>For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic.</p> <p>Students will work with a partner, in small groups or with the whole class.</p> <p>There will be a web site for students to use to do extra work in their own time if they want to.</p>		<p>Tentative (may vary according to text selection):</p> <p>Week 1 – Introduction to the course &amp; student level check  Week 2 – Unit 1. Introductions (formal and casual)  Week 3 – Unit 1. Introductions (formal and casual)  Week 4 – Unit 2. Starting conversations  Week 5 – Unit 2. Starting conversations  Week 6 – Unit 3. Keeping a conversation going  Week 7 – Unit 3. Keeping a conversation going  Week 8 – Unit 4. Suggestions and invitations  Week 9 – Unit 4. Suggestions and invitations  Week 10 – Unit 5. Review  Week 11 – Unit 5. Review  Week 12 – Unit 5 Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be confirmed following student level check in first week of class. It is hoped to use <u>The English Course (2005)</u> by Ireland, Murphy & Woollerton. (To be published in Spring 2005.)		Students will be graded on attendance (30%); class work and homework (40%) and end of semester test (30%).	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	M. Woollerton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation from Semester 1.</p> <p>The aim of this course is to develop students speaking skills and improve their listening. This class is for lower intermediate level students.</p> <p>For each topic, students will watch 4 short video conversations on DVD and answer listening questions as well as doing a lot of speaking practice. Students will study the useful language for each topic and then develop their own conversations. All of the situations and skills will be useful for students realistic communication needs. The situations are an equal mixture of social, school and business situations. Students will hear English spoken by people from several different countries with many different accents. There will also be a game-based speaking activity for each topic.</p> <p>Students will work with a partner, in small groups or with the whole class.</p> <p>There will be a web site for students to use to do extra work in their own time if they want to.</p>		<p>Tentative (may vary according to text selection):</p> <p>Week 1 – Semester 2 starting activities  Week 2 – Unit 6. Describing &amp; explaining emotions &amp; feelings  Week 3 – Unit 6. Describing &amp; explaining emotions &amp; feelings  Week 4 – Unit 7. Making &amp; responding to requests  Week 5 – Unit 7. Making &amp; responding to requests  Week 6 – Unit 8. Giving &amp; responding to opinions  Week 7 – Unit 8. Giving &amp; responding to opinions  Week 8 – Unit 9. Asking for, giving &amp; listening to advice  Week 9 – Unit 9. Asking for, giving &amp; listening to advice  Week 10 – Unit 10. Review  Week 11 – Unit 10. Review  Week 12 – Unit 10. Review</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
As in semester 1 (above)		Students will be graded on attendance (30%); class work and homework (40%) and end of semester test (30%).	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	M.DEL VECCHIO
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language items will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is lower-intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to prepare for some of the topics and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course</li> <li>2 Growing Up</li> <li>3 Friends</li> <li>4 Obligations</li> <li>5 Manners</li> <li>6 Personality</li> <li>7 Relationships</li> <li>8 Work</li> <li>9 Careers</li> <li>10 Gender Roles</li> <li>11 Leadership</li> <li>12 Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	M.DEL VECCHIO
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Motivation</li> <li>2 Hotlines and Charities</li> <li>3 Discussion</li> <li>4 Body language</li> <li>5 Cosmetic Surgery</li> <li>6 Discussion</li> <li>7 Crime</li> <li>8 Case study presentations</li> <li>9 Ethics</li> <li>10 AIDS</li> <li>11 Discussion</li> <li>12 Final task</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Suprasegmentals</li> <li>3. Suprasegmentals</li> <li>4. Simple past review</li> <li>5. Fluency exercise</li> <li>6. Past perfect/ Fluency exercise</li> <li>7. Be going to versus will</li> <li>8. Fluency exercise</li> <li>9. Comparisons and superlatives</li> <li>10. Conditionals</li> <li>11. Conditionals</li> <li>12. Instructor-led discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and speaking exercises	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 8-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Origins of English</li> <li>2. How are words formed</li> <li>3. Loan words</li> <li>4. Learning English</li> <li>5. Learning languages</li> <li>6. Culture comparisons</li> <li>7. Culture comparisons</li> <li>8. TBA</li> <li>9. TBA</li> <li>10. TBA</li> <li>11. TBA</li> <li>12. Instructor-led discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Attendance, participation, written summaries, and discussions	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve Discussion and Presentation Skills</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues</p>		<p>The students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>"Impact Values" by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schaules Published by Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve Discussion and Presentation Skills</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues</p>		<p>The students will decide the sequence of the topics they would like to study.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>"Impact Values" by Richard Day, Junko Yamanaka, Joseph Schaules Published by Longman</p>		<p>1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
The purpose of this course is to develop students communication skills to an intermediate level. I hope that students can gain greater insight into world culture, literature, literature and events.			
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced after the class		Grades will be based on classroom participation and homework: 50% Examination: 50%	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	P. McEvilly
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is a continuation of Communicative English I a			
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced after the class		Grading will be based on active class participation, various homework as well as in-class and group assignments and a final project.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation &amp; submit an essay on British culture during the year.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Introduction to Britain</li> <li>3. British Pop</li> <li>4. London</li> <li>5. The Train</li> <li>6. Heathrow Airport</li> <li>7. William Shakespeare</li> <li>8. Tea</li> <li>9. Climbers</li> <li>10. Sherlock Holmes</li> <li>11. The Purple Violin</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20 % Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 20% Essay, 20% Exam	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation &amp; submit an essay on British culture during the year.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review &amp; Preview</li> <li>2. The Seven Wonders of Britain</li> <li>3. Wales</li> <li>4. BBC World Service</li> <li>5. The Mini</li> <li>6. The Village</li> <li>7. Agatha Christie</li> <li>8. The Sea</li> <li>9. Taxi</li> <li>10. Public School</li> <li>11. Womad</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file/folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20% Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 20 % Essay, 20% Exa	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English	担当者	R.M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is meant to help intermediate level students improve their speaking and listening abilities. Class time will be divided between whole-class activities and group presentations. Students will be divided into groups and each group will prepare a presentation or activity for an assigned class period.</p>		<p>1 – Introduction and explanation of class methods, goals, and rules. 2 – Determination by students of group presentations and topics for the first term. 3-12 – Instructor-prepared exercises or activities followed by first student group presentation.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(none)		Grades will be based on attendance and participation in whole class activities, and peer evaluations of group presentation/activity.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English	担当者	R.M. Payne
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a continuation of Communicative English I a (see above for further details).</p>		<p>1 – Assignment of students to new groups or teams; determination by students of group presentation topics for the second term. 2-12 – Instructor-prepared exercises or activities followed by student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(none)		(same as for Comm. Eng. I a)	



03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	R.DURHAM
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>COURSE DESCRIPTION:</b> THIS COURSE WILL ASSIST YOU TO IMPROVE YOUR ABILITIES TO COMMUNICATE IN REAL, MODERN ENGLISH.</p> <p><b>MAIN POINTS:</b> THE COURSE FOCUS WILL BE ON SPEAKING YOUR OPINION(S), &amp; EXPLAINING A LOT. THE INSTRUCTOR WILL "MODEL" OR DEMONSTRATE CULTURALLY-APPROPRIATE RESPONSES. STUDENTS WILL THEN BE ASKED TO PRACTICE SUITABLE ANSWERS, IN PAIRS. SONG-LISTENING &amp; AUDIO-LISTENING EXERCISES WILL ASSIST YOU TO IMPROVE YOUR LISTENING COMPREHENSION &amp; SPEAK, AS WELL AS VOCABULARY. VIDEOS MAY BE USED IN SOME SITUATIONS, IN ORDER TO NOTE CULTURAL EVENTS SUCH AS HALLOWE'EN AND/OR CHRISTMAS</p> <p>PLEASE ASSIST THE INSTRUCTOR TO LEARN YOUR NAME, BY ALWAYS DISPLAYING YOUR NAME CARD ON THE DESK IN FRONT OF YOU. PLEASE ALWAYS SIT NEAR TO THE FRONT OF THE CLASSROOM. PLEASE ALWAYS SIT BESIDE OTHER CLASSMATES; &amp; PLEASE LEARN TO SPEAK TO OTHER CLASSMATES IN A FRIENDLY, EXTROVERTED WAY.</p>		<p><i>TENTATIVE</i> WEEKLY OUTLINE FOR THE SPRING SEMESTER (ITEMS SHOWN MAY CHANGE, DEPENDING UPON STUDENT NEEDS &amp; LEVELS): WEEK 1: INTRODUCING YOURSELF IN A PARTY SITUATION; PAIR PRACTICE; SONG 'CLOZE' LISTENING EXERCISE. WEEK 2: REINFORCEMENT OF INTRODUCTIONS, VIA USE OF FICTITIOUS IDENTITIES. LEARNING THE IMPORTANCE OF EXPLAINING ALL OF YOUR ANSWERS. WEEK 3: SONG-LISTENING EXERCISE: USING THE FUTURE TENSE: DISCUSSING GOLDEN WEEK PLANS. WEEK 4: REVIEW &amp; PRACTICE: THE FUTURE TENSE. "HOW WAS ...?": EXPLAINING HOW AN EVENT WAS. PAIR PRACTICE. LISTENING EXERCISE. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 5: SONG-LISTENING EXERCISE. "HOW WAS ...?" vs. "HOW ARE YOU?": EXTROVERTED WAYS OF ANSWERING THESE SOCIAL QUESTIONS. WEEK 6: DISCUSSING HOBBIES; PAIR PRACTICE. LISTENING EXERCISE. WEEK 7: REVIEW OF HOBBIES. "WHAT KIND OF ... DO YOU LIKE?": DISCUSSING KINDS OF MUSIC, BOOKS, MOVIES, FOOD, etc. PAIR PRACTICE. SONG-LISTENING EXERCISE. WEEK 8: REVIEW &amp; PRACTICE OF KINDS: MAGAZINES, MUSIC, etc. SONG-LISTENING EXERCISE. "HOW OFTEN DO YOU ...?": DISCUSSING FREQUENCY OF YOUR ACTIVITIES. PAIR PRACTICE. WEEK 9: REVIEW &amp; PRACTICE OF "HOW OFTEN DO YOU...?" LISTENING EXERCISE. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 10: DISCUSSING &amp; EXPLAINING YOUR OPINIONS. PAIRWORK. SONG-LISTENING EXERCISE. WEEK 11: "WHAT DO YOU USUALLY DO ...?": DISCUSSING &amp; EXPLAINING WHAT YOU USUALLY DO IN VARIOUS SCENARIOS. PAIR PRACTICE. LISTENING EXERCISE. WEEK 12: REVIEW FOR END-OF-SEMESTER ASSESSMENTS. MORE PRACTICE WITH "WHAT DO YOU USUALLY DO...?"</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>TEXTBOOK:</b> THE INSTRUCTOR MAY CHOOSE A TEXTBOOK, AFTER MEETING WITH AND ASSESSING STUDENT NEEDS. HOWEVER, MANY OF THE CONVERSATION ITEMS THAT WE WILL STUDY MAY NOT REQUIRE ANY TEXTBOOK.</p>		<p>EVALUATION: TESTS/QUIZES/EXAMS: APPROX. 40%; CLASS PARTICIPATION: APPROX. 20%; HOMEWORK/PRESENTATION(S): APPROX. 20%; ATTENDANCE: APPROX. 20%. THESE GRADES AND PERCENTAGES ARE SUBJECT TO SOME DEGREE OF VARIATION: SINCE EACH CLASS HAS ITS OWN 'PERSONALITY', THE INSTRUCTOR MAY TRY TO ACCOMMODATE, WHEN GRADING.</p>	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	R.DURHAM
講義目的、講義概要		授業計画	
		<p><i>TENTATIVE</i> WEEKLY OUTLINE FOR THE FALL SEMESTER (ITEMS SHOWN MAY CHANGE, DEPENDING UPON STUDENT NEEDS &amp; LEVELS): WEEK 1: WELCOME BACK! DISCUSSION OF YOUR SUMMER BREAK: "HOW WAS YOUR SUMMER BREAK?" PAIR PRACTICE. SONG-LISTENING EXERCISE. WEEK 2: "TAG QUESTIONS": PRACTICE WITH MAKING SUITABLE ANSWERS TO VARIOUS "TAG" QUESTIONS. LISTENING EXERCISE. WEEK 3: REVIEW: DECIDING ON A PRESENTATION TOPIC. EXPLANATION OF THE REQUIREMENTS FOR A GOOD, INTERNATIONAL PRESENTATION. SONG-LISTENING EXERCISE. "HAVE YOU EVER ...?": TALKING ABOUT PRIOR EXPERIENCES. WEEK 4: FINDING OUT ABOUT THE HISTORY &amp; CUSTOMS OF HALLOWE'EN. HALLOWE'EN VIDEO. REVIEW: "HAVE YOU EVER...?" PAIR PRACTICE. LISTENING EXERCISE. WEEK 5: DISCUSSING FUTURE PLANS, re: HALLOWE'EN: USE OF "WILL" &amp; PRESENT VERB; &amp; "WOULD" WITH PAST VERB. HALLOWE'EN VIDEO. WEEK 6: CHECKING ON THE PROGRESS OF DECEMBER PRESENTATIONS. LISTENING EXERCISE. RE-WRITING EXERCISES. WEEK 7: USING "COULD" CORRECTLY: FOUR DIFFERENT USAGES. PAIR PRACTICE. SONG-LISTENING EXERCISE. WEEK 8: RE-WRITING EXERCISES. REVIEW &amp; FURTHER PRACTICE WITH "COULD". WEEK 9: WAYS OF POLITE ASKING: WAYS TO REPLY TO POLITE REQUESTS. PAIR PRACTICE. SONG-LISTENING EXERCISE. WEEK 10: STREET AND/OR SUBWAY DIRECTIONS: PAIR PRACTICE FOR TRAVEL ABROAD. ASSESSMENT. PRESENTATIONS. WEEK 11: REVIEW &amp; PRACTICE: ASKING FOR &amp; GIVING DIRECTIONS. CHRISTMAS SONG EXERCISE. PRESENTATIONS. WEEK 12: PRESENTATIONS. CHRISTMAS SONG EXERCISE. DISCUSSING STUDENTS' CHRISTMAS TRADITIONS.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><b>TEXTBOOK:</b> THE INSTRUCTOR MAY CHOOSE A TEXTBOOK, AFTER MEETING WITH AND ASSESSING STUDENT NEEDS. HOWEVER, MANY OF THE CONVERSATION ITEMS THAT WE WILL STUDY MAY NOT REQUIRE ANY TEXTBOOK.</p>		<p>EVALUATION: TESTS/QUIZES/EXAMS: APPROX. 40%; CLASS PARTICIPATION: APPROX. 20%; HOMEWORK/PRESENTATION(S): APPROX. 20%; ATTENDANCE: APPROX. 20%. THESE GRADES AND PERCENTAGES ARE SUBJECT TO SOME DEGREE OF VARIATION: SINCE EACH CLASS HAS ITS OWN 'PERSONALITY', THE INSTRUCTOR MAY TRY TO ACCOMMODATE, WHEN GRADING.</p>	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English	担当者	S.J. Christie
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class is to enable students to communicate effectively about their field of study. Students will utilize English to communicate their ideas about the class's content-based material which will be presented in a multimedia based format. Students will be expected to show critical thinking skills in effectively communicating their ideas in written, discussion and presentation style to classmates and the instructor.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Critical thinking and effective communication</li> <li>3. Media basics – understanding the medium</li> <li>4. Project I <ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation of materials</li> <li>Group discussions</li> <li>Critical Thinking and Conclusions</li> <li>Presentation of findings</li> </ul> </li> <li>5. Project 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation of materials</li> <li>Group discussions</li> <li>Critical Thinking and Conclusions</li> <li>Presentation of findings</li> </ul> </li> </ol> <p>Midterm Exam and Fall Term Preview</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text to be decided, handouts will be distributed in class.		Class participation on a daily basis is of primary importance. Class assignments, midterm exam.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English	担当者	S.J. Christie
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this class is to enable students to communicate effectively about their field of study. Students will utilize English to communicate their ideas about the class's content-based material which will be presented in a multimedia based format. Students will be expected to show critical thinking skills in effectively communicating their ideas in written, discussion and presentation style to classmates and the instructor.</p>		<p>Introduction to Fall Term</p> <p>Critical thinking and presenting research findings</p> <p>Presentation basics – understanding the software and personal skills</p> <p>Project 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation of materials</li> <li>Group discussions</li> <li>Critical thinking and conclusions</li> <li>Presentation of findings</li> </ul> </p> <p>Project 4 <ul style="list-style-type: none"> <li>Presentation of materials</li> <li>Group discussions</li> <li>Critical thinking and conclusions</li> <li>Presentation of findings</li> </ul> </p> <p>Final presentations to class</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text to be decided, handouts will be distributed in class.		Class participation on a daily basis is of primary importance., with class assignments, and a final presentation.	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English I a Communicative English I	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>COMMUNICATING WITH EACH OTHER</b> will be the main activity for this advanced oral conversation class. You can experiment with <b>SPEAKING</b> in many ways and then <b>DISCUSS</b> these in your recordings. Starting the second week you can be recorded having conversations on video. At the end of each semester you will have about 10 five-minute video-recordings of yourself (one each week) and write a paper comparing your first conversations with your later ones. You can show how you improved and evaluate your learning experiments and strategies, group dynamics, beliefs, and identities.</p> <p>We will look at how we can <b>ENJOY</b> learning more in many ways, in and out of class. For example, we may have some classes <b>OUTSIDE</b>, learn to <b>JUGGLE</b>, call each other on our cell phones and get used to <b>USING</b> English outside of class in our everyday lives.</p> <p>A Dokkyo E-mail <b>MAILING LIST</b> will be used for this class to mail newsletters and reading material.</p> <p>Students are expected to check their email accounts regularly. Note: keitai accounts cannot be used.</p>		<p><b>Weeks</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and tentative syllabus</li> <li>2. Video 1 Five ways I like to learn</li> <li>3. Video 2 Helpful Friends &amp; Classmates</li> <li>4. Video 3 Learning New Strategies</li> <li>5. Video 4 Mistake stories</li> <li>6. Video 5 Group Dynamics</li> <li>7. Video 6 Quick Writes</li> <li>8. Video 7 Topics to be determined</li> <li>9. Video 8 Topics to be determined</li> <li>10. Video 9 Topics to be determined</li> <li>11. Video 10 Topics to be determined</li> <li>12. Video 11 My Progress This Semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read about 2 chapters in the texts each week.</p>	
<p>テキスト、参考文献</p> <p>Required (1998). <i>Language Hungry!</i> [You buy it from the teacher in the first class]</p>		<p>評価方法</p> <p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English I b Communicative English I	担当者	T. Murphey
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Please note:</b></p> <p>This class has an English Mostly policy— students are expected to try to use mostly English as much as possible and to achieve 100% English classes half the time during each semester. Mistakes are OK, they show we are trying. Your level is not important, but your <b>WILLINGNESS</b> to try to speak in English is.</p> <p>The reading load for this class is 10 to 20 pages a week, but the books are relatively easy.</p> <p>Comment from a student last year "Videoing our conversations in English is a great way to improve our English. This class also got me used to using English in my everyday life. After 90 minutes in English, it just comes naturally after class. You gave us a lot of work. I did most of it and I learned a lot." For more information see <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/%7Eesemi029/pages/timt_eaches.htm</a></p>		<p><b>September (Fall Semester) Weeks</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Video 1 Summer vacation</li> <li>2. Video 2 Jobs</li> <li>3. Video 3 Extensive Reading</li> <li>4. Video 4 Being Someone Else</li> <li>5. Video 5 Topics to be determined</li> <li>6. Video 6 MOVIE Discussion Rapa Nui</li> <li>7. Video 7 Topics to be determined</li> <li>8. Open Variation</li> <li>9. Video 8 Class Reunion</li> <li>10. Video 9 Random Acts of Kindness</li> <li>11. Video 10 Language Hungry Review</li> <li>12. Video 11 My Progress This semester</li> </ol> <p>Because I adjust to student feedback, the above schedule is approximate. Students will read and write a good bit each week. Somewhere in the middle of the semester we will have a joint class with Jost-sensei's Honors class to discuss a movie that everyone has seen.</p> <p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs. A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam.</p>	
<p>テキスト、参考文献</p> <p>See above</p>		<p>評価方法</p> <p><i>Evaluation:</i> Students will be evaluated each week from their participation and action logs (weekly feedback). A paper at the end of each semester and an interview with the teacher will also support your grade. 1/3 absent or missed work = automatic "F" No final exam</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims to train students to think and talk about real life experiences in cross-cultural adjustment. Topics will be provided to provide a framework for discussions. Because this class is intended to be a continuation of Communicative English I.1, topics will be of a higher difficulty level.</p> <p>Discussions will take several forms: pair work, small group and extending to panel discussions. To start with, students will have the opportunity to think and express their ideas based on personal experiences on cross-cultural interaction. Finally they will be trained to think and argue on current intercultural issues of interest and concern. These will include an analysis and awareness of one's culture and identity, and comparison and acceptance of others' cultures based on a broad an objective worldview.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation/Introduction to the course Objectives, Course Content, Evaluation, etc.</li> <li>2. Topic No. 1: Is Language The Only Thing? How to Prepare for ICC</li> <li>3. Discussion No. 1</li> <li>4. Topic No.2: Other Things That Matter! Pre-departure Preparations</li> <li>5. Discussion No. 2</li> <li>6. Topic No.3: The Role of Culture Shock The Types and Patterns of CS</li> <li>7. Discussion No. 3</li> <li>8. Topic No. 4: A Sojourner's Experience CS As a Learning Experience</li> <li>9. Discussion No. 4</li> <li>10. Topic No. 5: When Values Conflict... Accept or Reject</li> <li>11. Discussion No. 5</li> <li>12. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the first day of class.		Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	C.B. Ikeguchi
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of the first semester course. For course summary and objectives, please see above.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation/Introduction to the Course Goals of the 1st and 2nd semester</li> <li>2. Topic No. 6: How Much Do You Love Your Own? Worldmindedness scale / IC anxiety level</li> <li>3. Discussion No. 6</li> <li>4. Topic No. 7: How Tolerant Are You? Degree of Ethnocentrism</li> <li>5. Discussion No. 7</li> <li>6. Topic No. 8: What is Unique About Japan? Communication Style</li> <li>7. Discussion No. 8</li> <li>8. Topic No. 9: How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 1</li> <li>9. Discussion No. 9</li> <li>10. Topic No. 10: How Are Countries Different? Non-verbal Communication Patterns 2</li> <li>11. Discussion No. 10</li> <li>12. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Text from the first semester will be used.		Evaluation is based on class participation: material reading and class discussions, and term exams	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English II a Communicative English	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English II b Communicative English	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	D. McCann
講義目的、講義概要		授業計画	
This course is a continuation of Communicative English II a.			
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	M.DEL VECCHIO
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to further develop communication skills through conversation, debate and short presentations. Language skills will be detailed and practiced so that students may successfully participate in pair and group discussions as confidence improves. The class level is expected to be intermediate.</p> <p>Content will focus on current social and cross-cultural issues. Students will be expected to do some research and share their knowledge and opinions.</p> <p>It is hoped that students will enjoy taking an active role in this class.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course</li> <li>2 Interviewing</li> <li>3 Learning styles</li> <li>4 Learning styles continued</li> <li>5 Working cooperatively</li> <li>6 Solving a dilemma</li> <li>7 Solving a dilemma</li> <li>8 News item</li> <li>9 Describing visual art</li> <li>10 Advertising</li> <li>11 Advertising – case study</li> <li>12 Free discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	M.DEL VECCHIO
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Discussion</li> <li>2 Ethical behavior</li> <li>3 Dilemma time</li> <li>4 Cosmetic surgery</li> <li>5 Stereotyping</li> <li>6 Gender roles</li> <li>7 Marriage</li> <li>8 News item</li> <li>9 Education</li> <li>10 AIDS</li> <li>11 Discussion</li> <li>12 Final task</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be supplied by the teacher. Syllabus content may be changed.		The final grade will combine the following: attendance, class performance and short presentations.	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要 Course Description-objectives, etc		授業計画 Weekly Schedule	
<p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Communicate in English about a variety of interesting cultural, political, and social topics;</p> <p>Express their own ideas about these topics;</p> <p>Engage other students to elicit their ideas on these topics.</p> <p>This course is designed to develop students productive vocabulary, listening comprehension, and confidence in using English in a variety of situations.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p>		<p>Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.</p>	
テキスト、参考文献 textbook, references		評価方法 evaluation policy & method	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a>		Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	M. Hood
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This term, we will continue practicing and developing the skills learned in the first term. But we will add more formal research component.</p> <p>At the end of this term, students will be able to:</p> <p>Conduct library research independently;</p> <p>Support their own ideas in spoken English</p> <p>Present their ideas effectively to their classmates.</p>		<p>Each week, we will discuss a different topic, many of which will be chosen by students who will lead the discussion. At several times throughout the term, students will make presentations on their topics. There will also be frequent vocabulary quizzes and tasks to be completed outside of class.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There are no textbooks for this class. Materials will be available at <a href="http://mikehoodenglish.com">mikehoodenglish.com</a>		Grades will be determined based on participation, presentations, quizzes, and homework assignments.	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Course Description: This course is designed for students who have already gained a basic level of competency in English and are now at the intermediate level. The goal is to further develop their capabilities in a friendly and enjoyable atmosphere. During the course we will focus on listening and speaking skills and also on learning new vocabulary. We will use various materials in order to cover a wide range of topics and events from the news of the day. We will seek to further develop the four basic skills in order to enhance meaningful communication in English.</p> <p>Necessary items for this class: A notebook, a pen/pencil and a dictionary. A positive attitude. A good sense of humour.</p> <p>Important Rules: NO mobile phones allowed in the class. These must be switched OFF and placed out of sight for the duration of the class. Students who arrive very late will be given an absent mark. Two late marks will also equal on absent mark.</p>		<p>During the year we will cover a wide range of topics chosen from the textbook and from other materials which will be provided.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Details will be announced at the beginning of the year.		Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, assignments and reports. Attendance is vital for success. More than four absences will result in a lower grade, more than that will result in failure of the course.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	N. Hamilton
講義目的、講義概要		授業計画	
As above			
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to Participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	P.Apps
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aims of this course are</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>To improve the students' knowledge of current English.</li> <li>To improve the students' critical thinking skills</li> <li>To improve the students' reading and speaking skills</li> <li>To improve discussion and presentation skills.</li> </ul> <p>The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to Participate in the class)</p>		<p>As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.		1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion test	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English II	担当者	P. McEvelly
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is to develop students discussion and debate skills by examining social issues in the United States of America. I hope that students can gain greater insight into American values and culture. The textbook that we will use <i>Consider the Issues</i>, uses radio broadcasts from National Public Radio's "All Things Considered" and "Morning Edition".</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Consider the Issues</i> (Longman)		<p>Grades will be based on classroom participation and homework: 50% Examination: 50%</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English II	担当者	P. McEvelly
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Communicative English II a</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Consider the Issues</i> (Longman)		<p>Grading will be based on active class participation, various homework as well as in-class and group assignments and a final project.</p>	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English II a (火1) Communicative English II (火1)	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) encourage students to think critically of the media around them by the analysis &amp; comparison of Japanese &amp; overseas media</p> <p>b) to recognize &amp; understand the strong, hidden influence of the media on our lives</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via exposure to native-speaker video news and the analysis and discussion of a variety of media</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing the film ABC media news, students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation &amp; submit a 1000 essay during the year</p>		<p>Media Forms</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class &amp; Sample Presentation</li> <li>2. Learning to see the Media</li> <li>3. Media Around the World</li> <li>4. Entertainment &amp; Illusion</li> <li>5. Hollywood &amp; Disney</li> <li>6. The Business of Entertainment</li> <li>7. Tricks of the Advertising Trade</li> <li>8. Truth in the News</li> <li>9. The Power of Celebrity</li> <li>10. Radio &amp; Propaganda</li> <li>11. The Media View of Japan</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The set text is a 'Fish In Water' published by Macmillan. A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20 % Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 30% Presentation, 30% Term Essay	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English II b (火1) Communicative English II (火1)	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) encourage students to think critically of the media around them by the analysis &amp; comparison of Japanese &amp; overseas media</p> <p>b) to recognize &amp; understand the strong, hidden influence of the media on our lives</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via exposure to native-speaker video news and the analysis and discussion of a variety of media</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing the film ABC media news, students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation &amp; submit a 1000 essay during the year</p>		<p>Media Issues</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gender in the Media</li> <li>2. Minorities in the Media</li> <li>3. Black American Film</li> <li>4. Violence in the Media</li> <li>5. Stereotypes in the Media</li> <li>6. Role Models in the Media</li> <li>7. Media Education</li> <li>8. The Future of Television</li> <li>9. 'Anime &amp; Manga'</li> <li>10. Computers &amp; the Internet</li> <li>11. Virtual Reality</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The set text is 'Fish in Water' published by Macmillan. A file/folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20% Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 30% Presentation, 30 % Term Essay	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Communicative English II a (火2) Communicative English II (火2)	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an insight into social change in the UK during the 1960s, reflected in the lives &amp; career of The Beatles</p> <p>b) expose students to new &amp; unfamiliar language &amp; concepts in English</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing passages from 'The Beatles Anthology', students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year.</p>		<p>The Early Sixties</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Pop Music in UK &amp; USA 1950 - 1962</li> <li>3. Liverpool &amp; The Beatles Childhood</li> <li>4. The Formation of The Beatles</li> <li>5. Hamburg &amp; The Cavern Club</li> <li>6. Brian Epstein &amp; George Martin</li> <li>7. Beatlemania</li> <li>8. Carnaby Street &amp; Swinging London</li> <li>9. The Beatles in America</li> <li>10. Movies: A Hard Day's Night &amp; Help</li> <li>11. The Songwriters: John &amp; Paul</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20 % Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40% End of Semester Exams	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Communicative English II b (火2) Communicative English II (火2)	担当者	R. J. Burrows
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an insight into social change in the UK during the 1960s, reflected in the lives &amp; career of The Beatles</p> <p>b) expose students to new &amp; unfamiliar language &amp; concepts in English</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing passages from 'The Beatles Anthology', students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year.</p>		<p>The Late Sixties</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review &amp; Preview</li> <li>2. The Beatles in Japan</li> <li>3. Sergeant Pepper &amp; Psychadelia</li> <li>4. The Magical Mystery Tour &amp; Yellow Submarine</li> <li>5. The Beatles in India</li> <li>6. The Rhythm Section: George &amp; Ringo</li> <li>7. The Beatles' Wives</li> <li>8. The Hippy Movement: Peace &amp; Drugs</li> <li>9. Apple &amp; Let It Be</li> <li>10. The Beatles Break Up</li> <li>11. The Beatles Solo Careers &amp; Legacy</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file/folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20% Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40 % End of Semester Exams	

03年度以降 (春)	Communicative English II a (木3)	担当者	R. J. Burrows
02年度以前 (春)	Communicative English II (木3)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an insight into political changes during the 20<sup>th</sup> century in two of Japan's most important regional neighbours; India &amp; China</p> <p>b) expose students to new &amp; unfamiliar language &amp; concepts in English</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of historical media</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing the film 'Gandhi', students will be required to read related written material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year</p> <p>Students are warned that some film scenes contain violence</p>		<p>'Gandhi: From Empire to Independence in India'</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Background &amp; Sample Presentation</li> <li>3. Gandhi in South Africa</li> <li>4. British India</li> <li>5. The Jalian Wala Bagh Massacre</li> <li>6. Jinnah</li> <li>7. The Salt Satyagraha</li> <li>8. Gandhi's Political Philosophy</li> <li>9. Nehru</li> <li>10. The Partition of India</li> <li>11. Post-1947 India &amp; Pakistan</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20 % Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40% End of Semester Exams	

03年度以降 (秋)	Communicative English II b (木3)	担当者	R. J. Burrows
02年度以前 (秋)	Communicative English II (木3)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an insight into political changes during the 20<sup>th</sup> century in two of Japan's most important regional neighbours; China &amp; India</p> <p>b) expose students to new &amp; unfamiliar language &amp; concepts in English</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via analysis and discussion of a variety of historical media</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing the film 'The Last Emperor', students will be required to read related material on a weekly basis as well as make a 5-10 minute presentation during the year</p> <p>Students are warned that some film scenes contain violence</p>		<p>'China: From Emperor to Mao'</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review &amp; Preview</li> <li>2. Late 19<sup>th</sup> century China</li> <li>3. The Forbidden City</li> <li>4. Sun Yat Sen, 1<sup>st</sup> Republic of China &amp; Kuomintang</li> <li>5. Chang Kai-Shek</li> <li>6. Sokaichi, Tianjin &amp; Foreigners in Pre-War China</li> <li>7. The Chinese Communist Movement</li> <li>8. Manchuko</li> <li>9. The Second Sino-Japanese War</li> <li>10. Mao &amp; the Cultural Revolution</li> <li>11. Post-Mao China</li> <li>12. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
A file/folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended		20% Attendance & Punctuality, 20% In-Class Work, 20% Presentation, 40 % End of Semester Exams	

05年度以降 (春) 05年度以前 (春)	Communicative English II a (月1) Communicative English II (月1)	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be upper-intermediate. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Computers.</li> <li>3 Caring for Children.</li> <li>4 Gay Issues.</li> <li>5 Problems of an aging society.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% Mid-term/End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

05年度以降 (秋) 05年度以前 (秋)	Communicative English II b (月1) Communicative English II (月1)	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The same as the above</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Cars; the advantages and disadvantages.</li> <li>2 What are your values?</li> <li>3 Some aspects of employment.</li> <li>4 Do animals have rights?</li> <li>5 Women's Issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order.</p>		<p>Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 50% Mid-term/End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 10%</p>	

06年度以降 (春) 05年度以前 (春)	Communicative English II a (水3) Communicative English II (水3)	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students! Do you want to improve your speaking, listening and vocabulary? Then join this class. The most important thing is that you like a challenge! Your English level should be about average or slightly above. Interesting topics will be covered in the lessons and there will be a lot of fun. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: If your dream is to improve your English, then keep studying hard!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Computers.</li> <li>3 Caring for Children.</li> <li>4 Gay Issues.</li> <li>5 Problems of an aging society.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this lesson.		Class work/homework/vocabulary tests/speeches: 50% Speaking Tests: 40% Effort in class: 10%	

06年度以降 (秋) 05年度以前 (秋)	Communicative English II b (水3) Communicative English II (水3)	担当者	R.Jones
講義目的、講義概要		授業計画	
The same as the above		<p>Below is a list of topics that may be covered. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Cars; the advantages and disadvantages.</li> <li>2 What are your values?</li> <li>3 Some aspects of employment.</li> <li>4 Do animals have rights?</li> <li>5 Women's Issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this lesson.		Class work/homework/vocabulary tests/speeches: 50% Speaking Tests: 40% Effort in class: 10%	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	Communicative English II a Communicative English	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Communicative English II b Communicative English	担当者	T.J.Fotos
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Discussion a Discussion	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Discussion b Discussion	担当者	D.L.Blanken
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	Discussion a Discussion	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is for those students who have an advanced proficiency in spoken English. The class aims to provide a forum for students to discuss in a logical and reasoned manner the many issues that face us today. Topics for discussion will be student generated and will hopefully look at issues of concern and interest--topics related to global issues, national issues, environmental issues, cultural topics, and other related topics. It also aims to help students further develop their speaking and listening skills, and to aims to helps student understand what a discussion is. Thus, students considering this class should have 1) an advanced proficiency in English particularly in speaking and listening; 2) a deep interest in discussing topics are that both challenging and pertinent to the world in general; and 3) a keen interest in the ideas and opinions of others. Topics for discussion will be introduced a week in advance of class and students are required to prepare in advance.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; Self Introductions</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion # 5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class		Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	Discussion b Discussion	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Same as above.</p> <p>Note well: This class has an English only policy--only English will be used in class.</p>		<p>Week 1: Introduction to second semester.</p> <p>Week 2: Discussion # 1</p> <p>Week 3: Discussion # 2</p> <p>Week 4: Discussion # 3</p> <p>Week 5: Discussion # 4</p> <p>Week 6: Discussion #5</p> <p>Week 7: Discussion # 6</p> <p>Week 8: Discussion # 7</p> <p>Week 9: Discussion # 8</p> <p>Week 10: Discussion # 9</p> <p>Week 11: Discussion # 10</p> <p>Week 12: Final Discussion for Evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this class		Grades will be based on classroom participation and student presentations. And Attendance	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Discussion a Discussion	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20<sup>th</sup> century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry – rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. – to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course outline.</li> <li>2. What is poetry? A look at some of the main elements of poetry.</li> <li>3. Poem and discussion</li> <li>4. Poem and discussion</li> <li>5. Poem and discussion</li> <li>6. Poem and discussion</li> <li>7. Poem and discussion</li> <li>8. Poem and discussion</li> <li>9. Poem and discussion</li> <li>10. Poem and discussion</li> <li>11. Poem and discussion</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied poems provided by teacher		Report at end of each semester; attendance; active participation in class.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Discussion b Discussion	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to introduce students to a wide variety of British and American poetry. Students often correctly consider poetry a hard subject, and it is true that poetry differs from prose in its use of unusual syntax, specialized 'poetic' vocabulary and unusual combinations of words.</p> <p>However, in this course we will be looking mainly at British and American poetry from the 20<sup>th</sup> century written in a plainer style of English. We will look at the poems from two points of view. Firstly, we will look at the meaning that the poet is trying to express. Secondly, we will look at the way the poet has used the techniques of poetry – rhythm, rhyme, form, choice of words, etc. – to help express that meaning. The end result of the course should be an increased enjoyment of poetry and a greater awareness of how English can be used creatively.</p> <p>We will look at the poems of W. H. Auden, D. H. Lawrence, Sylvia Plath, Ted Hughes, Theodore Roethke, Richard Wilbur and many others.</p> <p>The first part of the course will be a little technical, concentrating on learning the techniques of poetry. As students become more familiar with this, the amount of time spent discussing the poetry will increase.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Poem and discussion.</li> <li>2. Poem and discussion</li> <li>3. Poem and discussion</li> <li>4. Poem and discussion</li> <li>5. Poem and discussion</li> <li>6. Poem and discussion</li> <li>7. Poem and discussion</li> <li>8. Poem and discussion</li> <li>9. Poem and discussion</li> <li>10. Poem and discussion</li> <li>11. Poem and discussion</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied poems provided by teacher		Report at end of each semester; attendance; active participation in class.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Public Speaking I a Public Speaking I	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations by the second term.</p>		<p>Introduction: The Physical Message Posture and Eye Contact Informative Speech Gestures Layout Speech Voice Inflection Demonstration Introduction to the Story Message The Introduction Persuasive Speech The Body Transition and Sequencers</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Public Speaking I b Public Speaking I	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations by the second term.</p>		<p>Review of Term One Persuasive Speech: The Body The Conclusion Persuasive Speech: The Conclusion Introduction to the Visual Message Making Visual Aids Explaining Visual Aids Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids Power Point Introduction Video Taping Part One Video Taping Part Two Critique of Taping</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be decided		Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Public Speaking I a Public Speaking I	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標 This class aims to give students a chance to prepare and deliver speeches with maximum effect. The use of language, the art of effective construction, and the use of all forms of communication when delivering a speech will be covered.</p> <p>講義概要 Students will work both inside and outside of class to prepare and hone their speeches ready for delivery to their group or to the class. We want to cover a wide area of aspects related to good speech making and class participation is a must.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and explanation.</li> <li>2. What should a speech be?</li> <li>3. Some points on aims and relative ideas.</li> <li>4. The confidence factor.</li> <li>5. The importance of the small points (like pronunciation and intonation) that tend to get taken too much for granted.</li> <li>6. Who are you talking to?</li> <li>7. The power of addressing the individual in the crowd.</li> <li>8. Negative gestures and habits.</li> <li>9. Preparing a 'good' speech.</li> <li>10. Delivery.</li> <li>11. Feedback and correction.</li> <li>12. Revision.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Various prints and other materials		Class performance and final report	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Public Speaking I b Public Speaking I	担当者	E. Carney
講義目的、講義概要		授業計画	
As above		<ol style="list-style-type: none"> <li>13. You, the student, say something.</li> <li>14. Loving your subject.</li> <li>15. Ad-libbing to bridge the gaps.</li> <li>16. Humour and other weapons of mass communication.</li> <li>17. Say it again, Sam.</li> <li>18. How to bore everybody.</li> <li>19. Speaking to machines, speaking to people.</li> <li>20. Stressing your good technique.</li> <li>21. Including the audience.</li> <li>22. Revisions and assessment.</li> <li>23. Tell it like it is.</li> <li>24. Final Speech</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
As above		Class performance and final report	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Public Speaking I a Public Speaking I	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>☆様々な英語スピーチを実践しながら、論理的・感性的・批判的思考と言語表現の大切さ(工夫の重要性や倫理)を学びます。</p> <p>☆授業でのハウツー解説は日本語で行いますが、皆さんのスピーチと講師からのフィードバックは英語で行います。</p> <p>☆スピーチは自分でやるだけでなく、他の人のスピーチを主体的に聞くことをしないと、コミュニケーションに参加したことにはなりません。自分の話を聞いてもらったら終わり、ということではなく、必ず他のスピーチにフィードバックするという姿勢も持って、クラスに臨んでください。</p> <p>☆スピーチは人前でやらないと意味がないので、欠席を補うための追試やmake-up課題はありませんので、あらかじめご注意ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明 (Overview of the Course)</li> <li>2. スピーチの基本 (Basics of Speech-making)</li> <li>3. 解説スピーチ (Expository Speaking)</li> <li>4. 即興スピーチに挑戦 (1) (Impromptu Speaking)</li> <li>5. 即興スピーチに挑戦 (2) (Impromptu Speaking)</li> <li>6. 学期末課題カウンセリング (One-on-one Conference)</li> <li>7. 情報提供スピーチ (Informative Speaking)</li> <li>8. アフターディナースピーチ (After-Dinner Speaking)</li> <li>9. 即興スピーチに挑戦 (3) (Impromptu Speaking)</li> <li>10. 即興スピーチに挑戦 (4) (Impromptu Speaking)</li> <li>11. 学期末スピーチ (1) (Final Presentation)</li> <li>12. 学期末スピーチ (2) (Final Presentation)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者がミネソタ大学弁論部コーチ時代に使っていた「ミネソタ大学弁論部マニュアル」より必要に応じて抜粋資料をコピーして配布します。</p>		出席参加 : 50%      スピーチ : 50%	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Public Speaking I b Public Speaking I	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>☆春学期に引き続き、様々な英語スピーチを実践しながら、論理的・感性的・批判的思考と言語表現の大切さ(工夫の重要性や倫理)を学びます。</p> <p>☆授業でのハウツー解説は日本語で行いますが、皆さんのスピーチと講師からのフィードバックは英語で行います。</p> <p>☆スピーチは自分でやるだけでなく、他の人のスピーチを主体的に聞くことをしないと、コミュニケーションに参加したことにはなりません。自分の話を聞いてもらったら終わり、ということではなく、必ず他のスピーチにフィードバックするという姿勢も持って、クラスに臨んでください。</p> <p>☆スピーチは人前でやらないと意味がないので、欠席を補うための追試やmake-up課題はありませんので、あらかじめご注意ください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明 (Overview of the Course)</li> <li>2. スピーチの基本 (Basics of Speech-making)</li> <li>3. 情報提供スピーチ (Informative Speaking)</li> <li>4. 即興スピーチに挑戦 (1) (Impromptu Speaking)</li> <li>5. 即興スピーチに挑戦 (2) (Impromptu Speaking)</li> <li>6. 学期末課題カウンセリング (One-on-one Conference)</li> <li>7. 怖がらせるスピーチ (1) (Speech to scare others)</li> <li>8. 怖がらせるスピーチ (2) (Speech to scare others)</li> <li>9. 即興スピーチに挑戦 (3) (Impromptu Speaking)</li> <li>10. 即興スピーチに挑戦 (4) (Impromptu Speaking)</li> <li>11. 学期末スピーチ (1) (Final Presentation)</li> <li>12. 学期末スピーチ (2) (Final Presentation)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当者がミネソタ大学弁論部コーチ時代に使っていた「ミネソタ大学弁論部マニュアル」より必要に応じて抜粋資料をコピーして配布します。</p>		出席参加 : 50%      スピーチ : 50%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Public Speaking II a Public Speaking II	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class aims to help students improve their public speaking skills, particularly building confidence, and to help students understand the processes involved in making a speech. We will look in detail at the different aspects of writing a speech—coming up with ideas; organizing the material; planning the delivery. We will also look in detail at the many aspects of delivering or giving a speech. The overall goal of this class is for student to have a better understanding of the processes involved in speech making and greater confidence in giving a speech, a skill that will last a lifetime.</p> <p>Students will be asked to give mini-speeches with a partner each week, and to give one or two extended speeches each semester.</p>		<p>Week 1: Class Introduction; self introductions</p> <p>Week 2: The Physical Message</p> <p>Week 3: Posture and Eye Contact</p> <p>Week 4: Informative Speech</p> <p>Week 5: Gestures</p> <p>Week 6: Layout of a speech</p> <p>Week 7: Voice Inflection</p> <p>Week 8: Model Speech</p> <p>Week 9: Persuasive Speech</p> <p>Week 10: Presidential Speeches</p> <p>Week 11: Student speeches (possibly recorded)</p> <p>Week 12: Student speeches(possibly recorded)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be provided instructor		Grades are based on student attendance, class performance, and evaluations	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Public Speaking II b Public Speaking II	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Continuation of first semester</p> <p>This semester we will go over five main areas of speech making:</p> <p>Assess: Your speech situation (What you want to say).</p> <p>Analyze: Your audience (Who are you speaking to?).</p> <p>Research: Your Topic (Having your ideas backed up with specific research).</p> <p>Organizing your speech: (Putting your ideas in reasonable and logical order).</p> <p>Delivery: Your presentation.</p> <p>We will use Power Point to make visual presentations and we will look some great speeches in history, JFK's Inaugural speech and King's, 'I Have a Dream', e.g. This class has an English only policy and is for those student interested in improving their communication skills.</p>		<p>Week 1: Overview of semester</p> <p>Week 2: The visual message</p> <p>Week 3: Making visual aids</p> <p>Week 4: Explain visual aids</p> <p>Week 5: Overview of power point preset ions</p> <p>Week 6: Considerations for visual aids</p> <p>Week 7: Putting it all together</p> <p>Week 8: Great Speeches in history</p> <p>Week 9: Great Speeches in history</p> <p>Week 10: Presidential speeches</p> <p>Week 11: Student speeches (possibly recorded)</p> <p>Week 12: Student speeches</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be provided instructor		Grades are based on student attendance, class performance, and evaluations	



03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	Debate I a Debate I	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory course to debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. The main style of debate will be the parliamentary format as this format uses extemporaneous speeches. Before a topic is debated, it will be researched and discussed thoroughly. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Topic to be determined</li> <li>3. Topic to be determined</li> <li>4. Debate</li> <li>5. Topic to be determined</li> <li>6. Topic to be determined</li> <li>7. Debate</li> <li>8. Topic to be determined</li> <li>9. Topic to be determined</li> <li>10. Debate</li> <li>11. Topic review and debate</li> <li>12. Topic review and debate</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and discussion exercises	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	Debate I b Debate I	担当者	P.Horness
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is the second half to the introduction of debate. Students will have a chance to select topics for research and discussion. Although there is no assigned text, students will be required to do research for the discussion topics. In this half students will encounter several different types of debate formats. The types of debate format will be open for discussion due to the fact there are too format styles to cover. In addition, individual and team debates will occur. The main goal to be accomplished is the students forming and expressing well formed ideas on specific topics.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and review</li> <li>2. Topic to be determined</li> <li>3. American scholastic debate style</li> <li>4. Topic to be determined</li> <li>5. Topic to be determined</li> <li>6. Team debate</li> <li>7. Individual debate</li> <li>8. Topic to be determined</li> <li>9. Topic to be determined</li> <li>10. Team debate</li> <li>11. Individual debate</li> <li>12. Review and debate</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook, but students should be familiar using the internet for research.		Attendance, participation, written summaries, and debate exercises	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	Debate I a Debate I	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語発話能力の養成を目的とした言語教育活動には現在多くの方法があるが、4技能(聞く、話す、読む、書く)のみならず「考える」という第5の技能を磨くディベートこそ英語発話能力向上の最も効果的な学習方法のひとつといえる。ディベートの実践によって養われる批判的思考能力は、コミュニケーションに不可欠な言説を構成するテキストの「行為遂行性(performativity)」を向上させるからである。ディベート実践に不可欠な一連の作業を通じて思考を訓練し、批判的思考能力を高めて英語発話能力を向上させていくことを目標とする。</p> <p>本講義では英語で教育ディベートを遂行する。ディベートの命題としては社会的または政治的な問題を取り扱う予定である。学生は、まずレクチャーでディベートの実践に必要な議論の技術を学んだ後、ワークショップでリサーチ能力を養い、グループでのブレインストーミングなどを通じてディベートの準備を行う。そして、最終的にはディベートの実践を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation: What is Argument and What is Debate?</li> <li>2. Analysis and Structure of Argument</li> <li>3. Evidence as Support</li> <li>4. Warrant</li> <li>5. Refutation</li> <li>6. How to Research a Topic</li> <li>7. Case Construction</li> <li>8. Structural and Language Considerations</li> <li>9. 1st Debate I</li> <li>10. 1st Debate II</li> <li>11. 1st Debate III</li> <li>12. Review of the First Debate and Reflections</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス(60%)、バロット(15%)、クラス内での積極的な参加度(15%)、出席(10%)、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	Debate I b Debate I	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に学習したディベートの理論およびワークショップに基づき、ディベート実践を反復する。このクラスで春学期に教えた内容のみを評価するので、それ以外の前提に基づいた方法は全く評価されないため、その点十分に留意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientations</li> <li>2. Preparation for the Second Debate</li> <li>3. 2nd Debate I</li> <li>4. 2nd Debate II</li> <li>5. 2nd Debate III</li> <li>6. Review of the Second Debate</li> <li>7. Preparation for the Third Debate</li> <li>8. Preparation for the Third Debate</li> <li>9. 3rd Debate I</li> <li>10. 3rd Debate II</li> <li>11. 3rd Debate III</li> <li>12. Course Summary</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
松本茂『頭を鍛えるディベート入門：発想と表現の技法』講談社ブルーバックス		総合的な評価はディベートのパフォーマンス(それぞれ30%—計60%)、バロット(15%)、クラス内での積極的な参加度(15%)、出席(10%)、そして必要ならば、期末テストの成績を含めて総合的に判断する。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	Debate II a Debate II	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop their abilities to debate; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable.</p> <p>Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. This will include presidential debates among others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction</p> <p>Week 2: Learning debate. Expressing opinion</p> <p>Week 3: Developing Reasons; class debates</p> <p>Week 4: Support your opinion; class debates</p> <p>Week 5: Types of support; class debate</p> <p>Week 6: Organize your opinions; class debate</p> <p>Week 7: Refutation; class debate</p> <p>Week 8: Types of refutation; class debate</p> <p>Week 9: Viewing actual debates; class debate</p> <p>Week 10: Class debates</p> <p>Week 11: Class debates</p> <p>Week 12: Class debates</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	Debate II b Debate II	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Second semester is a continuation of the first semester.</p> <p>Student considering this class should keep in mind that debate is not about only winning or losing, but about understanding the different issues related to a particular topic. Debates should be fun, interesting, and most importantly intellectually rewarding.</p>		<p>Week 1: Overview of 2<sup>nd</sup> semester</p> <p>Week 2: Challenging Supports</p> <p>Week 3: Presidential Debates</p> <p>Week 4: Organizing your Refutation</p> <p>Week 5: Presidential Debates; Class debate</p> <p>Week 6: Debate formats</p> <p>Week 7: In class debate</p> <p>Week 8: In class debate</p> <p>Week 9: Presidential debates</p> <p>Week 10: In class debate</p> <p>Week 11: In class debate; final debate prep.</p> <p>Week 12: Final class debate</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by instructor.		Grades are based on class participation, attendance, and final debates	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	通訳 I a 通訳 I	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高いリスニング力を持つ学生でも、最初は思うように言葉が出せず悔しそうな表情をする。英語のリスニングは英語を英語で理解するだけなので楽だが、通訳の場合、英語で理解した内容を日本語に変換する作業を瞬時に行わなければならない。その反射神経を鍛えるのが通訳 I の目標である。</p> <p>一回目の授業に必ず出席すること！(時間厳守！)通訳の性質上、リスニングテストで受講者を決定する。毎年定員の3倍の学生が集まり辛い思いをしてきたが、今年は2クラスに増えたので、今までより2倍の学生が受講できるようになった。今年はチャンスかもしれない。学科は問わない。</p> <p>1年から4年までの優秀な学生が集まり切磋琢磨する独特な雰囲気がある。家でもトレーニングしなければ授業についてこれないので、欠席には厳しい。</p>		<p>毎週、教科書に沿って、シャドウイング、メモ取り練習、逐次通訳などのトレーニングを積んでいく。</p> <p>毎週、テープの掘り起こしの宿題を課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		学期末テスト(英日、日英の逐次通訳)と平常点	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	通訳 I b 通訳 I	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	通訳Ⅱa 通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>通訳Ⅰ受講後は、聞き取れた内容はすべて通訳できるようになる。次の段階として、リスニング力のアップと表現力の増強が必要。通訳Ⅰより教材も増え、家での勉強も増えるが、通訳ができるようになるためにはどんな学習が必要か、勉強法も習得してほしい。</p> <p>目標は、どれだけ多く聞き取れるか、どれだけ早くメモを取れるか、日本語についても英語に関しても幼稚な表現からいかに脱却できるか、などである。</p> <p>通訳Ⅰ以上に専門性の高い授業だが、2年から4年まで英語が大好きな学生が楽しく受講している。家でもトレーニングしなければ授業についてこれないので、欠席には厳しい。</p>		<p>通訳Ⅱでは、さまざまなインタビューやアナウンスメントを教材に使って、逐次通訳や同時通訳の訓練を積み重ねる。テープの掘り起こしの宿題を毎週課す。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<p>学期末テスト(英日、日英の逐次通訳、英日の同時通訳)と平常点</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	通訳Ⅱb 通訳Ⅱ	担当者	原口 友子
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語ビジネス・コミュニケーションIa 英語ビジネス・コミュニケーションI	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>貿易立国日本にとっては、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。</p> <p>本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、<b>Business English</b>を国際語である英語を使用して、ビジネスを促進させるためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、効果的なビジネスレターの書き方のポイントを、例を挙げて説明・指導すると同時に、英字新聞のビジネス欄の読み方をあわせて指導していきたい。</p> <p>就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方も分かりやすく説明・指導する。最後に、英語学科の学生として、英語ビジネス・コミュニケーションの基本ぐらいは勉強して卒業してもらいたと思っている</p>		<p>受講生全員の積極的な授業参加を望むため、予習してあることを前提として授業を進める。従って、受講生は必ず予習して出席すること。授業及び成績評価は非常に厳しいものとなるが、真面目に勉強する学生にとっては必ず納得のいく授業となるであろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) <b>Business English</b>を学ぶにあたって</li> <li>(2) ビジネスレターの形式</li> <li>(3) 効果的なビジネスレターを書くための10のポイント</li> <li>(4) 取引の申し込み</li> <li>(5) 取引の申し込みに対する応答</li> <li>(6) 引合い</li> <li>(7) 引合いに対する応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢 達郎著『Practical English For Business Writing --実践英文ビジネス・ライティング』青山学院購買会		学期末の試験を中心にして評価する。詳細については、第一回目の授業で説明する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語ビジネス・コミュニケーションIb 英語ビジネス・コミュニケーションI	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> <li>(8) 英文履歴書とカバーレターの書き方</li> <li>(9) オファー</li> <li>(10) オファーに対する応答</li> <li>(11) 信用状</li> <li>(12) 海上保険</li> <li>(13) クレームと紛争の解決</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語ビジネス・コミュニケーション I a (水2) 英語ビジネス・コミュニケーション I (水2)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することがねらいです。具体的には、下記テキストの前半の単元(Unit1~10)について、各単元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順と通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)を平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名して、各単元のモデルレターを商用文としてふさわしく和訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、毎月1回(5月、6月、7月の最初の授業時)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト(vocabulary check)を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p> <p>なお、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なりますので、注意して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの意義と概念について講義します。</li> <li>2 ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面と文体の特徴について講義します。</li> <li>3 「取引先発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>4 「取引の申込み」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>5 同上</li> <li>6 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>7 「引合い」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>8 同上</li> <li>9 「引合いに対する返事」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>10 同上</li> <li>11 「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>12 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
小池直己・杉山晴信『ビジネス英語の基本』(北星堂)		出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション I b (水2) 英語ビジネス・コミュニケーション I (水2)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じですが、テキストの後半の単元(Unit11~20)を扱います。語彙力診断テストは10月、11月、および12月のそれぞれ最初の授業の冒頭を実施します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>2 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>3 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>4 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>5 「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>6 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>7 「船積遅延と信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>8 「クレーム」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>9 同上</li> <li>10 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。</li> <li>11 同上</li> <li>12 総復習を行います。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語ビジネス・コミュニケーションI a (木3) 英語ビジネス・コミュニケーションI (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際ビジネスを遂行・促進するためには、「書式の戦い」(Battle of Forms)と言われるほど多種多様な英文ビジネス文書がやりとりされます。こうした英文ビジネス文書を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能(function to inform)と説得の機能(function to persuade)に大別できます。</p> <p>春学期は、伝達の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、英語学や言語学などの関連知識を活用して学際的に学びます。具体的な授業の進め方は、原則として、学習テーマごとに担当者による講義を2回行い、次いで当該テーマについて履修者がワークを1回行うという形で、計3時間分で1つのテーマを完結するものとします。</p> <p>なお、私の担当するもう1つの同一名称科目とは内容が異なりますので、注意して下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画について説明するとともに、ビジネス・コミュニケーションの伝達の機能について詳しく講義します。</li> <li>2 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、「曖昧さ」(ambiguity)と不確かさ(vagueness)の危険性を指摘し、実例を用いて対処法を検討します。</li> <li>3 同上</li> <li>4 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>5 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、「包摂関係」(hyponymy)と重複関係(overlapping)の危険性を指摘し、実例を用いて対処法を検討します。</li> <li>6 同上</li> <li>7 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>8 正確な情報伝達を妨げる意味論的な問題点として、類義語(synonyms)の使用に伴う危険性を指摘し、実例を用いて対処法を検討します。</li> <li>9 同上</li> <li>10 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>11 春学期の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを伝達の機能から向上させる戦略を考えます。</li> <li>12 同上</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		出席状況、授業貢献度、ワークの成果など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語ビジネス・コミュニケーションI b (木3) 英語ビジネス・コミュニケーションI (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、説得の機能において英文ビジネス文書を最大限に効果あらしめるライティング戦略について、心理学や統計学の関連知識を活用して学際的に学びます。具体的な授業の進め方は春学期と同じです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画を説明するとともに、ビジネス・コミュニケーションの説得の機能について詳しく講義します。</li> <li>2 効果的な説得を可能にする要因として、対象読者(intended audience)に応じた文章難易度(text readability)を設定することの重要性を検討します。</li> <li>3 同上</li> <li>4 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>5 効果的な説得を可能にする要因として、読者本位の文章態度(You-Attitude)の基本原則に基づいたライティング技法を検討します。</li> <li>6 同上</li> <li>7 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>8 効果的な説得を可能にする要因として、各種のメッセージ構成法(organizational patterns)を紹介し、各々の適用事例について検討します。</li> <li>9 同上</li> <li>10 上記のテーマに関するワークを行います。</li> <li>11 秋学期の授業を総括し、ビジネス・コミュニケーションを説得の機能から向上させる戦略を考えます。</li> <li>12 同上</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		春学期と同じです。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語ビジネス・コミュニケーション I a 英語ビジネス・コミュニケーション	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要(前半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。後期では発表も予定する。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <p>(前半)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①(英文ビジネスコラム)</li> <li>3 国際取引概略 I</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略 II</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合(inquiry)</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファー I (offer)</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファー II</li> <li>12 プリント⑥</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語ビジネス・コミュニケーション I b 英語ビジネス・コミュニケーション	担当者	信 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語(English for business)である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要(前半) 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント(英文ビジネスコラム)の3蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。後期では発表も予定する。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <p>(後半)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約 I (contract)</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約 II</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレーム I (claim)</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレーム II</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはないしリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス		受講姿勢 25%、発表/リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語ビジネス・コミュニケーションⅡ a 英語ビジネス・コミュニケーションⅡ	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>主に貿易取引の当事者間でやりとりされる英語のビジネス通信文を検討しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人などに有益な情報を提供できるように、貿易取引の全体にわたって満遍なく勉強することを狙いとします。</p> <p>春学期には、貿易取引の流れを輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分して、マクロ的に鳥瞰することを主眼とします。</p> <p>使用するテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業はテキストの内容を補助プリントで敷衍する形で進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画を説明するとともに、履修上の注意事項を伝達します。</li> <li>2 テキスト Part 1 を読み、貿易の基本概念を理解することに努めます。</li> <li>3 同上</li> <li>4 テキスト Part 2 を読み、貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から6つの段階に区分して概観します。</li> <li>5 テキスト Part 3 を読み、ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行に果たしている役割を学びます。</li> <li>6 配布プリントを用いて、貿易マーケティングの段階全体について学びます。</li> <li>7 テキスト Part 4 の第2章と第3章を読み、取引関係創設の段階を学びます。</li> <li>8 同上</li> <li>9 テキスト Part 4 の第4章~第6章を読み、成約段階を学びます。</li> <li>10 同上</li> <li>11 テキスト Part 4 の第7章を読み、履行段階(=船積)全般について学びます。</li> <li>12 テキスト Part 4 の第8章を読み、決済段階(=荷為替手形の取組み)全般について学びます。</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
伊東ほか『現代商業英語読本』(英潮社新社) 配布プリント		出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語ビジネス・コミュニケーションⅡ b 英語ビジネス・コミュニケーションⅡ	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的と進め方は春学期と同じですが、秋学期の主眼は、貿易取引をミクロ的に、専門事項(technicalities)に細分して学ぶことに置かれます。</p> <p>具体的には、種々の貿易形態、信用調査(credit inquiry)、定型貿易条件(trade terms)、船積書類(shipping documents)、海上貨物保険(marine cargo insurance)、クレームおよびクレーム調整(claim and adjustment)などのテーマを取り上げます。主として当方で用意する資料プリントを使用しますが、テキストも補助的に活用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 配布プリントを用いて、貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から、種々の貿易形態を学び、各々の特色や長所・短所を比較します。</li> <li>2 同上</li> <li>3 配布プリントを用いて、信用調査の目的、方法、調査項目などを学び、調査依頼状と調査報告書の事例を検討します。</li> <li>4 同上</li> <li>5 配布プリントを用いて、いわゆるインコタームズ(Incoterms)に規定されている種々の定型貿易条件について学びます。</li> <li>6 同上</li> <li>7 配布プリントを用いて、各種の船積書類の目的、用途、記載事項などを学びます。</li> <li>8 同上</li> <li>9 テキスト Part 4 の第9章を読み、海上貨物保険全般について学びます。</li> <li>10 同上</li> <li>11 テキスト Part 4 の第10章を読み、クレームおよびクレーム調整全般について学びます。</li> <li>12 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じです。		春学期と同じです。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	メディア英語 I a メディア英語 I	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, we are going to be looking at news from around the world from various sources which will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Newspaper articles</li> <li>Magazine articles</li> <li>Television news (BBC, CNN and et al)</li> <li>Radio news</li> <li>Internet news</li> </ul> <p>Students will be required to follow specific news topics and see how they are reported on in different countries and then present them during class discussions. We will also be working on our own news projects in form of group presentations. This course will focus on the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Reading skills</li> <li>Presentations skills (Power Point)</li> <li>Critical thinking skills</li> <li>Discussing skills</li> </ul>		<p>Week 1: Class Introduction and overview</p> <p>Week 2: News topic one</p> <p>Week 3: News topic one and presentations</p> <p>Week 4: News topic two and presentations</p> <p>Week 5: News topic two and presentations</p> <p>Week 6: News topic three and presentations</p> <p>Week 7: News topic three and presentations</p> <p>Week 8: News topic four and presentations</p> <p>Week 9: News topic four and presentations</p> <p>Week 10: News topic five and presentations</p> <p>Week 11: News topic five and presentations</p> <p>Week 12: Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	メディア英語 Ib メディア英語 I	担当者	N.H Jost
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The second semester is a continuation of first semester, but with addition of a video conferencing project with students from the University of Illinois.</p> <p>The project will include BBS discussions, video conferencing and final reports. This project has been very rewarding for students in the past and students in this class will be required to give full participation to the project. The dates and topics for the project have yet to be decided.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview</p> <p>Week 2: News topic one</p> <p>Week 3: News topic one and presentations</p> <p>Week 4: News topic two and presentations</p> <p>Week 5: News topic two and presentations</p> <p>Week 6: News topic three and presentations</p> <p>Week 7: Video conferencing practice</p> <p>Week 8: Video conferencing session</p> <p>Week 9: News topic four and video discussion</p> <p>Week 10: News topic four and presentations</p> <p>Week 11: News topic and Summations</p> <p>Week 12: News projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Material will be taken from various news sources		Grades will be based on attendance, participation, and projects	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	メディア英語 I a メディア英語 I	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course outline. A look at some common media vocabulary.</li> <li>2. Review of main news stories of recent months</li> <li>3. Topic 1</li> <li>4. Topic 1 (contd.)</li> <li>5. Topic 1 (contd.)</li> <li>6. Topic 2</li> <li>7. Topic 2 (contd.)</li> <li>8. Topic 2 (contd.)</li> <li>9. Topic 3</li> <li>10. Topic 3 (contd.)</li> <li>11. Topic 3 (contd.)</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	メディア英語 I b メディア英語 I	担当者	W. J. Benfield
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course is to develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs. We will look at seven major current topics over the course of a year, devoting three classes to each one. (This may change according to the importance of the topic.) Initially, we will analyze each topic through articles drawn from a range of English-language publications or video clips. Further research into the topics will be done for homework, leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, the language of news and the news process. There will be occasional quizzes on current events.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Topic 4</li> <li>2. Topic 4 (contd.)</li> <li>3. Topic 4 (contd.)</li> <li>4. Topic 5</li> <li>5. Topic 5 (contd.)</li> <li>6. Topic 5 (contd.)</li> <li>7. Topic 6</li> <li>8. Topic 6 (contd.)</li> <li>9. Topic 6 (contd.)</li> <li>10. Topic 7</li> <li>11. Topic 7 (contd.)</li> <li>12. Review of term's work</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopied articles provided by teacher and video		Test at end of each semester; attendance; active participation in class.	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	メディア英語 Ia メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英字新聞の読み方と英語ニュースの聞き方」をテーマにして一年間授業を進めていきたい。春学期は、英字新聞の基本的な読み方を指導する。具体的には英字新聞の特徴、Headlineの読み方、Leadの読み方、記事全体の読み方等を指導し、英字新聞を読みこなすことができるように指導していきたい。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ英字新聞の読み方を基礎にして、英語ニュースの聞き方をビデオテープ等を使用して、英語ニュースのListening能力向上を目指して指導していきたい。また、英字新聞・英語ニュースを通して、外国の文化・国際理解などを同時に学んでいきたい。</p> <p>尚、第一回目の授業で講義概要について詳しく説明する。</p>		<p>受講生全員の積極的な授業参加を望むため、予習してあることを前提として授業をすすめる。従って、受講生は必ず予習して授業に出席すること。授業及び成績評価は非常に厳しいものとなるが、真面目に勉強する学生にとっては、必ず納得のいく授業となるであろう。</p> <p>(1) 英字新聞を読む意義について (2) 英字新聞の特徴 (3) Headlineの読み方 (4) Leadの読み方 (5) 記事全体の読み方</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(1) 英字新聞については、プリント使用 (2) 英語ニュースについては、未定</p>		<p>学期末の試験を中心にして評価する。詳細については、第一回目の授業で説明する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	メディア英語 Ib メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
		<p>(6) 英語ニュースの聞き方解説 (7) 実際に英語ニュースを聞き、聞き方を指導</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		<p>学期末の試験を中心にして評価する。詳細については、第一回目の授業で説明する。</p>	

03年度以降(春)	メディア英語 I a	担当者	遠藤 朋之
02年度以前(春)	メディア英語 I		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアで使われる英語の構成を学ぶ。トピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンス、といった基礎を習得しながら、トピックに対する視線を養う。</p> <p>テキストは、<i>Reading Time</i> か、<i>ABC World News</i> のどちらかにする。最初の授業で、話し合う予定。どちらにしる、<i>Time</i> か <i>ABC</i> の記事を読むことになる。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のいずれか。		テスト。	

03年度以降(秋)	メディア英語 I b	担当者	遠藤 朋之
02年度以前(秋)	メディア英語 I		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じテキストを読み進める。			
テキスト、参考文献		評価方法	
		テスト。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	メディア英語 Ia メディア英語 I	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>アメリカ国内のテレビニュースはかなり早い速度である。使われる単語は一音節の短いものが多く、文章は単文が多用される。また、ニュースに緊張感・臨場感を持たせるために、不完全文が使われる傾向がある。</p> <p>このような英語に慣れるため、この授業では、ビデオやテープを用いてABC World News を聞き取る練習をする。何度も繰り返し聞くことにより、ニュースの内容をより多く把握できるようになることを、授業の目標とする。</p> <p>つまり、メディアで使われる英語に慣れること、英語を聞き取る力を養うこと、がこの授業の目的である。</p>		<p>テキストは15課から成り立っているが、一回に1課終わらせ、春学期は8課まで進む予定。</p> <p>また、ヒヤリングの能力を向上させるため、映画のビデオも使用する計画である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：<i>ABC World News 7</i></p> <p>参考書は授業において適宜指示する。</p>		<p>出席状況、予習をして授業に臨んだか否か、試験などによって評価する。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	メディア英語 Ib メディア英語 I	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同じ</p>		<p>秋学期は8課から最後の課まで終わらせる予定。</p> <p>春学期同様、ヒヤリングの力を向上させるため、映画のビデオも用いる予定である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期と同じ</p>		<p>春学期と同じ</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	メディア英語 I a メディア英語 I	担当者	金子 節也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家・第1入者へのインタビューを中心に、日本のこんごの進路と他国との協調共存を考える。テキストのほか、インターネット、英字新聞をはじめ、CNN, ABC, BBCなどの英語放送を使って、テキストをrenewalする。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日米関係</li> <li>3. 同上</li> <li>4. 同上</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 日欧関係</li> <li>7. 同上</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. アジア関係</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
I Too, Am a Bit of a Workaholic, but... (テキスト)		テストと出欠を含む平常点。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	メディア英語 I b メディア英語 I	担当者	金子 節也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導者たちの英語 (ブッシュ、ブレアーなど)</li> <li>2. 同上</li> <li>3. 同上</li> <li>4. アジアの英語 (シンガポール、マレーシアなど)</li> <li>5. 同上</li> <li>6. 同上</li> <li>7. 日本人の英語 (小泉首相、長谷川滋利選手など)</li> <li>8. 同上</li> <li>9. 同上</li> <li>10. 共通語としての英語</li> <li>11. 同上</li> <li>12. 同上</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	メディア英語 II a メディア英語 II	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the first term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.</p>		<p>Introduction Route 66, Weekly Current Event The American RED Cross, Weekly Current Event The Boston Ballet, Weekly Current Event Comedy, Weekly Current Event Political Protest, Weekly Current Event The Yellow Pages, Weekly Current Event The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event Healthy Life Styles, Weekly Current Event Supermarkets, Weekly Current Event Apples in the US Northwest, Weekly Current Event</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	メディア英語 II b メディア英語 II	担当者	A.R. Falvo
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the first term, students will submit homework by email. Students will be filmed by video camera and will be responsible for one presentation this term in a group project.</p>		<p>Review of First Term Activities Tennessee, Weekly Current Event The Special Olympics, Weekly Current Event Sports Shoes, Weekly Current Event Charities for Children, Weekly Current Event Health and Comedy, Weekly Current Event Broadway Musical, Weekly Current Event Country Western Singers, Weekly Current Event Space Exploration, Weekly Current Event Video Taping of Group Project Part One Video Taping of Group Project Part Two Critique of the Group Projects</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be determined		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	メディア英語Ⅱa メディア英語Ⅱ	担当者	M. Woollerton
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will cover topics which are often in the media. Students will explore these topics by the following kinds of media: movies, television news and documentaries, cartoons, pop songs, magazine and newspaper articles and the Internet.</p> <p>Each topic is too big to cover in just one class, so it will be necessary to spend several weeks on each topic.</p> <p>Students will be expected to participate by studying each topic and as well as discussing and giving their opinions. Students will also be expected to do research on the different topics as well as give presentations as a TV reporter or journalist.</p> <p>There will also be an Internet message board for students to give their ideas and discuss the topics with other students in the class.</p>		<p>Week 1 – Course introduction and student level check Week 2 – Topic 1. Health, wealth &amp; education Week 3 – Topic 1. Health, wealth &amp; education Week 4 – Topic 1. Health, wealth &amp; education Week 5 – Topic 2. Human Rights Week 6 – Topic 2. Human Rights Week 7 – Topic 2. Human Rights Week 8 – Topic 3. The Environment Week 9 – Topic 3. The Environment Week 10 – Topic 3. The Environment Week 11 – Review Week 12 – Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook. Students will be given prints made by the teacher for each class.		Students will be graded on attendance (30%); class work and homework (40%) and end of semester test (30%).	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	メディア英語Ⅱb メディア英語Ⅱ	担当者	M. Woollerton
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is a continuation from Semester 1.</p> <p>This course will cover topics which are often in the media. Students will explore these topics by the following kinds of media: movies, television news and documentaries, cartoons, pop songs, magazine and newspaper articles and the Internet.</p> <p>Each topic is too big to cover in just one class, so it will be necessary to spend several weeks on each topic.</p> <p>Students will be expected to participate by studying each topic and as well as discussing and giving their opinions. Students will also be expected to do research on the different topics as well as give presentations as a TV reporter or journalist.</p> <p>There will also be an Internet message board for students to give their ideas and discuss these topics (and any others which students think are important) with other students in the class.</p>		<p>Week 1 – Semester 2 start up activities Week 2 – Topic 4. Racism &amp; discrimination Week 3 – Topic 4. Racism &amp; discrimination Week 4 – Topic 4. Racism &amp; discrimination Week 5 – Topic 5. AIDS Week 6 – Topic 5. AIDS Week 7 – Topic 5. AIDS Week 8 – Topic 6. Internationalisation Week 9 – Topic 6. Internationalisation Week 10 – Topic 6. Internationalisation Week 11 – Review Week 12 – Review</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook. Students will be given prints made by the teacher for each class.		Students will be graded on attendance (30%); class work and homework (40%) and end of semester test (30%).	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	メディア英語Ⅱa メディア英語Ⅱ	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義の目的&gt; 様々なメディアで記述・報道されている内容を参照・比較して、各トピックに関する理解を深めていきます。 事実の把握と共に、書き手の視点を分析していく姿勢を身に付けることを目的とします。</p> <p>&lt;講義概要&gt; ひとつのトピックにつき、複数の記事(必要に応じて番組)を数回に分けて扱います。それぞれの最終回では、学生からも情報を提供してもらい、それを授業で取り上げていきます。 記事等の概要を掴む作業を中心とし、効率のよい読み方などを必要に応じて解説していきます。</p>		<p>初回は、授業形式についての説明や、取り扱う雑誌等について解説します。 2回目以降、各トピックに関する情報を扱っていきます。取り上げるトピックは健康、最先端医療、科学技術、異文化問題、国際情勢など。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種雑誌( <i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など)および新聞記事、BBC ニュースなど		授業への参加度とレポートによる総合評価	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	メディア英語Ⅱb メディア英語	担当者	川島 浩美
講義目的、講義概要		授業計画	
上記に同じ		上記に同じ。取り扱うトピックについては、学生からの希望を含めます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各種雑誌( <i>Readers' Digest</i> , <i>The Economist</i> など)および新聞記事、BBC ニュースなど		授業への参加度とレポートによる総合評価	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	シネマ英語 a (月2) シネマ英語 (月2)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>エジソンのキネトスコープの時代から今日に至るまでの、アメリカ映画の歴史について学ぶのが、この授業の目標の一つである。「無声映画」、「スタントマン」、「監督」、「プロデューサー」、「オスカー」「特殊効果」などに関する授業を通して、アメリカ文化とは如何なるものかを知ることができよう。</p> <p>授業では、テキストの精読だけでなく、他の参考書もできる限り用いる予定。英語を読む力を培うのがこの授業のもう一つの目標である。</p> <p>出来るだけビデオを利用して、映画について様々なことを学んで行く予定。</p> <p>少なくとも、映画が嫌いでない、できれば、映画が好き、という人に受講してもらいたい。</p>		<p>(初期の映写機；映画の誕生；特殊効果はどのようにして生まれたか；最初のスタジオ；トーキーの出現；初期のハリウッド；30年代に活躍した俳優たち；ハリウッドとスター・システム；ヘイズ・コードとは何か；カラー映画の出現；戦中・戦後の映画；アニメ映画とディズニー) などについて学ぶ計画。</p> <p>また、過去の名画を数本鑑賞の予定である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験などによって総合的に評価する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	シネマ英語 b (月2) シネマ英語 (月2)	担当者	岡田 誠一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同じ。		<p>(映画の製作について；配役；監督；コスチューム；プロダクション；メイキャップ；アカデミー賞；映画館) などについて学んで行く予定。</p> <p>春学期同様、過去の名画を鑑賞する計画である。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『楽しい映画文化史』 成美堂		出席回数、予習をして授業に臨んだか否か、試験などによって総合的に評価する。	

03年度以降(春)	シネマ英語 a (木3)	担当者	岡田 誠一
02年度以前(春)	シネマ英語 (木3)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日では、昔と違って、ビデオを活用すれば、どんな時代の映画でも鑑賞することができる。人生を豊かなものにしてくれる一芸術、映画を、より深く理解しようとするのが、この授業の一番目の目標である。</p> <p>適度な難易度の研究書などからの抜粋を、テキストとして用いる予定。</p> <p>将来、どの方面に進んでも、必ず役立つことが出来るであろう英語の読解力を養うのが、この授業の二番目の目標である。</p>		<p>1940年代のアメリカ映画を中心に、その時代の代表的映画、監督、俳優、時代的背景などについて学んでいく。</p> <p>この時代の必見の名画も鑑賞の予定。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト・・・プリント</p> <p>参考書・・・授業中適宜指示</p>		出席状況、どの程度予習をして授業に臨んだか、試験、などにより評価する。	

03年度以降(秋)	シネマ英語 b (木3)	担当者	岡田 誠一
02年度以前(秋)	シネマ英語 (木3)		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

02年度以前(春)	ドイツ語Ⅲ	担当者	田島 加奈子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ドイツ語圏での習慣などを理解しながら、それぞれの場面で使う対話を参考にして練習し、実際に会話ができるようになることがこの授業の目的である。</p> <p>そのために、パートナー練習を通して、話すドイツ語を習得してほしい。</p>		<p>1 オリエンテーション+復習</p> <p>2 復習(動詞の三基本形、現在完了を中心に)</p> <p>3~4 旅行と交通(話法の助動詞)</p> <p>5~6 レストランとホテルで</p> <p>7~8 街で道を尋ねる(序数・前置詞)</p> <p>9~10 天気について話す(現在完了、形容詞の比較級・最上級)</p> <p>11 病気のことを伝える(再帰動詞)</p> <p>12 口頭試験</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤修子他著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語-ニューバージョン-』三修社		出席、口頭試験、筆記試験。	

02年度以前(秋)	ドイツ語Ⅲ	担当者	田島 加奈子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		<p>1~2 贈り物と招待(人称代名詞)</p> <p>3~4 人物描写(服装)(形容詞の格変化)</p> <p>5~6 ゴミと環境(命令形、zu 不定詞)</p> <p>7~8 公共の場所で禁止・許可されていること(接続法Ⅱ式)</p> <p>9~10 履歴と学校制度(過去形)</p> <p>11 祝祭と祝日(受動文、関係文)</p> <p>12 口頭試験</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤修子他著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語-ニューバージョン-』三修社		出席、口頭試験、筆記試験。	

02年度以前(春)	フランス語Ⅲ	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>シャンペンの名称がしばしば女性であるのはなぜでしょうか。ボルドーワインはシャトーと呼ばれます。ではブルゴーニュにはシャトーはありますか。最上級の格付けワインよりもっと美味しいワインとは。プロヴァンスのブドウ畑は石ころだらけなのはなぜでしょう。</p> <p>ワインに関する面白いエピソードを美しい写真やラベルの鑑賞と織り交ぜながら読んで行きます。ワインを飲む時フランス人が好んで歌う歌もCDに収録されています。授業は単なる訳読でなく、テキストの文章を応用して作文する形式で行ないます。このようにして文法知識だけでなく応用能力を身につけるよう計画しています。</p> <p>時にはインターネットを利用してワイン探訪も行ないましょう。ワインには料理も必要です。そしてチーズも。</p>		<p>1 授業方法、評価方法の解説。</p> <p>2～12 フランスワインの世界を巡る。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『ワインの話-20/20』駿河台出版社		授業での発表と定期試験による。	

02年度以前(秋)	フランス語Ⅲ	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		1～12 引き続きフランスワインの世界を巡る。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

02年度以前（春）	スペイン語Ⅲ	担当者	喜多 延鷹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>初級文法をひとつおり終了した学生を対象に講読中心に進める。</p> <p>具体的には最初の授業で説明する。</p>		<p>最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する。		テスト・授業態度により総合評価する。	

02年度以前（秋）	スペイン語Ⅲ	担当者	喜多 延鷹
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	



02年度以前(春)	フランス語会話 I	担当者	Ch.Pelissero
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

02年度以前(秋)	フランス語会話 I	担当者	Ch.Pelissero
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示します。		最初の授業で指示します。	

02年度以前(春)	フランス語会話 I	担当者	F.Roussel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours est destinée à améliorer vos compétences de communication en français (surtout à l'oral). Pour rendre votre français plus riche et plus naturel, vous aurez de nombreuses occasions de vous exprimer :</p> <p>1. « Quoi de neuf ? » : nous commencerons chaque cours par un tour de table où chacun pourra parler librement</p> <p>2. Dialogue : nous étudierons des dialogues basés sur différentes situations de la vie (mémorisation, imitation)</p> <p>3. Civilisation : apprendre une langue, c'est aussi découvrir un (ou des) pays, de nouvelles réalités, et de nouvelles idées. A partir de documents simples, nous discuterons de différents sujets sur la vie ou la société.</p> <p>4. Exposé : la langue française vous servira sûrement, dans le futur, à parler de vous et de votre pays à des francophones. Chacun devra préparer un exposé (un par semestre) portant sur la culture ou la société japonaises.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Le manuel éventuellement utilisé sera décidé en début d'année, en fonction du niveau des étudiants.		Contrôle continu (votre participation à la classe et votre travail à la maison seront contrôlés chaque semaine)	

02年度以前(秋)	フランス語会話 I	担当者	F.Roussel
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours est destinée à améliorer vos compétences de communication en français (surtout à l'oral). Pour rendre votre français plus riche et plus naturel, vous aurez de nombreuses occasions de vous exprimer :</p> <p>1. « Quoi de neuf ? » : nous commencerons chaque cours par un tour de table où chacun pourra parler librement</p> <p>2. Dialogue : nous étudierons des dialogues basés sur différentes situations de la vie (mémorisation, imitation)</p> <p>3. Civilisation : apprendre une langue, c'est aussi découvrir un (ou des) pays, de nouvelles réalités, et de nouvelles idées. A partir de documents simples, nous discuterons de différents sujets sur la vie ou la société.</p> <p>4. Exposé : la langue française vous servira sûrement, dans le futur, à parler de vous et de votre pays à des francophones. Chacun devra préparer un exposé (un par semestre) portant sur la culture ou la société japonaises.</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Le manuel éventuellement utilisé sera décidé en début d'année, en fonction du niveau des étudiants.		Contrôle continu (votre participation à la classe et votre travail à la maison seront contrôlés chaque semaine)	

02年度以前(春)	スペイン語会話 I	担当者	J.Ferreras
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返させて、スペイン語らしい発音ができるようにするとともに聞き取り能力を養成する。</p> <p>スペイン語とともにボディーラングエジになれること。</p> <p>ビデオを用いながら会話、文化(世界遺産、生活、習慣、など)を紹介。</p>		<p>季節ごとのスペイン語圏の国々の祝日、記念日、行事、慣習(イースター、学生の日、死者の日、など)をビデオや写真によって学ぶこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
本を使わず、その都度担当者が作成。		出席、授業への積極的な参加、小テスト。	

02年度以前(秋)	スペイン語会話 I	担当者	J.Ferreras
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを経由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、およびExcelでKWIC Concordanceを実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスをExcel等を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p>		<p>1 講義のガイダンス</p> <p>2 表計算(1)：表計算一巡り</p> <p>3 表計算(2)：計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 表計算(3)：関数(算術・統計関数)</p> <p>5 表計算(4)：関数(文字列操作関数)</p> <p>6 表計算(5)：関数(論理関数と関数のネスト)</p> <p>7 表計算(6)：データベース処理(並べ替えと集計)</p> <p>8 表計算(7)：データベース処理(レコードの抽出および条件検索)</p> <p>9 表計算(8)：データベース処理(クロス集計)</p> <p>10 表計算応用(1)</p> <p>11 表計算応用(2)</p> <p>12 実習試験</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。		学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータを利用した英文データベース(以下コーパス)の構築と利用、テキスト処理の方法、およびコーパスから得られた情報の統計的処理とその意味を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(ほぼ前期)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能および操作方法を学ぶ。後半は既存の各種コーパスをネットワークを経由し体験利用しながら、コーパス言語学の基礎的な知識を得る。その後、Excelの応用して、データベースの構築の仕方、およびExcelでKWIC Concordanceを実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。また英語の言語材料をインターネットなどから収集し、各自が自分のテーマに基づいたコーパスを構築する。年度の最後はあるリサーチ課題について、構築したコーパスをExcel等を用いて分析し、結果をまとめてレポートとして提出する。</p>		<p>1 テキスト処理：文字列変換、正規表現</p> <p>2 出現単語の頻度の集計(ピボットテーブル)</p> <p>3 テキスト全体の出現単語数と異なり語数</p> <p>4 語彙密度の計算</p> <p>5 コンコーダンスを作る(1)</p> <p>6 コンコーダンスを作る(2)</p> <p>7 コンコーダンスの利用：データの検索・</p> <p>8 コンコーダンスラインの利用(1)：(MI-Score)。</p> <p>9 コンコーダンスラインの利用(2)：(t-score)。</p> <p>10 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる</p> <p>11 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析</p> <p>12 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。		学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	言語情報処理 I a	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(言語情報処理 I a)は、Microsoft Excel(以下 Excel)の基本的機能およびその利用方法を中心に学ぶ。後期に Excel を使って言語処理を行うための準備である。コーパスの分析には専用のソフトウェアがいくつか開発されている。それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性がなく、また自由な発想からの分析には向いていない。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使う。その理由は各自の創造力でより自由な処理、研究が可能となるからである。同時に if 関数などをネストした関数式を考えることは、論理的な思考力を養う。さらに Excel の汎用性は言語処理に限るわけではないので、様々な場面で活用できるであろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 表計算(1)：言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 表計算(2)：計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 表計算(3)：関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 表計算(4)：関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 表計算(5)：関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 表計算(6)：関数のネスト</p> <p>8 表計算(6)：データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>9 表計算(7)：データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>10 データベース(2)：データの蓄積方法</p> <p>11 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>12 演習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	言語情報処理 I b	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)とその分析を通じて、基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の後半(言語情報処理 I b)は、前期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作る。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を得る。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法を学ぶ。いくつかのケース・スタディを講義の中で紹介し、コンピュータから見た英語の特徴を探る。最後に各自が作ったコーパスを使って、自分でリサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コンピュータから見た言語</p> <p>2 自家製コーパスを作ろう(1)</p> <p>3 自家製コーパスを作ろう(2)</p> <p>4 コーパスを使う(1)：出現単語の頻度の集計(ピボットテーブルを利用した単語の頻度集計)</p> <p>5 コーパスを使う(2)：テキスト全体の出現単語数と異なり語数</p> <p>6 コーパスを使う(3)：語彙密度の計算</p> <p>7 コンコーダンスの利用(4)：データの検索・絞り込みなど</p> <p>8 コロケーションの問題を考える(1)</p> <p>9 コロケーションの問題を考える(2)</p> <p>10 ケース・スタディ(1)</p> <p>11 ケース・スタディ(2)</p> <p>12 課題研究について：自家製コーパスを使って何を調べるか。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な言語処理を扱う。英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の前半(言語情報処理Ⅱa)は Microsoft Excel(以下 Excel)のおさらいと、データベース Microsoft Access(以下 Access)の機能およびその利用方法を中心に学ぶ。Access は Excel に比べて格段の量のデータを格納できる。本講義でも言語情報処理Ⅰと同様に自家製コーパスを構築するが、Access を用いるので、格段に大きなコーパスを作ることができる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス・言語情報処理の基本概念と本講義の概要</li> <li>2 表計算(1): 言語情報処理とコーパス</li> <li>3 表計算(4): 関数(文字列操作関数を中心に)</li> <li>4 表計算(5): 関数(論理関数と関数のネストについて)</li> <li>5 表計算(6): データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</li> <li>6 表計算(7): データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</li> <li>7 データベース(1): Excel からリレーショナルデータベース Access へ</li> <li>8 データベース(2): テーブルとデータシート</li> <li>9 データベース(3): クエリーによるデータ活用</li> <li>10 データベース(2): データの蓄積方法</li> <li>11 コーパスの構想を練る: データ収集の方法など</li> <li>12 実習試験</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、言語情報処理Ⅰよりもやや高度な言語処理を扱う。英文データベース(以下コーパス)の構築(テキスト処理の方法、データの蓄積、検索、および統計的処理)を通じて基本的な情報処理の概念を学ぶことを目的とする。</p> <p>年間の講義の後半(言語情報処理Ⅱb)は前期に学んだ Excel と Access の知識を活用して、学生一人一人が自家製コーパスを作る。また、British National Corpus などの商用コーパスにも体験的にアクセスする。コーパス言語学の基礎的な知識から、統計的な手法を用いたコロケーション分析方法などを扱う。また、品詞分析(品詞タグ付け)や統語分析など自然言語処理の先端研究の一部にも触れる。最後に各自が作ったコーパスまたは British National Corpus を使って、自分でリサーチ課題を設定し、レポートにまとめる。本講義で構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できる貴重な情報源となるだろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス: コーパスとその応用</li> <li>2 データベース(3): テキストをデータベースに格納する</li> <li>3 データベース(4): Excel との連携</li> <li>4 自家製コーパス(1): Access にデータを格納</li> <li>5 自家製コーパス(2): Access のデータを引き出して Excel で分析</li> <li>6 最先端のコーパスの現状: 体験アクセス</li> <li>7 コンコーダンスラインの利用(1): コロケーションを調べる(MI-Score)。</li> <li>8 コンコーダンスラインの利用(2): コロケーションを調べる(t-score)。</li> <li>9 品詞情報のタグ付け: 各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</li> <li>10 タグ付けされたテキストの分析: 品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</li> <li>11 言語情報処理の現状: 今日のコーパス言語学の状況、コンピュータによる言語処理の最新技術を紹介する。</li> <li>12 課題研究について: コーパスを使って何を調べるか。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	統語論 a	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちは言語を生み出す能力を持って生まれてくる。この能力は何語が母国語であれ共通である。遺伝的に決まっている言語能力のおかげで、私たちは努力なしに母国語を獲得できる。簡単に獲得できる能力は単純だと思いがちだが、実は非常に複雑で高度である。これはものを見る能力(Visual Intelligence)の場合と同じである。遺伝的に決まった視覚能力があるので、努力なしに、例えば、平面である写真から三次元の空間を思い浮かべることができる。しかし、自分がどのように三次元の再構築を行っているか説明できる人はまずいない。言語も視覚も目、口、耳などが行う活動は副次的なもので、その大部分を脳が行っている。交通事故やアルツハイマー病などで脳に損傷を負えば、目や口が正常であっても話したりものを認識できなくなる。科学にとって脳は究極のブラックボックスであり、言語学、特に言語能力の計算的部分を研究する統語論はその解明を目指す。</p> <p>この授業では、中学1年で習うような英語の疑問文や自分の日本語が如何に複雑な知識に支えられているかを知って「驚いて」もらいたい。授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらおう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳科学としての言語研究1：アルツハイマー病患者の症例</li> <li>2 脳科学としての言語研究2：言語獲得の臨界期</li> <li>3 統語論の研究対象</li> <li>4 句構造</li> <li>5 X-bar Syntax (一般句構造理論)</li> <li>6 X-bar Syntax (一般句構造理論)</li> <li>7 主要部による語彙選択</li> <li>8 節の内部構造</li> <li>9 主語と助動詞の倒置</li> <li>10 本動詞・助動詞と時制辞の分布</li> <li>11 Wh 疑問文</li> <li>12 質問</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストなし。参考文献は <i>Transformational Syntax</i> (A. Radford, CUP) <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (L. Haegeman, Blackwell), 『生成文法の基礎』(中村捷他、研究社) 『言語の脳科学』(酒井邦嘉、中公新書)</p>		<p>定期試験による。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。定期試験は授業の課題に沿って出題される。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	統語論 b	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちは言語を生み出す能力を持って生まれてくる。この能力は何語が母国語であれ共通である。遺伝的に決まっている言語能力のおかげで、私たちは努力なしに母国語を獲得できる。簡単に獲得できる能力は単純だと思いがちだが、実は非常に複雑で高度である。これはものを見る能力(Visual Intelligence)の場合と同じである。遺伝的に決まった視覚能力があるので、努力なしに、例えば、平面である写真から三次元の空間を思い浮かべることができる。しかし、自分がどのように三次元の再構築を行っているか説明できる人はまずいない。言語も視覚も目、口、耳などが行う活動は副次的なもので、その大部分を脳が行っている。交通事故やアルツハイマー病などで脳に損傷を負えば、目や口が正常であっても話したりものを認識できなくなる。科学にとって脳は究極のブラックボックスであり、言語学、特に言語能力の計算的部分を研究する統語論はその解明を目指す。</p> <p>この授業では、中学1年で習うような英語の疑問文や自分の日本語が如何に複雑な知識に支えられているかを知って「驚いて」もらいたい。授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらおう</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 統語論 a 定期試験の解説</li> <li>2 機能範疇と語彙範疇</li> <li>3 persuade と expect の統語的差異</li> <li>4 likely と eager の統語的差異</li> <li>5 名詞句の分布と格理論</li> <li>6 格理論と名詞句移動</li> <li>7 Syntactic Parsing：理解が困難な文構造の特徴</li> <li>8 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係</li> <li>9 himself などの再帰形と先行詞の構造的関係</li> <li>10 名詞句移動の局所性</li> <li>11 he などの代名詞と先行詞との構造的関係</li> <li>12 質問</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストなし。参考文献は <i>Transformational Syntax</i> (A. Radford, CUP) <i>Introduction to Government and Binding Theory</i> (L. Haegeman, Blackwell), 『生成文法の基礎』(中村捷他、研究社) 『言語の脳科学』(酒井邦嘉、中公新書)</p>		<p>定期試験による。授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である。定期試験は授業の課題に沿って出題される。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	意味論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーションの本質は、ことば（あるいはその代用となるもの、例えばジェスチャーや手話など）によって媒介される意味を通してわれわれの周りにいる人たちや状況に働きかけることにある。この講義ではその日常の言語生活での意味のやり取りというわれわれの営みを理解するためには、どういう視点でそれを捉えればよいかという、いわば考え方の枠を提供することを狙いとす。</p>		<p>テキストに沿って5章までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>1章 日常生活の中の「意味論」 2章 ことばと意味 3章 ことばの意味と辞書 4章 語彙の中の意味関係 5章 文法と意味</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1,600 プリント(随時配布)		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	意味論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。(ただし、秋学期から受講する場合は、テキスト第7章まで読んでおくことが求められる。)</p>		<p>テキストに沿って6章から10章までを解説する。(およそ各トピックにつき2回の講義を充てる。)</p> <p>6章 意味とコンテキスト 7章 意味の変化 8章 意味の習得 9章 語彙の普遍性と相対性 10章 意味と文学</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
池上嘉彦 編『英語の意味』大修館書店 ¥1,600 プリント(随時配布)		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	音声・音韻論 a	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。前者は音声学、後者は音韻論と、言語研究の中では分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。音声学も、音韻論も、その中にはいくつかの研究分野があるので、本講義ではそれを概説する。</p> <p>概要：春学期は調音音声学、音響音声学、聴覚音声学の各分野からの研究を解説する。</p>		<p>Basic component of speech Phonation and articulation Source-filter theory Neuromuscular phase International phonetic alphabet Consonants I Consonants II Two types of co-articulation Vowels I Vowels II Prosodic features Stress Intonation, duration</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>P. Roach: English Phonetics and Phonology. A.S. Gimson: An Introduction to the Pronunciation of English. J.C. Catford: A Practical Introduction to Phonetics</p>		期末のテストの得点	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	音声・音韻論 b	担当者	大西 雅行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>目的：音声言語の研究には、実際の音声を正確に観察、記述、機構を解明する分野と、言語体系に占める役割、機能、音構造を解明する分野がある。前者は音声学、後者は音韻論と、言語研究の中では分けてはいるが、両者とも研究対象は言語音である。音声学も、音韻論も、その中にはいくつかの研究分野があるので、本講義ではそれを概説する。</p> <p>概要：秋学期は生成音韻論、自律分節音韻論、韻律音韻論、語彙音韻論などを講義する。</p>		<p>The phoneme Distinctive features Phonological representation Phonological process Naturalness and strength Interaction between rules The abstractness of underlying representations The syllables Generative Phonology Autosegmental phonology Metrical phonology Lexical phonology</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>F. Katamba: An introduction to Phonology. R. Hogg &amp; C.B. McCully: Metrical Phonology. C. Gussenhoven and H. Jacobs: Understanding Phonology.</p>		期末のテストの得点	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語史 a	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ・サクソン人がイングランドに登場したのは、5世紀半ばである。それから今日まで英語はどのように変化し、発達してきたのであろうか。英語史は、このテーマで授業が進められる。テキストは明快な『図説 英語史入門』を選んだ。さらに授業では、できるだけ多くのビデオを使用して、わかり易く興味ある講義にするつもりである。古英語の章では、英語の最古の詩『キャドモンの賛歌』(“Cædmon’s Hymn”)を、そのエピソードと共に紹介したい。近代英語の章では、シェイクスピアの諸作品の中から、有名なパッセージを観賞するつもりである。</p>		<p>I. 英語の語族  (1) インド・ヨーロッパ語族  (2) ゲルマン語の特徴</p> <p>II. 古英語 (Old English)  (1) ゲルマン人のブリテン島への侵入  (2) イングランドの成立  (3) キリスト教の伝来  (4) 古英語 (発音・文法)  (5) ヴァイキングの来襲とその影響</p> <p>III. 中英語 (Middle English)  (1) ノルマン人によるイングランド征服とその影響  (2) 中英語 (発音・文法)  (a) 初期  『ピータバラ・クロニクル (年代記)』  (b) 後期  チャーサー『カンタベリー物語』</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中尾俊夫・寺島廸子著 『図説 英語史入門』(大修館)		出席、試験による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語史 b	担当者	毛利 秀高
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		<p>IV. 近代英語 (Modern English)  (1) 英語の大母音推移 (変化)  (2) 意味変化  (3) 欽定訳聖書  (4) シェイクスピアの英語  (5) 英語の新大陸への進出  (6) 語いの増大</p> <p>その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語学特殊講義 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「修理中」「販売中」は言えるのに、「売り切れ中」というのは違和感を覚え、「病氣中」「万引き中」などは冗談っぽく聞こえる。どうしてだろう？</p> <p>頭の働きについては、頭の「回転がいい」とか「錆びついてる」と言えるんだから、頭って「機械」なの？</p> <p>「(才能が) 遺伝する」も「(ストッキングの) 伝線」も「(手紙が) 書いてある」も皆 run を使う。</p> <p>Musical talent <i>runs</i> in his family. She had a <i>run</i> in her stocking. The letter <i>ran</i> as follows.</p> <p>さらに、原因(<i>shout for joy</i>)も目的(<i>fight for peace</i>)も同じ <i>for</i> を使う。多義性というのはイメージの連想なのだろうか？</p> <p>この講義では発想とことばの関係を、日本語と英語で比較しながらことばの有り様と人のモノのとらえ方を探っていく。</p>		<p>テキストに沿って7章までを解説する。(およそ各章につき2回の講義を充てる。)</p> <p>1章 認知(cognition) 2章 認知言語学(cognitive linguistics) 3章 カテゴリー化(categorization) 4章 プロトタイプ(prototype) 5章 家族的類似性(family resemblance) 6章 スキーマ(schema) 7章 言語カテゴリー(linguistic category)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉村公宏『はじめての認知言語学』研究社プリント(随時配布)		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語学特殊講義 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ。(ただし、秋学期から受講する場合は、テキスト第7章まで読んでおくことが求められる。)</p>		<p>テキストに沿って6章から5章までを解説する。(およそ各章につき2回の講義を充てる。)</p> <p>8章 他動性と動作主(transitivity and agent) 9章 構文(constructions) 10章 多義性(polysemy) 11章 メタファー・メトニー(metaphor / metonymy) 12章 オノマトペア(onomatopoeia) 13章 ことばの変化(change in language) 14章 日英対照研究(contrastive study of English)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉村公宏『はじめての認知言語学』研究社プリント(随時配布)		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	英語学文献研究 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>話し手がことばを喋るとき、伝えたい意味を考え、それをフレーズや構文の形に記号化するのだが、例えば、同じように願望を表すのに、なぜ want は that を取れないのであろうか。</p> <p>I wish to go. / I wish that he would go. I want to go. / *I want that he would go. That の構文が want の意味と相性が悪いからなのだろうか？ あるいは、across があるのとないのとどう意味が違うのだろうか？</p> <p>She swam (across) the river. また、所有を意味するのにどうして have は受け身にならないのだろうか？</p> <p>That car is { owned /*had } by John.</p> <p>この授業では、上のような例文を基に、意味と形の関連性を探っていく。</p>		<p>テキスト (コピー配布予定) の次の章を12週にわたって精読する。</p> <p>8章 <i>I kicked at the bomb, which exploded, and wakened you up. Transitivity and causatives</i></p> <p>9章 <i>The plate, which had been eaten off, was owned by my aunt. Passives</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dixon, R. M. W. <i>A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles</i> . OUP.		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	英語学文献研究 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期同様、次のような例文を基に、意味と形の関連性を探っていく。</p> <p>John opened the door. The door was opened (by John). The door opened. 「ドアが開いた」ということになりはしないのに、どうしていくつも言い方があるの？</p> <p>Mary looked at John. Mary had a look at John. Mary gave John a look. これらはどこか意味が違うの？</p>		<p>テキスト (コピー配布予定) の次の章を12週にわたって精読する。</p> <p>10章 <i>What sells slowly, but weares well?. Promotion to subject</i></p> <p>11章 <i>She gave me a look, they both had a laugh and then took a stroll. GIVE A VERB, HAVE A VERB and TAKE A VERB constructions</i></p> <p>(時間に余裕のあった場合は、新しいトピックの論文を読んでいく。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Dixon, R. M. W. <i>A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles</i> . OUP.		試験と平常点によるが、受講者数によっては出欠も考慮する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の小説 a 英米の小説 a	担当者	藤田 永祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀の初期の小説家ジェーン・オースティンの代表作品『自負と偏見』『マンスフィールド・パーク』『説得』を解説・鑑賞していきます。オースティンの小説は風俗小説と呼ばれていますが、風俗小説はイギリス小説の主流をなしている、その中心的位置にあるのがオースティンの作品とあってよいでしょう。彼女は、今日ではイギリスとアメリカで最も高い評価を受けていて、イギリスでは今現在広く読まれ、数多く映画化されてきました。</p> <p>人間とか人間性に強い興味がある人、語学力を身に着けることに熱意を傾ける人なら、得るところ少なくないはずですよ。</p>		<p>最初の授業で全体的な解説と説明をします。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>手作りのプリント 参考文献は授業中に指定する。</p>		小テストとレポート	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の小説 b 英米の小説 b	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>20世紀英文学において先駆的役割を果たした、ジェイムズ・ジョイスの文学について、従前の作家たちと異なる諸点を鮮明にしたい。これによりモダニズムという極めて曖昧な定義についても、担当者の認識するところの一端が伝えられればとも思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：本講義の目的と約束</li> <li>2 モダニズムの予兆；序説</li> <li>3 ジョイス概観</li> <li>4 <i>Dubliners</i> をめぐって</li> <li>5 意識の流れということ</li> <li>6 <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> をめぐって (その1)</li> <li>7 <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> をめぐって (その2)</li> <li>8 <i>Giacomo Joyce</i> をめぐって</li> <li>9 <i>Ulysses</i> をめぐって (その1)</li> <li>10 <i>Ulysses</i> をめぐって (その2)</li> <li>11 <i>Finnegans Wake</i> をめぐって</li> <li>12 まとめ：ジョイスの歴史観と現代認識、質疑応答</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>北沢滋久(他)、『ジョイスからジョイスへ』、東京堂。 北沢滋久(訳註)、『ジャコモ・ジョイス』、下井草書房。 北沢滋久、「話法から意識の流れへ」『獨大外国語教育研究』</p>		学期末提出の、小論文において評価する。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の詩 a 英米の詩 a	担当者	原 成吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>アメリカ先住民の口承詩(うた)、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人の作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、“here and now”の視点から論じる</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカの大地の声—Native American の口承詩</li> <li>2. Rock の Lyrics を読む—Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ</li> <li>3. デモクラシーを歌う『草の葉の詩人—Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン</li> <li>4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス—Emily Dickinson の世界</li> <li>5. Ezra Pound がみた東洋の詩学</li> <li>6. T. S. Eliot の“The Love Song of J. Alfred Prufrock”に描かれた現代人の苦悩</li> <li>7. William Carlos Williams がみたアメリカの美学</li> <li>8. e. e. cummings の typography が創る「感じる」詩</li> <li>9. ビート詩人 Allen Ginsberg の“A Supermarket in California”を読む</li> <li>10. 禅とエコロジーの詩の世界 Gary Snyder の “Ripples on the Surface”を読む</li> <li>11. Sylvia Plath の “Daddy”を読む</li> <li>12. Shel Silverstein の絵と言葉を読む</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントを用意する。</p> <p>参考文献 Jay Parini, ed. <i>The Columbia History of American Poetry</i>. New York: Columbia UP, 1993. 亀井俊介・川本皓嗣編『アメリカ名詩選』(岩波文庫) D・W・ライト編『アメリカ現代詩101人集』(思潮社)</p>		<p>ワープロによる 4,000 字程度の作品論で決める(ただし4回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の詩 b 英米の詩 b	担当者	白鳥 正孝
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義の目的</b> ワーズワス(W. Wordsworth 1770-1850)の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p><b>講義概要</b> 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する</p> <p><b>参考文献</b> 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 詩形について</li> <li>2. &lt;マザーグース&gt; I</li> <li>3. &lt;マザーグース&gt; II (video 鑑賞)</li> <li>4. &lt;現代英詩アラカルト&gt; T. Hughes(1992-1985), Seamus Heaney(1939-)など</li> <li>5. &lt;ロマン派の曙&gt; W. Blake(1757-1827), video 鑑賞(字幕なし、以下同じ)</li> <li>6. &lt;ロマン派の詩&gt; I ワーズワス, video 鑑賞</li> <li>7. &lt;ロマン派の詩&gt; II S. T. Coleridge(1772-1834)と G. G. Byron(1788-1824)</li> <li>8. &lt;ロマン派の詩&gt; III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821)</li> <li>9. &lt;ロマン派の詩&gt; 総括 解説と video 鑑賞</li> <li>10. Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。Video 鑑賞</li> <li>11. John Milton(1608-74) <i>Paradise Lost</i>(1667)のさわり、ソネット23。Video 鑑賞</li> <li>12. William Shakespeare(1564-1616), 解説と video 鑑賞</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト</b> 薬師川虹一他 編注『マザーグースと美しい英詩』 北星堂 1987</p>		<p>テストを課す。数回の video は、字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の演劇 a 英米の演劇 a	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリント)を毎回配布しますから、舞台上でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品と歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品(邦題):</p> <p>『オペラ座の怪人』、 『エスケープ・フロム・ハピネス』、 『アルジャーノンに花束を』、 『ミザリー』、 『喝采』、 『舞台裏の騒ぎ』、 『マクベス』、 『時の人』、 歌舞伎作品 ほか。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート(800字)2編で70%、授業で30%。学期末定期試験はありません。レポートに関する詳細は初回授業で説明。</p>	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の演劇 b 英米の演劇 b	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の劇作品の台本(抜粋英文プリント)を読みながら、現代の英米文化や作品の時代や社会の風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。テキスト(英文プリント)を毎回配布しますから、舞台上でしゃべって違和感のない日本語に翻訳したものをノートに用意して、出席してください。その翻訳を本読みするパフォーマンスを、順番に一人3回ほど実施してもらい、教室でも舞台の雰囲気を出したいと思います。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品と歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いは一切ありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、<u>理由の如何を問わず</u>、単位を認めません。</p>		<p>予定作品(邦題):</p> <p>『キャッツ』、 『夜の来訪者』、 『審判』、 『ドライヴィング・ミス・ディジー』、 『ガラスの動物園』、 『聖者の泉』、 『暗くなったら帰っておいで』、 『八月の鯨』、 『最後の恋』、 『リタの教育』、 歌舞伎作品 ほか。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本の抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>観劇レポート(800字)2編で70%、授業で30%。学期末定期試験はありません。レポートに関する詳細は初回授業で説明。</p>	

03年度以降(春)	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井 嘉彦
02年度以前(春)	英米の社会と思想 a		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アングロ=サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。</p> <p>なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス(1)父性神と母性神 (2)ヘレニズムとヘブライズム</li> <li>2. ローマン=ブリテン:ケルト人とキリスト教</li> <li>3. ローマ帝国のキリスト教化の過程:ドナティスト論争</li> <li>4. イングランドのキリスト教化</li> <li>5. デーン人とアルフレッド大王</li> <li>6. カロリング王朝とイングランドのキリスト教</li> <li>7. グレゴリウス7世の教会改革</li> <li>8. イングランドの教会改革</li> <li>9. 中世の異端</li> <li>10. 地獄墮ちへの恐怖</li> <li>11. 黒死病と農民一揆</li> <li>12. 教皇権の栄光と下降</li> <li>13. 中世末期:唯名論論争とイングランド宗教改革前史</li> </ol> <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。		出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。	

03年度以降(秋)	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井 嘉彦
02年度以前(秋)	英米の社会と思想 b		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に準じる。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルター:我ここに立つ</li> <li>2. ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人</li> <li>3. イングランドの宗教改革:ヘンリー8世</li> <li>4. エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興</li> <li>5. エリザベス1世の宗教改革</li> <li>6. ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立</li> <li>7. スチュワート王朝の国教会</li> <li>8. 国王の処刑とピューリタニズム</li> <li>9. ピルグリム=ファーザーズ</li> <li>10. 王政復古から名誉革命以降</li> <li>11. 啓蒙主義時代から現代まで</li> </ol> <p>以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期に準じる。	



03年度以降 02年度以前	英語圏の歴史 a 英米の歴史 a	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(春学期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつつユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p> <p>春学期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中世英国のユダヤ人社会</li> <li>2. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係</li> <li>3. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令</li> <li>4. 千年王国思想とユダヤ人再入国</li> <li>5. 英国人地主貴族社会への同化</li> <li>6. 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム</li> <li>7. 英国ファシスト勢力との対決</li> <li>8. 現代英国ユダヤ人社会</li> <li>9. 現代アメリカユダヤ人の経済力の実像</li> <li>10. アメリカ経済史の中のユダヤ人</li> <li>11. ウォール街のユダヤ人、M &amp; Aアドバイザー業務とヘッジファンド</li> <li>12. アメリカ経済のユダヤ・パワー</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『英国ユダヤ人』佐藤唯行(1995年)講談社選書 1600円、 『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行 1999年 PHP 新書 660円		評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持ち込み可。	

03年度以降 02年度以前	英語圏の歴史 b 英米の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(秋学期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史・社会史の研究成果も取り入れて講義を行う。</p> <p>秋学期のテーマは「アメリカ合衆国の通史」毎回、完全に文章化されたレジメを配布予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ史の特質—封建性の欠除、広大な自由地の存在、セクションの多様性—</li> <li>2. イギリス領北米植民地の建設</li> <li>3. アメリカ独立革命</li> <li>4. ジェファソン政権の内政と外交</li> <li>5. 領土的膨張</li> <li>6. 奴隷廃止と南北戦争</li> <li>7. フロンティアの消滅、メガロポリスの形成</li> <li>8. 第一次大戦への参戦、1920年代の都市と農村</li> <li>9. ニューディールと第二次大戦</li> <li>10. 「豊かな社会」とベビーブーム、ベトナム戦争</li> <li>11. 「帝王的大統領制」の終末、マイノリティーの地位向上</li> <li>12. 今日のアメリカ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『アメリカ・ユダヤ人の経済力』佐藤唯行 1999年 PHP 新書 660円		春学期と同じ	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏のエリア・スタディーズ a 英米事情 a	担当者	上野 直子 他
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エリア・スタディーズとは、その名のとおりに、ある特定の地域や国についての研究です。この講義は「英語圏」のエリア・スタディーズですから、英語が母国語や公用語であるか、あるいは強い社会的な力を持つ地域をカバーします。そして多種多様な人文科学研究のアプローチを用いて、対象とする地域を、包括的、多面的に理解しようとする試みです。</p> <p>講義では、まずは英語圏の成り立ちの問題を考え、その後、英語学科の専任教員が、それぞれの専門や興味に基づき、言語、文学、芸術、歴史、教育、政治、思想、宗教、民族など、さまざまな視点から英語圏の社会・文化と英語について語ります。知識の万華鏡を楽しみながらのぞき、自分なりに読み解く努力をしてください。そこでの発見は、受講生自身の「いまとここ」についても、何かを考えさせてくれるはずです。グローバルな世界を生きざるをえない私たちひとりひとりが、これからいかに行動すべきかを考えるヒントにもなるはずです。</p> <p>開講時に各回の講義概要を配布します。受講生は予習をして授業に臨んでください。10分以上の遅刻は欠席扱いになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>(4/13) 上野直子 (大西洋世界・グローバル化・英語圏)</li> <li>(4/20) 浅岡千利世 (多言語社会と多言語教育)</li> <li>(4/27) 岡田圭子 (今年こそ英語をモノにする！言語習得理論に基づいた学習法のススメ。)</li> <li>(5/11) 高橋雄一郎 (さまざまな愛のかたち)</li> <li>(5/18) 山本英政 (ハワイ、そしてアメリカへ—日本人移民の移動)</li> <li>(5/25) 石井敏 (日系アメリカ人の苦難の足跡—強制収容所問題を中心に)</li> <li>(6/1) 大西雅行 (日英の発音の違い)</li> <li>(6/8) 鍋倉健悦 (日本語と英語の発想の違い)</li> <li>(6/15) 杉山晴信 (法規範としての“Plain English”—英文難度判定公式の活用事例を中心に)</li> <li>(6/22) 安井美代子 (高次脳機能としての言語能力)</li> <li>(6/29) 清水由理子 (英語語彙のルーツ)</li> <li>(7/6) 北澤滋久 (現代文明の破綻と自然)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者が、原則として授業の前週までに指示する。		学期末試験による。欠席が4回を超えた場合には、単位を認定しない。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏のエリア・スタディーズ b 英米事情 b	担当者	上野 直子 他
講義目的、講義概要		授業計画	
(上に同じ)		<ol style="list-style-type: none"> <li>(9/28) 児嶋一男 (劇作品と文化)</li> <li>(10/5) 竹田いさみ (海の安全保障)</li> <li>(10/12) 金子芳樹 (東南アジア準英語圏諸国の歴史と社会)</li> <li>(10/19) 永野隆行 (English Speaking Alliance とアジア太平洋の国際関係)</li> <li>(10/26) 白鳥正孝 (マザーグースと美しい英詩)</li> <li>(11/2) 原成吉 (Rock Music から時代を読む)</li> <li>(11/9) 佐藤唯行 (アメリカ政治のユダヤパワー)</li> <li>(11/16) 町田喜義 (モザイクとメルティング・ポット、そしてウリとウチ・ソト)</li> <li>(11/30) 板場良久 (多文化主義論争の現状)</li> <li>(12/7) 工藤和宏 (大学の国際化と多文化関係)</li> <li>(12/14) 柿田秀樹 (メディアと思想)</li> <li>(12/21) 府川謹也 (ことばに頭れるものの見方)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者が、原則として授業の前週までに指示する。		学期末試験による。欠席が4回を超えた場合には、単位を認定しない。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a 英語圏文学特殊講義 a	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(パフォーマンス研究入門)</p> <p>パフォーマンス研究は近年欧米で注目を集めている学際的で、インター・カルチュラルな研究領域であり、個人や集団により反復される行為(パフォーマンス)が、文化の組成やアイデンティティの構築にかかわっているとの認識の下に、権力の所在を顕在化し、支配の構造にメスを入れようとする。研究対象は、舞台芸術限らず、日常の行為や、儀礼、スポーツなどのイヴェント、共同体による集会的パフォーマンスと幅広い。</p> <p>この授業はパフォーマンス研究の紹介を目的とし、研究領域の拡がりや方法論などを論じる。</p> <p>この分野の第一人者である Richard Schechner による <i>Performance Studies: An Introduction</i> (Routledge, 2002) の抜粋をテキストに用いる。原本は図書館の指定図書にしてあるので、最初の授業の前に、各自 Chapter 2 をコピーし、22ページの最後のパラグラフまで予習しておくこと。また、ブレヒトの演劇理論についても、簡単に調べてきてほしい。</p> <p>なお、昨年春学期の授業とは重複する部分が多いので、重複履修は認められない。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
図書館の指定図書を参照のこと。その他は授業中に紹介、あるいはコピーを配付する。		授業中の発表と学期末試験。毎回の予習、出席、議論への参加が単位取得の前提となる。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	英語圏の文学・文化特殊講義 a 英語圏文化特殊講義 a	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(フェミニズムの贈りもの)</p> <p>・ 講義目的 「ジェンダー」の視点から20世紀後半以降のアメリカの文化と社会をみてみよう。ジェンダーとは文化的、社会的にかたち作られた「女」や「男」の生と性のありようである。本講義の第一の狙いは、文化や社会によって構築されたジェンダー・システムは書き換えが可能であること、多様な生を肯定するためにはその書き換えがぜひとも必要であることを示すことにある。</p> <p>・ 講義概要 第二次世界大戦後の「女らしさの神話」全盛期のなかから、第二次フェミニズムが生まれてくるところからはじめる。女たちは何を求め、何を变えようとし、何が変わったのか。その後フェミニズムは、様々な女たちがそれぞれに異なる生を肯定するために、枝分かれし、深化していく。人種・年齢・セクシュアリティなどなどが異なる女たちは、既存のジェンダー・システムの何を問題とし、それをどのように書き換えていこうとしたのか。フェミニズムは、現在も終わることなく続いている試みである。知識を得るだけでなく、受講生ひとりひとりが自分自身のこれからの役に立つ何かをみつめてほしい。</p>		<p>1. イントロダクション (ジェンダー・セックス・セクシュアリティ)</p> <p>2. 女らしさの神話と第2次フェミニズムのはじまり</p> <p>3. 幸せなはずなのに一専業主婦の憂鬱</p> <p>4. 社会的自己実現と行動へ・NOW (全米女性組織) の結成</p> <p>5~7. ラディカル・フェミニズムの挑戦・性みつめて</p> <p>8. 動くアメリカ (公民権運動などと関連づけて) +小テスト</p> <p>9. 「女たち」とは誰か・差異を問う(1)・ブラック・フェミニズム</p> <p>10. 「女たち」とは誰か・差異を問う(2)・フェミニズムとレズビアニズム</p> <p>11~12. 差異と亀裂・バックラッシュ・提携のポリティクスへ+小テスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業に使用する資料はプリントを用意する。参考文献については講義支援システムに掲示する。		出席(コメントペーパー)・小テスト・レポートを総合的に評価する。受講生の人数によっては意見交換を行い、議論への参加度も評価の対象とする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	英語圏の文学・文化特殊講義 a 英語圏文化特殊講義 b	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(さまざまな愛と性のかたち)</p> <p>・ 講義目的 春学期の英語圏文化特殊講義 a と同じ。継続受講が望ましいが、必要条件ではない。</p> <p>・ 講義概要 生物学的にメスであれば、女のジェンダー役割を全うし、男性を恋愛や性愛の対象とし、やがて母となる。生物学的にオスであれば、その反対。男のジェンダー役割を全うし、女性を恋愛や性愛の対象とし、やがて父となる。そういう生と性のありかたが、長いあいだ「自然」で「あたりまえ」のものとしてきた。規範であった。ここから逸脱する生のあるかたは、まともでないと否定され、差別され、排除され、ときには迫害されてきた。しかし60年代後半からゲイ解放運動の声が大きく響きはじめる。それまで声をあげることを恐れ、自らの生と性を公然とは肯定できなかったセクシャル・マイノリティの状況が変わりはじめた。それから約半世紀、現実には偏見はまだ根強いものの、その一方で同性どうしの結婚ができる場所も出てきた。セクシュアリティの多様性の主張を可能にしてきた人々の勇気ある営為を追いながら、差別一般の問題も考えていきたい。</p>		<p>1. イントロダクション</p> <p>2. 2003年11月、マサチューセッツ・Gay Marriageへ3~5. クローゼットの愛 (テキストとしてジェームス・ボールドウィン『ジョヴァンニの部屋』を使用する。James Baldwin, <i>Jovanni's Room</i>)</p> <p>6. ゲイ・リベレーション(1) (1969年6月、ニューヨーク、ストーンウォール革命)</p> <p>7. ゲイ・リベレーション(2) (1978年11月、サンフランシスコ、ハーヴィー・ミルク)</p> <p>8~9. クローゼットは過去のもの? (1980年代、カリフォルニア+ニューヨーク。テキストとしてデヴィッド・リーヴィットの「テリトリー」を使用する。David Leavitt, "Territory" in <i>Family Dancing</i>.)</p> <p>10. 差異と分裂・ひとつではないセクシャル・マイノリティ</p> <p>11. セクシュアリティの多様性</p> <p>12. セックスはジェンダーの産物か</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で使う資料はプリントを用意する。参考文献は講義支援システムに掲示する。なお、『ジョヴァンニの部屋』は各自で読んでおくことが望ましい。		出席(コメントペーパー)とレポートを総合的に評価する。受講生の人数によっては意見交換を行い、議論への参加度も評価の対象とする。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)	英語圏の文学・文化文献研究 a 英米文学文献研究 a	担当者	北澤 滋久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この科目は、一般の学部授業の域を超えた、より高度な研鑽を目指す者のためのものと心得ている。</p> <p>そのため下記のロレンスの(中編)小説を、担当者が自著中において既に行っている分析論述の流れに沿い、聖書等の参考文献をいかに扱うかも併せて教授いたしながら、詳細なテキストの読みを演習することとした。</p> <p>頭記の観点から、この授業に限っては、登録者平均のレベルに併せて進行させるのではなく、目標に向かってかなりハイ・レベルな内容を維持するつもりであり、脱落者の救済は一切考慮しないから、この点をとくに注意して登録すること。</p> <p>なお、この授業希望者は、アマゾン、あるいは洋書店で、予め初回の授業日までに、ロレンスの原書を購入しておくこと。これも、勉学に取り組む者の基本的な作業の一環である。(DUOには発注していない。)</p>		<p>左の目的を達成すべく、講義も加えながら、順次読み進めてゆく。文学研究に深い関心をもつ学生の受講を希望している。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>D. H. Lawrence, <i>The Man Who Died</i>, Ecco Press. 北沢滋久、『D. H. ロレンス、生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂。</p>		<p>日頃の学習態度、及び期末提出の小論文において評価する。</p>	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	英語圏の文学・文化文献研究 b 英米文学文献研究 b	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスは、卒論を書く人や大学院で文学研究を目指す人のためのものです。さまざまな文学批評を精読しながら、MLA 論文の書き方をマスターできるようにするのがこのクラスの狙いです。</p> <p>秋学期は、アメリカ文学における多文化主義に焦点を当て、さまざまな作家の作品を取りあげます。授業は、プレゼンテーションと質疑応答の形で進め、学期の終わりには作品論を書いてもらいます。</p> <p>受講者は、TOEIC 700 点以上の英語力を持っていることが望ましい。</p>		<p>最初のクラスで1 2回分の担当を決めます。</p>	
参考文献		評価方法	
<p>David Landis Barnhill, ed. <i>At Home on the Earth: Becoming Native to Our Place, A Multicultural Anthology</i> Berkeley: U of California p, 2003. Joseph Gibaldi. <i>MLA Handbook for Writers of Research Papers</i>. 6<sup>th</sup> ed. New York: The Modern Language Association of America, 2003.</p>		<p>プレゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決めます (ただし4 回以上欠席の場合は評価対象外)。</p>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	石井 敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの交信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p><b>講義概要</b> 総合的内容は、文化の概念、コミュニケーションの概念、文化とコミュニケーションの相関関係である。具体的には、「文化とは」、「文化の差異」、「コミュニケーションとは」「ことばとコミュニケーション」、「ことばをこえたコミュニケーション」等である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講上の注意、英語ノートの取り方、文化、世界観、価値観</li> <li>2. 文化相対論、共文化、第三の文化、多文化主義、文化帝国主義</li> <li>3. 時間、空間、宗教、人間観、儀礼</li> <li>4. 倫理観、法意識、イエ、生死観、個人主義と集団主義</li> <li>5. 達成と生得、偏見、自民族優越主義、ステレオタイプ、タブー</li> <li>6. コミュニケーション、コード、意味づけ、フィードバック、知覚・認知</li> <li>7. 理解と誤解、感情移入・共感、自己概念、コンテキスト、コミュニケーション・レベル</li> <li>8. コミュニケーション・パターン、国際コミュニケーション、コミュニケーション倫理、IT革命、言語政策</li> <li>9. 言語と文化、言語と思考、言語相対説、言語メッセージ、レトリック</li> <li>10. アポロギア、ロゴス・パトス・エトス、メタファー、スモール・トーク、ユーモア</li> <li>11. 敬語、婉曲表現、非言語メッセージ、身振り言語、視線</li> <li>12. 近接学、身体接触行動、周辺言語、間、沈黙</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
古田焼ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)、有斐閣。		受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	石井 敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義には、相互に関連した3種類の基本目的がある。第1の目的は、日本社会に根強い欧米文化崇拜意識を異文化間の平等意識に変革することである。第2は、欧米文化理解・模倣の一方方向コミュニケーションの受信型態度を、異文化間の平等意識に基づく双方向コミュニケーションの交信型態度に改善することである。そして第3は、上の2目的を達成するために不可欠な条件として、自文化すなわち日本文化に関する理解を深め、諸問題を英語で表現する能力を育成することにより、国際的に健全な英語学習・教育観を築くことである。</p> <p><b>講義概要</b> 総合的内容は、文化とコミュニケーションと人間関係、文化的特性と社会関係、異文化(間)コミュニケーションと外国語学習・教育等である。具体的には、「異文化と人間関係」、「異文化と社会関係」、「異文化コミュニケーション教育」等である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハラ、以心伝心、Pタイム・Mタイム、対人関係、文化的アイデンティティ</li> <li>2. ガイジン、カルチャー・ショック、縁、和、家族</li> <li>3. 公と私、タテとヨコ、ウチとソト、世間体、仲介者</li> <li>4. 贈答、礼儀、ホンネとタテマエ、義理と人情、なじみ</li> <li>5. 甘え、補完と対称、異性間コミュニケーション、共生、グローカリゼーション</li> <li>6. 民族紛争、国際協力、派閥、イノベーション、労使関係</li> <li>7. 交渉、稟議と根回し、意思決定、葛藤、多文化経営</li> <li>8. 現地主義、国際報道、プロパガンダ、コマーシャル、リーダーシップ</li> <li>9. マイノリティ、国籍、国際結婚、外国人就労者、エスニック・ネットワーク</li> <li>10. 異文化理解教育、コミュニケーション能力、外国語教育、日本語教育、バイリンガリズム</li> <li>11. 通訳・翻訳、民族教育、環境コミュニケーション教育、海外子女教育：帰国子女教育</li> <li>12. 海外留学、滞日外国人留学生、国際学校、異文化カウンセリング、異文化コミュニケーション訓練</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
古田焼ほか『異文化コミュニケーション・キーワード』(新版)、有斐閣。		受講生が多数になると予想されるので、学期末試験の成績による。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講義の目的。このため異文化間コミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。</p> <p>その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語コミュニケーション、文化と非言語コミュニケーションのかかわりについてである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化間コミュニケーションから何を学ぶか</li> <li>2. 異なる心理世界</li> <li>3. 異文化間コミュニケーションの難しさ</li> <li>4. 異文化間コミュニケーションの歴史</li> <li>5. 異文化間コミュニケーションの重要性</li> <li>6. 異文化間コミュニケーション研究のスタート</li> <li>7. 異文化間コミュニケーションの背景</li> <li>8. 異文化間コミュニケーション現状</li> <li>9. 異文化体験</li> <li>10. 国際英語の時代</li> <li>11. 文化のグローバル化</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『異文化間コミュニケーションへの招待』北樹出版 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー</p>		ターム・ペーパー	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	鍋倉 健悦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物はメッセージをいかに伝えるか</li> <li>2. ジェスチャーや表情が伝えるのもの</li> <li>3. 心理的時間</li> <li>4. 空間は語る</li> <li>5. 言語音の重要性</li> <li>6. 言語とは何か</li> <li>7. ことばの不思議</li> <li>8. ことばのカベを乗り越えて</li> <li>9. 多言語社会と英語のグローバル化</li> <li>10. 言語と文化の関係</li> <li>11. カルチャー・ショック</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>『異文化間コミュニケーションへの招待』北樹出版 『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー</p>		ターム・ペーパー	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	マス・コミュニケーション論 a	担当者	佐々木 輝美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義の目標&gt;マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt;本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデルおよび効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。最後はマスコミと教育の問題を扱う予定。</p>		<p>(1)導入マス・コミュニケーションとは</p> <p>(2)コミュニケーションについての基礎知識①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスの概念について</li> <li>・意味はどこに存在するか?</li> </ul> <p>(3)コミュニケーションについての基礎知識②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの利用と満足</li> </ul> <p>(4)マス・コミュニケーションのモデルについて①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルの長所と短所</li> </ul> <p>(5)マス・コミュニケーションのモデルについて②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの要素</li> </ul> <p>(6)ビデオ視聴&amp;解説</p> <p>(7)マスコミ効果概念について①効果とは</p> <p>(8)マスコミ効果概念について②順機能と逆機能</p> <p>(9)ビデオ視聴&amp;解説</p> <p>(10)マス・コミュニケーションと教育①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『セサミストリート』はなぜ成功したか</li> </ul> <p>(11)マス・コミュニケーションと教育②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果を上げる手法とは</li> </ul> <p>(12)春学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・テキストの代わりにプリントを配布します。</p> <p>参考文献：岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開(新版)』北樹出版 1996</p>		定期試験による。出席は参考程度。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	マス・コミュニケーション論 b	担当者	佐々木 輝美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義の目標&gt;マス・コミ影響研究に関する基本用語、概念などを説明することができ、かつそれらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt;マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。前半では、具体的なモデルを挙げながら影響研究の歴史的な流れを説明する。後半は、具体的な問題として、「メディア暴力の青少年への影響」を取り上げ、影響のメカニズムや対応策について説明していく。</p>		<p>(1)マスコミの影響研究について①弾丸理論</p> <p>(2)マスコミの影響研究について②限定効果モデル</p> <p>(3)マスコミの影響研究について③適度効果モデルから強力効果モデルへ</p> <p>(4)メディア暴力研究について①研究の背景</p> <p>(5)メディア暴力研究について②カタルシス理論</p> <p>(5)メディア暴力研究について③観察学習理論</p> <p>(7)メディア暴力研究について④脱感作理論</p> <p>(8)メディア暴力研究について⑤カルティベーション理論</p> <p>(9)ビデオ視聴&amp;解説</p> <p>(10)メディア暴力についての4理論のまとめ (暴力番組の類型化の必要性)</p> <p>(11)メディア暴力への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送り手側の責任と受け手側の気付き</li> </ul> <p>(12)メディア・リテラシー教育</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・テキストとして、佐々木輝美『メディアと暴力』勁草(けいそう)書房 1996、を使用します。</p> <p>・参考文献：H. J. アイゼンク他著 岩脇三良訳『性暴力メディア』新曜社 1982</p>		定期試験による。出席は参考程度。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>☆この時限のクラスでは、論理的に発言および議論するために必要な基本的スピーチ理論を学びます。</p> <p>☆スピーチ・コミュニケーションとは単なる音声表現のことではありません。スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチという発話を人間関係の中に投じることによってさらに次の発話の可能性が生み出されていく生きたプロセス、すなわち発話の連鎖です。発話としてのスピーチとは、政治演説や結婚式での祝辞のようなものから、何気ない一言や会議での発言、意味ありげな仕草や沈黙さえも発話として機能しますので、これらもコミュニケーション・プロセスに投げられるスピーチの一種と定義できます。この講義では、言葉で構成され、まとまった時間を費やして発せられた発話を中心に考えてみましょう。具体的には、さまざまな状況に対応したスピーチの技術(知恵)をまず学んでいただきます。</p> <p>☆最後に現代コミュニケーションにおける声(speech)の意味について考え、この講義を締めくくります。</p> <p>☆なお、この講義を履修する学生は、本年度秋学期に本学で開講予定の Campbell 客員教授(ミネソタ大学コミュニケーション学科教授)の授業も履修することをお勧めします。このクラスとの関連性・相互作用があるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概略説明</li> <li>2. スピーチの作り方を覚えよう(1)</li> <li>3. スピーチの作り方を覚えよう(2)</li> <li>4. 実際のスピーチを分析しよう</li> <li>5. アカデミック・ディベートのルールを覚えよう(1)</li> <li>6. アカデミック・ディベートのルールを覚えよう(2)</li> <li>7. 実際のディベートを分析しよう</li> <li>8. アカデミック・ディベートの実践と審査(1)</li> <li>9. アカデミック・ディベートの実践と審査(2)</li> <li>10. アカデミック・ディベートの実践と審査(3)</li> <li>11. コミュニケーションにおける声(スピーチ)の意味</li> <li>12. まとめ</li> </ol> <p style="text-align: center;">※この講義での主な使用言語は英語です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布予定		クイズ(不定期2回、20%)、英語ショート・スピーチと日本語ディベートの実体験(発表と審査 80%)の総合成績による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>☆このクラスでは、メッセージを批判的に分析することで、批判能力のある発言者としてコミュニケーションに参加するために必要な視点を養います。「スピーチ・コミュニケーション」の基本概念については、「a」の記述を参照</p> <p>☆私たちが発話をする際に常に立ちはだかる社会的制約や条件づけ。私たちは人に影響を与えたいと思ひ必死に発話の技術を身につけようと思ひますが、同時に私たちは社会的制約の影響下にあるため、むしろ思考は影響され、条件づけられてしまっています。さて皆さんは、この状態をどのように見抜き、そしてそれとどのように付き合えばいいのでしょうか？ この講義では、こうした社会的制約や条件づけなどの作用について探究し、そのメカニズムを暴き皆さんがそれに立ち向かえるだけの分析力と批判能力を養うきっかけ作りをしたいと思ひます。</p> <p>☆なお、この講義を履修する学生は、本年度秋学期に本学で開講予定の Campbell 客員教授(ミネソタ大学コミュニケーション学科教授)の授業を同時に履修することをお勧めします。このクラスとの関連性・相互作用があるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概略説明:スピーチは「作品」ではない、という主張の意味について考えよう。</li> <li>2. 上手・下手の枠組みからの脱却:スピーチ分析における自分の位置を見直そう。</li> <li>3. 個人から主体へ、そして…。自分たちの行為主体性を取り戻そう</li> <li>4. 個人主義批判の実例:SMAP「世界に1つだけの花」の分析を例に</li> <li>5. フェミニズム:女性という主体の問題</li> <li>6. フェミニスト批評の実例</li> <li>7. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう(1)</li> <li>8. 様々な英語スピーチを批判的に分析しよう(2)</li> <li>9. グループ発表(批評)とその講評</li> <li>10. グループ発表(批評)とその講評</li> <li>11. グループ発表(批評)とその講評</li> <li>12. グループ発表(批評)とその講評(予備日:不要な場合にはクイズをやる可能性もあります。)</li> </ol> <p style="text-align: center;">※この講義での主な使用言語は英語です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布予定		クイズ(不定期2回、20%)および口頭発表と講評(グループ単位、80%)の総合成績による。発表形式は複数のものから選んでいただけるようにします。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p><b>講義概要</b> 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 a/b で異なるレトリック批評の系譜を題材とし、系譜に沿って理論家の諸視点を提示する。スピーチ・コミュニケーション論 a では、主に伝統的レトリック分析の対象となる説得手段としての言説の表象性やその効果について触れる。この系譜においてはアリストテレス主義の枠組みを理解することが主な課題となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション:スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点(テキスト 第1章:An Introduction to Rhetoric)</li> <li>2 オリエンテーション:スピーチ・コミュニケーションにおけるレトリック研究の視点(テキスト 第1章:An Introduction to Rhetoric)</li> <li>3 I. A. リチャード(第2章:I. A. Richards)</li> <li>4 I. A. リチャード(第2章:I. A. Richards)</li> <li>5 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)</li> <li>6 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)</li> <li>7 スティーブン・ツールミン(第5章:Stephen Toulmin)</li> <li>8 カイム・ペレルマン(第4章:Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)</li> <li>9 カイム・ペレルマン(第4章:Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)</li> <li>10 カイム・ペレルマン(第4章:Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)</li> <li>11 カイム・ペレルマン(第4章:Chaim Perelman and Lucie Olbrechts-Tyteca)</li> <li>12 前期総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sonja K. Foss, Karen A. Foss, and Robert Trapp. <i>Contemporary Perspectives on Rhetoric</i> . Third Ed. Prospect Heights, IL: Waveland Press, Inc. 2001.		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p><b>講義概要</b> 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 a/b で異なるレトリック批評の系譜を題材とし、系譜に沿って理論家の諸視点を提示する。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀後半のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)</li> <li>2 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)</li> <li>3 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)</li> <li>4 アーネスト・グラッシー(第3章:Ernesto Grassi)</li> <li>5 ケネス・バーク(第7章:Kenneth Burke)</li> <li>6 ケネス・バーク(第7章:Kenneth Burke)</li> <li>7 ケネス・バーク(第7章:Kenneth Burke)</li> <li>8 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)</li> <li>9 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)</li> <li>10 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)</li> <li>11 ミシェル・フーコー(第11章:Michel Foucault)</li> <li>12 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Sonja K. Foss, Karen A. Foss, and Robert Trapp. <i>Contemporary Perspectives on Rhetoric</i> . Third Ed. Prospect Heights, IL: Waveland Press, Inc. 2001.		評価は定期試験又はレポート、不定期に課す課題、及び授業への参加度等による総合評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「日本人のコミュニケーション」をテーマに多面的な側面から、その特徴を検討する。内容は主として①言語：英語・韓国語との比較対照、②ビジネス、③歴史的事象、④地理的条件、⑤芸術などである。</p> <p>詳細は学期開講時にハンドアウトを配付する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. カナダの異文化教育の試み</li> <li>3. 日本人のコミュニケーション①</li> <li>4. 日本人のコミュニケーション②</li> <li>5. 日本人のコミュニケーション③</li> <li>6. 日本人のコミュニケーション④</li> <li>7. 日本人のコミュニケーション⑤</li> <li>8. 日本人のコミュニケーション⑥</li> <li>9. 日本人のコミュニケーション⑦</li> <li>10. 日本人のコミュニケーション⑧</li> <li>11. 日本人のコミュニケーション⑨</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを配付する。		出席点・グループワーク(プレゼンとレポート) 個人レポートとプレゼンなど多面的活動による。 詳細は開講時に明示する。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：前期の復習</li> <li>2. 日本人のコミュニケーション①</li> <li>3. 日本人のコミュニケーション②</li> <li>4. 日本人のコミュニケーション③</li> <li>5. 日本人のコミュニケーション④</li> <li>6. 日本人のコミュニケーション⑤</li> <li>7. 日本人のコミュニケーション⑥</li> <li>8. 日本人のコミュニケーション⑦</li> <li>9. 日本人のコミュニケーション⑧</li> <li>10. 日本人のコミュニケーション⑨</li> <li>11. 日本人のコミュニケーション⑩</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	コミュニケーション論特殊講義b	担当者	Karlyn K. Campbell
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>To explore key figures and ideas in the development of Western rhetorical theory from its origins in ancient Greece to the present</p> <p>*カーリン・K・キャンベル教授：米国ミネソタ大学コミュニケーション研究学科教授。同大学同学科の学科長および全米コミュニケーション学会の学会誌 <i>Quarterly Journal of Speech</i> 編集長などを歴任。全米規模の数々の学術賞を受賞。2004年、ミシガン州立大学より、ライス現米国務長官らとともに名誉博士号を受賞。2005年秋学期のみ、本学英語学科客員教授として、本学の学生向けに比較的平易な英語で、本場のコミュニケーション関連の科目を担当していただきます。キャンベル教授のプロフィールについては、以下のサイトを参照ください。 <a href="http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html">http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The stimuli for theorizing: alphabet, trade, politics</li> <li>2. The sophists: Gorgias's "Encomium of Helen"</li> <li>3. Pedagogy &amp; logography: Isocrates's school</li> <li>4. Plato's attack: dialectic vs. rhetoric "Gorgias"</li> <li>5. Plato's "Phaedrus": truth + rhetoric</li> <li>6. Aristotle's art: a defense of rhetoric</li> <li>7. Aristotle's analysis of audiences</li> <li>8. Cicero's enduring impact on Western education</li> <li>9. Augustine Christianizes pagan rhetoric</li> <li>10. Bacon redefines rhetoric &amp; identifies common fallacies ("Idols")</li> <li>11. Nietzsche's view of language: truth &amp; lies</li> <li>12. Human's as natural symbolizers: Kenneth Burke</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Copies of materials to be distributed in class		Attendance: 50%, Quizzes 25% ; paper: 25%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	異文化間コミュニケーション論文献研究 a	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も少なくない。そこで本講義は、スピーチ・コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 現代の日本社会においてスピーチ・コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて対人コミュニケーション、小集団コミュニケーション、公的コミュニケーション、ディベート、文学作品の音声的解釈等を思想・理論的に研究する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. General Introduction to the Course</li> <li>2. Oral Communication (pp. 7-15)</li> <li>3. Oral Communication (pp. 15-22)</li> <li>4. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 1-6)</li> <li>5. Interpersonal Communication and Relationships (Print, pp. 6-13)</li> <li>6. Group Communication and Discussion (pp. 23-27 &amp; pp. 36-44)</li> <li>7. Group Communication and Discussion (pp. 44-54)</li> <li>8. Public Communication and Speaking (pp. 27-31 &amp; pp. 55-61)</li> <li>9. Public Communication and Speaking (pp. 61-71)</li> <li>10. Public Communication and Speaking (pp. 71-81)</li> <li>11. Debate (pp. 31-33 &amp; pp. 83-88)</li> <li>12. Oral Interpretation (pp. 32-33 &amp; pp. 104-115)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klopf & Ishii, <i>Effective Oral Communication</i> (英宝社). 担当者作成のプリント教材。		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	石井 敏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 最近の英語学習・教育では、コミュニケーション技能育成のみが重視され、思想・理論的な裏づけが軽視されがちである。しかし、思想・理論的な裏づけのない技能育成には、効果上の疑問が残るだけでなく、内容や方法が誤っている場合も多い。そこで本講義は、異文化(間)コミュニケーション理論の文献研究により、現在の英語学習・教育の健全化を図ることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 現代の日本社会において異文化(間)コミュニケーション理論を学習・教育することの意義を考察し、続いて人間コミュニケーションと文化の関係、言語・非言語シンボルシステム、心理と文化の関係、異文化(間)コミュニケーション能力の育成方法等を思想・理論的に研究する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. General Introduction to the Course</li> <li>2. The Global Village (pp. 1-10)</li> <li>3. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 11-20)</li> <li>4. Communication, Culture, and Intercultural Communication (pp. 20-28)</li> <li>5. Symbolic Systems (pp. 29-36)</li> <li>6. Symbolic Systems (pp. 36-46)</li> <li>7. Intercultural Influences (pp. 48-59)</li> <li>8. Intercultural Influences (pp. 59-73)</li> <li>9. Becoming Culturally Sensitive (pp. 76-83)</li> <li>10. The Importance, . . . , Intercultural Communication (Print, 14-19)</li> <li>11. The Importance. . . , Intercultural Communication (Print, 19-22)</li> <li>12. Overall Review of the Course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Klopf & Ishii, <i>Communicating Effectively Across Cultures</i> (南雲堂). プリント教材。		出席状況、授業中の発表の内容と方法、そして学期末試験の成績による。	

03 年度以降 (春) 02 年度以前 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03 年度以降 (秋) 02 年度以前 (秋)	コミュニケーション論文献研究 b	担当者	Karlyn K Campbell
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Critical Approaches to Public Discourse</b></p> <p><b>Objectives:</b> to become familiar with various approaches to critical analysis that emphasize argument, appeal(s), and language.</p> <p>*カーリン・K・キャンベル教授：米国ミネソタ大学コミュニケーション研究学科教授。同大学同学科の学科長および全米コミュニケーション学会の学会誌 <i>Quarterly Journal of Speech</i> 編集長などを歴任。全米規模の数々の学術賞を受賞。2004年、ミシガン州立大学より、ライス現米国務長官らとともに名誉博士号を受賞。2005年秋学期のみ、本学英語学科客員教授として、本学の学生向けに比較的平易な英語で、本場のコミュニケーション関連の科目を担当していただきます。キャンベル教授のプロフィールについては、以下のサイトを参照ください。 <a href="http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html">http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to descriptive analysis</li> <li>2. Argument: claims, reasons, evidence, appeals, character, language</li> <li>3. Political judgment</li> <li>4. Appeals: Adapting to audience beliefs</li> <li>5. Deliberative discourse: policy</li> <li>6. Generic issues: Timing, occasion, and audience expectations</li> <li>7. Eulogies</li> <li>8. Language: metaphor as argument</li> <li>9. Constitutive rhetoric: patriotism, nationalism and "the people"</li> <li>10. Dramatism: We are tribal peoples. "Turf" and transformations: an incident in Maine</li> <li>11. Multiple meanings (varied interpretations):</li> <li>12. Nonverbal rhetoric: Stuart Hall (video) and discussion.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Copies of readings will be distributed		Attendance and participation 30% Term paper: 70 %	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際社会論 a 国際政治論 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野(経済学、社会学、歴史学など)にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを体系的に把握する力の育成に努める。</p> <p>講義では、現在、世界各地域で起きている幾つかの問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係論の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論：国際社会の捉え方</li> <li>2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族</li> <li>3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治</li> <li>4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題の構造と展開</li> <li>5. 中東の国際関係(4) 石油をめぐる国際関係</li> <li>6. 中東の国際関係(5) 中東のテロと9.11事件</li> <li>7. ヨーロッパの国際関係(1) 社会主義体制とその崩壊(1)</li> <li>8. ヨーロッパの国際関係(2) 社会主義体制とその崩壊(2)</li> <li>9. ヨーロッパの国際関係(3) 冷戦後の改革とEUの展開</li> <li>10. 東アジアの国際関係(1) 朝鮮半島をめぐる対立と協調</li> <li>11. 東アジアの国際関係(2) 北朝鮮の政治体制</li> <li>12. 東アジアの国際関係(3) 中国の発展と地域の安定</li> </ol> <p>(テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)</p> <p>* 授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』(ミネルヴァ書房、2002年)ほか、適宜指摘する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際社会論 b 国際政治論 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料(問題)をどのように料理(分析)するかを、学びます。</p> <p>第1の目標は、国際社会を具体的に「見る眼」を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論と呼ばれるモデルやアプローチを理解することで、これが料理の方法(分析枠組み)に相当します。</p> <p>講義では、国際社会の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて、国際関係を分析します。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に眼をとらわれるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半は、米国CNN、英国BBC、シンガポールCNAなどで放映された最新の海外ニュースを紹介し、説明します。後半はテキストを解説します。授業の順番を変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 国際社会を見る眼(木、林、森)</li> <li>3 利害の調整(政治とは何か) 無限の欲望と有限の世界(21~27頁) 権力+正統性=権威(47~48頁)</li> <li>4 国際政治学の誕生：E.H.カー(7~11頁) 理論とは何か(物理学、経済学、政治学、文学)</li> <li>5 国内政治と国際政治の相違①(49~50頁)</li> <li>6 国内政治と国際政治の相違②</li> <li>7 国際社会論①ホッブス、カント、グロチウス(52-54頁)</li> <li>8 国際社会論②ホッブス、カント、グロチウス</li> <li>9 国際社会のイメージ① 現実主義、相互依存(56-61頁)</li> <li>10 国際社会のイメージ② 従属論(56~59、158~159頁)</li> <li>11 世界システム論(143~150、165頁)</li> <li>12 多国間主義(マルチラテラリズム)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『国際政治講義資料集』		中間試験と期末試験を基本とします。授業開始後に、登録を確認する作業があります。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際社会論 a 国際政治論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現代の国際社会を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理に例えれば、材料(問題)をどのように料理(分析)するかを、学びます。</p> <p>第1の目標は、国際社会を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、リアリズム、相互依存論、従属論と呼ばれるモデルやアプローチを理解することで、これが料理の方法(分析枠組み)に相当します。</p> <p>講義では、国際社会の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて、国際関係を分析します。「情報」のフローよりストックを重視し、表面的な現象に眼をとらわれるのではなく、その下に潜む「構造」に関心を払います。</p> <p>授業の前半は、米国CNN、英国BBC、シンガポールCNAなどで放映された最新の海外ニュースを紹介し、説明します。後半はテキストを解説します。授業の順番を変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 国際社会を見る眼(木、林、森)</li> <li>3 利害の調整(政治とは何か) 無限の欲望と有限の世界(21~27頁) 権力+正統性=権威(47~48頁)</li> <li>4 国際政治学の誕生:E.H.カー(7~11頁) 理論とは何か(物理学、経済学、政治学、文学)</li> <li>5 国内政治と国際政治の相違①(49~50頁)</li> <li>6 国内政治と国際政治の相違②</li> <li>7 国際社会論①ホッブス、カント、グロチウス(52~54頁)</li> <li>8 国際社会論②ホッブス、カント、グロチウス</li> <li>9 国際社会のイメージ① 現実主義、相互依存(56~61頁)</li> <li>10 国際社会のイメージ② 従属論(56~59、158~159頁)</li> <li>11 世界システム論(143~150、165頁)</li> <li>12 多国間主義(マルチラテラリズム)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト:『国際政治講義資料集』		中間試験と期末試験を基本とします。授業開始後に、登録を確認する作業があります。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際社会論 b 国際政治論 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際社会で起こっている様々な問題を理解し、自らの「国際政治を見る眼」を養うことを目的とする。そのために、国際政治の基礎的な知識と分析枠組みの習得のみならず、他の学問分野(経済学、社会学、歴史学など)にも視野を広め、国際関係のダイナミクスを体系的に把握する力の育成に努める。</p> <p>講義では、現在、世界各地で起きている幾つかの問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説し、国際関係論の基礎的理論の解説を織り交ぜながら国際関係の包括的理解を促す。今年の講義では、近年、変化の激しい中東、ヨーロッパ、東アジアの国際政治・経済をそれぞれシリーズとして取り上げ、各々の特徴を浮き彫りにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概論:国際社会の捉え方</li> <li>2. 中東の国際関係(1) 宗教と民族</li> <li>3. 中東の国際関係(2) イスラムと政治</li> <li>4. 中東の国際関係(3) パレスチナ問題の構造と展開</li> <li>5. 中東の国際関係(4) 石油をめぐる国際関係</li> <li>6. 中東の国際関係(5) 中東のテロと9.11事件</li> <li>7. ヨーロッパの国際関係(1) 社会主義体制とその崩壊(1)</li> <li>8. ヨーロッパの国際関係(2) 社会主義体制とその崩壊(2)</li> <li>9. ヨーロッパの国際関係(3) 冷戦後の改革とEUの展開</li> <li>10. 東アジアの国際関係(1) 朝鮮半島をめぐる対立と協調</li> <li>11. 東アジアの国際関係(2) 北朝鮮の政治体制</li> <li>12. 東アジアの国際関係(3) 中国の発展と地域の安定</li> </ol> <p>(テーマについては若干の変更があり得る。また、国際政治情勢の変化が起こった場合は適宜取り上げる)</p> <p>* 授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
長谷川雄一・高杉忠明編著『新版 現代の国際政治』(ミネルヴァ書房、2002年)ほか、適宜指摘する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係史 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、20世紀国際政治の歴史の全体像を把握し、それを21世紀国際関係の「いま(現在)」の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論(的枠組み)と歴史(的背景)である。「国際社会論」が前者を提供し、本講義「国際関係史」が後者を学生諸君に提供することになる。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後の歴史を時系列的に辿っていくのではなく、特定のテーマー米ソ対立、ナショナリズムの勃興、核兵器、経済的繁栄と政治、冷戦期と日本から冷戦という一つの時代を振り返ってみる。</p> <p>なお本講義では、受講者に戦後国際政治史に関する基礎知識があることを前提としていないが、毎回の授業の理解度を深めるためには、予習や復習を怠らないようにしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～第二次世界大戦後の国際関係の歴史を振り返る(第1週)</li> <li>2. (テーマ別国際関係①) 冷戦(第2・3週)</li> <li>3. (テーマ別国際関係②) 脱植民地化(第4・5週)</li> <li>4. 中間試験実施(第6週)</li> <li>5. (テーマ別国際関係③) 冷戦と核兵器(第7・8週)</li> <li>6. (テーマ別国際関係④) 冷戦と経済繁栄(第9・10週)</li> <li>7. (テーマ別国際関係⑤) 冷戦期の日本とアジア(第11・12週)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第一回目の授業時に紹介する。		中間試験(選択式)と学期末の最終試験(論述式)による評価。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係史 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域の国際関係の歴史を、オーストラリアの視点から学んでいきます。</p> <p>ただし、オーストラリアが戦後国際関係の変動に単に受動的に関わってきた歴史を描くのではなく、オーストラリアが主体的に戦後国際関係にどうやって関わろうとしてきたのかを考えながら、講義を進めたいと思っています。</p> <p>確かにオーストラリアは大きな国力を持っておらず、同国が国際関係に能動的・積極的に関わったとしても、それが国際関係の全体的構造や秩序の転換に繋がることはありませんでした。しかし、オーストラリアは限られた国力のもとで、国際関係における自らの立場や役割を常に意識しながら、国益の保持を目指してきたといえるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション～20世紀初頭の戦争とオーストラリアの国家意識の醸成(ビデオ鑑賞:『誓い』)(第1・2・3週)</li> <li>2. 第二次世界大戦後の世界とオーストラリア～対日講和、アンザス条約、英帝国防衛と東南アジア(第4・5週)</li> <li>3. アジアにおける冷戦の進展とオーストラリア～マラヤ防衛、第一次インドシナ紛争、東南アジア条約機構の誕生、英連邦戦略予備軍の形成(第6・7週)</li> <li>4. 中間試験実施(第8週)</li> <li>5. アジア国際関係の変動とオーストラリア～アジアにおける「イギリスの戦争」と「アメリカの戦争」へのオーストラリアの関与(第9・10週)</li> <li>6. アジアからの英米の軍事的撤退とオーストラリア～大国外交に翻弄されるオーストラリア(第11・12週)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
森健編『オーストラリア入門』東京大学出版会、1998年。		中間試験(選択式)と学期末の最終試験(論述式)による評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際開発協力論 a	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、英語圏の国際関係を、国際協力の視点から考察します。</p> <p>オーストラリアの対アジア関係を手がかりに、先進国と発展途上国の関係を検討したいと思います。問題意識としては、日本外交の座標軸が底流にあります。</p> <p>基本的に講義形式で授業を行います。希望者を募って研究発表を行う可能性もあります。この場合、発表者は期末レポートなどが免除されます。</p> <p>テキストを基本としつつも、授業では国際協力やオーストラリアに関するビデオ映像、海外の新聞・雑誌などを適宜取り上げる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 多文化ミドルパワー (序章、1章)</li> <li>3 APEC (アジア太平洋経済協力会議) ケアンズ・グループ (6章3節) 登録確認の作業を予定</li> <li>4 東チモール内戦・和平プロセス ハワード・ドクトリン (6章4節)</li> <li>5 カンボジア内戦の国際化 (6章3節)</li> <li>6 カンボジア内戦 エバンス提案 (6章3節)</li> <li>7 ベトナム難民 (6章2節) UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)</li> <li>8 アジア系移民の受け入れ (6章2～3節)</li> <li>9 アジア系移民の歴史 (2章)</li> <li>10 ミャンマー (ビルマ) 関与 (6章4節)</li> <li>11 北朝鮮関与 (6章4節)</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書、2000年)。		中間テストと期末レポートを実施します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際開発協力論 b	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>開発途上国における貧困と開発の実態を明らかにしたうえで、それら途上国に対する国際協力の現状と課題について検討する。</p> <p>講義は4つのシリーズから構成される。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の要因を多面的に捉え、第2の「開発途上国の開発」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付ける。第3の「日本の開発援助」では、日本のODAを具体例としながら先進国による開発援助の歴史と実態ならびにその問題点を検討し、最後の「開発協力の新展開」では、グローバル化時代の新たなトレンドを探りつつ、近年注目されるNGOと開発との関係について考察する。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：開発と国際協力とは？</li> <li>2. 開発途上国の貧困(1) 歴史的要因</li> <li>3. 開発途上国の貧困(2) 政治的要因</li> <li>4. 開発途上国の貧困(3) 社会的要因</li> <li>5. 開発途上国の開発(1) 開発の基本的パターン</li> <li>6. 開発途上国の開発(2) 途上国にとってのグローバリゼーション</li> <li>7. 日本の開発援助(1) ODAの仕組みとトレンド</li> <li>8. 日本の開発援助(2) 日本のODAの歴史的展開と特徴</li> <li>9. 日本の開発援助(3) 新たなテーマと課題</li> <li>10. 開発協力の新展開(1) グローバル化時代の国際協力</li> <li>11. 開発協力の新展開(2) NGOの機能と役割</li> <li>12. 開発協力の新展開(3) 開発とNGO：ケーススタディ (初回の授業でより詳細な授業計画を配布する)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通テキストは特に指定しない。授業ごとに主要参考文献を紹介する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係論特殊講義 a	担当者	金子 芳樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションの進展は、さまざまな国や地域で暮らす人々の文化や社会のあり方、そして国際関係に変化を及ぼしている。日本で韓流ブームが起こり、上海でF1グランプリが開催され、インド洋津波で世界中から集まっていた観光客が犠牲となる。クロスカルチャーの時代、そしてそれが各地域の文化や社会のあり方に相互に影響を及ぼし合う時代である。</p> <p>ただし、このような傾向は近年のグローバリゼーションによって初めてもたらされたものではない。特に、東西文化の結節点であるアジア太平洋地域においては、中世以来、世界のさまざまな文化のフュージョン(融合)が起こっていた。また、同地域における1980年代以降の高度経済成長は、文化的クロスオーバーをいっそう促進するとともに、その分野の産業化を促してきたのである。</p> <p>本講義では、このような点に着目し、アジア太平洋地域の文化、社会、産業、および国際関係とその変化を、クロスカルチャー、マルチエスニックといった観点から分析・解説する。授業は、3つのシリーズ(歴史、文化と社会、産業と社会)から構成される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:文化・社会・産業・国際関係&lt;歴史&gt;</li> <li>2. アジアにおける植民統治と西洋化</li> <li>3. 太平洋戦争と日本軍政</li> <li>4. ナショナリズムとアメリカナイゼーション&lt;文化と社会&gt;</li> <li>5. マルチエスニック社会の成立</li> <li>6. 多宗教・多文化の現実</li> <li>7. 準英語圏(多言語社会)の社会</li> <li>8. 大衆消費文化の国際化&lt;産業と社会&gt;</li> <li>9. 映画産業</li> <li>10. ホップカルチャー産業</li> <li>11. ツーリズム産業(1)</li> <li>12. ツーリズム産業(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
共通テキストは特に指定しない。授業ごとに参考文献を紹介する。		学期末試験の成績を中心に評価を行う。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	国際関係論特殊講義 b	担当者	Karlyn K. Campbell
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectives: to understand the different kinds of discourse of U.S. presidents and the pressures and constraints to which they respond.</p> <p>*カーリン・K・キャンベル教授：米国ミネソタ大学コミュニケーション研究学科教授。同大学同学科の学科長および全米コミュニケーション学会の学会誌 <i>Quarterly Journal of Speech</i> 編集長などを歴任。全米規模の数々の学術賞を受賞。2004年、ミシガン州立大学より、ライス現米務長官らとともに名誉博士号を受賞。2005年秋学期のみ、本学英語学科客員教授として、本学の学生向けに比較的平易な英語で、本場のコミュニケーション関連の科目を担当していただきます。キャンベル教授のプロフィールについては、以下のサイトを参照ください。 <a href="http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html">http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. History of U.S. presidential speaking</li> <li>2. Religion: Kennedy's 1960 campaign</li> <li>3. Religion: George W. Bush</li> <li>4. Enacting the presidency: TV debates</li> <li>5. Inaugurals: Touchstone: Kennedy 1961</li> <li>6. Inaugurals in war: Lincoln 1861, 1865</li> <li>7. Speaking after death or resignation: LBJ and Ford</li> <li>8. War rhetoric: FDR 1941</li> <li>9. War rhetoric: LBJ and Vietnam</li> <li>10. Civil Rights: JFK and LBJ</li> <li>11. Foreign policy: GW, TJ, Monroe, TR &amp; Bush</li> <li>12. Farewells: Truman</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Copies of readings will be distributed		Attendance and participation: 50%, Term paper: 50%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係論特殊講義 b	担当者	小川 忠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、政治・経済・軍事と並んで、文化が国際関係に与える影響に関して、注目が集まりつつある。私は公的文化交流機関である国際交流基金に勤務し、アジア諸国との文化交流の現場で様々な相互理解事業に携わってきた。本講義では、今日の日本で政府や民間組織によって意図的に行われている国際文化交流、すなわち国際文化交流の諸政策について描き出していく。</p> <p>「文明の衝突」「クールジャパン」「韓流ブーム」などメディアに頻出する言葉の背景にある政策の意図、問題点など、学生諸君にも政策担当者の立場に立って考えてもらう形で進め、講義が一方的なものにならないようにしたい。また生の外国映画、テレビ映像を見ながら、「異文化を理解する」ということの意味について考えていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション (国際文化交流概観)</li> <li>2 外交と国際文化交流 1 (日本理解の増進)</li> <li>3 外交と国際文化交流 2 (国際相互理解)</li> <li>4 外交と国際文化交流 3 (文化協力: アイデンティティとナショナリズム)</li> <li>5 文化芸術振興と国際文化交流</li> <li>6 観光立国と国際文化交流</li> <li>7 コンテンツ産業の輸出振興と国際文化交流</li> <li>8 都市の再生、地域振興と国際文化交流</li> <li>9 多文化共生</li> <li>10 NGO, NPO が担う国際文化交流</li> <li>11 留学生政策</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第一回目の授業時に紹介する。		中間試験とレポートによる評価。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係論特殊講義 b	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、国際テロ・海賊・密輸など、国境を越える諸問題を扱います。とりわけ東南アジア地域を中心に、多国間にまたがる国際問題を検討対象とします。このなかには海洋安全保障の問題も含まれます。</p> <p>基本的に講義形式で授業を行いますが、希望者を募って研究発表を行う可能性もあります。この場合、発表者は期末レポートなどが免除されます。</p> <p>授業では上記のテーマに関するビデオ映像、海外の新聞・雑誌などを適宜取り上げる予定です。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義で指示します。		中間テストと期末レポートを実施します。受講生の人数によって、評価方法を変更します。	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係論文献研究 a	担当者	阿部 純一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。</p> <p>米ソ冷戦が終結して十余年を経過した現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。アメリカにおける国際関係論の主要関心事として、アメリカの卓越した地位、あるいはアメリカを中心とした国際秩序をいかに維持していくかという視点がある。</p> <p>民主主義、市場経済・自由貿易の拡大、大量破壊兵器の拡散防止といったアメリカの外交目標も、端的に言えばアメリカのリーダーシップを維持するためのものといえる。</p> <p>国際関係の中心的アクターであるアメリカの役割、政策に焦点を当て、マクロの視点から国際関係の動態を捉えた最新の文献をもとに議論する。</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
アメリカの外交専門誌記事、政府機関・シンクタンクのレポートなどをコピーし配布。		成績は「授業への貢献」が評価の基準となる。授業への出席は最低条件。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係論文献研究 b	担当者	阿部 純一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
(国際関係論文献研究 a に同じ)			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	国際関係論文献研究 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。第1の目標は、英語圏の国際関係を、テキスト、雑誌論文、評論などを手がかりに討論することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。第3の目標としては、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。テキストとしては、アジアの新しい論壇誌として再出発した『ファーイースタン・エコノミック・レビュー』の最新号を扱う予定です。基本的に授業は、すべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 テーマごとのプレゼンテーションと討論</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 同上</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
月刊誌 <i>Far Eastern Economic Review</i> 最新号		出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係論文献研究 b	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標が設定されています。第1の目標は、英語圏の国際関係を、テキスト、雑誌論文、評論などを手がかりに討論することです。第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。第3の目標としては、この授業は参加型であり、全員が積極的に発言する状況が生まれることです。テキストとしては、アジアの新しい論壇誌として再出発した『ファーイースタン・エコノミック・レビュー』の最新号を扱う予定です。基本的に授業は、すべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。</p>		<p>受講生の人数が確定した段階で、プレゼンテーションのテーマを決め、発表者を順次決めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 テーマごとのプレゼンテーションと討論</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 同上</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 同上</li> <li>11 同上</li> <li>12 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
月刊誌 <i>Far Eastern Economic Review</i> 最新号		出席状況、授業への貢献度、プレゼンテーションの準備などで評価します。	



03年度以降(春) 02年度以前(春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	国際関係論文献研究 b	担当者	永野 隆行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代イギリス外交に関する文献を読んでいく。</p> <p>特に今回は、2001年から現在まで続くアメリカによるテロとの戦いに、イギリス、特にトニー・ブレア政権がどのような姿勢をとってきたのかを、様々な文献を読みながら、受講者と一緒に考えていきたい。日本では、アメリカ外交を追従しているだけと捉えられがちなイギリスであるが、こうした対米協調路線の背景には、イギリスの外交理念や世界戦略が存在しており、それらを明らかにすることが本講義の最大の目的である。</p>		<p>1. 授業ガイダンス、プレゼンテーション担当者の決定 (第一週目)</p> <p>2. 受講者によるプレゼンテーション (第二週～最終週)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英文の外交評論(Survival誌やJournal of International Affairs誌などのコピー)を配布し、それらを輪読していく。第一回目の講義に指示する。		プレゼンテーション、ならびに学期末のレポートによる評価。	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)	特別セミナー	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims a comprehensive and deep understanding with the nature and values of Koreans and the recent dynamism which underlies their national developments. The topics cover an outline of Korean values and some features of the national character; Korea's long and difficult history and the more recent traumas of colonization and division; miraculous economic development from an agrarian society to a post-industrial just in a generation of the late 20 century; and historic emergence from military dictatorship to the most democratic politics in Asia over the last two decades.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Society and Values①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. History①</li> <li>5. 同上②</li> <li>6. Economy (the spectacle of growth, conglomerates, mismanaging, foreign business, working and consuming)①</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. 同上③</li> <li>9. 同上④</li> <li>10. 同上⑤</li> <li>11. 同上⑥</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Breen,M., The Koreans: Who they are; What They want; Where Their Future Lies, Thomas Dunne Books,2004.		Term Examination, Assignment, Presentation.(concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	特別セミナー	担当者	Park Yong-II
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course aims a comprehensive and deep understanding with the nature and values of Koreans and the recent dynamism which underlies their national developments. The topics cover an outline of Korean values and some features of the national character; Korea's long and difficult history and the more recent traumas of colonization and division; miraculous economic development from an agrarian society to a post-industrial just in a generation of the late 20 century; and historic emergence from military dictatorship to the most democratic politics in Asia over the last two decades.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Prologue</li> <li>2. Politics (breaking the law, dictators, struggle for democracy, human rights, the Korean disease)①</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. 同上④</li> <li>6. 同上⑤</li> <li>7. The future of Korea ( towards the third miracle, next generation)①</li> <li>8. 同上②</li> <li>9. 同上③</li> <li>10. 同上④</li> <li>11. 同上⑤</li> <li>12. Epilogue</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Breen,M., The Koreans: Who they are; What They want; Where Their Future Lies, Thomas Dunne Books,2004.		Term Examination, Assignment, Presentation.(concrete method will be decided later after discussion with students)	

03年度以降 (春) 02年度以前 (春)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降 (秋) 02年度以前 (秋)	特別セミナー	担当者	Karlyn K. Campbell
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>To explore key ideas about and intersections between gender and communication</p> <p>*カーリン・K・キャンベル教授：米国ミネソタ大学コミュニケーション研究学科教授。同大学同学科の学科長および全米コミュニケーション学会の学会誌 <i>Quarterly Journal of Speech</i> 編集長などを歴任。全米規模の数々の学術賞を受賞。2004年、ミシガン州立大学より、ライス現米国務長官らとともに名誉博士号を受賞。2005年秋学期のみ、本学英語学科客員教授として、本学の学生向けに比較的平易な英語で、本場のコミュニケーション関連の科目を担当していただきます。キャンベル教授のプロフィールについては、以下のサイトを参照ください。 <a href="http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html">http://www.comm.umn.edu/department/campbell.html</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Constituting gender: What is a woman?</li> <li>2. Gender and performance</li> <li>3. Gender and invention: "the master's tools"</li> <li>4. Entering the conversation: Christine de Pizan</li> <li>5. Hiratsuka Raicho's introduction to <i>Seito</i></li> <li>6. Recovering and interpreting: Pan Chao</li> <li>7. Women in literature/myth vs. women in reality</li> <li>8. Feminizing theory &amp; practice: sophists and "feminine style"</li> <li>9. <i>Nūshu</i> (women's speech) as pure persuasion</li> <li>10. Gender and politics: First Ladies, Princesses, and women politicians</li> <li>11. Gender and Agency: identify, subjects</li> <li>12. Gender and ideology: What is feminism? What is humanism?</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Copies of readings will be distributed		Attendance: 30%, Term paper: 70%	

03年度以降(春) 02年度以前(春)	特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL)	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングは Units 51-80 を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWords を学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。春学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明</li> <li>2 ネットアカデミーの説明補足</li> <li>3 第1回小テスト</li> <li>4 第2回小テスト</li> <li>5 第3回小テスト</li> <li>6 第4回小テスト</li> <li>7 第5回小テスト</li> <li>8 第6回小テスト</li> <li>9 第7回小テスト</li> <li>10 第8回小テスト</li> <li>11 第9回小テスト</li> <li>12 第10回小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-C の評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

03年度以降(秋) 02年度以前(秋)	特別セミナー(CAEL) 特別セミナー(CAEL)	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙(PowerWords)、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの4つからなる。昨年度、1年の全カリでは(2)、英語学科では(1)を自律学習した。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて3レベルに分け、それぞれのレベルに応じて週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の小テスト(PowerWords、リスニング)を受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。リーディングは Units 51-80 を定期試験の出題範囲に含める。英語学科2年は前年度より上のレベルのPowerWords を学習する。受講対象は全学部の2-4年生。TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。秋学期完結、重複履修不可。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は月曜日4限、水曜日2限に中央棟606にて対応する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明</li> <li>2 ネットアカデミーの説明補足</li> <li>3 第1回小テスト</li> <li>4 第2回小テスト</li> <li>5 第3回小テスト</li> <li>6 第4回小テスト</li> <li>7 第5回小テスト</li> <li>8 第6回小テスト</li> <li>9 第7回小テスト</li> <li>10 第8回小テスト</li> <li>11 第9回小テスト</li> <li>12 第10回小テスト</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		指定教材の学習終了が単位取得の必須要件である。A-C の評価は10回の小テスト(50%)と定期試験(50%)による。上位のレベルほどAの割合を多くする。	

**2005年度**

# **外国語学部共通科目シラバス**

**(2003年度以降入学生用)**

# 外国語学部共通科目 (2003年度以降入学生用)

## 目 次

※受講定員のある科目は、登録が定員を超えた場合に抽選を行う。授業時間割表を参照する。

時間割 コード	開講期	受講 定員	科目名	担当教員	曜時	教室	単位数	開始 学期	履修 不可	ページ
07690	春		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	1	経・法	1
07691	秋		総合講座	加藤 億重	水3	5-128	2	2	経・法	1
00220	春		情報科学概論a	呉 浩東	金1	1-206	2	1	経・法	2
00221	秋		情報科学概論b	呉 浩東	金1	1-206	2	2	経・法	2
			情報科学各論(入門)	各担当教員			2	1	経・法	3
00138	春	60		長崎 等	月3	5-201				
00042	春	60		東 孝博	月3	5-207				
00058	春	60		金子 憲一	月4	5-207				
00068	春	60		金子 憲一	月5	5-207				
00074	春	60		田中 雅英	火1	5-207				
00093	春	60		田中 雅英	火2	5-207				
00208	春	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00253	春	60		松山 恵美子	金2	5-207				
			情報科学各論(初級—表計算入門)	各担当教員			2	2	経・法	4
00141	秋	60		長崎 等	月2	5-207				
00044	春	50		金子 憲一	月3	5-101				
00070	秋	60		金子 憲一	月5	5-207				
00076	秋	60		田中 雅英	火1	5-207				
00109	春	60		田中 雅英	火3	5-100				
09040	春	60		二宮 哲	水1	5-201				
00019	秋	50		呉 浩東	水2	5-208				
00184	春	60		内田 俊郎	木2	5-207				
00193	秋	60		内田 俊郎	木2	5-201				
09037	秋	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00231	秋	60		松山 恵美子	金2	5-207				
00255	春	60		松山 恵美子	金3	5-201				
00201	春	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	1	経・法	5
00202	秋	60	情報科学各論(初級—プレゼンテーション)	金井 満	火2	5-100	2	2	経・法	5
			情報科学各論(初級—HTML入門)	各担当教員			2	2	経・法	6
00046	秋	60		東 孝博	月3	5-207				
00060	秋	60		金子 憲一	月4	5-207				
00096	秋	60		田中 雅英	火2	5-207				
00131	秋	60		二宮 哲	水1	5-201				
00021	春	50		呉 浩東	水2	5-208				
00195	春	60		内田 俊郎	木3	5-207				
00210	秋	60		内田 俊郎	木4	5-207				
00239	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金3	5-203	2	2	経・法	7
00232	春	30	情報科学各論(中級—表計算応用1)	松山 恵美子	金4	5-207	2	1	経・法	7
09308	秋	30	情報科学各論(中級—表計算応用2)	松山 恵美子	金4	5-203	2	2	経・法	8
00017	春	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	東 孝博	月2	5-203	2	1		9
00048	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	金子 憲一	月3	5-101	2	2		10
00111	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用1)	田中 雅英	火3	5-100	2	2		11
00025	秋	30	情報科学各論(中級—HTML応用2)	東 孝博	月2	5-203	2	2		9
00156	春	30	情報科学各論(中級—データベース1)	長崎 等	月2	5-207	2	1		12
00158	秋	30	情報科学各論(中級—データベース2)	長崎 等	月3	5-209	2	2		12
00172	春	30	情報科学各論(中級—プログラミング論1)	呉 浩東	月2	5-210	2	3	言	13
00191	秋	30	情報科学各論(中級—プログラミング論2)	呉 浩東	月2	5-210	2	4	言	13
00087	春		経済原論a	野村 容康	火1	2-404	2	1	経・法	14
00088	秋		経済原論b	野村 容康	火1	2-404	2	2	経・法	14
00055	春		社会心理学a	田口 雅徳	火4	3-202	2	1		15
00056	秋		社会心理学b	田口 雅徳	火4	3-202	2	2		15

03年度以降(春)	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～日本は諸外国から何を学び、何を伝えたか～</p> <p><b>講義目的および概要</b> 日本人は海外への好奇心は高く、海外から多くの諸知識を昔から得てきた。 本講義は毎回の講演者が、右に示したように各自の専攻分野において、日本が外国の学問をどのように導入したかを講義する。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>4月13日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>4月20日</td><td>中国古典</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>3</td><td>4月27日</td><td>「社会」</td><td>有吉 広介</td></tr> <tr><td>4</td><td>5月11日</td><td>ダンス</td><td>青柳 多恵子</td></tr> <tr><td>5</td><td>5月18日</td><td>会計学</td><td>湯田 雅夫</td></tr> <tr><td>6</td><td>5月25日</td><td>社会主義 1</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>7</td><td>6月 1日</td><td>社会主義 2</td><td>辻 康吾</td></tr> <tr><td>8</td><td>6月 8日</td><td>古代日本の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>9</td><td>6月15日</td><td>教育制度</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>10</td><td>6月22日</td><td>基督教</td><td>高橋 正男</td></tr> <tr><td>11</td><td>6月29日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>12</td><td>7月 6日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	4月13日	はじめに	加藤 僖重	2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎	3	4月27日	「社会」	有吉 広介	4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子	5	5月18日	会計学	湯田 雅夫	6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾	7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾	8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦	9	6月15日	教育制度	川村 肇	10	6月22日	基督教	高橋 正男	11	6月29日		未定	12	7月 6日	まとめ	加藤 僖重
1	4月13日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	4月20日	中国古典	浅山 佳郎																																																
3	4月27日	「社会」	有吉 広介																																																
4	5月11日	ダンス	青柳 多恵子																																																
5	5月18日	会計学	湯田 雅夫																																																
6	5月25日	社会主義 1	辻 康吾																																																
7	6月 1日	社会主義 2	辻 康吾																																																
8	6月 8日	古代日本の国際交流	飯島 一彦																																																
9	6月15日	教育制度	川村 肇																																																
10	6月22日	基督教	高橋 正男																																																
11	6月29日		未定																																																
12	7月 6日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03年度以降(秋)	総合講座	担当者	加藤 僖重																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>～一冊の本・一つの資料に出会う～</p> <p><b>講義目的および概要</b> 本講義では毎回の講演者が、各自の専攻分野において、何に惹かれ、何を勉強・研究しているかを講義する。この講義が学生諸君の将来の指針となることを願う。</p>		<table border="1"> <tr><td>1</td><td>9月28日</td><td>はじめに</td><td>加藤 僖重</td></tr> <tr><td>2</td><td>10月 5日</td><td>明治の国際交流</td><td>飯島 一彦</td></tr> <tr><td>3</td><td>10月12日</td><td>スポーツ</td><td>梶野 克之</td></tr> <tr><td>4</td><td>10月19日</td><td></td><td>未定</td></tr> <tr><td>5</td><td>10月26日</td><td>フリースラント語</td><td>児島 仁士</td></tr> <tr><td>6</td><td>11月 2日</td><td>伊藤仁斎</td><td>浅山 佳郎</td></tr> <tr><td>7</td><td>11月 9日</td><td>教育史</td><td>川村 肇</td></tr> <tr><td>8</td><td>11月16日</td><td>文化人類学</td><td>井上 兼行</td></tr> <tr><td>9</td><td>11月30日</td><td>化学と生活</td><td>塚目 孝裕</td></tr> <tr><td>10</td><td>12月 7日</td><td>シーボルト蒐集品</td><td>和田 浩志</td></tr> <tr><td>11</td><td>12月14日</td><td>スペイン語</td><td>二宮 哲</td></tr> <tr><td>12</td><td>12月21日</td><td>まとめ</td><td>加藤 僖重</td></tr> </table>		1	9月28日	はじめに	加藤 僖重	2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦	3	10月12日	スポーツ	梶野 克之	4	10月19日		未定	5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士	6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎	7	11月 9日	教育史	川村 肇	8	11月16日	文化人類学	井上 兼行	9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕	10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志	11	12月14日	スペイン語	二宮 哲	12	12月21日	まとめ	加藤 僖重
1	9月28日	はじめに	加藤 僖重																																																
2	10月 5日	明治の国際交流	飯島 一彦																																																
3	10月12日	スポーツ	梶野 克之																																																
4	10月19日		未定																																																
5	10月26日	フリースラント語	児島 仁士																																																
6	11月 2日	伊藤仁斎	浅山 佳郎																																																
7	11月 9日	教育史	川村 肇																																																
8	11月16日	文化人類学	井上 兼行																																																
9	11月30日	化学と生活	塚目 孝裕																																																
10	12月 7日	シーボルト蒐集品	和田 浩志																																																
11	12月14日	スペイン語	二宮 哲																																																
12	12月21日	まとめ	加藤 僖重																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
		テスト、レポートで評価する。 最初の講義で説明する。																																																	

03 年度以降 (春)	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、アルゴリズムについて学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標</li> <li>2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達</li> <li>3 コンピュータの歴史と特徴 計算機械の変遷とコンピュータの世代論</li> <li>4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算</li> <li>5 コンピュータの論理回路とデータ表現</li> <li>6 コンピュータの構成要素 (1) 中央処理装置 (CPU) とメインメモリ</li> <li>7 コンピュータの構成要素 (2) 2次記憶装置と周辺措置</li> <li>8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>9 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造</li> <li>12 アルゴリズム</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	

03 年度以降 (秋)	情報科学概論 b	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっている。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができる。これは、情報が多大で多様な価値をもつ情報社会に生きる個人としてもっとも重要な能力である。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などを修得の目標とする。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造</li> <li>2 データベース データベースの概要、データベースの種類</li> <li>3 データベース管理システム (DBMS) DBMSの目的と構成</li> <li>4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化</li> <li>5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式</li> <li>6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、DNS</li> <li>7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど</li> <li>8 インターネットと社会 セキュリティ、暗号システム、電子認証</li> <li>9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム</li> <li>10 情報検索 情報検索の方法と演習</li> <li>11 言語処理における情報技術 (演習)</li> <li>12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山田啓一 『情報科学』 西日本法規出版 随時必要な資料を指示する。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。	



03年度以降(春)	情報科学各論(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作</li> <li>2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション</li> <li>3 日本語入力とタイピング</li> <li>4 インターネット—ブラウザ・メール・検索</li> <li>5 情報倫理</li> <li>6 ワードプロセッサとは</li> <li>7 文書の作成(1)</li> <li>8 文書の作成(2)</li> <li>9 文書の作成(3)</li> <li>10 文書への画像の挿入</li> <li>11 レポートの作成</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b>            実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成</li> <li>3 表の編集、グラフの装飾、印刷</li> <li>4 計算式の利用</li> <li>5 ネットワークからのデータの収集・整理</li> <li>6 関数の利用(1)</li> <li>7 関数の利用(2)</li> <li>8 関数の利用(3)</li> <li>9 プレゼンテーション(1) —作成 (MS-Powerpointとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3) —発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-表計算入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p><b>注意</b>            実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成</li> <li>3 表の編集、グラフの装飾、印刷</li> <li>4 計算式の利用</li> <li>5 ネットワークからのデータの収集・整理</li> <li>6 関数の利用(1)</li> <li>7 関数の利用(2)</li> <li>8 関数の利用(3)</li> <li>9 プレゼンテーション(1) —作成 (MS-Powerpointとは)</li> <li>10 プレゼンテーション(2) —作成(データの活用・まとめ)</li> <li>11 プレゼンテーション(3) —発表</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでももらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpointの基本操作1</li> <li>3. Powerpointの基本操作2</li> <li>4. Powerpointの基本操作3</li> <li>5. Powerpointの基本操作4</li> <li>6. Powerpointの基本操作5</li> <li>7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（初級－プレゼンテーション）	担当者	金井 満
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論（入門）」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアであるPowerpointを使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでももらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. Powerpointの基本操作1</li> <li>3. Powerpointの基本操作2</li> <li>4. Powerpointの基本操作3</li> <li>5. Powerpointの基本操作4</li> <li>6. Powerpointの基本操作5</li> <li>7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備</li> <li>8. 個人プレゼンテーションの準備</li> <li>9. 個人プレゼンテーション</li> <li>10. 個人プレゼンテーション</li> <li>11. 個人プレゼンテーション</li> <li>12. 総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で指示します。		授業内での個人プレゼンテーション。	

03年度以降(春)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWWとLAN</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストとHTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造とHTML</li> <li>7 ホームページの作成-テキスト</li> <li>8 ホームページの作成-イメージ</li> <li>9 ホームページの作成-リンク</li> <li>10 ホームページの作成-テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成-完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(初級-HTML入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p><b>注意</b></p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2 WWWとLAN</li> <li>3 情報の単位と情報通信</li> <li>4 ハイパーテキストとHTML</li> <li>5 インターネットと情報倫理</li> <li>6 ページの構造とHTML</li> <li>7 ホームページの作成-テキスト</li> <li>8 ホームページの作成-イメージ</li> <li>9 ホームページの作成-リンク</li> <li>10 ホームページの作成-テーブル・その他</li> <li>11 ホームページの作成-完成</li> <li>12 ファイルの転送とページの更新</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』		授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級—表計算応用1)	担当者	松山恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は表計算ソフト(MS-Excel)の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excelの機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excelでデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成されるVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとExcelの復習</li> <li>2 マクロ機能とは</li> <li>3 関数と計算式を使ったマクロの作成(1)</li> <li>4 関数と計算式を使ったマクロの作成(2)</li> <li>5 マクロ用ボタンとマクロの連携</li> <li>6 第1回目課題作成</li> <li>7 VBAの利用—簡単なゲームの作成(1)</li> <li>8 VBAの利用—簡単なゲームの作成(2)</li> <li>9 第2回目課題作成</li> <li>10 最終課題作成(1)</li> <li>11 最終課題作成(2)</li> <li>12 最終課題作成(3)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で指示する。		平常点50%(出席および課題提出)、定期試験50%で総合評価をおこなう。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級—表計算応用1)	担当者	松山恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は表計算ソフト(MS-Excel)の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excelの機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excelでデータを処理する過程において、計算式、関数、書式設定、コピーなど、同じ一連の操作を何度か繰り返す必要がでてくる場合がある。</p> <p>「マクロ」とは、そのような同じ操作を記録して登録することである。そのことにより、次回からは登録した「マクロ」を呼び出すことで、即時に実行することが可能となる。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で自動的に作成されるVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとExcelの復習</li> <li>2 マクロ機能とは</li> <li>3 関数と計算式を使ったマクロの作成(1)</li> <li>4 関数と計算式を使ったマクロの作成(2)</li> <li>5 マクロ用ボタンとマクロの連携</li> <li>6 第1回目課題作成</li> <li>7 VBAの利用(1)</li> <li>8 VBAの利用(2)</li> <li>9 第2回目課題作成</li> <li>10 最終課題作成(1)</li> <li>11 最終課題作成(2)</li> <li>12 最終課題作成(3)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第1回目の授業で指示する。		平常点50%(出席および課題提出)、定期試験50%で総合評価をおこなう。	

03年度以降(秋)		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級一表計算応用2)	担当者	松山恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は情報科学各論(中級一表計算応用1)の単位を取得した学生を対象として行うものとする。</p> <p>情報科学各論(中級一表計算応用1)では、Excelの基本的なマクロ機能を学習しながらVBA(Visual Basic for Application)の基本についても触れた。</p> <p>本講義では、VBAをもう一步踏み込んで理解することを目的とする。</p> <p>最終的には、情報科学各論(中級一表計算応用1)で作成したマクロをプログラミングすることで、汎用性のあるものへと完成させていく。</p> <p>初回の授業に、必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスと Excel マクロ機能の復習</li> <li>2 VBA とは (1)</li> <li>3 プログラミングの技法 (1)</li> <li>4 プログラミングの技法 (2)</li> <li>5 マクロ用ボタンとの連携</li> <li>6 第1回目課題作成</li> <li>7 プログラミングの技法 (3)</li> <li>8 プログラミングの技法 (4)</li> <li>9 第2回目課題作成</li> <li>10 最終課題作成 (1)</li> <li>11 最終課題作成 (2)</li> <li>12 最終課題作成 (3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回目の授業で指示する。		平常点50%(出席および課題提出)、定期試験50%で総合評価をおこなう。	

03 年度以降 (春)	情報科学各論(中級-HTML 応用 1)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意 情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業内容説明</li> <li>2 HTML の復習 (簡単な CGI の利用)</li> <li>3 HTML の復習 (Java スクリプトの埋め込み)</li> <li>4 Java アプレットの概要</li> <li>5 プログラム練習 (グラフィックスイメージの表示)</li> <li>6 プログラム練習 (定数と変数)</li> <li>7 プログラム練習 (for 文 1)</li> <li>8 プログラム練習 (for 文 2)</li> <li>9 プログラム練習 (if 文)</li> <li>10 プログラム練習 (配列)</li> <li>11 プログラム練習 (Math オブジェクト)</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03 年度以降 (秋)	情報科学各論(中級-HTML 応用 2)	担当者	東 孝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることが目標とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意 情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Java の基本構造</li> <li>2 イベント処理 (マウスイベント 1)</li> <li>3 イベント処理 (マウスイベント 2)</li> <li>4 イベント処理 (キーイベント 1)</li> <li>5 イベント処理 (キーイベント 2)</li> <li>6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス)</li> <li>7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー)</li> <li>8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト)</li> <li>9 スレッドの利用 (イメージの移動)</li> <li>10 スレッドの利用 (色の変化・時計)</li> <li>11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム)</li> <li>12 総合演習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。	

03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	金子憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>講義の概要</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTMLとFTPの復習（1）</li> <li>3 HTMLとFTPの復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTMLとCGI）</li> <li>5 JavaScript（1）</li> <li>6 JavaScript（2）</li> <li>7 JavaScript（3）</li> <li>8 JavaScript（4）</li> <li>9 CGIの利用（1）</li> <li>10 CGIの利用（2）</li> <li>11 CGIの利用（3）</li> <li>12 総合報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。プリントの配布も行う。		授業中に作成する課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。	



03年度以降（春）		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年度以降（秋）	情報科学各論（中級－HTML応用1）	担当者	田中 雅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML入門」に続く中級コースである。HTML入門を受講済みあるいは同等の知識を有する学生を対象に、単にHTML言語の更なる発展を目指すのではなく、CGIやJava Scriptにまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指してはならず、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を含め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中での変更も十分にありえる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスと復習</li> <li>2. Web ページのネットへのアップロード等</li> <li>3. プログラミングの考え方</li> <li>4. Java Script1</li> <li>5. Java Script2</li> <li>6. Java Script3</li> <li>7. Java Script4</li> <li>8. CGI</li> <li>9. 情報の収集 1</li> <li>10. 情報の収集 2</li> <li>11. 応用</li> <li>12. その他</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に適宜指示する。		授業中に指示する課題と平常点で評価する。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-データベース1)	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b> 本講義は表計算ソフトウェア(Excel)の基礎をマスターした学生を対象として、Excelを利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。 高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの1つとしてデータベースがある。 データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。 <受講者への要望> 情報科学各論(初級-表計算入門)を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。		<b>授業計画</b> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索1 8 条件検索2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験	
<b>テキスト、参考文献</b> 1 回目の授業で指示します。		<b>評価方法</b> 出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-データベース2)	担当者	長崎 等
<b>講義目的、講義概要</b> 本講義は「データベース1」を履修済みの学生を対象として、Accessを利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。 Accessの基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。 <受講者への要望> 情報科学各論(中級)「データベース1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第1回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。		<b>授業計画</b> 1 データベースの概念と機能 2 Accessの基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー(1) 6 クエリー(2) 7 グループによるテーブル設計1(ハイレベルエンティティ分析) 8 グループによるテーブル設計2(関係データ分析) 9 グループによるテーブル設計3(テーブル作成) 10 グループによるクエリ設計1(外部スキーマの設計) 11 グループによるクエリ設計1(クエリの作成) 12 グループによるプレゼンテーション	
<b>テキスト、参考文献</b> 『30Hで理解できるアクセス2000』, 実教出版 『図解雑学データベース』, ナツメ出版		<b>評価方法</b> 出席及びレポート課題によって評価します。	

03年度以降(春)	情報科学各論(中級-プログラミング論1)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼ぶ。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにする。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指す。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic.NET を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説</li> <li>2 プログラミング言語の発展史</li> <li>3 開発ツールとしての Visual Basic.NET の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ</li> <li>4 Visual Basic の基本操作 フォーム、コントロール、プロパティ設定</li> <li>5 簡単なプログラムの作成 基本的なプログラミングの手順、プログラムの動作の確認</li> <li>6 イベント駆動型プログラム</li> <li>7 文字の表示と計算プログラム 変数定義、演算、関数、メソッドの使い方</li> <li>8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング</li> <li>9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計</li> <li>10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 回数指定による繰り返し、For~Next 文</li> <li>11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 条件指定による繰り返し</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 最初の講義で指示する。</li> <li>(2) 随時必要な資料を指示する。</li> </ol>		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(秋)	情報科学各論(中級-プログラミング論2)	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、上記「プログラミング論1」既習または基礎的なプログラムの作成知識を理解していることが前提にし、より発展的なプログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返し替えプログラミングの技能を身に付けることを目的とする。</p> <p>ここでは、Visual Basic.NET というプログラミング言語を使って、Windows 環境でさまざまな機能を生かすためにプログラムの作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、図形・画像の処理、ファイル操作などに学ぶ。さらに、問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用的なプログラムの設計法まで述べる。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの構造化 Sub プロシージャ、Function プロシージャ</li> <li>2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方</li> <li>3 文字列の処理プログラム (1) 簡単な翻訳プログラムの作成</li> <li>4 文字列の処理プログラム (2) 文字列の照合と置き換え</li> <li>5 図形の描画 さまざまな図形を描画するプログラムの作成</li> <li>6 文字列の表示</li> <li>7 画像の描画 画像の呼び出し方、画像の移動とコピー</li> <li>8 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き</li> <li>9 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス</li> <li>10 応用的なテクニック アルゴリズム：探索とソート</li> <li>11 再帰というプログラミング手法</li> <li>12 総合練習 総合問題、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時必要な資料を指示する。		定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。	

03年度以降(春)	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 不完全競争の理論</li> <li>9. 市場の理論①</li> <li>10. 市場の理論②</li> <li>11. 厚生経済学の基本定理</li> <li>12. 市場の失敗</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降(秋)	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(マイクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. IS-LM 分析</li> <li>9. 物価とインフレーション</li> <li>10. 失業の問題</li> <li>11. 経済成長論</li> <li>12. 開放マクロ経済</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

03年度以降（春）	社会心理学 a	担当者	田口雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて、身近な話題を取り入れながら論じていきたい。年間を通じての授業概要は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者認知</li> <li>2. 自己認知</li> <li>3. 集団の影響と社会的行動</li> <li>4. 自己呈示と自己開示</li> <li>5. 対人コミュニケーションの心理</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 社会心理学とは？</li> <li>3. 他者認知：印象形成</li> <li>4. 他者認知：印象の記憶</li> <li>5. 他者認知：性格に認知</li> <li>6. 他者認知：対人魅力</li> <li>7. 自己認知：自己意識</li> <li>8. 自己認知：自覚理論と没個性化</li> <li>9. 自己認知：自己知識</li> <li>10. 自己認知：自己評価</li> <li>11. 集団と個人の行動①</li> <li>12. 集団と個人の行動②</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	

03年度以降（秋）	社会心理学 b	担当者	田口雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義の目的と概要は春学期を参照のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期のまとめと秋学期のガイダンス</li> <li>2. 自己呈示①</li> <li>3. 自己呈示②</li> <li>4. 自己開示</li> <li>5. コミュニケーションの心理①：説得①</li> <li>6. コミュニケーションの心理②：説得②</li> <li>7. コミュニケーションの心理③：言語</li> <li>8. コミュニケーションの心理④：非言語①</li> <li>9. コミュニケーションの心理⑤：非言語②</li> <li>10. コミュニケーションの心理⑥：非言語③</li> <li>11. コミュニケーションの心理⑦：CMC</li> <li>12. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはとくに指定しない。資料を配付して授業を進めていく。参考文献は授業の中で紹介する。</p>		<p>出席状況と授業での小レポート、最終試験により総合的に評価する。</p>	